㋑凡て水に關することにいふ、又水に似たるもの㋺水をくむ、水仕事

【水力】スキリヨク　水が物を動かす力。

【水上】スキジヤウ　㋑川の上流㋺水面。

【水土】スキド　水と土、水と陸。

【水干】スキカン　㋑水ばりして干した絹㋺水干の狩衣㋩水のほとり。

【水化】スキクヮ　地質・岩石等が水の作用により變ずる化學的作用。

【水天】スキテン　水面とおほぞら、水をつかさどる神、右手に刀を取り左手に龍索を持し、冠上に五龍ありて旱魃・洪水の難を護するといふ。

【水手】スキシユ　船頭、船を扱ふ人。

【水分】スキブン　みづけ、しめりけ。

【水牛】スキギウ　熱帶地に住む動物で三角形の大角あり、體長七尺位、印材等に用ふ

【水火】スキクヮ　㋑水と火㋺甚だ危險なるものに喩ふ㋩水害と火事㋥正反對を表はす語㋭勢の盛んなるをいふ語。

（天　水）

（干　水）

【水月】スキゲツ　㋑水と月㋺水に映じた月の光㋩胸にある急所㋥くらげの異稱。

【水仙】スキセン　石蒜科の多年生草本で莖の高さは一尺あまり葉は細長く平行脈にして春のはじめに白色の花を開き地下莖は球形有毒で觀賞用として栽培せられ園藝上の變種が多い。「同じ。

（仙　水）

【水平】スキヘイ　㋑水面の如く平か㋺水準に

【水死】スキシ　おぼれじに、溺死。

【水玉】スキギヨク　水晶の異名。

【水交】スキカウ　君子の交りをいふ。

【水母】スキモ　海中動物の一、くらげ。

【水旱】スキカン　洪水と旱魃。「よくすると。

【水利】スキリ　灌漑の利又は船運の都合を

【水車】スキシヤ　㋑みづ車、低水を高所に注ぎ込むもの㋺水力にて回轉せしむる車

【水泡】スキハウ　㋑水のあわ㋺有るかと思へば忽ち消えてはかないこと、むだごと。

【水府】スキフ　星の名、又水神の居所。

【水泳】スキエイ　みづおよぎ、およぎ。

【水脈】スキミヤク　水の流れる道、水の流れる

【水面】スキメン　水の上面、水上。［筋。

【水馬】スキバ　㋑水上にすめる小蟲、みづすましㄖ水中にて馬を御すること。

【水門】スキモン　㋑水道の口、閘門㋺寺院や神社の中門と堂社との間の門。

【水星】スキセイ　太陽系統の惑星の一。

（門　水）

【水素】スキソ　原素の一、無色・無味・無臭の氣體で酸素と化合して水となる、又炭素・酸素・窒素と化合して動植物の體中に存する。

【水萍】スキヒヤウ　㋑水上に生ずる草、浮草

【水魚】スキギヨ　水と魚と離るゝこと能はざると等しく親密なる義。

【水族】スキゾク　魚介類の總稱、又水中に生活

【水鳥】スキチウ　みづとり、水禽。［する動物。

【水産】スキサン　河海に産出するものゝ總稱

【水準】スキジユン　水を盛り地面の高低・水平等を檢する器、みづもり。「ともいふ

【水晶】スキシヤウ　石英の一種にして六方石

【水筒】スキトウ　飲み水を入れて携帶する器

【水道】スキダウ　㋑水のながれる道すぢ㋺水のかよふみち㋩上水を引込むながれ。

【水膓】スキシヨウ　みづぶくれ、身體のむくみはれるさま、又そのはれ。

【水源】スキゲン　川又は水道のみなもと。

【水屍】スキサウ　死骸を水中に沈めて屍ること

【水路】スキロ　水のながれるみち。

【水禽】スキキン　みづとり、水鳥。「けたもの

【水雷】スキライ　水中で爆發するやうにしか

【水銀】スキギン　錫白色の液體金屬。

【水煙】スキエン　水面よりたち上る蒸氣。

【水滴】スキテキ　水のしたゝり、水のしづく。

【水練】スキレン　水泳の稽古、又游泳の技。

【水團】スキトン　饂飩粉を團子にして汁に入れた食物。「鳥、くひな。

【水鷄】スキケイ　水邊に住む

【水藥】スキヤク　みづぐすり。

【水難】スキナン　洪水等より起る災害。

【水引】ミズヒキ　㋑贈答品にかける紅白又は黑白のこより㋺芝居などの舞臺に張る細長い幕の稱㋩金線草

【水口】ミナグチ　水を田に入れる口。

【水色】ミヅイロ　藍色の極めて薄きもの。

【水揚】ミヅアゲ　藝娼妓が始めて男に接することをいふ。

【海松】ミル　松科に屬する綠色藻類で淺海の岩石上に著生し莖は圓柱形にして又狀に分岐し食用となる。

（水　鷄）

（海　松）

【水葵】ミズアオイ　淺水中に自生する一年生草本で深碧色又は白色の花を開く

【水平社】スヘイシヤ　舊時代の制度の缺陷から同じく日本臣民でありながら特殊部落として區別されて居た同胞が名實共にその誤れる階級を打破する爲めに組織した團體。

【水平動】スヘイドウ　横にゆれ動く地震。

【水交社】スカウシヤ　海軍將校の集會所。

【水成岩】スセイガン　風雨に破壞された岩石の粉末が水底に沈みて出來た岩。

【水彩畫】スサイグワ　水に溶した繪具で書いた洋風の繪畫。「なつたもの。

【水蒸氣】スジヨウキ　熱の作用で水が氣體と

【水準器】スジユンキ　或器械が水平の位置にあるや否やを測るに用ひる器で彎曲した小さい氣泡を殘して封じたもので水平面上に置いた時水泡が管の中央にくるやうに出來てゐる。

（水準器）

【水送山迎】ミズオクリヤマムカフ　歩いて行くに連れて山水の景色が變つていくこと。

【水平運動】スヘイウンドウ　社會的待遇の平等を要求せんとして起りし運動。「柄。

（水　葵）

【水魚之交】スギヨノマジハリ　極めて親密の間

【水錫電燈】スギレデントウ　弧光電燈の一で水銀を入れた硝子の眞空管より成りこれに電流を通じて水銀を蒸發せしむるもの。

（水銀電燈）

渦水スイ　新水シン　洪水コウ　薪水シン
大水タイ　泉水セン　流水リウ　治水チ
明水メイ　止水シ　滿水タン　春水シユン
澄水チヨウ　清水セイ　背水ハイ　魚水ギヨ
秋水シウ　曲水キヨク　猛水マウ　溪水ケイ
覆水フク　墨水ボク　寒水カン　江水コウ
碧水ヘキ　峽水キヨウ　烟水エン　雲水ウン
香水カウ　漏水ロウ　山水サン　温水ウン
毒水ドク　海水カイ　噴水フン　潮水テウ

水が字畫の偏となる時の形

【氷】さんずゐ

一畫

【氷】俗字　【冰】漢昊　【氷】ヒヨウ

㋑こほり㋺つらゝ（氷柱）㋩矢筒の蓋

【氷人】ヒヨウジン　なかうど、月下氷人。

【氷山】ヒョウザン ㊀こほりの山、寒帶の海上に浮流する氷の巨塊㊁權威富貴のつきやすく恃みにならざるに喩ふ。
【氷柱】ヒョウチュウ つらゝ、氷のはしら。
【氷河】ヒョウカ 高山より流下する氷の河。
【氷炭】ヒョウタン 氷と炭㊀性質を全然異にせるもの㊁君子と小人。
【氷肌】ヒョウキ ㊀梅の花の形容㊁すきとほりて美しきはだ。
【氷雪】ヒョウセツ ㊀氷と雪㊁心の清く操のひむろ、氷を貯藏する所。
【氷室】ヒョウシツ ㊀氷のとけること㊁疑の晴れること、意義の明かになること。
【氷解】ヒョウカイ 氷のかたまり、單に氷。
【氷塊】ヒョウクワイ 液體がこほること。
【氷結】ヒョウケツ ㊀氷の如く解けて跡かたなき貌㊁一點の疑惑を殘さず了解する
【氷釋】ヒョウシャク 水が氷結し始める時の溫度
【氷點】ヒョウテン 熱をくだす爲め氷を入れて局部にあてる醫具。
【氷嚢】ヒョウナウ
【氷炭不相容】ヒョウタンアヒイレズ 善惡・正邪・好惡等は何れも兩立せぬの意、

〔永・〕〔永〕

寒氷カンヒョウ　伐氷バツヒョウ　積氷セキヒョウ　垂氷タルヒ

漢 エイ　呉 エイ　㊀ながし、距離永し、ながくす㊁とほし（遠）はるか（遐）㊂時の長きにいふ、ひさし（久）

【同訓異義】**ながし**　永・長等の用法は一〇八九頁の長を見よ。
【永久】エイキウ ながくひさし、とこしへ。
【永日】エイジツ 日がながい、春の日ながい。
【永代】エイタイ ながい時代、永年。
【永世】エイセイ ながきよ、ながねん。
【永永】エイエイ ながく〳〵、とこしなへに。
【永年】エイネン ながのとし、しつき、多年。
【永住】エイヂユウ 一定の場所に永くすまふ。
【永劫】エイゴフ 極めて永き年月、未來永劫。
【永別】エイベツ ながい別れ、永訣。
【永夜】エイヤ 夜が永い、秋の夜ながい。
【永眠】エイミン とこしへに眠る、人の死。
【永訣】エイケツ 永く別れる、死別の義。
【永遠】エイエン ながく久し、行末ながし。
【永逝】エイセイ 人の死ぬこと。
【永圖】エイト 將來の爲めのはかりごと。
【永歌】エイカ 節をながくうたふ。「息。
【永歎】エイタン 永く溜息を吐いて歎く、長大
【永福】エイフク 久しく幸福を受ける。
【永續】エイゾク ながくつゞく、ながもちす。
【永代經】エイタイキヤウ 死者の靈を弔ふ爲めになす讀經。「らへた錢、永樂通寶。
【永樂錢】エイラクセン 明朝の永樂年間にこし

【永字八法】エイジハツパフ 永字をもつて運筆の八法をあらはしたるもの。
【永小作權】エイコサクケン 一定の小作料を支拂つて耕作又は牧畜の爲め他人の土地を使用する權利をいふ。

（永字八法）

〔汀〕

漢 テイ　呉 チャウ　㊀みぎし、なぎさ㊁す、小さい洲
【汀曲】テイキヨク 岸の入りこみし所。
【汀沙】テイサ 水邊の沙原。
【汀渚】テイシヨ みぎは、なぎさ、汀岸。
烟汀エンテイ　廣汀クワウテイ　遙汀エウテイ　遠汀エンテイ
蘆汀ロテイ　綠汀リヨクテイ　江汀カウテイ　廻汀クワイテイ
長汀チヤウテイ　沙汀サテイ　洲汀シウテイ　柳汀リウテイ

〔汁・〕〔汁〕

漢 シフ　呉 ジフ　㊀しる（液）㊁つゆ、すひもの㊂國訓しる、味噌しる
【汁粉】シルコ 小豆の餡と砂糖でつくつた汁の中に餅を入れた食物。
鹽汁エンジフ　墨汁ボクジフ　膽汁タンジフ　目汁モクジフ

茗汁メイジフ　漆汁シツジフ　密汁ミツジフ　糞汁フンジフ
灰汁クワイジフ　肉汁ニクジフ　米汁ベイジフ　乳汁ニユウジフ

〔求○〕〔求〕

漢 キウ　呉 グ　㊀もとむ、さがす（索）㊁ねがふ（願）のぞむ（望）㊂招く、來たす㊃せめる、責めとがむ㊄つとめる、要する㊅むさぼる（貪）㊆所望する、無心する

【同訓異義】**もとむ**
【干】は無理に求むるの意。
【徵】は要に同じ。
【求】はさがし求むる義。
【索】は詮索してさがし求むるの義。
【要】は待構へて是非にと求むる義。
【覓】はさがし求むる義。
【需】は無くてはならぬ物として待ち
【須】は前に同じ。【求むる義。
【求刑】キウケイ 處刑すべき刑罰を要求する
【求法】グホフ まことの道を求むる、求道。
【求道】キウダウ ㊀正しき道理をもとめる㊁宗教にたよりて安心を得んとすること
【求積】キウセキ 平面形の線の長さ・面積・體積を算出すること、又其算法。
【求心力】キウシンリヨク 圓運動をなす物體を其圓心に引きつける力。

〔氾・〕〔氾〕別字

漢 ハン　呉 ホン　㊀水がひろがりあふれる、はびこる㊁うかぶ、うごく、定まらぬさま㊂あまねし（普）ひろし（博）㊃川の名
【氾論】ハンロン ひろく大體についての論説
【氾濫】ハンラン 水があふれ流れること 注意
しらんと讀むは誤り。

〔丞〕

五頁の丞を見よ。

三畫

〔汎・〕〔汎〕

漢 ハン　呉 ホン　㊀水がひろがりあふ（浮）ぶ、水にうかぶ、浮びたゞよふ㊁ひろし、あまねく博し
【同訓異義】**ひろし**　汎・傅・廣其他の用法は三五六頁の廣を見よ。
【汎汎】ハンパン 水に浮び流るゝ貌、又水の廣く流れるさま。
【汎愛】ハンアイ 廣く總ての人を愛する。
【汎稱】ハンシヨウ ひろく呼ぶ名、總名。
【汎論】ハンロン ㊀文章・書物等の內容をひろく全般に亘つて說明する論㊁原理・原則を一般的に論ずること。
【汎濫】ハンラン 水のあふれみなぎること。
【汎亞細亞主義】ハンアジアシユギ 共通の人種・宗教・歷史・文物の上にあり三千年の歷史を有する亞細亞民族が結束して起ち歐米白人の世界と相對抗して東洋の覇權の下に彼等を屈伏せしめねばならぬとする主義。

〔汐・〕〔汐〕

漢 セキ　呉 シヤク　うしほ、しほ、夕に起る汐のさしひき、一說に夕のしほを汐といひ、さしゝほを潮といふ
【汐干狩】シホヒガリ 引汐の時海上で貝などを捕へて遊ぶ年中行事の一。「似て居る
【汐吹貝】シホフキガヒ 貝の名、形はあさりに

〔汗・〕〔汗〕別字〔汗〕

漢 カン　呉
㊀あせ（皮膚からしみ出る汗）㊁あせをかく、あせす㊂水廣くしてかぎりなきさま㊃酋長の號
【汗背】カンパイ 恥ぢて脊にひや汗をかく。
【汗腺】カンセン 汗を分泌する管。
【汗額】カンガク 恐れはぢて額より汗を出す。
【汗馬勞】カンバノラウ ㊀戰場にたてし功勞㊁運搬等に馬を勞すること。
【汗牛充棟】カンギウジウトウ 車でひく時は牛が汗をかき積みあげる時はむなぎにとゞ

く程の書物、藏書の多きにいふ。
朱汗シユカン　緒汗シヤカン　微汗ビカン　細汗サイカン
葉汗シヨウカン　腋汗エキカン　洽汗カフカン　垢汗カフカン
愧汗キカン　幢汗クワウカン　沐汗モクカン　流汗リウカン
浩汗カウカン　香汗カウカン　粉汗フンカン　霜汗ソウカン
發汗ハツカン　涙汗ルイカン　漫汗マンカン　震汗シンカン

【汚❶】【汙古字】【汚通字】

漢ヲ　ワ　呉ウエ　㋑けがす、きたなくする、はづかしめる、けがらはしくする㋺けがる、けがれ、けがらはしいこと、又けがれたるもの㋩たまり水、濁つた池㋥低い土地、窪地㋭衰へる、低くなる㋬意をまげる㋣きよむ、不淨を洗ひさる㋠ほる、土地を掘りくぼめる

【同訓異義】**けがる**

【汙】はたまり水の義より轉じて人の行ひの濁りて清からぬ意。
【汚】は前に同じ。
【浼】は物に觸れてけがされる義。
【瀆】は泥が物に著くの意。
【穢】は心安だてに無禮に流れるの意
【點】は心安だてに無禮に流れるの意
【點】は潔白なるものをけがす義。

【汚吏】ヲリ　心のよこしまなる官吏。
【汚名】ヲメイ　けがれたる名、不名譽。
【汚泥】ヲデイ　きたなきどろ、どぶ。
【汚俗】ヲゾク　惡いならはし、惡風。
【汚辱】ヲジヨク　けがしはづかしむ、又はぢ。
【汚染】ヲセン　惡事にそまること。
【汚臭】ヲシウ　くさい臭ひ、惡臭。
【汚點】ヲテン　㋑缺點、きず㋺惡風に染まるけがれる、よごれる。
【汚濁】ヲダク　㋑きたなし、又その物㋺よごす、けがす㋩けがらはし、不淨注意
【汚穢】ヲワイ　をさいと讀むは誤り。
姦汚カンヲ　垢汚コウヲ　沾汚テンヲ　困汚コンヲ
前汚ゼンヲ　虧汚キヲ　混汚コンヲ　點汚テンヲ
濁汚ダクヲ　塵汚ヂンヲ　愚汚グヲ　醜汚シウヲ

【汝●】【汝】

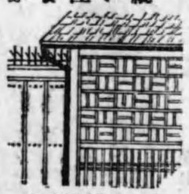
（古く女に作る）㋺川の名

【江○】【江】

江の略稱㋺え（河川の汎稱）㋩星の名㋥國訓え（いりえ）

漢カウ　㋑支那の楊子江の呉コウ

【江山】カウザン　川と山、山河。
【江心】カウシン　川のまんなか、中流。
【江水】カウスイ　川、かはみづ、又楊子江。
【江月】カウゲツ　流れに映ずる月の影。
【江汀】カウテイ　河のみぎは、河岸。
【江村】カウソン　河の邊りにある村、水村。
【江河】カウカ　㋑楊子江と黃河㋺大きな川
【江東】カウトウ　楊子江東方の地方、昔の呉國
【江亭】カウテイ　水流にそつて作つたちん。
【江畔】カウハン　水のほとり、水ばた。
【江湖】カウコ　㋑川と湖㋺世間、世の中。
【江頭】カウトウ　かはのほとり、河畔。
【江船】カウセン　㋑河を往來する船、用舟㋺楊子江を上下する船。
【江豚】カウトン　いるか、海豚。
【江市屋格子】エイチヤガウシ　普通より縱子多く透間が細い窓格子、江戸の江市屋といふ商家より始まつたとよふ


（江市屋格子）

寒江カン　曲江キヨクカウ　春江シユンカウ　荒江クワウカウ
大江タイカウ　遠江エンカウ　楚江ソカウ　鳥江ウカウ

【池○】【池】

漢呉　㋑いけ、土地が凹んで水のたまつてゐる所㋺地を掘つて水を貯へたる處、ほり㋩城郭の周圍の濠㋥棺の飾り、柩を埋めるあな㋭琴の上面

㋬飛ぶさま
【池沼】チセウ　いけとぬま。
【池頭】チトウ　池のほとり、池のはた。
【池塘】チタウ　池のつゝみ。
【池邊】チヘン　池頭に同じ。
【池魚之殃】チギヨノワザハヒ　飛んだ災難、そばづゑ、意外の災難の義。
通池ツウチ　故池コチ　溝池カウチ　周池シウチ
古池コチ　荒池クワウチ　溟池メイチ　空池クウチ
枯池コチ　蒼池サウチ　小池セウチ　墨池ボクチ

【汜●】

漢シ　㋑とゞまる（止）㋺復呉イ　び本流に入る支流㋩流れ道の無い川㋥川の名
呉ク　みづかね、水銀

【汞●】

漢コウ

【汙】

五八〇頁の汚を見よ。

【隶】

一一一二頁の隷を見よ。

四畫

【汪○】【汪】

漢呉　㋑水のふかくしてひろきさま㋺濁つた池のこと
【汪汪】ワウワウ　水の深く廣きさま。
【汪洋】ワウヤウ　㋑海などのひろ〳〵とした

る貌㋺ゆつたりした貌。
【汪然】ワウゼン　㋑涙が盛んに流れる貌㋺廣く靜かなるさま、又奥深きさま。

【汰●】【汰】

漢呉タイ　㋑おごり慣用音タる（身分不相應に贅澤をする）㋺すぐ（過）㋩よなぐ、えらびわける

【汲●】【汲】

漢呉　㋑くむ、水キフをくみあげる㋺ひく（引）ひきこむ、又人物を引きあげ用ゐる㋩いそがしき貌、休まず力める貌㋥いつはりの貌
【同訓異義】**くむ**
【挹】は靜かにそつとくむの意。
【斟】は酒をくみたすの意又斟酌と連用してうめあはせるの義に用ふ。
【汲】は井戸の水をくむの意である。
【酌】は酒をくむの意である。
【同訓異義】**やうやく**　寖・浸・漸等の用法は三〇四頁の寖を見よ。
【汲水】キフスイ　水をくむ。
【汲汲】キフキフ　せはしく力めるさま。

【決●】【決俗字】

漢ケツ　㋑きる、れて水が溢れ出る㋺齒で物をかみきる㋩きまる、きむ、心を定む、是非曲直を分つ㋥きまり、さだめ㋭ゆがけ（弓具の名）㋬思ひきる㋣わかる（譯に通ず）㋠はやいさまりすきま㋬けつして、打消の斷定をあらはす副詞
【決心】ケツシン　意を決す、覺悟する。
【決死】ケツシ　死する覺悟、必死の覺悟。
【決行】ケツカウ　思ひ切りて行ふ。
【決定】ケツテイ　㋑明らかに取りきめる㋺佛のすくひを固く信ずること㋩裁判の一種にて書面審理に依り或る事柄を確定する裁判官又は裁判所の意思表示。
【決然】ケツゼン　㋑思ひ切つてするさま㋺又
【決意】ケツイ　決心に同じ。「急に。
【決算】ケツサン　總勘定、毎半期又は年度末に仕上げる收支の總計算。
【決起】ケツキ　志を決してたつ、決然として起きあがる。
【決着】ケツチヤク　とどのつまり、結局、決着
【決潰】ケツクワイ　㋑水勢にて堤防が崩れる㋺腐りしものがつぶれる。
【決戰】ケツセン　㋑勝負を決せんとして戰ふ㋺戰ふことにきめる。「きめる。
【決斷】ケツダン　㋑きつぱりときめる㋺裁き
【決議】ケツギ　會議して決定す、又その案。
【決闘】ケツタウ　命がけに奮戰して雌雄を決

す、はたしあひ。「敢の定まる所。
【決勝點】ケツショウテン 勝負を定める所、勝
【決河之勢】ケツカノイキホヒ 堤が破れて水の溢れるが如き勢ひ、すさまじき勢ひ。
【決算報告】ケツサンハフコク 會社にて計算期毎に定時總會を開きその決算を株主に報告すること。
引決ケツ 斷決ダンケツ 判決ハンケツ 氣決キケツ
壞決クワイケツ 白決ハクケツ 議決ギケツ 溢決イツケツ
關決クワンケツ 堅決ケンケツ 奏決ソウケツ 評決ヒヤウケツ
勇決ユウケツ 潰決クワイケツ 卽決ソクケツ 策決サクケツ
敢決カンケツ 果決クワケツ 按決アンケツ 專決センケツ
斬決ザンケツ 先決センケツ 聽決チヤウケツ 處決ショケツ

【汽・氣】

【汽・氣】別字 漢 昊 キ 注意 氣は別字なるも今は一般に俗字として使用さる、みづけ、水氣、ゆげ、水蒸氣
【汽車】キシヤ 蒸氣力にて軌道を運轉する仕掛の車。
【汽笛】キテキ 蒸氣にて鳴らす笛。
【汽船】キセン 蒸氣力にて水上を運轉し疾走する船、蒸氣船 注意 氣船と書くは誤り。

（汽車）

【汽管】キクワン 湯氣の通るくだ。「ランチ。
【汽艇】キテイ 軍艦に附屬する小型の汽船、
【汽機】キキ 蒸氣を應用せる機械の總稱、「ま、ボイラー。
蒸氣機關。
【汽罐】キクワン 水を蒸氣に化する仕掛のか

【沃・沃】

漢 昊 ヨク 慣用音 ヨウ
イそゝぐ（水をかけて手を洗ふ）ロさかんなり（盛）ハわかくしてみめよし（壯姣）ニやはらか（柔）木の葉の若く柔かなるさま ホ地味の肥えたること、又其土地へながあめ（霖雨）ト特に「ヨー」と發音して元素の音譯にあてる（沃度）
【沃土】ヨクド 地味のこえたる土地。
【沃田】ヨクデン 肥えたる田地。
【同訓異義】ここ 沃・肥・腴等の用法は八四二頁の肥を見よ。
【同訓異義】そそぐ 沃・注・灌等の用法は五八九頁の注を見よ。
【沃度】ヨード 酸素に似た元素で灰黑色板狀の結晶體をなしアルコールに溶け易い
【沃野】ヨクヤ 地味の肥えたる田野。
【沃饒】ヨクゼウ 地味が肥えて穀物のゆたかにみのる土地。
【沃丁度幾】ヨードチンキ 沃度をアルコールに溶解せしめし藥液。
【沃度加里】ヨードカリ 沃度とカリウムとの化合物、沃化カリウム。

【沈・沈】

俗字 漢 昊 チン ヂン シン
イしづむ、水底に落ちる ロ酒色にふける、迷ふ ハ思ひつめる ニおちぶれて浮ばぬ ホおぼる（溺）ヘとゞこほる（滯）ふす（伏）トふかし（深）奥ぶかいさま、又宮殿の奥深いさま チ心のおちつきたる貌リ廣く際涯のない平地、水がかはきて鹽分の多い澤地、ひかた ヌあまみづル支那の古の國名、又姓
【沈心】チンシン 心をしづめ深く考へる。
【沈沈】チンチン タンタン イ夜のふけゆくさま、又靜かなさま ロ宮殿の奥深きさま ハ盛んなるさま、又木の茂れるさま。
【沈沒】チンボツ イ水中に沈むこと ロ遊郭や待合に入りびたること ハ質物を入れる
【沈吟】チンギン イかすかに口ずさむ ロ考へ込みて決せぬこと。
【沈果】チンクワ 沈著にして果斷あること。
【沈勇】チンユウ 落つきて勇氣に富む。
【沈重】チンチヨウ 重々しく落つけるさま。
【沈香】チンカウ 香料に用ひる熱帶產の木の名、又その香料、蜜水香。

【沈厚】チンコウ 落つきて物に動ぜぬ貌。
【沈思】チンシ 深くかんがへる。
【沈淪】チンリン しづむ、溺れ漂ひてしづむ。
【沈着】チンチヤク 落着いてゐること。
【沈痛】チンツウ 深く苦痛を感ずるさま。
【沈醉】チンスヰ 酒の醉ひのまはれること。
【沈滯】チンタイ イ沈み滯る、よどむ ロ物事のはかどらぬこと ハ官位の昇らぬこと
【沈靜】チンセイ おちつきて靜かなること。
【沈溺】チンデキ イ沈み沒す、沈みおぼれること ロ困難におちいること。
【沈默】チンモク イ落つきありて妄りに口を開かぬこと ロ音聲を發せぬさま。
【沈澱】チンデン 水中によどみ沈む、又其物。
【沈鬱】チンウツ 氣分のしづむこと。
【沈魚落雁】チンギヨラクガン 美人の形容。
抑沈ヨクチン 侵沈シンチン 實沈ジツチン 緣沈リヨクチン
浮沈フチン 深沈シンチン 銷沈セウチン 勇沈ユウチン

【沒・沒・歿】

俗字 古字 漢 昊 ボツ モチ
イしづむ（沈）おぼる（溺）うづまる ロつくす（盡）悉す、をへる ハつく、なくなる、をはる（命終る）ニかくす（隱）かくれる ホほろぶ、ほろびる（滅）ヘなし（無）トト人民の物を官廳に取上げる

【同訓異義】なし 沒・无・無其他の用法は六三六頁の無を見よ。
【沒了】ボツレウ なくなる、つきる。
【沒年】ボツネン 人の死したる年齡。
【沒沒】ボツボツ 沈み滅ぶ、沈溺する貌。
【沒後】ボツゴ 人の死したるあと、死後。
【沒書】ボツショ 雜誌・新聞等に寄せし原稿を掲載せずに置くこと。
【沒落】ボツラク おちいるとほろびる、陷落。
【沒頭】ホツトウ 一所懸命其事に熱中する、物事に夢中になる。
【沒分漢】ボツフンカン 物の道理のわからぬ人
俗にわからずやのことをいふ。
【沒交涉】ボツカウセウ かゝり合はぬ。
【沒理想】ボツリサウ 何等の理想もない。
【沒風流】ボツフウリウ 風流でない、殺風景。
【沒常識】ボツジヤウシキ 人なみの知識がない、常識がない、非常識。
【沒趣味】ボツシユミ 面白味がない。
陷沒カンボツ 掩沒エンボツ 隱沒インボツ 貪沒トンボツ
盜沒タクボツ 淪沒リンボツ 死沒シボツ 游沒イウボツ
顯沒ケンボツ 溺沒デキボツ 覆沒フクボツ 沈沒チンボツ
乾沒カンボツ 埋沒マイボツ 浮沒フボツ 蕩沒タウボツ
低沒ビボツ 抑沒ヨクボツ 漂沒ヘウボツ 冒沒バウボツ
滅沒メツボツ 出沒シユツボツ 神出鬼沒シンシユツキボツ

【沓・沓】

漢 昊 タフ ドフ イかさなる、まじりあふ ロ水のよどまずして流れる貌ハむさぼる（貪）ニ怠るさま、ゆるむ、ゆるやか（弛緩）ホ國訓くつ
【沓石】クツイシ 緣の東柱の下に用ふる礎。
【沓沓】タフタフ イゆるむさま、ゆるやかなるさま ロ水の流れるさま。

【沖・沖】

漢 昊 チユウ ジユ
イむなし（虛）ロやはらか、やはらぐ（和）ハふかし（深）ニひゝる、とぶ（飛）ホいとけなし（幼小）をさなし、又その人ヘたれさがる貌トこゝの形容チ國訓おき（岸より遠く離れた海上）
【沖天】チユウテン 空高くのぼる。
【沖虛】チユウキヨ むなし、から。
【沖積土】チユウセキド 河海などの岸に最も新しく土砂の積つて出來た土壤。
幼沖エウチユウ 和沖ワチユウ 深沖シンチユウ 清沖セイチユウ
飛沖ヒチユウ 淵沖エンチユウ 虛沖キヨチユウ 寬沖クワンチユウ

【沙・砂・沙】

通字 漢 昊 サ セ 訛音 シヤ
イすな、いさご、まさご、水中の細かい石、すなのある所、川ばた、はま（濱）

㋺みぎは㋑すなはら㋺よなぐ、よなげる（汰）㋩梵語シュラ（ぷ）の音の訛、シャのあて字

【沙汀】サテイ　水邊の沙原、はま。

【沙汰】サタ　㋑おとづれ、通告㋺うはさ。

【沙石】サセキ　沙と石、まさご。「び。

【沙書】サショ　地上に沙にて書畫をかく遊

【沙洲】サシウ　すはま、すなはら。

【沙渚】サショ　沙汀に同じ。

【沙漠】サバク　廣大なる沙地。

【沙糖】サタウ　甘蔗から製してとる甘味料

注意 今は一般に砂糖と書いてゐる。

【沙門】シャモン　沙の形にて現はれる黄金。

【沙金】シャキン　砂を少しづゝ落して時間を

【沙漏】シャロウ　はかる器、すなどけい。

【沙塵】シャヂン　すなほこり、すなけむり。

【沙礫】シャレキ　砂利、砂や小石。

【沙蠶】シャサン　釣魚の餌蟲、ごかい。

【沙彌】シャミ　修道の未熟な初心の僧。

【沙魚】ハゼ　硬骨類の近海魚で形は細長く四五寸ばかり背は褐色で淡黑色の斑があり、肉は淡白美味である。

【沙羅雙樹】シャウサウジュ　釋迦が此樹下で涅槃に入つたといふ樹。

（魚　沙）

素沙サ　土沙ドサ　長沙チャウサ　泥沙デイサ　風沙フウサ　流沙リウサ　白沙ハクサ　銀沙ギンサ

【汨●】

漢 ベキ　呉 ミヤク　コツ　コチ

（治）水にひたす㋑みだす、まぜる、錯亂㋺しづむ（沒）㋩わきたつ波へなくなる、かくれる

【汨汨】コツコツ　㋑波の音の形容㋺沈み埋まる〳〵めぐる貌。

【沁●】

漢 シン　呉 ソン　しむ、しみこむ、しみる

【沁痕】シンコン　しみこみたるあと。

【沌●】

漢 トン　呉 ドン　㋑物事の未だ分明に成り立たぬさま、判別せぬ狀態㋺ふさがる㋩水の勢の形容㋺めぐるさま（轉）

【沌沌】トントン　水の勢を形容する語、又ぐる〳〵めぐる貌。

【沉●】

漢 コウ　呉 ギヤク　カク　㋑ふさぐ（塞）とづ（閉）㋺こほり、こほる（凍）㋩かれる（涸）

【沉寒】ゴカン　寒くして物の凍りつめること、又凍るほど寒きこと。

【沐●】

漢 ボク　呉 モク　㋑髪を洗ふ、かしらをあらふ㋺うるほふ（潤澤）めぐみを受く㋩をさむ㋻官吏の休暇、又ひま、やすみ

【沐雨】モクウ　㋑雨で髪を洗ふ義㋺風雨を冒して奔走する。「めぐみを受ける。

【沐浴】モクヨク　㋑湯あみして身を清める㋺

【沐髪】モクハツ　髪の毛をあらふこと。

【沐猴而冠】モクコウニシテクワンス　猿が冠をかぶる、人格なくして表面を飾る者。

【沛●】

漢 ハイ　呉　㋑地名（今の江蘇省沛縣）㋺雨のさかんなるさま㋩大なるさま、盛大なるさま㋻さは、水中に草の生ずる所㋼離れる、根據を失ふ、流離へすみやか、はやし（疾）

【沛乎】ハイコ　盛んにして大なるさま。

【沛然】ハイゼン　㋑物事のさかんなる貌㋺雨の盛んに降る貌、轉じて惠みの下る義。

【沛澤】ハイタク　さは、草の生えてゐる水地。

【沢】

六二四頁の澤を見よ。

五畫

【河○】

漢 カ　呉 ガ　㋑川の名（黄河の略稱）㋺かは（川の大なるもの）㋩あまのがは、天漢

【河上】カジヤウ　かはかみ、川の上。

【河口】カコウ　川の海にそゝぐ所、河口。

【河川】カセン　主務大臣が公共の利害に重大なる關係ありと認定した水流。

【河心】カシン　川のまんなか、中流。

【河目】カモク　甚だしくへこんでゐる眼。

【河畔】カハレ　川のほとり、川ばた。

【河伯】カハク　川の神、水神。

【河系】カケイ　川の本流と支流全體の稱。

【河身】カシン　川すぢの水のある部分。

【河流】カリウ　川のながれ、川すぢ。

【河馬】カバ　偶蹄類の動物でアフリカ南部の沼池に棲息し體は肥大して身長一丈餘に達し鼻の端は突出し耳と眼は比較的小さく脚は太く短く晝間は水中にひそみ夜間陸上に出て草を食ふ。

（馬　河）

【河童】カドウ　獸の名、かつぱ。「鳴く。

【河鹿】カジカ　蛙の一種、夏美聲を發して

【河豚】カトン　有毒なる海魚の一、ふぐ。

【河雲】カウン　あまのがは、銀河。

【河獄】カガク　河と山、山川、山河。

【河獺】カハウソ　哺乳類中食肉類の一種で體長三尺ばかり全身灰黑色で尾は長く五本の指に蹼を具へ水泳に適し晝間は穴にひそみ夜間出でゝ川魚を捕食する、かはおそ。

（獺　河）

【河東節】カトウブシ　十寸見河東の始めた俗曲

【河原者】カハラモノ　德川時代に芝居の役者・非人・穢多などの類をいへる語。

【河原鳩】カワラバト　鳩の一種で形は家鳩に同じである、羽毛は紫灰色にして綠色を帶び海岸の巖窟に群棲する。

（鳩原河）

山河サン　銀河ギン　天河テン

星河セイ　馮河ヒヨウ　明河メイ　懸河ケン

【沸●】

漢 フツ　呉 ヒ　慣用音 フツ

㋑わく、わかす、わきたつ、にえたつ㋺盛んにおこりたつさま㋩水が地上にあふれ出る、噴水する

【沸騰】フツトウ　わきあがる、わきたつ。

【沸騰點】フツトウテン　水のにえたつ溫度（攝氏寒暖計の百度、氷點の對）。

【油○】

漢 イウ　呉 ユ　㋑あぶら（可燃性の液體）㋺和ぎつゝしむ貌㋩禾穀や草などのつやゝと勢のよきさま㋻雲の盛んに起るさま㋼水の靜かに流れるさま㋽落つきあるさま「ちがみ。

【油紙】イウシ　あぶらを塗りたる紙、あぶ

【油然】イウゼン　㋑雲の盛んに起るさま㋺進行せざるさま、又氣に止めぬ貌。

【油衣】イウイ　あまがつぱ、油絹。

【油煙】ユエン　油が燃えて生ずるすゝ。

【油斷】ユダン　氣をゆるして注意を怠ると

【油蟲】アブラムシ　㋑植物の芽・葉等を損傷する害蟲㋺或る人又は團體に取入つて容易に離れず相手を困らせながら利益を貪る如き人物をいふ。

【油繪】アブラエ　亞麻仁油にてねつた繪具を以て描く西洋風の繪。

香油カウ　麻油マユ　膏油カウ　石油セキユ

【沼●】

漢 セウ　呉 ショウ　㋑ぬま（水のたまりたる處）いけ、さは

【沼氣】セウキ　池・沼等の泥の中から發する燃性の瓦斯、メタン。

清沼セイセウ　淨沼ジヤウセウ　淵沼エンセウ　苑沼エンセウ

【治●】

漢 チ　呉 ヂ　㋑をさむ（政を布き民を統御す）たゞす（亂れざるやうにす）取しらべる、しづめる㋺をさまる㋩をさめ、をさまり㋻くらぶ（校）か

んがふ㋺監督する、始末する、しづめるべうつたへを聽く、又その決定、宣告㋩政治の才能㋑道數の家の靜室㋥地方長官の居る處㋭まつりごと、いさを

【同訓異義】**をさむ**　治・修・收其他の用法は八三頁の修を見よ。

【治下】チカ　支配するところ、配下。

【治化】チクワ　政を布き民を善導すること

【治水】チスキ　水をゝさめ、水害を防ぐ。

【治世】チセイ　其の時代をゝさめる、よく治まれる時代。「ること、治平安穩。

【治安】チアン　世の中がよく治りて平かな

【治定】チヂヤウ　治め定める、整理する。

【治產】チサン　㋑產業をゝさめる㋺自ら財產を管理し又は處分する。

【治亂】チラン　世の治ることゝ亂れること

【治罪】チザイ　犯罪者を處分すること。

【治療】チリヤウ　病氣をゝさめいやす、療治。

【治癒】チユ　病傷のいえること、平癒。

【治部省】ヂブシヤウ　古の八省の一にして貴族の分限を處理し僧尼又は外藩に關することを司りし役所。

【治外法權】チグワイハフケン　外國にありて其所在國の法律に制せられず自國の法律に支配せられる特權、又その特權の行はれる土地。

【治安妨害】チアンバウガイ　社會の治平安寧を妨害すること。

按治アン　杜治ト　自治ジチ　政治セイヂ
邦治ハウ　內治ナイヂ　外治グワイヂ　文治ブン
理治リ　聖治セイヂ　蠢治カン　靜治セイヂ

〔沿○〕〔沿字〕〔沿〕

俗　漢　吳　エン

㋑そふ（水流又は川すぢにつきしたがふ）㋺したがふ（循）よる（因）㋩ありきたり（物事の從來する所）

【同訓異義】**そふ**　沿・副・添其他の用法は六〇七頁の添を見よ。「りかはり。

【沿革】エンカク　昔より今までの事物のうつ

【沿岸】エンガン　㋑きし、岸にそふた所㋺陸地に沿ひ水のある所、いそ、いそばた。

【沿道】エンダウ　通路の兩側、みちばた。

【沿線】エンセン　鐵道線路等にそつてゐること、又そのところ。

【沿海】エンカイ　海にそふ、海にそふ陸地。

【沿習】エンシフ　昔からの習慣、しきたり。

〔況●〕〔況字〕

俗　漢　キヤウ　吳　カウ

㋑いは まして、なをさら（上を承けて下を說く辭にして多くは下に乎、哉を附して「をや」と讀ましむ）㋺たとふ（譬）㋩こゝに（玆）㋥たまもの（貺）㋭たまふ（賜）くだされるべありさま、おもむき㋩他人の訪ね來るにいふ謙辭

【同訓異義】**いはんや**

【況】　はましての意である。

【矧】　は前に同じ。

景況ケイキヤウ　來況ライキヤウ　情況ジヤウキヤウ　近況キンキヤウ

〔泉○〕〔泉字〕

漢　セン　吳　セン　㋑いづみ（水の湧き出るもの、又其所、水流のみなもと）㋺ぜに（貨幣）

【泉下】センカ　よみぢ、めいど、黃泉。

【泉水】センスヰ　いづみ、又庭の池。

【泉石】センセキ　いづみと石、山水の景色。

【泉源】センゲン　水のみなもと。

淵泉エンセン　巖泉ガンセン　蒼泉タイセン　遙泉エウセン
野泉ヤセン　迸泉ハウセン　肥泉ヒセン　立泉リツセン
天泉テンセン　寒泉カンセン　冽泉レツセン　涼泉リヤウセン
飛泉ヒセン　溪泉ケイセン　寒泉カンセン　谷泉コクセン
旋泉センセン　美泉ビセン　醎泉カンセン　湯泉タウセン
溫泉オンセン　涌泉ヨウセン　黃泉クワウセン　深泉シンセン

〔泊●〕〔泊〕

漢　ハク　吳　ヒヤク　㋑とまる、船がとゞまる、やどる、一時身をよせる㋺とめる、とまり、船のとまる所㋩やどり、やどや（旅舍）㋥しづかなるさま㋭利慾に迷はぬさま

【泊船】ハクセン　舟が碇をおろす、船をつける、ふなどまり。

駐泊チユウハク　恬泊テンパク　夜泊ヤハク　厚泊コウハク
寂泊セキハク　玄泊ゲンハク　栖泊セイハク　流泊リウハク
飄泊ヘウハク　停泊テイハク　碇泊テイハク　繫泊ケイハク
宿泊シユクハク　憩泊ケイハク　旅泊リヨハク　止泊シハク

〔法●〕〔法〕

漢　ハフ　吳　ホフ　促音ハツ　ホツ

㋑のり、かた、てほん、おきて、道理禮儀㋺律令、刑罰㋩てだて、方法、方術㋥のつとる、模範とする、かたどる㋭除法の割る方の數、除數㋬佛敎、佛道、佛法㋩佛蘭西の貨幣フラン（Franc）のあて字

【法人】ハフジン　自然人以外の各種團體に對して自然人と同樣に權利義務の主體たることを認めたるもの。「力。

【法力】ハフリキ　㋑法律の力㋺佛法の功德の

【法文】ハフブン　法令の文章、法律の文面。

【法令】ハフレイ　法律と命令。「合はぬ。

【法外】ハフグワイ　㋑程度をこえる㋺理屈に

【法式】ハフシキ　のり、かた、きまり、形式。

【法衣】ハフイ　僧侶のきもの、ころも。

【法廷】ハフテイ　法官が裁判をする場所。

【法程】ハフテイ　法式に同じ。

【法衙】ハフガ　裁判所、法を司る役所。

【法數】ハフスウ　㋑除數の目安となる數、法、除數㋺佛敎上の名數、三毒・六波羅蜜・五蘊・六道の道。

【法治】ハフチ　法律によつて治める。

【法典】ハフテン　同一性質の規則を多く蒐集して一の法律と成したるもの、のり。

【法例】ハフレイ　各種の法令を通じて適用せらるべき規定を設けたる法規、法規に關する凡例。「事柄、又その定め。

【法定】ハフテイ　法律によつて定められたる

【法相】ハフシヤウ　司法大臣の別稱。

【法官】ハフクワン　裁判官、法吏。

【法服】ハフフク　㋑規定によつて定められたる衣服㋺法廷にて著用する法官・辯護士等の正服㋩僧侶の著衣、ころも。

【法律】ハフリツ　天皇が議會の協贊を經て法律の名稱を附して公布したる法規。

【法科】ハフクワ　㋑法律の條項、又は法律學の學科㋺大學の法科。「喜の心。

【法悅】ハフエツ　信仰によつて受くる所の歡

【法家】ハフカ　法律に通じたる學者。

【法貨】ハフクワ　國法に基いて强制流通せしむる貨幣、又フランス貨幣。「の裁判所

【法院】ハフヰン　朝鮮總督府及び臺灣總督府

【法曹】ハフサウ　裁判官、轉じて法律家。

【法規】ハフキ　法律と規則、又人民の權利義務を規定せるもの。

【法理】ハフリ　法律の原則。

【法網】ハフマウ　㋑法律のあみ㋺罪人を捕へて逃がさぬこと㋩法律。「法律學。

【法學】ハフガク　政治・法律・經濟等の學問、

【法被】ハツピ　勞働者の衣服、はつび。

【法王】ホフワウ　㋑孝謙天皇の時道鏡に授け給ひし位㋺羅馬敎の主權者㋩佛法のかしら、ほとけ、法主。

【法主】ホフシユ　前の㋩に同じ。「た名。

【法名】ホフメイ　人の死後佛式に依りてつけ

【法事】ホフジ　㋑佛法上の事がら㋺又佛法にて行ふまつり。

【法門】ホフモン　佛法に入る道。「皇。

【法皇】ホフワウ　佛門に入らせられた太上天

【法會】ホフエ　㋑佛事にて行ふまつり㋺佛法をといて人を集めること。

【法號】ホフガウ　法門に入つた人にその宗門で授くる名。「て學に長じたる人。

【法燈】ホフトウ　のりのともしび、又佛家に

【法螺】ホラ　海產貝の一、ほらがひ、轉じて徒らに大言壯語すること。

【法治國】ハフヂコク　行政機關の臣民に對する關係が一定の法規によつて定つた狀

態にある國。

【法相宗】ハフサウシユウ 佛語、萬有一切の性相を說いて三界唯一心を明かにした宗派

【法制局】ハフセイキヨク 內閣に直屬して法規の立案及びその改廢修正に關する事務を掌る役所。

【法華宗】ホツケシユウ 法華經に基いて立てた「宗派、日蓮宗。

【法親王】ハフシンワウ 出家した後親王の宣下を受けられし皇族。

【法螺貝】ホラガヒ ㋑腹足類の海產貝で介殼は螺旋狀をなし螺頭はすぼみ外表に不規則な瘤狀が散在して虎斑がある殼の頂に孔をあけて吹き鳴らし肉は食用に供する

（貝螺法）

【法律行爲】ハフリツカウキ 私法上の效果を生ぜしめんとする意思表示。

【法律哲學】ハフリツテツガク 各種の法律現象に共通なる最高至深の學理を研究する學問。

【法律現象】ハフリツゲンシヤウ 法律の範圍に屬する總ての出來事。

【法定積立金】ハフテイツミタテキン 會社などの計算に於て利益金の或部分を法律の規定によりて積立てるもの。

軍法グンパフ 作法サフ 立法リツパフ 制法セイハフ 明法メイハフ 佛法ブツパフ 故法コハフ 眞法シンパフ 筆法ヒツパフ 古法コハフ 兵法ヘイハフ 峻法シユンパフ 遺法ヰハフ 心法シンパフ 國法コクハフ 壹法ケンパフ 文法ブンパフ 嚴法ゲンパフ 聖法セイハフ 妙法メウハフ 書法シヨハフ 獄法ゴクハフ 算法サンパフ 舊法キウハフ 僞法ギハフ 護法ゴハフ 刑法ケイハフ 王法ワウハフ

【泡・〇】【泡】

漢 ハウ ㋑あわ、水上に浮ぶあわ、うたかた、あぶく（浮漚）㋺水の流れる貌、又水のわき出るさま、その聲㋩盛んなるさま

【泡泡】ハウハウ 水の湧き出るさま。「ふ。

【泡沫】ハウマツ あわ、あぶく、儚なき喩にいい

【泡影】ハウエイ 水の泡と物の影、極めて儚ないものに譬へる語。

【泡盛草】アワモリサウ 虎耳科の多年生草本山中に自生し庭園に移植せらる、莖の高さ二三尺葉は羽狀複葉にして光澤ある深綠色を呈す小葉は卵形で鋸齒あり花は通常白色にして粟の穗狀を呈し春夏の間に開く。

（泡盛草）

【泡沫會社】ハフマツクワイシヤ 基礎薄弱にして泡の如く消滅する會社。

【波・〇】【波】

漢 ハ 呉 ヘウ ㋑なみ（浪）㋺波の如く起伏するもの㋩平穩ならざるさま㋥文章の起伏抑揚等の狀㋭水面の一點より環狀の波が四方に傳はり行く現象㋬なみたつ、波がおこる㋣うごく、動搖する㋠目つき、眼光㋡波の如く傳はり行く㋢亞細亞國名、波斯（Persia）。

【波及】ハキフ 物事が波紋の廣がるが如く次第々々にひろまつて傳はること。

【波光】ハクワウ 波の光、波の色。

【波底】ハテイ なみそこ、波のなか。

【波流】ハリウ 水のながれの義、轉じて物事の變轉極りなきさまにいふ。

【波濤】ハラウ なみ、浪波。

【波紋】ハモン 波のあや、波の如き模樣。

【波動】ハドウ ㋑なみの動き㋺又波の如く上下に起伏しつゝ進むこと㋩上下・前後又は左右に震動しつゝ進む運動。

【波濤】ハタウ おほなみ、大波。

【波瀾】ハラン ㋑波は小なみ、瀾は大なみ㋺事柄の起伏、又はもめごと、葛藤等の意㋩文章の勢ひの際立つて動いてゐる所、文勢の生動變化。

【波斯】ペルシヤ 亞細亞洲の一帝國。

【波止場】ハトバ 水中に築き出したるどて、

波よけ、又舟をつなぐ所。

【波稜菜】ハウレンサウ 野菜の一、柔かいお菜。

【波羅密】ハラミツ ㋑生死のさかひを脫して彼岸に至る㋺味の甘き一種の果物。

【波布】ハブ 蛇の一種で身長は六尺位にも達し頭は左右にふくれて匙の形をなし猛烈な毒をもち我が國では琉球に產す。

（波布）

煙波エンパ 風波フウハ 濤波タウハ 洪波コウハ 奔波ホンパ 瀾波ランパ 恩波オンパ 連波レンパ 餘波ヨハ 細波サイハ 小波セウハ 月波ゲツパ 銀波ギンパ 碧波ヘキハ 春波シユンパ 眼波ガンパ 春波ハクハ 微波ビハ 金波キンパ 平波ヘイハ

【泣・〇】【泣】

漢 キフ ㋑なく、呉 コフ なき、なみだす、哭す㋺國訓なき（苦勞、うきめ）わび（謝罪の意）かこちごと（愚痴）

【同訓異義】 なく 泣・鳴・啼其他の用法は一一七九頁の鳴を見よ。

【泣血】キフケツ 血の涙、悲哀の情の非常なこと。

【泣哭】キフコク なげきかなしむ。「る形容。

【泣涕】キフテイ なく、聲を出さず泣く。

【泣言】ナキゴト 女々しき愚痴。「んで泣く。

【泣別】キフベツ ㋑泣いて別れる㋺別れを惜

哀泣アイキフ 號泣ガウキフ 啼泣テイキフ

涕泣テイキフ 飲泣イインキフ 傷泣シヤウキフ

悲泣ヒキフ 慟泣ドウキフ 感泣カンキフ 獻泣ケンキフ

哭泣コクキフ 啜泣セツキフ

【泥・〇】【泥】

漢 デイ 呉 ナイ（土に水のまじりたるもの）㋺ぬかるみ、どぶどろ、泥の狀をせるもの㋩けがる（汚）に㋪南海にすむ一種の蟲の名㋫泥蟲の骨なくしてぐたぐたするより酒にひどく醉ふるを泥醉といふ㋬露の多き貌又柔くつやある貌㋭なづむ、とゞこほる（滯）㋮かゝはる（拘）

【泥工】デイコウ 壁をぬる人、左官。

【泥炭】デイタン 石炭の一種、未だ十分に炭化せず植物質を帶びたるもの。「通知。

【泥金】デイキン ㋑黃金の粉、金粉㋺及第の

【泥滓】デイシ 泥とかす、清からざることにいふ

注意 **ていさい**と讀むは誤り。

【泥流】デイリウ 火山から溶けた岩石の水と一緒に流れ出るもの。

【泥濘】デイカウ どろみぞ、どぶ。

【泥醉】デイスイ 甚しく酒に醉ふこと。

【泥鰌】デイシウ どぢやう、土長。

【泥濘】デイネイ 泥の深いぬかるみ。

濁泥ダクライ 雲泥ウンデイ 塗泥トデイ 深泥シンデイ

【注・〇】【註】通字【注】

漢呉 チユウ 慣用音 ㋑そゝぐ（灌）つぐ、水が入りこむ、流入する㋺ひく、水を引入れる㋩射る、又流し入る㋥つける、水をかける㋭むける㋬はしく說明す、又そのもの

【同訓異義】 そそぐ

【沃】 は草木などに水をかけそゝぐ意

【注】 は川の流れがそそぐの意。

【洒】 は水を庭などにうつの義。

【瀉】 は高い處から急にそそぐの義。

【濺】 は飛沫がそゝぎかゝるの意。

【澆】 は沃に同じ。

【灌】 は前に同じ。

【漑】 は前に同じ。

【注入】チユウニフ つぎこむ、注射。

【注文】チユウモン ㋑注釋の文㋺たのみあつらへる、所望

注意 註文と書く。

【注目】チユウモク ㋑目にて上官を注視し敬意を示す軍禮㋺氣をつけて見る、目をつける。

【注射】チユウシヤ 「劑をつぎこむ療法。つぎ込む、注入、血管へ藥

【注連】チユウレン 水を注ぎ淸めて張る繩、出棺後に家の入口にはりしもの、我國

にてはしめなは、又しめかざり。
【注進】チユウシン 事の起りたる旨を急ぎ上申すること、又其事柄。
【注視】チユウシ 注意して見る。「斷をせぬ。
【注意】チユウイ きをつける、心をとめる、油
【注釋】チユウシヤク 說きあかす、文中又は其下等に書き入れる說明又は講義。

【泰●】【𣲖】

漢呉 ㊀おほい なり（大）ひろい㊁とほる（通）㊂はなはだ（甚）㊃やすし（安）ゆるやか（寛）落つけるさま ㊄おごる（侈）おごり ㊅西の風 ㊆丘又山の名 ㊇易の卦の名
【同訓異義】はなはだ 泰・太・甚其他の用法は六八二頁の甚を見よ。
【同訓異義】やすし 泰・安・寧其他の用法は一八九頁の安を見よ。
【泰山】タイザン 支那五嶽の一、又大なる山轉じて物事に動ぜぬさまに喩ふ。
【泰斗】タイト 北斗の略、轉じて人に仰がれるえらき人、オーソリテイー。
【泰平】タイヘイ 世が穩かに治まる、天下太平
【泰西】タイセイ 西洋諸國、歐米。
【泰然】タイゼン ゆつたりとして落ちつける貌、自若としてあはてぬ貌。
【泰廟】タイベウ 一番先祖のおたまや。
【泰山北斗】タイザンホクト 泰山と北斗、衆に仰がれる大人物をいふ。
優泰タイ 五泰ゴタイ 偕泰カイタイ 否泰ヒタイ 安泰アンタイ
開泰カイタイ 寧泰ネイタイ 驕泰ケウタイ
矜泰キヨウタイ 清泰セイタイ 閒泰カンタイ 靜泰セイタイ
漢 慣用音 マツ バツ

【沫●】【沫別字】

㊀あわ、うたかた、みなわ、あぶく ㊁つばき、よだれの類 ㊂水のとばしり、みづたま ㊃ゆばな（湯華）
【沽●】漢 コ ㊀うる（賣）㊁かふ（買）㊂酒をうるもの、さかや ㊃おろそか（粗略）
【同訓異義】うる 沽・賣・賣其他の用法は九九七頁の賣を見よ。
【同訓異義】かふ 沽・買・賈其他の用法は九九三頁の買を見よ。
【沽券】コケン うりてがた、賣渡證、價値又估券に作るも可である。
【沫●】漢 バイ ㊀地名（今の河南省洪縣）うすあかり
呉 メ ㊀はゞむ、くひとめる、勢がなくなる、
【沮●】漢 ショ
呉 ソ
さまたげる ㊁濕氣の多い土地 ㊂川の名（陝西省郿州所在）又所の名、又人名
【沮止】ソシ 妨げとめる、又そのこと。
【沮色】ソシヨク 心の進まざる顏色。
【沮喪】ソサウ 元氣のくじけるさま、氣力を失ふこと 注意 阻喪と書くは誤り。

【沱○】

漢 タ ㊀川の名（楊子江の一支流）㊁涕の流れる貌 ㊂大雨の降る貌

【沾●】【霑通字】

漢 セン 呉 ソン
漢呉 テン
㊀うるほす（潤）ぬらす、ひたす ㊁こやす、こえる（肥）涵養す ㊂ますす（益）そふ（添）㊃輕薄なるさま
【同訓異義】うるほす 沾・濕・潤其他の用法は六二六頁の濕を見よ。

【泄●洩】

漢 セツ セチ ㊀もる、漏洩する、內容物が外にぬけ出る、內部の事情が外部に露顯する ㊁もらす ㊂のぞき去る、おし出す ㊃ゆるやかなるさま
下泄カセツ 發泄ハツセツ 漏泄ロウセツ
滲泄シンセツ 決泄ケツセツ 通泄ツウセツ 道泄ダウセツ
漢呉 エイ

【泗○】

漢 シウ 呉 ジユ
㊀はゞ（浮行）水の上に浮いておよぐ
【泌○】【沁別字】
漢 ヒ ヒツ ㊀ながれ、はやきながれ（俠流）又泉がわきて流れる貌 ㊁しむ（滲）にじみ出る
呉 ビ ビチ れる、

【泌尿器】ヒニウキ 身體中に生ずる廢物を體外に排出する器管。

【泓●】

漢呉 ㊀ひくし、水のひくゝ深 ㊁ワウ き貌 ㊂ふち（淵）㊃水の清きさま ㊄川の名（河南省柘城縣所在）

【泗●】

漢呉 ㊀川の名（山東省所在）㊁はなしる、水ばな シ
【泗上】シジヤウ 泗川のほとりの義、孔子が敎をときしところ、轉じて孔門。

【泙○澎】

漢 ハウ 呉 ビヤウ
水勢の盛んなるさま。
【泙湃】ハウハイ 水聲の盛んなるさま。

【泛●】

漢 ハン ホン 注意 へんと讀むは誤り
呉 ホウ フ ㊀うろ（汎）㊁くつがへす
【泛子】ハンシ かぶ（浮）㊂釣魚の道具の一、うき。
【泛溢】ハンイツ 水が漲り溢れる。
【泛稱】ハンシヨウ 物事を概括した名稱。

【泝●】

漢 ソ ㊀さかのぼる（溯）㊁泝
呉 ス 斗は水をくむ升

【泠○】【冷別字】

漢 レイ ㊀川の
呉 リヤウ 名 ㊁水又は風の清らかなる聲 ㊂音樂師（伶に通ず）㊃風の和らぐさま
【泠人】レイジン 伶人に通ず、樂官。
【泠風】レイフウ おだやかに吹く風。
【泠然】レイゼン ㊀輕妙なる貌 ㊁きよき貌。

【泫●】

漢 ケン 呉 ゲン
㊀鑛のしたゝる貌 ㊁涙をはら〳〵と こぼす貌、さめ〴〵 ㊂ながれる（流）
【泫然】ゲンゼン 涙のはら〳〵と落ちる狀、さめ〴〵となくさま。

【泯●】

漢 ビン ㊀ほろぶ（亡）つきる（盡）なくなる ㊁水の流れる貌 ㊂廣く暗くして分明なら ざる貌、茫々 ㊃まじる（混合）㊄くらくして分明ならざる貌
【泯絕】ビンゼツ 滅びてなくなること。
【泯亂】ビンラン 道德・規則等が亂れること。
【泯滅】ビンメツ ほろぶ、しづむ、なくなる。

【泱○】

漢 エイ 呉 ヤウ
漢呉 アウ
大なるさま ㊁水の流るゝ貌
【泱泱】アウアウ 水の深くして廣きさま、又雲氣の起る貌。

【泳●】

漢 エイ ㊀およぐ、水中をくぐり ㊁およぐ ㊂およぎ、よくおよぐこと、又その術
呉 ヤウ

【泪】

六〇三頁の涙を見よ。

六畫

【洋○】【𣲖】

漢呉 ㊀大なる海、そとうみ、又 ヤウ おほなみ ㊁廣きさま、大きいさま、多いさま、盛んなるさま ㊂他の語に添へて西洋の物であることを示す
【洋刀】ヤウタウ 西洋風の刀劍、サーベル。
【洋本】ヤウホン 洋風の書物、又西洋の書物。
【洋行】ヤウカウ ㊀西洋に行くこと ㊁本邦にある西洋の大商店の稱 ㊂入獄の隱語 ㊃洋行歸りは戾り品のこと。
【洋式】ヤウシキ 西洋風の樣式、西洋じたて。
【洋妾】ヤウセウ 外國人の妾、らしやめん。
【洋洋】ヤウヤウ ㊀水勢の盛んなる貌 ㊁限りなく廣き貌 ㊂行き渡りて充滿せる貌。
【洋食】ヤウショク 洋風の料理、西洋料理。
【洋琴】ヤウキン ㊀ピアノ ㊁黑塗の桐材の臺に眞鍮の絲針金十三筋を張り爪で撥きならす清樂用の絃器。

（琴洋）

【洋畫】ヤウグワ 西洋風の繪畫。
【洋風】ヤウフウ 歐米の趣き、西洋風。
【洋傘】ヤウサン 西洋型のかさ、蝙蝠傘。
【洋裝】ヤウサウ ㊀洋風 ㊁西洋綴の書物。
【洋館】ヤウクワン 西洋風の建築物。
【洋癖】ヤウヘキ むやみに舶來品を好む癖。
【洋服細民】ヤウフクサイミン 月給を取り中流の

生活をなせる人を面白く現した語、洋服を著て紳士ぶつてゐるが貧乏との意

浩洋カウヤウ　黄洋クワウヤウ　太洋タイヤウ　滂洋パウヤウ
洸洋クワウヤウ　東洋トウヤウ　海洋カイヤウ　遠洋エンヤウ

【洒・灑】

漢サイ　呉セ　イそゝぐ（滌）

ロ垢ぬけがしてさつぱりしてゐるさま　ハつゝしむ、うや〳〵し（恭）ニまく、散布する　ホぞつとする　ヘ驚くさま　トあらふ（洗）すゝぐ（雪）チ名譽を恢復する

【同訓異義】そそぐ　洒・注・灌其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【洒掃】サイサウ　水をかけて洗ひ清める。
【洒瀝】セイタク　あらひすゝぐ、洗濯する。
【洒落】シヤラク　イ心がさつぱりしてわだかまりなきさま　ロみえを張つてめかす、又動詞に活用して「しやれる」といふ。

【洗・洗】

漢セイ　呉サイ　漢呉セン

イあらふ、足を洗ふ、あらひ清む　ロけがれを去る、清潔にする　ハ水を容れる器、たらひの類　ニ基督教にて新たに信者となる者に施す儀式（洗禮）　ホ國訓あらひ（魚の生き身をうす作りにして冷水であらひしもの）

【洗米】センマイ　神佛に供へるときぎたる米。
【洗心】センシン　心中のわづらひを拂ひきよめる。
【洗足】センソク　足をあらひすゝぐ。
【洗浴】センヨク　ゆあみすること、入浴。
【洗淨】センジヤウ　洗ひ清める。「洗ひねる。
【洗練】センレン　イ洗浴に同じ　ロ絹の織物を
【洗滌】センテキ　あらひきよむ、洗つて汚穢を去る、水をそゝぎ清める　注意せんでうと讀むは誤りなるも學術上の術語として一般に使用さる。「ぎて清める。
【洗濯】センタク　洗ひて汚れを去り水をそゝ
【洗禮】センレイ　イ基督教で新たに信者となりし者に施す儀式　ロ泥棒などわるものの仲間入りをする等の皮肉語にも用ふ
【洗盡】センサン　さかづきをすゝぐ。
【洗熨】センキ　洗ひてひのしをかける。
【洗壜】フラヒビン　化學の實驗に用ゐる瓦斯又は沈澱物を洗ふ壜。

（壜洗）

盥洗クワンセン　淨洗ジヤウセン　梳洗ソセン　磨洗マセン
沐洗モクセン　澡洗サウセン　濯洗タクセン

【洛・洛】

漢呉　イ川の名（黄河の支流）ロ都の名（洛陽）轉じて都、又京都の稱　ハ水たまりて下ること　ニ絡に同じ、からむ

【洛京】ラクケイ　支那古代のみやこ、洛陽。
【洛中】ラクチユウ　京都の市街の中。
【洛外】ラクグワイ　京都の市街の外。
【洛陽】ラクヤウ　イ支那古代の都にして周公が初めて都せし所　ロ京都の別名。
【洛陽紙價貴】ラクヤウノシカタカシ　著書の世上にもてはやされるをいふ。
【洛中洛外】ラクチユウラクグワイ　イ洛陽の城中と城外　ロ都の中と外　ハ我國にては京都加茂川以西の市街地を洛中、同じ以東の地及市外一帶を洛外と云ふ。

【洞・洞】

漢トウ　呉ヅ　慣用音ドウ

イほら、ほらあな　ロつらぬく、つきとほす　ハさとり知る、通達する　ニほがらか（朗）　ホまじめなるさま　ヘはやい流れ

【洞穴】ドウケツ　ほらあな、いはや。
【洞見】トウケン　見とほす、みぬく。
【洞通】トウツウ　つらぬきとほす。「部屋。
【洞房】ドウバウ　婦人の居るへや、奥ぶかき
【洞開】トウカイ　ぬき開く、ぬけ通る。
【洞窟】ドウクツ　洞穴に同じ。
【洞徹】トウテツ　ぬけ通る、悟りを開く。
【洞祭】ドウサツ　洞見に同じ。

【洞曉】トウゲウ　さとり通ず、又見通す。
【洞庭湖】ドウテイコ　湖南省の一大湖。
【洞房花燭】ドウバウクワショク　結婚の夜。

幽洞イウトウ　土洞ドトウ　空洞クウトウ　鴻洞コウトウ
濕洞エントウ　包洞ハウトウ　靈洞レイトウ　虚洞キヨトウ

【津・津】

漢シン　イつ、呉ジン　わたし

ばゝ、ふなつき　ロきし、がけ（崖）　ハしる（液汁）あふれ出るさま　ニつて（貪婪）

【津人】シンジン　わたしもり、渡子。
【津岸】シンガン　わたしば、渡船場。
【津津】シンシン　趣味、うま味の多いさま。
【津唾】シンダ　つばき、つば、唾液。
【津液】シンエキ　イにじみ出る汁　ロつばき。
【津梁】シンリヤウ　イ渡場と橋　ロ事をする手引　ハ東奔西走・南船北馬等の意。「引。
【津筏】シンバツ　イ渡し場の筏　ロ事をする手
【津頭】シントウ　わたしば、渡船場。
【津浪】ツナミ　勢はげしくあれくるふ波

（浪津）

【津津浦浦】ツツウラウラ　國内のすみ〳〵。

膏津カウシン　玄津ゲンシン　星津セイシン　青津セイシン
芳津ハウシン　餘津ヨシン　梁津リヤウシン　洪津コウシン

【洩・泄】

漢セツ　呉ヒエイ　漢呉エイ

イ心のゝびゝするさま　ロ風にしたがふ貌　ハ飛びかけるさま（漏）　ホへる、へらす（減）

【洩洩】エイエイ　イ心ひろくのびゝせるさま　ロ風にしたがひ飛びかけるさま。

【洪・洪】

漢コウ　イおほ　呉ク　みづ（大水）　ロおほいに、おほひなり（大）

【洪才】コウサイ　すぐれたる智識、又大なるはたらき、大才、大智、大能。「の事。
【洪大】コウダイ　非常に廣大なるさま、又そ
【洪水】コウズイ　水が溢れみなぎる、又その水、おほみづ。「することの敬稱。
【洪化】コウクワ　德政を布く、又善政の普及
【洪志】コウシ　大なるこゝろざし、大望。
【洪恩】コウオン　大なるめぐみ、洪惠。
【洪流】コウリウ　大なるながれ、大水。
【洪基】コウキ　帝王の事業の基礎、大なるもとゐ、大事業のどだい。
【洪統】コウトウ　立派なる系統。
【洪量】コウリヤウ　廣大なる度量。
【洪業】コウゲフ　おほいなるわざ、大事業。
【洪蕩】コウタウ　水の面の廣々としたさま。
【洪濤】コウタウ　おほなみ、巨濤。
【洪灝】コウラン　前に同じ。
【洪積土】コウセキド　洪水の作用にて土砂の積み重つて出來たる地層。
【洪積層】コウセキソウ　前に同じ。

【洲・洲】

漢シウ　イす、し　呉ス　ま、砂が

小高く盛りあがつて出來てゐる島　ロくに、地球上の大陸の稱

【洲島】シウタウ　水中のくが、しま。
【洲渚】シウシヨ　なぎさ、洲汀。
【洲濱】スハマ　イ砂地の岸の波形に曲つた所　ロ結婚式の儀式に用ゐる島臺、洲濱臺の略　ハすはま形の菓子の名。

孤洲コシウ　白洲ハクシウ　滄洲サウシウ　汀洲テイシウ
中洲チユウシウ　芳洲ハウシウ　沙洲サシウ　溟洲メイシウ
霜洲サウシウ　蒲洲ホシウ　荻洲テキシウ　礫洲レキシウ
雙洲サウシウ　神洲シンシウ　五大州ゴダイシウ

【活・活】

漢クワツ　イいく、呉クワチ　生存し

て居る、生きながらへる　ロおひたつ、生育する　ハよみがへる（蘇生）　ニ勞よく動く、生氣が發動する　ホいかす、死から救ふ、死なぬやうにする、蘇生さす　ヘくらす、又くらし（生計）　トが水の流れ

る屠㋚國訓くわつ（柔術で氣絶者を蘇生さす法）

【活人】クワツジン ㋑人をいかす㋺又生きて居る人、死人の對。

【活力】クワツリヨク 活動するはたらき、いき

【活水】クワツスキ 流動しつゝある水。

【活火】クワツクワ 盛んに燃えてゐる火。

【活用】クワツヨウ ㋑實際にはたらかして用ゐる、應用することㄖ文法上にては語尾の意味によつて動詞・形容詞・助動詞等が變化すること。

【活佛】クワツブツ 高德の僧侶、いきぼとけ。

【活物】クワツブツ 生氣があつて活動するものゝ總稱、いきもの。「の略稱。

【活動】クワツドウ ㋑いきて動くㄖ活動寫眞

【活眼】クワツガン 物の是非善惡を見分くる眼力、めさきがきく。

【活路】クワツロ いきるべき道、命の助かる

【活潑】クワツパツ 生々として元氣のいゝこと 注意 活發と書くは誤り。

【活劇】クワツゲキ 芝居にて見るが如き目ざましき實際の出來事、組打ち、摑み合ひ

【活壇】クワツダン 活動寫眞に關する一派。

【活躍】クワツヤク 勢ひよく活動するさま。

【活辯】クワツベン 活動寫眞の映畫說明者。

【活字箱】ケース ㋑箱㋺活字を入れる箱㋩小さく區劃して入れる箱。

（活字箱）

【活人畫】クワツジングワ 畫中の人物は實物にて背景のみ繪である一種のみせもの。

【活火山】クワツクワザン 現に火煙を噴出しつゝある火山。「のまゝなりとの意。

【活殺自在】クワツサツジザイ 生かすも殺すも心

【活動寫眞】クワツドウシヤシン 幻燈の一種にして映畫の活動するもの。

【活字製造機】カスチングワツ 活字をつくる機械のこと。

（活字製造機）

養活ヤウクワツ 復活フククワツ 蘇活ソクワツ 原活ゲンクワツ

快活クワイクワツ 圓活エンクワツ 愛活アイクワツ 救活キウクワツ

全活ゼンクワツ 存活ソンクワツ 苟活コウクワツ 濟活サイクワツ

派

漢 ハイ 慣用音 ハ 吳 ヘ

㋑わかれ、えだ、支系、わかれしものㄖ川の分れ（分流、支流）㋩わかれる、またになる㋥政黨・學問等の分れたるくみ

【派出】ハシユツ 手わけして出張せしむ。

【派遣】ハケン ㋑手わけをして人をさしつかはすㄖ役目を授けつかはす。

【派出婦】ハシユツフ 家政婦に同じ。

巨派キヨハ 支派シハ 詩派シハ 別派ベツハ

末派マツハ 萬派バンハ 分派ブンハ 宗派シユウハ

雙派サウハ 流派リウハ 學派ガクハ 黨派タウハ

流

漢 リウ 吳 ル

㋑ながれ㋺水のながれゆくこと、ながれゆく水、流れる水ㄖめぐみ（恩澤）㋩わき出る、ほとばしる㋥物事にしまりがなくなる㋭ぐる〳〵廻る㋬移りゆく㋣さまよふ㋠ひろまる㋤ながす、水などをながす㋥し、布きならべる㋦もとむ（求）㋧しまながし（刑罰の一）㋨根據がない、出所が分らぬ㋩階級・品位・品等㋪或一派の專門の學又は術㋫周代の王畿を去る千里の地㋬漢時代の銀八兩の重さの稱㋭國訓ながれ（子孫、旗・幕などの數を示す語）立消えになる、質物などの期限を經過して債主の所有に歸する「し人。

【流人】リウジン ㋑浮浪の人㋺島流しとなり

【流失】リウシツ ながれうせる、流し失ふ。

【流矢】リウシ いづことも分らぬ所より飛び來りし矢、ながれや。

【流用】リウヨウ ㋑一定の事以外に間に合せてつかふㄖ豫算上本來使用すべき節目より他の節目に向つて使用すること。

【流汗】リウカン あせをかく、はぢ入る貌。

【流行】リウカウ ㋑はやり、時好㋺廣く行きわたる、又病氣のひろまること。

【流血】リウケツ 血を流す、殺傷等にいふ。

【流言】リウゲン ㋑いひふらし、うはさㄖ根も葉もなきことを言ひふらす。

【流派】リウハ ㋑流儀に同じㄖえだは、支流

【流俗】リウゾク 昔よりの風習、世上のならはし、又俗人、世間。

【流星】リウセイ ながれぼし、よばひぼし、又流星の光に似たるもの。「を送る。

【流眄】リウメン 流し目、よこめで見る、秋波

【流毒】リウドク 社會に害となることをなす意、害毒をながす、又其害毒。

【流風】リウフウ 古人の殘したる善風美俗。

【流浪】リウラウ ルラウ あてどもなくさまよふこと

注意 **りうらう**と讀むは誤り。

【流通】リウツウ 停滯することなくして轉々すること、又用ゐ行はれること。

【流動】リウドウ 動き流れて固定せぬこと。

【流域】リウヰキ 河川の流れに沿ふ一帶の土地の範圍。

【流産】リウザン 胎兒が月滿たず死生す。

【流連】リウレン 遊樂にふけりて歸ることを忘れること、ゐつゞけ。

【流會】リウクワイ 集會が中止となる。

【流賊】リウゾク 所々をわたり荒す盜人。

【流傳】リウデン 社會に廣くひろまる。

【流說】リウセツ 流言に同じ。「らぬさま。

【流暢】リウチヤウ 言葉がすら〳〵として滯

【流弊】リウヘイ 昔よりの弊害。

【流儀】リウギ 學問藝術等の特殊のかた。

【流離】リウリ ルリ ㋑鳥の名、又玉の名ㄖ其の所を得ずして流浪すること。

【流露】リウロ あらはに見えるさま、奧の所迄あらはす、眞相を示す。

【流麗】リウレイ 文章・辯說などがのびやかにしてうるはしきこと。「島流し。

【流寫】リウシヤ 罪により遠地へやられる、

【流布】ルフ ひろく世間に弘まる。

【流罪】ルザイ 遠地に逐ひやる刑罪、流刑

注意 **りうざい**と讀むは誤り。

【流轉】ルテン 人生の移り變り、轉變。

【流石】サスガ ㋑さうはいふものの、さすがに、なるほどとうなづく等の意ㄖ本分に恥ぢざる意。

【流動物】リウドウブツ 粥の如く流れ動くもの病人の食とする固形物でないもの。

【流鏑馬】ヤブサメ 昔の武藝の一、騎馬の上で弓を射あてる競技。

【流勤體】リウドウタイ 液體と氣體の併稱。

【流星光底】リウセイクワテイ 振り上げた刀の下にあることをいふ語。「の評判。

【流言蜚語】リウゲンヒゴ 無根の取沙汰、世間

安流アンリウ 倒流タウリウ 清流セイリウ 濁流ダクリウ

條流デウリウ 溢流イツリウ 平流ヘイリウ 幹流カンリウ

伏流フクリウ 激流ゲキリウ 弱流ジヤクリウ 奔流ホンリウ

俗流ゾクリウ 學流ガクリウ 瞿流ハイリウ 混流コンリウ

支流シリウ 勝流シヨウリウ 細流サイリウ 小流セウリウ

湍流タンリウ 洪流コウリウ 碧流ヘキリウ 寒流カンリウ

周流シウリウ 合流ガフリウ 順流ジユンリウ 横流ワウリウ

通流ツウリウ 逆流ギヤクリウ 長流チヤウリウ 黃流クワウリウ

源流ゲンリウ 上流ジヤウリウ 下流カリウ 中流チユウリウ

放流ハウリウ 名流メイリウ 急流キフリウ 風流フウリウ

洄

漢 クワイ 吳 エ

水の流るゝ貌

【洄注】クワイチユウ 水の流れ込むこと。

【洄滉】クワイシヨク 水清く底の見える貌。

洌

漢 レツ 吳 レチ

㋑きよし、水きよし、酒のすみてきよきにもいふㄖさむし、ひやゝか、つめたい

洎

漢 キ 吳 ギ

㋑うるほふ（潤）㋺およぶ（及）㋩肉の汁

およぶ 洎・及。逮其他の用法は一七七頁の及を見よ。

【洙夫藍】サフラン　外國より渡來せし藥草。

【洙○】 漢 シュ　川の名（山東省所在、泗水に會す）　呉 ス　孔孟の學。儒學。

【洙泗學】シュシガク

【洟◐】 漢 イ　はなしる（鼻液）　呉 ティ　はなみづ ㊁なみだ

【洫●】 漢 キョク　㋑みぞ、田畝の間にある水道 ㊁いけ、城のまはりをとりまくほり（城池）　呉 ケキ

【洵○】 漢 シュン　㋑まこと、まことに ㊁とほし（遠）　呉 ジュン

【同訓異義】まことに　洵・信・眞其他の用法は八一頁の信を見よ。

【洶◐】 漢 キャウ　㋑わく（涌）水がわきあがる、又その擧 ㊁大勢にてさわぐさま、どよめく　呉 ク

【洶洶】キョウキョウ　大勢でどよめき騷ぐ貌。

【洶湧】キョウユウ　前に同じ。

【洶溶】キョウヨウ　涌きあがる、沸騰する。

【洸◐】【恍通】 漢 クワウ　㋑水のわきたつひかり（涌光）㊁つよきさま、たけ〳〵しハ水深く廣きさま ㊂ほのか　呉 ワウ

【洸洋】クワウヤウ　水の廣く深きさま、轉じて學說等の深遠にして測り難きにいふ

【洸忽】クワウコツ　明らかでないさま、うつとりしてゐるさま、恍惚。

【洽●】 漢 カフ　㋑やはらぐ（和合）なかよくする ㊁うるほふ（霑）ハあまねし（徧）ひろくしみこむ、ひろくゆきわたる ㊂川の名　呉 ケフ

【同訓異義】あまねし　洽・周・普其他の用法は一九五頁の周を見よ。

【洽和】カフワ　睦しいこと、親和、親睦。

【洽博】カフハク　學問ありて事理に通ぜること。

【洽普】カフフ　ひろく行きわたる。

【洽聞】カフブン　見聞が廣い、博識。

【染】 五二二頁の染を見よ。

【浅】 六〇六頁の淺を見よ。

七畫

【浚●】【浚】 漢 シュン　㋑さらふ（井・川・堀等の底をふかくすること）㊁つゝしむ（敬）ハ國訓さらふ（根こそぎとる、殘らず拂ひ去る）　呉 シン

【同訓異義】ふかし　浚・深・遼其他の用法は六〇四頁の深を見よ。

【浚渫】シュンセツ　水底の泥をさらへること　どに沿ひたる一帶の土地

【浦●】【浦】 漢 ホ　うら、海また湖など　呉 フ

【浦人】ウラビト　漁村の人、浦邊に住む人。

【浦曲】ウラワ　浦の曲折した所。

【浦里】ウラザト　浦の近くにある村里、漁村。

【浦邊】ウラベ　浦の邊り、浦一帶。

【浦安國】ウラヤスノクニ　日本國の古名稱。

【浩●】【浩俗字】【浩】 漢 カウ　㋑おほいなり（大）ひろし（廣）又其さま ㊁水の盛んにして廣きさま、大水の狀　呉 ゴウ

【浩然】カウゼン　㋑ゆったりとしたるさま ㊁廣大なるさま。

【浩然之氣】カウゼンノキ　㋑道義を養ひ自ら顧みて少しも疚しき所なく屈せず撓まざる剛健の氣 ㊁愉快なる心持。

【浪●】【浪】 漢 ラウ　唐音 マン　㋑なみ（波）なみだつ ㊁流れる貌、わたりさまよふ ハほしいまゝ ㊂みだり、みだりに ㊃おろそか、でたらめ

【浪人】ラウニン　㋑定まつた官職なくぶらぶらして居る者 ㊁祿を失ひてさすらふ人轉じて一定の住所なき者。

【浪死】ラシ　いぬじに、流浪して死ぬ。

【浪界】ラウカイ　浪花節の世界、又浪花節の仲間といふ意味。「おちぶれたる貌。

【浪浪】ラウラウ　㋑水の流れる貌 ㊁浪人して

【浪費】ラウヒ　無益に金錢を費すこと。

【浪花】ナミノハナ　㋑しらなみ ㊁鹽の異名 ハ大阪の古稱、難波とも書く。

【浪漫的】ラウマンテキ　英語のロマンティックの譯、空想的の憧憬又は熱情的の憧れ。

【浪漫主義】ラウマンシュギ　極端な自然主義、個性開放・因襲打破を眼目とする。

高浪カウラウ　驚浪キャウラウ　怒浪ドラウ　飛浪ヒラウ
長浪チャウラウ　巨浪キョラウ　蒼浪サウラウ　波浪ハラウ
猛浪マウラウ　走浪ソウラウ　奔浪ホンラウ　浮浪フラウ

【浮○】【浮】 漢 フウ　呉 ブ　慣用音 フ

㋑うかぶ、うく、水上にたゞよふ、ふわふわして動く、さだかでない ㊁多くしてつよき貌 ハすぐ（過）ニ盛んに降るさま ホ勝負事にまけて飲まされる、罰杯 ヘうはつら、物事の表面 ト うき（釣糸につけるもの、うきぶくろ）チ國訓うく（不確實、心定らず）うかぶ（ゆくりなく現はれる、世に出る、成佛する）うかれる（熱中して有頂天になるさま）うかされる（夢中になるさま）

【浮氏】フミシ　一定の職業なき人民。

【浮沈】フチン　うきしづみ、盛衰榮枯の定りなきをいふ語。「なきうはさ、流言。

【浮言】フゲン　根も葉もなきうはさ、根據

【浮浪】フラウ　一定の職なくぶら〳〵する

【浮動】フドウ　たゞよひ動くこと。

【浮游】フイウ　うかびたゞよふ。

【浮雲】フウン　空に浮びたゞよふ雲、轉じて確實ならざること。

【浮華】フクワ　うはべをはでにする。

【浮費】フヒ　むだづかひ、無益のつひえ。

【浮說】フセツ　無根のこと、ねなしごと。

【浮誇】フクワ　事實以上に大きくいふこと。

【浮標】フヘウ　㋑船舶の投錨又は暗礁などを知らすため目印として海上に浮かせ置くもの ㊁たゞよう、うく。

【浮島】ウキドリ　㋑水に浮んだ鳥、鳥の形に作つて水に浮べる玩具。

【浮橋】フケウ　船を並べてつくりし橋。

（浮鳥）

【浮薄】フハク　㋑輕々しい ㊁淺はかにて實意のなきこと。

【浮囊】フノウ　魚類のうきぶくろ。

【浮名】ウキナ　㋑實際に過ぎたほまれ、過分の名譽 ㊁男女關係のうはさ。

【浮世】ウキヨ　人事の定まりなきより此世の義、人生、憂世。「にある相場。

【浮足】ウキアシ　㋑逃げ腰の態度 ㊁下落傾向

【浮浪人】フラウニン　定職なくしてぶら〳〵してゐる、又そのもの。

【浮世繪】ウキヨエ　其時代の風俗を面白く描きたる繪。

【浮河竹】ウキカハタケ　遊女の儚ない身の上などに言ふ語。

【浮船渠】ウキドック　水上に浮べて作業の出來る浮ドック。「裝置を施した燈明臺。

【浮燈臺】ウキトウダイ　海上に船を浮べて燈火

【浮世人形】ウキヨニンギヨウ　婦女子の風俗を模したる一種の人形裾をまくり得るやうにしたるもの。

（浮世繪）

（浮世人形）

【浮世活】フラウセイクワツ　近代人の病的な方面を現はしたもの ハ一で生きられるまで生きることに覺悟をきめて諸方をさまよい歩く生活。

輕浮ケイフ　澆浮ゲウフ　沈浮チン　萍浮ヘイフ

【浴●】【浴】 漢 ヨク　湯又は水に

入つて身體を洗ひ清めること㊁ゆあみす、あぶ、あびる㊂うける、蒙る㊃國訓あぶ（湯水をあびる、水をおよぐ）あびす（頭上から加へる）

【浴衣】ヨクイ ゆかた、湯帷子。
【浴舍】ヨクシヤ ふろや、せんたう。
【浴客】ヨクカク 風呂場又は湯治場にゆあみ
【浴殿】ヨクデン ゆどの、風呂場。［する人。
【浴器】ヨクキ ゆあみに使用する器の總稱
【浴槽】ヨクサウ ふろの桶、湯槽。「日、灌佛會。
【浴佛日】ヨクブツジツ 四月八日の釋迦の誕生
裸浴ラヨク 沐浴モクヨク 洗浴センヨク 入浴ニフヨク
盥浴クワンヨク 海水浴カイスヰヨク 冷水浴レイスヰヨク

【海・】【海】

漢呉 ㊀うみ、わカイ たつみ、天地㊁物事の多く聚りたる場所㊂廣く大なることの形容

【海人】カイジン ㊀海の怪物、海坊主㊁海中にもぐり魚貝をとる者、あま。
【海上】カイジヤウ 海のおもて、海面、海路。
【海天】カイテン 海と空、海のそら。
【海内】カイナイ カイダイ 天下、國内、みくに。
【海老】カイラウ 鰕の別名、海のおきな。
【海兵】カイヘイ 海軍の下士卒。
【海里】カイリ 海上の里程にして一緯度の六十分の一に當り我國の十六町五十九間四尺に當る、ノットといふ。
【海牛】カイギウ 游水類の海獸の一で體形は鯨の如く皮膚に粗毛生じ長さ一丈に達す。
【海外】カイグワイ 外國、とつくに
【海月】カイゲツ 海産動物の一、くらげ㊁海上の月。
【海岸】カイガン 海ばた、海のきし
【海表】カイヘウ 海外の地、海のかなた
【海防】カイバウ 海岸の防備。「た高さ。
【海拔】カイバツ 陸海面を基點にしてはかつ
【海味】カイミ 海産物の食料の總稱。
【海門】カイモン せと、海峽。
【海流】カイリウ 海水が一定の方面に向つて常に流れるもの。
【海相】カイシヤウ 海軍大臣の別稱。
【海狸】カイリ 哺乳動物の一、歐洲又は北米の湖沼に棲息し足に水かきを有し水中を游泳するもの。
【海軍】カイグン 海上の軍隊、海戰の軍隊。
【海苔】カイタイ 海藻の一、のり。
【海面】カイメン 海のおもて、海上。
【海島】カイタウ 海中にある島。

（海牛）

（海狸）

【海豹】カイヘウ 北海に産する海獸の一、あざらし。
【海氣】カイキ 海の氣、しほぎり。
【海峽】カイケウ 陸地と陸地との間にはさまれたる狹い水路、せと、海門。
【海員】カイヰン 船舶の乘組員の總稱。
【海神】カイシン わたつみ、海の神。
【海運】カイウン 海路にて貨物や乘客を運ぶ
【海鼠】カイソ 海産動物の一、なまこ。
【海國】カイコク 海が四方にある國。
【海陸】カイリク 海洋と陸地。
【海堡】カイホ 海中にある砲臺。
【海港】カイカウ 海岸にある小さき港。
【海棠】カイダウ 花樹の一、美人の形容。
【海綿】カイメン 海産の下等動物の一。
【海賊】カイゾク 公海又は領海を横行して船舶を襲ふ盜賊。
【海馬】カイバ ㊀海獸の一、河馬㊁海に産する小魚の一、たつのおとしご。
【海豚】カイトン 鯨に似た海獸、いるか。
【海損】カイソン 航行中の船舶が海上にて被る損害。
【海嘯】カイセウ 海上の旭日。
【海膽】カイタン 海中の棘皮動物の一、其卵巣を鹽藏して雲丹と稱し食用に供する
【海饅】カイマン うなぎに似た海魚の一。

（海豹）

【海圖】カイヅ 海の深淺・暗礁の位置等を示せるづめん、海路と陸路。
【海難】カイナン 暴風其の他航海中船舶に對して生ずる危難をいふ。「つなみ。
【海嘯】カイセウ 大浪の陸地に押寄せるもの
【海戰】カイセン 海上のたゝかひ。
【海濱】カイヒン うみべ、海のほとり。
【海藻】カイサウ 海産植物の總稱。
【海邊】カイヘン うみべ、海濱。
【海雀】ウミスズメ ㊀固頸類の海魚、いしふぐ㊁游禽類の鳥で北海に棲息し翼は短く嘴は尖り羽毛は黑くして下部は白く巧みに游泳し又水中に潛伏する。
【海栗】ウニ 近海の清澄なる淺き岩礁の間に棲む小動物、うに。
【海鰻】アナゴ 鰻に似た魚、多くは近海の潮流ゆるやかなる泥土の底に棲む、その味は頗る美味である。

（海雀）

（海栗）

（海鰻）

【海上權】カイジヤウケン 海上を制御する國家の權力。
【海上法】カイジヤウハフ 航海上に關する法規
【海水浴】カイスヰヨク 海に入つて水をあびる
【海王星】カイワウセイ 太陽系に屬し太陽に最も遠き遊星。「せしめたる線。
【海岸線】カイガンセン 海岸の海と陸とを接觸
【海防艦】カイバウカン 喫水淺く防禦力强く主として海岸防禦の任に當る軍艦。
【海産物】カイサンブツ 海からとれる物産。
【海關稅】カイクワンゼイ 輸出入の貨物に課する稅金、關稅。
【海軟風】カイナンフウ 日中に海から陸の方へ吹く風。
【海上勤務】カイジヤウキンム 船中に乘込んで任務に從ふ。
【海上保險】カイジヤウホケン 航海中に起る難船等の事故の損害を償ふ契約を結ぶ保險
【海軍將校】カイグンシヤウカウ 尉官以上の階級にある海軍々人。
【海底電信】カイテイデンシン 海底に沈めて架設「したる電信線。
【海難救助】カイナンキウジヨ 船舶又は積荷の全部又は一部が海難に遭遇した場合に之を救助する義務のない者が救助したときは其の結果に對して相當の救助料を請求し得ること。
航海カウカイ 絶海ゼツカイ 溟海ラウカイ 佛海フツカイ 法海ハフカイ 環海クワンカイ 河海カカイ 四海シカイ 文海ブンカイ 大海タイカイ 内海ナイカイ 北海ホクカイ 東海トウカイ 西海セイカイ 南海ナンカイ 渤海ボツカイ

【浸・】【侵】

漢呉 ㊀ひたす、シン ひたる、水につかる㊁うるほす（潤）うるほふ㊂しむ、しみこむ（滲）㊃やうやく（漸）ます、やゝ、だんだん

【同訓異義】ひたす
【浸】は水が次第にひたすの意。
【涵】は十分にいれひたすの意。
【漸】は水がいつとなくひたすの意。
【漬】は水につかるの義。
【漚】は水につけて柔かにする義。
【浸出】シンシユツ ㊀物を水につけて其成分を出すこと㊁浸みだすこと。「るさま。
【浸入】シンニユウ 水などのだん〳〵と進み入
【浸出】シンシユツ ㊀物を水につけて其成分を出すこと㊁浸みだすこと。
【浸水】シンスヰ 家屋土地等が水に浸ること
注意 浸水と書くは誤り。
【浸染】シンセン ㊀甲の物が乙の物に次第々々に染まる貌㊁漸次に感化する。
【浸液】シンエキ 水にひたる、つかる。
【浸透】シントウ しみとほる、しみとむ。

【浸蝕】シンショク だん〳〵についばむこと 注意侵蝕と書くは誤り。
【浸漬】シンシ ひたす、水につける。
【浸漸】シンゼン そろ〳〵と度を進める。
【浸潤之譖】シンジユンノソシリ 水のしみ込むやうにそろり〳〵とする讒言。
涵浸カンシン 漑浸ガイシン 豐浸ホウシン 巨浸キヨシン
積浸セキシン 漬浸シシン 漂浸ヘウシン 泛浸ハウシン

【消○】【㴱】

漢呉 ㋑きゆ、けす、火がきえる ㋺つく(盡)ほろぶ(亡) ㋩とく(釋) ㋥へる、減少する

【同訓異義】きゆ
【消】はすべてきえて亡くなる義。
【滅】はきえほろぶる義である。
【熄】は熄火山等の如く火のきゆる義
【消化】セウクワ ㋑物が消滅して變化する ㋺食物がこなれる ㋩物事を十分會得する
【消日】セウジツ 日をくらす、ひまをつぶす。
【消失】セウシツ 消え失せる。
【消光】セウクワウ 日をくらす、月日を送る。
【消防】セウバウ 火を消し防ぐ、火災を防ぐ。
【消長】セウチヤウ へると增す、盛衰、榮枯。
【消却】セウキヤク ㋑費す ㋺借金を返す ㋩資本金又は固定財產に對する積立。
【消毒】セウドク 病毒を消したやす。
【消耗】セウカウ へらす、へる 注意せうもうと ひまつぶし。「讀むは誤り。
【消閑】セウカン
【消息】セウソク ㋑生ずると消える、へると ㋺時のうつりかはり ㋩たより、ふえる
音信 ㋥樣子、有樣、狀態。
【消渴】セウカツ セウカチ 糖尿病と蟯人の痳病。
【消極】セウキヨク 進んで事を行はざること
否定・拒否・退減等を意味す。
【消魂】セウコン 氣を失ふ、落膽する貌。
【消散】セウサン 消えてなくなる、けし散らす
【消憂】セウイウ 氣をはらす、憂ひをはらふ。
【消滅】セウメツ 消えてなくなる、きえる。
【消燈】セウトウ あかりを消す、ひをけす。
【消費】セウヒ つかふ、つひやす。
【消蕩】セウタウ 金錢を湯水の如く浪費する
【消磨】セウマ すれきえる、きえ衰へる。
【消火器】セウクワキ 火事を消すに使用する器械、又ポンプの小なるもの。
【消化器】ショウカキ 口・喉・食道・胃・腸などの如く攝取した食物をこなすはたらきを營む器官。
【消化器】セウクワキ 消防用噴水口の栓。

（栓火消）

【消石灰】セウセキクワイ 水酸化カルシウムの總稱。
【消極的】セツキヨクテキ 物事をひかへ目にする
【消極主義】セウキヨクシユギ 進歩よりは保守するに如かずとする主義、保守主義。
【消耗品】セウカウヒン 比較的短時間の使用にて漸次消失する物品。
【消費組合】セウヒクミアヒ 幾人かの人が組合ひて生產者より日用品を買ひとりそれを組合員に賣り純益は組合員の買上高に比例して配當する組合。
削消サクセウ 芒消バウセウ 損消ソンセウ 燻消エンセウ

【涉●】【涉】

漢 セフ ㋑わたる、水をかちわたりする ㋺へる(經過) ㋩博く通ずる、博く見る意 ㋥歩きまはる ㋭かゝはる、關係する
【同訓異義】わたる 涉・渡・濟其他の用法は六〇九頁の渡を見よ。
【涉月】セフゲツ 翌月に渡る、月をこえる。
【涉河】セフカ 河川を徒歩にてわたる。
【涉獵】セフレウ 山河をかけまはつて鳥、獸を狩る如く博く群書に目を通すこと。
【涉禽類】セフキンルイ 水を涉つて餌をあさりあるく鳥類。

遊涉イウセフ 步涉ホセフ 通涉ツウセフ 關涉クワンセフ
干涉カンセフ 浮涉フセフ 經涉ケイセフ 歷涉レキセフ
冒涉バウセフ 該涉ガイセフ 沒交涉ボツカウセフ

【浙●】【淅】

別字 漢 セツ ㋑川の名 呉 セチ（浙江省所在）又浙江省の略 ㋺とぐ、米をとぐ、一說によなぐ

【淨●】

漢ホチ 呉ホツ ㋑さかんに慣用音ボツ 起るさま ㋺盛んなり ㋩わく(涌)にごる(渾)

【浣●】【澣】

通字 漢 クワン ㋑あら 呉 グワン ふ(澣)すゝぐ(澣)洗濯する ㋺官吏の休日、又十日の稱
【浣濯】クワンテキ 洗ひ清む、洗ひすゝぐ。
【浣腸】クワンチヤウ ㋑腸を洗ひて汚物を除き去る治療法 ㋺心の汚れを洗ひ清める。

【浬○】

漢呉 ㋑泥浬は波斯の酋長の名 ㋺海上の里程（約十六町五十九間四尺）海里、ノット(節)

【浹●】

漢呉 注意けふと讀むは誤り セフ ㋑あまねし(遍) ㋺めぐる(周)一周する ㋩うるほふ
【同訓異義】あまねし 浹・周・普其他の用法は一九五頁の周を見よ。
【浹日】セフジツ 甲から癸までの十日間。
【浹辰】セフシン 浹は一周、辰は子より亥に至る十二時間なるより十二日の意に用ふ

【涂○】

漢 ト 呉 ツ 又堂の前の石だゝみの道

【涅●】【涅】

俗字 【涅】誤字 漢 デツ 呉 ネチ ㋑水中にある黑き土、くろつち ㋺黑む、けがしそむ(汚染) ㋩かはる(化)
【涅槃】ネハン 梵語にて安樂又不生不滅の義、即ち佛の死。
【涅齒】ネツシ デツシ 齒をそめる、又その齒。
【涅墨】デツボク いれずみ、ほりもの。
【涅槃會】ネハンエ 陰曆二月十五日釋迦入滅の日に行ふ法會。

【涎●】

漢呉 セン エン ㋺ねばり(粘液) ㋩水のながれるさま
【涎衣】センイ 嬰兒のよだれが出て胸部の汚れものを防ぐもの、よだれかけ。

（衣涎）

【涓○】【消】

俗字 漢呉 ㋑小さき流(細流)又ちよろ〳〵水、しづく ㋺えらぶ(擇) ㋩のぞく(除)はらひ清める、きよし(潔) ㋥すこし、わづか、細小の義
【涓人】ケンジン 主君の左右に侍して掃除の事を司り又取次などをするものゝこと
【涓流】ケンリウ さゝやかな水の流れ、細流。
【涓然】ケンゼン 涙がほろ〳〵と落ちる貌。
【涓滴】ケンテキ 水のしたゝり、しづく。

【涕○】

漢呉 シン ㋑水たまり、たまりみづ、にはたづみ(潦水) ㋺ふしづけ(水中に柴を積みて魚を養ふところ) ㋩雨又は涙の下る貌
【涕涕】シンシン ㋑涙のこぼれるさま ㋺雨の盛んに降るさま。
【涕雲】シンウン 雨をふくむ雲、あめぐも。

【涕●】

漢 テイ 呉 タイ ㋑なみだ(涙) ㋺なく(泣)なみだを流して泣く
【涕泣】テイキフ なく、涙を流して泣く。
【涕淚】テイルヰ なみだ。

【涖●】【莅】

漢 レイ 呉 ライ 漢呉 リ みる(視)のぞむ(臨)
【同訓異義】のぞむ 涖・望・臨其他の用法は五〇七頁の望を見よ。

【涌】

六一一頁の湧を見よ。

【涌泉】ヨウセン わきでる泉。
【涌煙】ヨウエン ふき出す煙、噴煙。

【浜】六二七頁の濱を見よ。

【酒】一〇六〇頁の酒を見よ。

八畫

【涯○】【涯】漢 ガイ ㊀ほとり、きし、みぎは ㊁かぎり、はて、きはまり
呉 ゲ
【涯際】ガイサイ かぎり、きは、はて、ほとり。

【液●】【液】漢 エキ セキ 呉 シヤク ヤク
㊀しる（津汁）流動體の總稱 ㊁ひたす（潰）うるほす（潤）長くつゞける ㊂被に通じ用ふ
【液化】エキクワ 固體又は氣體を溫度壓力等の作用にて液體となすこと。
【液汁】エキジフ しる、つゆ、漿。
【液體】エキタイ 流動する物體の總稱。
【液體空氣】エキタイクウキ 空氣を化學作用により壓縮して液體にしたもの。
唾液ダエキ 消液セウエキ 精液セイエキ 蒸液ジヨウエキ
浸液シンエキ 甘液カンエキ 脂液シエキ 粘液ネンエキ

【涵○】【涵】俗字【涵】漢 カン 呉 ゴン
㊀ひたす、ひたる、水でうるほす（容）とりあげる、用ゐる ㊁いる
【同訓異義】ひたす 涵・浸・漬其他の用は五九九頁の浸を見よ。
【涵養】カンヤウ うけいれること。
【涵養】カンヤウ ㊀草木を養ひ育てること ㊁學問見識を養成し含蓄すること。

【涼○】【涼】俗字 漢 リヤウ ㊀すゞし、うすし（薄）ひやりとする ㊁すさむい、うすし（薄）ひやりとする ㊂淋しく悲しきさま ㊃州の名、又國の名 ㊄國訓すゞし（清らかですが〳〵しい感じ）すゞむ（すゞしい風にあたる）すゞみ（すゞむこと）
呉 ラウ
【涼夕】リヤウセキ 涼しきゆふがた。
【涼雨】リヤウウ 涼しくさわやかなる雨。
【涼快】リヤウクワイ 涼しくしてこゝちよし。
【涼秋】リヤウシウ 涼風の吹く秋の氣候。
【涼風】リヤウフウ 涼しき風、又北風、西南風
【涼扇】リヤウセン うちは、團扇。
【涼帽】リヤウバウ 夏帽子。
【涼涼】リヤウリヤウ ㊀輕薄な貌 ㊁すゞしき貌
【涼寰】リヤウイ 涼しきおもむき。
【涼爽】リヤウサウ 涼しくさわやかなること
【涼蔭】リヤウイン すゞしき木かげ。
新涼シンリヤウ 清涼セイリヤウ 秋涼シウリヤウ 徹涼ビリヤウ
納涼ナフリヤウ 初涼シヨリヤウ 荒涼クワウリヤウ 凄涼セイリヤウ

【淀●】【澱】通字【淀】漢 テン 呉 デン
㊀よど（水が淺く流れゆるき所）㊁よどむ、水流がとゞこほる ㊂國訓よどむ（進行がにぶる、しぶる、言語がすら〳〵出ざるさま）

【淋○】【痳】通字【淋】漢 呉 リン
㊀水などがしたゝり流れるさま ㊁ながあめ（霖に通ず）㊂病氣の名、りんびやう（痳に通ず）㊃さびし（寂寥）
【淋淋】リンリン ㊀雨のふりそゝぐさま、水のしたゝるさま ㊁だらだらと長きさま
【淋漓】リンリ 血・水などのしたゝる貌、又雨の降り續くこと、轉じて盛んなる貌。
【淋離】リンリ 長き貌、又大なる貌。
【淋巴液】リンパエキ 淋巴管及淋巴腺内にある無色透明の液。

【淑●】【淑】漢 呉 ㊀よし（善）㊁やさし（優）
シユク
よみす（主として婦人の美德をいふに用ふ）㊂よくす、よしとす
【同訓異義】よし 淑・善・嘉其他の用法は二〇六頁の善を見よ。
【淑女】シユクヂヨ 清く正しい婦德ある女。
【淑德】シユクトク 清く正しい女の美德、
【淑愼】シユクシン 優しくつゝましきこと。
清淑セイシユク 貞淑テイシユク 純淑ジユンシユク 賢淑ケンシユク
婉淑エンシユク 令淑レイシユク 英淑エイシユク 私淑シシユク

【淚●】【淚】漢 呉 ㊀なみだ（淚涕と並べる時は涕は鼻より出るなみだ）㊁ながる、ながす、なみだが流れる、なみだをこぼす ㊂爛のたれること
ルキ
【淚河】ルキカ 淚の川、淚の多き形容。
【淚珠】ルキジユ なみだ、なみだの玉。
【淚痕】ルキコン 淚の流れたるあと。
【淚腺】ルキセン 眼球の上部にあり淚を作るところの腺。
「通ずる管。
【淚管】ルキクワン 淚腺より眼瞼に達し淚を
【淚金】ナミダキン 從來の關係を斷つときに相手に與へる惠みの金。
暗淚アンルキ 幽淚イウルキ 涕淚テイルキ 血淚ケツルキ
紅淚コウルキ 隕淚インルキ 零淚レイルキ 落淚ラクルキ
悲淚ヒルキ 離淚リルキ 別淚ベツルキ 愁淚シウルキ
淫淚インルキ 一掬淚イツキクノナミダ 千行淚センカウノナミダ

【淡●】【淡】漢 タン ㊀あはつさりせる色又は味）色あさし ㊁性質がさつぱりしてゐること、又趣に乏しきさま ㊂味なき食物、厚肥でない食物 ㊃水の滿ちたる貌 ㊄富貴官爵等の野心なく心の靜かなるさま
呉 ドン し（あ
【同訓異義】うすし 淡・薄・薄等の用法は九〇四頁の薄を見よ。
【淡水】タンスイ まみず、鹽分なき水。
【淡竹】タンチク 竹の名
【淡如】タンジヨ さつぱりとしたく。
りせる貌。
【淡泊】タンパク ㊀色又は味などのあつさりせること ㊁心持のさつぱりせるさま ㊂興味うすき貌。
【淡月】タンゲツ 薄くかすんだ月。「れる雲。
【淡雲】タンウン うすき雲、秋の高き空に現は
【淡彩】タンサイ うすい色どり。
【淡粧】タンサウ うす化粧、さつぱりした化粧

（竹 淡）

【淨●】【淨】漢 セイ ㊀きよ
呉 ジヤウ し（潔）
よどれやけがれなし ㊁きよむ、きよくす ㊂惡竄や邪念なく潔白である
【淨几】ジヤウキ きよきつくゑ、神聖なる几。
【淨巾】ジヤウキン 僧侶の用ゐる頭巾。
【淨土】ジヤウド 佛敎にて理想の世界。
【淨水】ジヤウスキ きよめの水、手洗水。
【淨界】ジヤウカイ 汚れなき世界、寺院など。
【淨色】ジヤウショク 清くけがれなき色。
【淨房】ジヤウボウ 便所、かはや。
【淨拭】ジヤウシヨク きよめふく、掃除する。
【淨財】ジヤウザイ 宗敎・慈善等のために喜捨する金、清き金。「つて得る幸福。
【淨福】ジヤウフク 清きさいはひ、信仰によ
【淨書】ジヤウショ 清書、きよがき。
【淨話】ジヤウワ 佛法のはなし、法話。
【淨土宗】ジヤウドシユウ 佛敎の一派、交治年間法然上人の開きしもの。
【淨瑠璃】ジヤウルリ 歌謠の一種、義太夫。
【淨化運動】ジヤウクワウンドウ 敗腐惡化せる物事を清め改めんとする運動。
【淨玻璃鏡】ジヤウハリノカガミ 地獄の閻魔廳にある鏡、亡者の生前の行爲を照して見るといふ鏡。
滑淨クワツジヤウ 清淨セイジヤウ 浴淨ヨクジヤウ 潔淨ケツジヤウ

（巾 淨）

鮮淫センジヤウ　鏡淫キヤウジヤウ　光淫クワウジヤウ　英淫エイジヤウ

【淫○】【婬通字】

漢呉　イみだら、ぼるロみだる、みだらなことをするハすぐ、又すごす（過）ふける、度をはづすニはなはだし（甚）ホまどはす（惑）ヘあふる（溢）こぼれる

【淫心】インシン　みだらな心、酒色にふける心

【淫水】インスイ　あふれ出づる水。

【淫行】インカウ　みだらなる行ひ、猥褻な行爲

【淫刑】インケイ　道をはづれ當を得ぬ刑。

【淫雨】インウ　ながく降りつゞく雨。

【淫奔】インポン　道にはづれた男女間の交り

又下劣の心。

【淫婦】インプ　色好みの女、いたづら女、

【淫風】インプウ　みだりがはしきならはし。

【淫祠】インシ　邪神をまつる社。

【淫淫】インイン　イ水などの流れるさまロこぼれるさま、遠く去る貌ハ小雨のしきりに降りそゝぐ貌。

【淫逸】インイツ　みだらなることに心を引かれること、酒色に遊びふける。

【淫慾】インヨク　男女の色を好む情慾。

【淫溺】インデキ　物事にこり固りてふける。

【淫猥】インワイ　わいせつ、みだら。

【淫樂】インラク　イみだらなるたのしみロただしからぬ音樂。

【淫霖】インリン　淫雨に同じ。

【淫亂】インラン　色情にふけりくるふ意、度をすごした色ごのみ。

【淫靡】インビ　イみだりに情慾にかゝはることロみだらにておごりにふける。

【淫蕩文學】インタウブンガク　取材を男女に取りその色慾方面のみを精察描寫する文學

久淫キウイン　書淫シヨイン　滲淫シンイン　浮淫フイン

汎淫ハンイン　流淫リウイン　荒淫クワウイン　誣淫フイン

【深●】【塚】

漢呉　イふかし、シン　水がふかい

ふかさ、ふかくす、總べて下の方に遠い、又おくぶかし（遼）ロ周密である、はなはだ（甚）きはめて（極）ハかくす（藏）ニ國訓ふく（夜がふける、年がたける）ふかくす（寢ずして夜をふかす）

【同訓異義】　ふかし

【淺】　は堀や河をさらへて深くする意

【深】　は淺の反對で水に限らず義理などの深いのにも用ふ。

【遼】　は奥深い即ち幽遼である。

【深山】シンザン　おくやま、みやま。

【深切】シンセツ　イ適切ロいたはる、又ねんごろ、ていねいホ親切と書くは誤り

【深交】シンカウ　したしき交はり。

【深更】シンカウ　夜なか、よふけ。

【深重】シンチヤウ　落付ありて重々しき貌。

【深刻】シンコク　イ奥ぶかく入込むロ同情なくむごたらし、無慈悲。

【深長】シンチヤウ　深くして測り難きさま。

【深厚】シンカウ　深切で同情深いこと。

【深契】シンケイ　かたきちぎり。

【深紅】シンコウ　濃い紅色。

【深恨】シンコン　深きうらみ、重なる怨恨。

【深海】シンカイ　ふかき海。

【深宮】シンキウ　奥ぶかい御殿。

【深祕】シンピ　極めて祕密、奥ふかくして測りがたい。「測り知りがたきさま。

【深深】シンシン　森林などの奥ふかきさま、

【深淺】シンセン　深きことゝ淺きこと。

【深房】シンバウ　奥深い部屋、奥座敷。

【深秋】シンシウ　更けたる秋、晩秋。

【深窓】シンサウ　深閨に同じ。

【深綠】シンリヨク　深きみどり、ふかみどり。

【深痛】シンツウ　心から氣にやむこと。

【深智】シンチ　奥そこのふかき智惠。

【深遠】シンエン　深くかつ遠き貌、深奥。

【深愁】シンシウ　ふかきものおもひ。

【深閨】シンケイ　奥深きねや、又は婦人の室

【深謀】シンボウ　深いはかりごと。

【深謝】シンシヤ　平にあやまる。例深謝々々。

【深手】フカデ　重い手きず、重傷。

【深田】フカダ　泥ふかき田。

【深呼吸】シンコキフ　一時に多量の空氣を呼吸して體内の換氣を行ふ。

【深海魚】シンカイギヨ　深海に棲息する魚類眼大くして眼球甚しく外部に突出し中には體に發光器を有するものあり。

（魚海深）

【深山幽谷】シンザンイウコク　奥山と靜かな谷。

【深謀遠慮】シンボウエンリヨ　深く考へて謀をめぐらしよく先々のことを考へ及ぼす。

高深カウシン　潭深タンシン　霜深サウシン　沈深チンシン

清深セイシン　邃深スイシン　情深ジヤウシン　幽深イウシン

刻深コクシン　淵深エンシン　潛深センシン　純深ジユンシン

【淳○】【淳】

漢呉　イまじり　ジユン　けなきこと（純粹）ロありのまま、すなほ、きぢハ人情あつし、まごころがあるニしほからし（鹹）鹽分を含むホ流れ動くさまヘそゝぐ

【淳朴】ジユンボク　すなをにしてかざらざること、まどゝろがあつてぢみ。

【淳良】ジユンリヤウ　すなほにて善良なり。

【淳美】ジユンビ　風俗よく人情にあつし。

忠淳チユウジユン　清淳セイジユン　樸淳ボクジユン

【淵○】【渕略字】【淵】

漢呉　エン

イふち（水の深くたゝえたる處）轉じて物の多く聚れる處ロふかし（深）ハしづかなるさま、又ふかきさま

【淵泉】エンセン　イ深き泉ロ深く長きさま。

【淵源】エンゲン　水の流れ出づるもと、淵の源、事物の起原、おこり。

【淵叢】エンサウ　淵は魚の集るところ、叢は鳥獸の集まる所、物の多く集まる所。

靈淵レイエン　邃淵スイエン　潭淵タンエン　澄淵チヨウエン

深淵シンエン　靜淵セイエン　廣淵クワウエン　洪淵コウエン

【混●】【渾・滾通字】【混】

漢呉　コン　イまじる、いりみだれるロまじふ、まづ、まぜ合せるハ水の盛んにわき出るさまニ分別せぬさまホにごる、にごす

【同訓異義】　まじはる　混・交・雜其他の用法は五〇頁の交を見よ。

【混一】コンイツ　混合す、一まとめにする。

【混入】コンニフ　まぜいれる、まぜ加へる。

【混化】コンクワ　二つ以上のものが混合されて前と異なつたものを生ずること。

【混同】コンドウ　イまぜあはすロ權利・義務又は物が同一の人に歸屬すること。

【混合】コンガフ　まぜ合せること。

【混成】コンセイ　異つたいくつかのものがまじりて一つのものをなすこと。

【混和】コンワ　二個以上のものが混合融和して一體となり其組成部分が判別し難くなつたもの。「さまをいふ。

【混沌】コントン　事物のいまだ文化發展せぬ

【混亂】コンラン　入りみだる、混雜。

【混線】コンセン　電線がこみ合ひて通話信號等に混雜を生ずること。

【混淆】コンカウ　イ入りまじるロ同じに見る

【混混】コンコン　イ水のたえず流れるさま、又たえづわきいづる貌ロ濁る貌。

【混戰】コンセン　敵味方入り亂れて戰ふ。

【混凝土】コンクリート　砂・砂利・セメント等を混じて固めし建築材料。

【清○】【清俗字】【清別字】【清】

漢　セイ　イきよし、水が澄んで居るロけがれがない、いさぎよいハ明らかである

呉　シヤウ

すゞしい（涼）㋺靜かである㋩金錢勘定がきれいなこと㋥すむ、きよくなる㋭飲料物の汎稱㋬シン（支那の朝廷の名）

【清水】セイスイ 清き水、澄み渡つた水。

【清明】セイメイ ㋑くもりなきこと、明かなること㋺二十四氣の一。「るゝ人。

【清狂】セイキヤウ 狂人の如く社會から見られ

【清音】セイオン 聲帶を振動せず出る聲。

【清秀】セイシウ 容貌の清く秀でゝゐること

【清香】セイカウ きよきかほり、香しき匂ひ。

【清冽】セイレツ 清く澄んでゐて涼味を含む

【清泉】セイセン 山の谷間などから湧く水。

【清流】セイリウ ㋑きよき血統、尊き血すじ ㋺清らかなる水のながれ。

【清風】セイフウ 清らかなる風。

【清書】セイシヨ 淨書、きよがき。

【清眸】セイボウ すゞしきひとみ、美人の形容

【清酒】セイシユ きよき酒、すみたる酒。

【清酌】セイシヤク ㋑神にさゝげる酒、おみき㋺清く上品なさかもり。

【清唱】セイシヤウ さえたる聲にてうたふ。

【清商】セイシヤウ 五音の一、商の聲。

【清貧】セイヒン 清廉で貧乏なるくらし。

【清話】セイワ 俗をはなれたる話。

【清楚】セイソ 姿のさつぱりしてゐること

【清遊】セイイウ 上品なる遊び、風流な遊び

【清新】セイシン 清らかにして新らしい。

【清閑】セイカン 清くしてしづかなること。

【清寧】セイネイ 清らかなる影。

【清華】セイクワ ㋑貴き家柄、華族㋺古く攝家の次に位し大臣になり得る家柄。

【清澄】セイチヨウ けがれなく冴えたる貌。

【清淨】セイジヤウ シヤウジヤウ 清らかにし邪念なきこと。

【清適】セイテキ 心のまゝにきよくたのしむ

【清興】セイキヨウ 高尚なるたのしみ。

【清算】セイサン ㋑きれいに勘定のくゝりをつける、差引勘定㋺組合・法人等が解散したるとき其財產關係を清算すること

【清廉】セイレン 私心なく清い生活をする。

【清潔】セイケツ 潔く潔いこと、清淨潔白。

【清澗】セイカン 清い谷川の流れ。

【清癯】セイク 痩せてはゐるが何處となく神々しくて仙人の如く見えること。

【清濁】セイダク 清きことゝ濁りしこと。

【清嘲】セイテン 辭うらゝかにさえづる。

【清舞】セイセイ 天氣のはれ渡りたること。

【清涼殿】セイリヤウデン セイラウデン 昔天子が政を聽き給ひし宮殿。

【清涼劑】セイリヤウザイ 氣分をさわやかにする「る藥。

【清明風】セイメイフウ 東南の風、辰巳の風。

【清教徒】セイケウト 西曆千五百五十八年、エリサベス女王の世に起つた英國の新教信者の團體。

【清風明月】セイフウメイゲツ 曇りなくあかるい心をもつた人のこと

【清元羽織】キヨモトハオリ 脇に襠なく衿はゞ狹くして黑繻子の半衿をかけ前下りをつけた女羽織。

（清元羽織）

【淺】【淺略字】【淺】漢呉 センあさし、水があさい、學識などあさはかである、內容乏し、薄し、淡し㋺あさい、あさい度合㋩國訓あす

【淺才】センサイ あさはかなる才、あさぢゑ。

【淺劣】センレツ 淺陋に同じ。

【淺見】センケン あさはかな量見、淺薄な思慮

【淺陋】センロウ 見識・思慮・分別、人格などが淺薄で劣つてゐる。

【淺酌】センシヤク 一寸したさかもり。

【淺淺】センセン 流れの早き形容。

【淺沓】フサグツ 裝束を著けた時用ゐた木製の沓。「い。

【淺閑】センブン 知識、見聞が狹

【淺黃】センクワウ うすきいろ 注意淺葱と書くは誤り。

【淺慮】センリヨ 淺墓な考へ。

【淺學】センガク 學問があさい又淺き學識。

【淺薄】センパク 人情等のうすきにいふ。

【淺靄】センアイ 淡いもや、うすいかすみ。

【淺葱】フサギ うすい色 注意淺黃と書くは誤り

【淺蜊】アサリ 給料に屬する貝の名。

【淺茅原】アサヂハラ 茅萱などの生えた原。

【淺草式】アサクサシキ 挑發的にして人にあくどい感じを與へる氣分

【淺草人形】アサクサニンギヤウ 東京淺草より製出する木彫着色の人形。

（淺草人形）

（淺沓）

【添◐】【添】漢呉 テン ㋑そふ、つけ加へる、增し加へる㋺味をます、物の味をますため副へるもの（おかず、副食物）㋩國訓そふ（つき從ふつれあひとなる、おかずにする）

【同訓異義】そふ

【傍】は傍へよりそふ義である。

【副】は副使副書等の如くかけかへに

【貳】は前に同じ。

【沿】はつき從つてゆく義。「添ふる義。

【添】は少しづゝ增し加ふるの義、

【添加】テンカ そへ加へる、つけたす。

【添削】テンサク 詩歌・文章などをなほすこと。

【添附】テンプ ㋑つけ加へる㋺附合・混和・加工の總稱。

【添書】テンショ ㋑人又は物に添へてやる手紙㋺本文外に書添へる文。

【涸●】漢 カク コ 呉 ガク グ 竭きてなくなる㋺からす、つくす、水をほす

【涸渴】コカツ 河や湖沼等の水がかれかわく（竭）水が「くこと。

【浙●】【浙別字】漢セキ 呉シヤク ㋑かし よね、水につけた米㋺とぐ、米を水中でしらげる㋩雨又は風の淋しき聲の形容に用ふ

【浙瀝】セキレキ ㋑さびしくあはれなるさま ㋺風雨などのさびしき聲の形容。

【淆○】漢 カウ 呉 ゲウ ㋑にごる、にごらせる、まじりものありて清からざるさま、まじる（混）

【同訓異義】まじわる 淆・交等の用法は五〇頁の交を見よ。

【淇○】漢呉 キ 川の名（河南省淇山に其の源を發してゐる）

【淘○】漢 タウ 呉 ドウ ㋑よなぐ（水中でゆりまぜ善惡をよりわけること）㋺善を取り惡を去る意、善いものが殘り惡いものがなくなる㋩ながす、あらふ（洗）

【淘汰】タウタ 物を水に入れてゆすぶり不用の部分を流し去ること、えりわける、精選すること 注意陶汰と書くは誤り

【淘宮術】タウキユウジユツ 人の性質・運命等をその生れ日の干支にて占ふ術。

【淙○】漢 ソウ サウ 呉 ス ソウ ㋑水のながれ、水の聲 ㋺そゝぐ（注）

【淙淙】ソウソウ 水のながれるさま。

【淤●】漢 ヨ 呉 オ ㋑をり（澱滓）どろ（泥）㋺あく（飫に通ず）

【淤水】オスキ どろみづ、濁水。

【淤泥】オデイ ぬかるみ、どろ。

【淪●】漢呉 リン ㋑さゞなみ（細波）小さき波㋺しづむ（沈）

【淪沒】リンボツ しづめる、しづむ。

【淪溺】リンデキ しづみ溺れる。「れはてる。

【淪落】リンラク ㋑しづむ㋺衰へる、おちぶ

【淪落女】リンラクノヨシナ　淫賣婦などのこと。

【淬●】【焠通字】漢呉 イにらぐ（鐵サイを燒きて水に入れ質をかためる）やきをいれる ロ心を碎き事を勵むさま ハ火けしつぼ 二そむ（染）しむ 赤をかす（犯）ヘさむし（寒）

【淬礪】サイレイ　イ刃物をとぐ ロいよ〳〵勉めて勵む 注意そつれいと讀むは誤り。

【淮○】漢クワイ 呉ェ 慣用音ワイ　川の名（河南省桐泊山に其の源を發してゐる）

【淮南子】ワイナンシ　漢の淮南王劉安の撰せる二十一卷の書名。

【淹○】【奄通字】漢 エン イひたす 呉 オン（漬）ロとゞまる、久しく淹留す ハ又とゞこほる

【淹宿】エンシユク　一夜を過すこと。

【淹留】エンリウ　久しく滯在すること。

【淹滯】エンタイ　イ前に同じ。ロ物事がとどこほつて進まぬこと。

【淼●】【渺通字】漢 ベウ 呉 メウ　水のひろ〳〵としたるさま、又大水

【淼茫】ベウバウ　次に同じ。

【淼淼】ベウベウ　水の廣々として際涯なき貌

【淼漫】ベウマン　前に同じ。

【淒】一二五頁の淒を見よ。

【梁】五二九頁の梁を見よ。

【渤】六二九頁の瀰を見よ。

【濟】六二六頁の濟を見よ。

【涩】六二二頁の澁を見よ。

九畫

【渚●】【渚】漢 ショ 呉 ソ 注意しやとよむは誤り イみぎは、なぎさ、水邊 ロ小さき洲、又こじま

【渚岸】ショガン　きし、みぎは、なぎさ。

【渚崖】ショガイ　なぎさと川のきし。

【渚畔】ショハン　渚岸に同じ。

【渚鷗】ショオウ　なぎさに居るかもめ。

【減●】【減俗字】漢カン 呉ゲン イへる、（數が少くなる、量が小さくなる）ロへり（損耗）ハひく（一數より他數を引去る）ひきざん（算法の一）

【同訓異義】へる　【減】は增の反對で數の少くなる義。

【耗】は消耗等の如く欠の生ずる義。

【減少】ゲンセウ　すくなくなる、へること。

【減刑】ゲンケイ　天皇の大權を以て刑罰を輕くす、罪を減ず。

【減收】ゲンシウ　收入がすくなくなる。

【減法】ゲンパフ　算法の一、ひきざん。

【減削】ゲンサク　へらしけづる。

【減省】ゲンセイ　へらしはぶく。

【減食】ゲンショク　一定せる食量をへらす。

【減卻】ゲンキヤク　へらす、そぐ。

【減降】ゲンカウ　へらしくだすこと。

【減俸】ゲンポウ　イ給金をへらす ロ官公吏に對する懲戒處分の一種にて一定の期間俸給を減ずること。

【減退】ゲンタイ　少くなる、おとろへる。

【減殺】ゲンサイ　へらしのぞく、とりのぞく、又へる 注意げんさつと讀むは誤り。

【減稅】ゲンゼイ　稅金の高を少くする。

【減耗】ゲンカウ　へる、へらす 注意げんもうと讀むは誤り。「刑に同じ。

【減等】ゲントウ　イ等級を一段低くする ロ減

【減資】ゲンシ　會社の資本を減少すること

【減價】ゲンカ　イねだんを下げること ロねうちをさげる、評判をおとす。

【減損】ゲンソン　へる、少くなる。

【減輕】ゲンケイ　罪を輕くす、等級を下す。

【減額】ゲンガク　數をへらす、金高をへらす。

【減債基金】ゲンサイキキン　國債の償還・利拂・發行等に關する費用に充當する爲め毎年度一般會計又は特別會計からその資金をこの中に繰入れる金額。

加減カゲン　半減ハンゲン　損減ソンゲン　省減セイゲン

節減セツゲン　輕減ケイゲン　削減サクゲン　增減ゾウゲン

【渠●】【渠】漢呉 イみぞ、ほキヨ リロ家屋の奥、深くひろきさま ハおほいなり（巨）又かしら 二車の大輪 赤かれ（彼）ヘなんぞ、なんすれば、いづくんぞ

【同訓異義】なに　渠・何・曷其他の用法は六九頁の何を見よ。

【渠水】キヨスキ　みぞ、ほりわり。

【渠魁】キヨクワイ　かしら、親分、首領。

【渡●】【渡】漢ト 呉ヅ イわたる、流れをわたる ロわたす、わたらせる、轉じて物を授くるにいふ ハわたり、わたしば（津頭）二國訓わたる（傳はる、世を過す）わたす（傳へる、授ける）わたり（相談、交渉）

【同訓異義】わたる　【渡】は物が此方から先方迄屆き渡る　【徑】はさしわたしの義である。〔意。

【渉】は淺い川をかちわたる義、轉じて書物をざつと博く觀るなどの意。

【渡】は水をわたるの義である。

【濟】は渡と略ぼ同義である。

【瀰】は徧くゆきわたるの義。

【竟】は亘に同じ。

【渡口】トコウ　わたし場、渡頭。

【渡世】トセイ　よわたり、生業、生活。

【渡米】トベイ　米國へ行くこと。

【渡來】トライ　外國から此方へ渡りきたる

【渡船】トセン　わたしぶね、渡舟。

【渡航】トカウ　次に同じ。

【渡海】トカイ　船にて海をわたり越す。

【渡頭】トトウ　わたしば、舟つきば。

【渡御】トギヨ　イ祭禮のみこしが町内を巡ること ロ天子の行幸。「く人。

【渡者】ワタリモノ　所定めず諸所をわたり歩

【渡場】ワタシバ　河・海などの船渡のある所。

【渥●】【渥】漢アク イうるほふ、うる 呉オク ロあつし（厚）ハ川ほす（露）水につけひたす ロあつし（厚）てあつし（懇篤）惠みが豐かである の名（直隷省所在）

【同訓異義】あつし　温・厚・篤其他の用法は一七二頁の厚を見よ。

【渥味】アクミ　濃厚な味ひ、しつこい味ひ。

【渥恩】アクオン　優渥な恩惠厚い惠み。

【渥然】アクゼン　顏につやあるさま。

【渥露】アクロ　しげく置くつゆ。

【温●】【温俗字】【溫】漢 ウン 呉ヲン イあたゝか（喧煖）あたゝむ、ぬくめる 又あたゝまる ロたづぬ（過去の事を研究する）ハすなほ（心がけのやさしきこと）二顏色のおだやかなるさま 赤夏に吹く風 ヘいでゆ（温泉）トつゝむ

【温良】ウンリヤウ　おだやかにしてすなほ。

【温言】ウンゲン　おだやかなる言葉。

【温和】ウンワ　イおだやかなること、おとなし ロ寒暖のほどよき氣候。

【温石】ウンジヤク　蛇紋石の一、熱を與へて膚につけてゐれば永く暖まつてゐる石

【温坑】ウンカウ　朝鮮などで室の牀下に土の穴道を造つて火氣を通ずる裝置。

【温泉】ウンセン　地中よりわき出る湯、いでゆ

【温度】ウンド　あたゝかさの度合。

【温厚】ウンコウ　穩やかにしてまじめなり。

【温室】ウンシツ　暖かく裝置したる室。

【温柔】ウンジウ　おとなしくやはらかなり。

【温清】ウンセイ　冬はあたゝかに夏は涼しくすること、孝子の親に仕へる道にいふ。

【温氣】ウンキ　陽氣、又體温。

【温習】ランシフ 習ひたること、又知りたることを忘れざる樣に復習すること。
【温帶】ランタイ 赤道の南北各二十三度半より六十六度半に至る間の區域。
【温順】ランジユン 温和にしてすなほなり。
【温顏】ランガン 顏色を和ぐ、柔和なる顏つき
【温柔鄕】ランジウキヤウ ㋑暖かで柔かい鄕の義、遊び場所、花柳の巷㋺ねや、閨房。
【温情主義】ランジヤウシユギ 人類愛を基礎として事を處理し自然に人を服せしめる。
【温故知新】ランコチシン 古いことを研究して新知識を得ること。
【温血動物】ランケツドウブツ 氣候の寒暖にかゝはらず何時も一定の體温を保つ動物。
寒温 カンラン 微温 ビラン 體温 タイラン 靜温 セイラン

〔測・〕〔測〕

漢 ショク 呉 ソク
㋑はかる、水の深淺をためす、物の高低・長短・廣狹等を計量する、轉じておしはかる、おもひ喜ぶ㋺きよし（清）するどし（鋭）
【同訓異義】**はかる** 測 計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。
【測定】ソクテイ はかりさだめる、測量。
【測度】ソクド ㋑はかる、しらべる㋺度數及び角度をはかる㋩船の積量をはかる
【測候】ソクコウ 氣象・天文等を測り知る。
【測鉛】ソクエン 海の深淺をはかる具。
【測量】ソクリヤウ ㋑人の心をはかる㋺土地・河海等の長短・高低深淺等を測る。
【測鎖】ソクサ 道路等の間數を測る鎖、間繩
【測地學】ソクチガク 地球の形狀・質量大きさ等に關する學術。「かりしらべる所。
【測候所】ソクコウジヨ 氣象・天文の變化をはかる所。
【測壓器】ソクアツキ 氣體の壓力を測る器械
【測量器械】ソクリヤウキカイ 土地などを測量する器械。

（機量測）

討測 タウソク 臆測 オクソク 檢測 ケンソク 揆測 キソク
推測 スイソク 精測 セイソク 窺測 キソク

〔港・〕〔港〕

漢 カウ 呉 コウ
㋑みなとと、ふなつき㋺みなくち、分れながれる水㋩ふなみち（船路）
【港口】カウコウ 港の出入口。
【港灣】カウワン みなと、いりうみ。
【港務局】カウムキヨク 開港々則に關する一切の事務を司る官廳。
軍港 グンカウ 要港 エウカウ 良港 リヤウカウ 斷港 ダンカウ

〔渴・〕〔渴〕

漢 カツ ケツ 呉 カチ ゲチ
㋑かわく、水を欲す、のどがかわく㋺非常に欲しく思ふ、熱望する㋩かる（涸）かれる、水がつきて無くなる
【渴心】カツシン 渴して水を求める心、又轉じて物を欲する心、欲望。
【渴水】カツスイ 水がかわく、水がなくなる。
【渴仰】カツカウ 信じ尊ぶ、熱心に信仰する。
【渴望】カツバウ しきりに望むこと。
【渴慕】カツボ しきりにしたふこと。

〔游・〕〔遊〕通字〔游〕俗字〕

漢 イウ 呉 ユ
㋑およぐ（泳）およぎ㋺あそぶ（遊）あそびたのしむ㋩何もせぬさま、悠々自適の貌㋥まじはる、交際す㋭面白く思ふ貌㋬其地に至つて見物す㋣川のながれ㋠はた（旗）
【同訓異義】**およぐ**
【泳】は水中を潛つて行く義。
【泅】は水上を浮んで行く義、
【游】は浮び行く義又流れ渡りする義
【游士】イウシ 他國を游歷する人、浪人、又游說する人。「上を航行すること。
【游弋】イウヨク 軍艦等が或目的をもつて海
【游女】イウヂヨ ㋑娼婦、あそびめ㋺出遊する女㋩漢水の川の神。
【游子】イウシ 旅の人、旅客。

【游手】イウシユ ㋑手をあそばせる、手をあけること㋺あそびにん、無職者。
【游民】イウミン 何の職業もなさぬ人。
【游步】イウホ 遊び歩く、散歩。「りのと
【游泳】イウエイ 水を泳ぐ、水練、又俗に世渡
【游說】イウゼイ 四方の諸侯に内政外交のことを說きまはること、轉じて地方をめぐりて是非の論をなすこと、遊說。
【游學】イウガク ㋑他國にて學問を修める㋺他國より來りて仕官を求める者。
【游宰】イウカウ 天皇の御出遊。
【游戲】イウギ 遊びたはむれること。
【游騎】イウキ 一定の任務なく機を見て出動する騎兵隊。
【游離】イウリ 本體より離れてゐる。
【游獵】イウレウ 獵をして慰むこと。
【游覽】イウラン たのしみながら覽る。
【游牧民】イウボクノタミ 一定の住居なく水草をおうて牧畜を業とし生活する人民。
【游禽類】イウキンルヰ 水邊を涉り歩く鳥類。
【游動圓木】イウドウエンボク 運動器具の一。
舟游 シユウイウ 野游 ヤイウ 上游 ジヤウイウ 溯游 サクイウ
浮游 フイウ 惰游 ダイウ 清游 セイイウ 春游 シユンイウ

〔渾・〕〔混・滾〕通字〔渾〕

漢呉 コン
㋑まじる、にごる㋺すぶ、まとめる㋩すべて、まつたく㋥大水の流れるさま㋭物事の未だ分れずして唯ばつと大なる貌
【同訓異義】**すべて**
【凡】は總體を計へていふ詞である。
【渾】は一と纏めに混ぜてわからら義
【總】は總體の義である。
【都】はよせ合はせる義。
【渾一】コンイツ 物がとけ合つて一體となる
【渾大】コンダイ まろくして大なるさま。
【渾沌】コントン 天地の未だ開けずして分明ならざる貌、物事の區別不分明なる貌。
【渾身】コンシン からだ全體、全身。
【渾和】コンクワ 圓滿なるさま。
【渾淪】コンリン 渾沌に同じ。「のにごる貌。
【渾渾】コンコン ㋑水が流れてつきぬ貌㋺水物事の區別の不分明なこと
【渾敦】コントン 物事の區別の不分明なこと
【渾然】コンゼン ㋑くぼみ又は角のなきさま㋺物の差別のはつきりせぬさま。
【渾圓】コンエン 全體がまるい、まんまる。
【渾碧】コンペキ みわたすかぎり青し。
【渾濁】コンダクにごる、まじる。
【渾天儀】コンテンギ 天文を觀測する器。

（渾天儀）

〔湊・〕〔湊〕

漢 ソウ 呉 シユ
㋑みなと（水邊の地にて人の多く集る所、港は水、湊は陸）ふなつきば㋺あつまる（聚）㋩きそひすゝむ、おもむく㋥肌のきめ
【同訓異義】**あつまる** 湊・輳・聚其他の用法は八三六頁の聚を見よ。
【湊合】ソウガフ 一つに集めよせる。「ること
【湊泊】ソウハク 交湊 カウソウ 叢湊 ソウソウ 輻湊 フクソウ 墳湊 テンソウ
㋑船が集まる㋺事物の集ま

〔湖〕

漢呉 コ
㋑みづうみ（陸地に圍まれたる廣大な水のたまり）㋺池沼の大なるもの（大陂）
【湖上】コジヤウ 湖水の水面、湖水のほとり。
【湖水】コスイ みづうみ、又その水。
【湖心】コシン 湖水のまんなか。
【湖沼】コセウ みづうみとぬま。
【湖畔】コハン 湖のほとり、湖水の附近。
【湖海】コカイ みづうみとうみ。「る人。
【湖海之士】コカイノシ 豪傑の氣象を備へた

〔湧・〕〔湧〕

漢ヨウ 呉ユウ 慣用音 ユウ
㋑わく、水がわきあがる、噴水する㋺盛んに起るさま、又現はれ出るさま㋩

國訓わく、自然に生す、突然發生す

【湧出】ヨウシユツ　わき出る、噴出する。

【湧泉】ヨウセン　いづみ、わきみづ。

【湯○】【湯】

漢シヤウ　呉サウ　漢呉タウ

㋑ゆ（あたゝかき水）ふろ、溫泉㋺煎藥の名に添えてよぶ語㋩蕩に通ず、ほしいまゝ㋥殷朝初代の天子の名（湯王）㋭又波の動く貌へさかんなり（盛）

【湯水】タウスキ　あたゝかき水、ゆ。

【湯治】タウヂ　溫泉に浴し病を治すること

【湯殿】タウデン　浴室、風呂場、ゆどの。

【湯殿】タウキ　患部をゆにて溫めること。

【湯煎】ユセン　熱湯の中でものを煮る。

【湯熨斗】ユノシ　布帛などの皺を火氣にて熨すこと、又その器。

【湯鑊罪】タウクワクノツミ　かまゆでの刑。

【渙●】

漢呉　クワン

㋑ちる（散）とく（釋）㋺水の盛んなる貌㋩立派なるさま、あやあるさま㋥易の卦の名（難を散じ險を釋く義）

【渙渙】クワンクワン　水の盛んなるさま。

【渙然】クワンゼン　難をときて容易にする。

【渙散】クワンサン　釋けちる、ちらばる。

【渙發】クワンパツ　㋑險難を開きて四方に發する㋺詔勅を發布すること注意煥發とはその意異なる。

【渝○】

漢呉　ユ

㋑かふ、かはる（變）㋺とく㋩あふる（溢）

【同訓異義】かはる　渝・化・變其他の用法は九八〇頁の變を見よ。

【渝盟】ユメイ　約束にそむく、盟約を破る。

【渟○】

漢　テイ　呉　チヤウ

㋑とゞまる、水たまつて流れぬ㋺物事の停止すること㋩みぎは、なぎさ

【渟水】テイスキ　たまり水、死水。

【渟泊】テイハク　艦船等が一所に泊る、碇泊。

【渟蓄】テイチク　水をたゝへること、轉じて學識の深く博いこと。

【渟澄】テイチヨウ　たまり水の清くすむこと

【渦○】【渦】

漢呉　クワ

㋑うづ、うづまき、水のぐる〳〵回るもの、又其水、又其形㋺ごた〳〵、騷動㋩うづまく、うづをなして旋回する

【渦中】クワチユウ　渦の中、又ごた〳〵せる中

【渣○】

漢　サ　呉　セ

㋑川の名㋺かす、をり

【沚滓】サシ　をり、かす、くづ、糟粕注意

ささいと讀むは誤り。

【渤●】

漢ホツ　呉ボチ

慣用音ボツ

水の聲の形容

【渫●】

漢　セツ　呉　セチ

㋑さらふ（水中のどぶどろを除き去る）㋺もらす、又もる（洩）㋩なる（狎）あなどる（慢）㋥けがれ（汚）㋭ちらす、又ちる（散）へやむ（歇）

【渭●】

漢呉　イ

川の名（黃河の一支流、太公望が釣をして居たといふ川）

【渮○】

漢　クワウ　呉　キヤウ

波のさかまく聲、水が石に激する聲

【渺●】【水水通字】

漢　ベウ　呉　メウ

㋑はるか、水又は野原などのはるかに廣きこと又其貌㋺極めて小さきこと

【渺茫】ベウバウ　ひろ〳〵としてかぎりなきさま、はるかに遠きさま。

【渺漫】ベウマン　前に同じ。

【湃●】

漢　ハイ　呉　ヘ

波のさかまく勢、なみうつ、又其聲

【湄○】

漢　ビ　呉　ミ

みぎは、水のほとり、はま、いそ

【湍○】

漢呉　タン

㋑はやせ（水の早く流れる所）急流㋺水流の急なるさま、又水の激しくめぐる貌

【湍水】タンスキ　はやい流れ、渦卷くはやせ。

【湍流】タンリウ　前に同じ。

【湍譙】タンロウ　急激なる流れ、たきつせ。

【湘○】

漢　シヤウ　呉　サウ

㋑川の名（湖南省所在）又地名（湖南省は湖南省）㋺にる（煮）

【湘南】シヤウナン　支那湘水以南の地方、我國にては相模の馬入川以南の地方。

【湘簾】シヤウレン　まだら竹のすだれ。

【湛○】

漢　タン　呉　テン　トン

㋑たゝふ、たゝへる、水などを一ぱいためる㋺露の多いさま㋩まどゝろのあるさま㋥水の深きさま㋭心の澄んで靜かなるさまへふける（耽）㋣しづむ（沈）㋠ひたす（漸）

【湛然】タンゼン　㋑水の深くしづかなるさま㋺重々しくおちつけるさま。

【湛碧】タンペキ　あを〳〵とした水が一面にたゝへてゐること。

【湣○】

漢　ビン　呉　ミン

㋑誠に用ゐる字㋺定らぬさま、まじる

【湫●】

漢呉　シウ　セウ

㋑いけ（池）㋺憂へる㋩すゞしき貌㋥ひくし、ひくゝせまし㋭とゞこほる（停滯）へ國訓くて（低くして水草など生えたる所）

【湫湫】シウシウ　憂へ悲しむさま。

【湫溢】シウイツ　低くて狹いこと、又其地。

【湮○】【湮俗字】

漢呉　イン　エン

㋑しづむ（沈）㋺ふさがる、ふさぐ（塞）埋沒する、沒落する

【湮沒】インボツ　ほろぶ、うづもれてなくなる、うづもれしづむ、湮沈。

【湮晦】インクワイ　すがたをかくす、亡ぶ。

【湮滅】インメツ　消えてなくなる、消滅注意えんめつと讀むは誤り。

【湲○】

漢　クワン　呉　ゲン

水の流れる貌、又その聲

【湳○】

六一七頁の滿を見よ。

【湾】

六三〇頁の灣を見よ。

十畫

【源○】【原通字】【源】

漢ゲン　呉ゲワン

㋑みなもと（水流の發する所）轉じて物事の始め、根本㋺水の絶え間なく流れる貌、轉じて物事のつゞきて絶えぬこと㋩國訓みなもと（四姓の一、源氏）

【源平】ゲンペイ　源氏と平氏、源氏の白・平氏の赤の旗色に因み紅白の意。

【源泉】ゲンセン　流れの源、物事のはじまり。

【源流】ゲンリウ　みなもと、もとのながれ。

【源氏名】ゲンジナ　遊女等が營業上本名以外につけたる名。

【源氏車】ゲンジグルマ　紋所の名、御所車の輪の狀を描きたるもの。

【源氏物語】ゲンジモノガタリ　紫式部の著、平安朝時代の上流生活を描いた小說。

淵源エンゲン　禍源クワゲン　根源コンゲン　基源キゲン

（源氏車）

【準●】【準・准俗字】【準】

漢セツ　呉ジユン　セチ　シユン

㋑みづもり（水準器）㋺たひらか（水平）㋩のり、目あてとなるもの㋥へうじゆん、なぞらふ、のつとる、ならふ㋭はなばしら（鼻梁）又はなすぢへ俗にゆるす意に用ふ

【準由】ジユンイウ　よりどころとす、のつとる、法として從ふこと。

【準則】ジユンソク　のつとるべきのり、法則。

【準備】ジユンビ　㋑したく、用意、そなへ㋺不時の用意、豫備。

【準據】ジユンキヨ　㋑よりどころ、のり㋺準「由に同じ。

【準繩】ジユンジヤウ　水もりと墨繩、共に物を正しくするもの、轉じて、のり、めあ

て等の意味に用ふ。
令準 議準 彝準 盛準
水準 通準 繩準 規準
隆準 龍準 標準 常準

【溜・澑】【溜】漢 リウ 呉 ル

㋑したゝり、しづく㋺したゝる、水がたれ落ちる㋩雨滴の落ちる所、あまだれおち㋥(又霤に通ず)蒸氣となりしものが再び冷卻して凝結すること㋭(病)たまる(つむ、ふえる、重なり滯る)たまり(衆人の集り控ゑる所)ため(物を貯へる所、又病氣の罪人を入れる所)

【溜飲】リウイン 胃中に其まゝ食物がつかへて酸い汁が出る病氣、又は胃擴張。

【溜池】タメイケ 用水や飲料水などをためて置く池、貯水池。

【溜息】タメイキ 苦勞心配の結果思はずつく「息、吐息、大息。

【溜涙】タメナミダ こらへてゐた涙。

【溝○】【溝】漢 コウ 呉 ク

㋑みぞ（田畑に用水を引く水道）又谷間の水流㋺下水（はき水の通路）㋩ほり、ほりわり、城の周りのほり（溝池）

【溝池】コウチ みぞ池、城のほり。

【溝渠】コウキョ みぞ、ほり、下水。

【溝鉋】ミゾカンナ 鉋の一種で敷居・鴨居其他の溝を開鑿するに使用するもの。

【溝壑】コウガク 溪間、たにま。

禁溝 防溝 隄溝 漕溝
封溝 瓦溝 羊溝 通溝

（鉋溝）

【溢・溢】漢 イツ 呉 イチ

注意 えき・あ

いと讀むは誤り㋑あふる、みちてこぼれいづ㋺みつ（充）一ぱいになる、充實する㋩しづか（靜）又つゝしむ（慎）㋥すぐ（過）㋭おごる（驕）㋬おほみづ（洪水）

【溢美】イツビ ほめ過ぎる、賞讃しすぎる。

【溢惡】イツアク けなしすぎる。

【溢溢】イツイツ 水の滿々とみちたるさま。

充溢 富溢 潰溢 漲溢
增溢 豐溢 縱溢 漲溢
暴溢 涌溢 盛溢 濫溢

【溪○】【谿・磎通字】【溪】

漢 ケイ 呉 カイ

たに川のいづみ、谷水。谷間のながれ、たにがは。

【溪泉】ケイセン

【溪流】ケイリウ

【溪徑】ケイケイ 谷間のこみち。

【溪嵐】ケイラン 谷間の山氣、たにかぜ。

【滅・滅俗字】【滅】漢 メツ 呉 メチ

慣用音メツ ㋑ほろぶ、ほろぼす、つくす（盡）たゆ（絶）㋺しづむ（沒）㋩きゆ、火が消える㋥しぬ（死）なくなる

【滅亡】メツバウ 亡びつきる、滅びうせる。

【滅多】メツタ みだりに、むやみに、容易に。

【滅法】メツパフ ㋑甚しく、やたらに㋺人間界のすべての苦勞をとりのぞく。

【滅明】メツメイ 火がきえたりとぼつたり、又明るくなつたり暗くなつたり。

【滅却】メツキヤク 滅しなくすること。

【滅相】メツサウ ㋑業がつきて身體の相形が滅ぶこと㋺滅法の㋑に同じ。

【滅裂】メツレツ はなれ〳〵、散々になること

【滅絕】メツゼツ たやすこと、ほろぼし盡すこと、ほろびつきること。

入滅 明滅 消滅 破滅
族滅 寂滅 剪滅 絕滅
湮滅 撲滅 摩滅 幻滅

【瀛・瀛】【汽別字】【瀛】漢 キ 呉 ケ

注意 汽に作るは非なるも一般に俗字と

して使用さる㋑川の名、又鹽氣ある池㋺俗に汽の字に誤用す

【滋○】【滋】ジ シ

㋑しげる、しそだつ、生長すること㋩まく（蒔）㋥にどる（濁）㋭しる（液）㋬ます〳〵（益）㋮ごちさう（美味）又榮養となるもの

【同訓異義】しげし 滋・繁・茂其他の用法は八一三頁の繁を見よ。

【同訓異義】ますます 滋・益・增其他の用法は七一二頁の益を見よ。

【滋味】ジミ 滋養となる食物、うまき食物、よきあぢはひ。

【滋雨】ジウ 草木をそだて養ふ雨、よきう「るほひ、よき雨。

【滋殖】ジショク 增大す、しげりふえる。

【滋養】ジヤウ ㋑からだのやしなひとなること、おぎなひ㋺やしなひ、そだてる。

【滋潤】ジジユン しめる、うるほふ、しめり。

【滋亞母呂】ジアボロ 玩具の名、木製又は金屬製で圓徑約二寸餘全體宛も腰鼓狀をなし中央に深きくびれのある物

（滋亞母呂）

【滑・滑俗字】【滑】漢 クワツ コツ 呉 クワチ コチ

㋑なめらか、つる〳〵す、する〳〵す、又すべる、すべらす㋺はたらきの自由自在なるさま、さしさはりなくすらすらと通るさま㋩みだる（混亂）にどる、にごらす（混）㋥をさむ（治）㋭辯舌のよどまぬ意、轉じてじやうだん、おどけ㋬水の流れるさま㋮國訓すべる（退出する、帝位を去る、思はずものをいふ）

【滑石】クワツセキ 鑛物の一種、器械の塗料として油に代用する外用途多し。

【滑車】クワツシヤ 水平軸の周圍に回轉し得る圓板で周圍に溝を造り之に繩をかけて物を動かすに用ひるもの。

【滑脫】クワツダツ すべりすべり去る、變化に富めるさま。「こと、光澤。

【滑澤】クワツタク すべ〳〵してつやのある

【滑稽】コツケイ ㋑おどけ、たはむれ、じやうだん㋺辯舌が水を流すが如くよどまぬ

危滑 峻滑 險滑 凍滑
溫滑 清滑 濡滑 泥滑
圓滑 潤滑 柔滑 軟滑

（車滑）

【溺・溺】漢 デキ デウ 呉 ネウ ニヤク

㋑おぼる（水中に陷る）おぼらす㋺水中に沈沒して死ぬ㋩水に沈みし如く非常にくるしむ㋥物事に耽りて他を省みざるにもいふ㋭いぼり、小便、ゆばり

【溺死】デキシ 水におぼれて死す。

【溺沒】デキボツ おぼれしづむ、酒色などに夢中になりて他事を顧みざる貌。

【溺惑】デキワク おぼれ迷ふ。

【溺愛】デキアイ 愛におぼれる。「土左衞門。

【溺死人】デキシニン 水におぼれて死んだ人、

饑溺 浮溺 淪溺 沈溺
沒溺 燒溺 危溺 耽溺
淫溺 濫溺 遺溺 陷溺

【溘・溘】漢 カフ 呉 コフ

㋑たちまち（俟忽）㋺寒きさま

【溘焉】カフエン にはかなる貌、主として人の死亡にいふ語。「にはかに。

【溘然】カフゼン 忽然たるさまにいふ、急に、

【溟○】【溟俗字】漢 メイ 呉 ミヤウ

慣用音メイ

㋑小雨ふりてうすぐらきさま㋺うみ、おほうみ㋩くらし、遠くして薄ぐらし㋥深くして幽冥なり

【溟池】メイチ 北方の大海、北海。

【溟洲】メイシウ 大海の中の島。

【溟溟】メイメイ くらきさま、冥々。

【溟漾】ノイヤウ たゞよふさま。
【溟濛】ノイモウ 細雨が降つて薄暗きさま。
窮溟キユウノイ 四溟シノイ 滄溟サウノイ 重溟チヤウノイ
鵬溟スウノイ 巨溟キヨノイ 遊溟ノイウ 鴻溟コウノイ

【溯・遡】 漢 ソ ㊀さかのぼる（遡）
呉 ス 流に逆つて進む㊁往事をたどる、過去に立ちもどる
【溯洄】ソクワイ さかのぼる。「きとめる。
【溯源】ソゲン 源にさかのぼる、根本をつ

【溲○】 漢 シウ ㊀ゆばり、いばり
呉 シユ （溺、尿）小便㊁こねる、そゝぐ、ひたす
【溲便】シウベン 小便、ゆばり。
【溲溺】シウデキ 放尿、小便をする。

【溶○】 漢 ヨウ ㊀水の盛んなるさま㊁ひまある貌、
呉 ユ ゆつたりしたさま㊂とく（物が水に混じて融和する狀態）固體が液狀に化する、とろける、とかす注意水にとくるを溶、火にとくるを熔に使用さる。
【溶液】ヨウエキ 固體の液體に變じたもの。
【溶媒】ヨウバイ 物を溶解せしめる時なかだちとなる水、酒精等の類。
【溶溶】ヨウヨウ ㊀水勢の盛んなるさま㊁ゆつたりと落つけるさま。「る現象。
【溶解】ヨウカイ 物が液體中にて自然にとけ

【溷○】 漢 コン ㊀にごる、だらしなくなる、けがれる㊁
呉 ゴン かはや（厠）㊂むすぼれるさま
【溷厠】コンシ かはや、せついん、便所。
【溷淆】コンカウ 入りまじること。
【溷餘】コンヨ よごれたるもの。
圊溷セイコン 糞溷フンコン 厠溷シコン 濁溷ダクコン

【溽●】 漢 ジヨク ㊀むしあつし、空氣が濕氣を含みて暑し㊁うるほふ（濕）㊂あつし（濃厚）
呉 ニク
【溽暑】ジヨクシヨ むしあつい、雨後の暑さ
煩溽ハンジヨク 潤溽ジユンジヨク 暑溽シヨジヨク 蒸溽ジヨウジヨク

【滂○】 漢呉 ハウ 慣用音バウ の盛んに流れる貌㊁ゆたかに廣し、雨の盛んにふる貌
【滂沱】バウダ ㊀涙の流れるさま㊁大雨のふるさま㊂悩暗涙滂泥。
【滂洋】ハウヤウ ゆつたりとして廣き貌。
【滂勃】ハウボツ 不平ありて氣のふさぐ貌。
【滂湃】ハウハイ 水のさかんに多い貌。

【滄○】 漢呉 ソウ ㊀滄溟は川の名（漢水）㊁さむし（寒）又寒きさま㊂うみ、あをうなばら、大海㊃青々として廣きさま
【滄海】サウカイ うみ、あをうなばら、大海。
【滄茫】サウバウ 水のひろ〳〵したる貌。

【滄溟】サウラウ あを〳〵した浪。「り。
【滄溟】サウメイ 青海原注意蒼溟と書くは誤
【滄桑變】サウサウノヘン 大海變じて桑田となる意にて時勢の變化することをいふ。
【滄海一粟】サウカイノイチゾク 大海中に漂ふ一粒の粟、物の比較にならぬ意。

【滓●】 漢呉 シ ㊀おり（水底にたまりたる沈澱物）㊁かす（汁をしぼり取りしのこりもの）㊂不用の物事、廢物㊃けがる、そむ

【滔○】【滔誤字】 漢 タウ ㊀はびこる、みなぎる（水の漫々たる貌）㊁水勢の盛んなるさま㊂ながる（流）流れゆくさま㊃あなどる、おろそかにす㊄あつまる（聚）
呉 ドウ
【滔天】タウテン ㊀大水の天まであふれるさま㊁天にまで達する罪惡。
【滔滔】タウタウ ㊀流れて盛んなるさま㊁世の風潮を追ふてゆくさま。

【滕○】 漢 トウ 國の名（春秋時代の國）
呉 ドウ

【塗】 二三八頁の塗を見よ。

【溫】 六〇九頁の溫を見よ。

【滝】 六二八頁の瀧を見よ。

【滯】 七八六頁の滯を見よ。

十一畫

【滯●】 漢 テイ ㊀とゞこほる
呉 タイ とゞまつて動かぬさま㊁物事がはかどらぬ㊂こる（凝）物事に熱中するさま㊃品物が賣れぬ㊄つもる、久しきに及ぶ
【滯在】タイザイ 一所に永く留り居ること。
【滯置】タイリウ ㊀とゞこほりとゞまる㊁旅先などに永くとゞまり居る。
【滯納】タイナフ 納むべきものを滯らせる。
【滯貨】タイクワ 賣れない商品、うれのこり。
【滯納處分】タイナフショブン 租稅・公課其の他納付の義務ある金錢を期限内に完納しない者に對し國家又は地方自治團體が强制徵收する處分。

【滴●】【滴】 漢 テキ ㊀したゝる、
呉 チヤク 水たまがたれ落ちる㊁しづく、したゝり、したゝり落ちる水㊂わづかの物、小さきもの
【滴水】テキスイ したゝる水、水をしたゝらす、したゝり。「しづくの落ちる貌。
【滴滴】テキテキ ぽつり〳〵としたゝる貌、
【滴蟲】テキチユウ つりがねむしの如く水の中に生活してゐる微小なる原生動物。
【滴瀝】テキレキ 雫などのしたゝる貌。

【滿●】【滿】 漢 バン ㊀みつ（盈）一
呉 マン ばいになる、充實する㊁みたす、充塞す、一定の標準に達す㊂おごり高ぶる㊃地名（滿洲）㊄瞞に通ず
【同訓異義】 **みつ**
【充】 は隅々まで行渡つてみつる義。
【塞】 は物に詰をして一ばいに塞ぐ意
【塡】 は足らぬ所を埋まる義。
【實】 は中にしかと實のある義。
【滿】 は缺の反對で一ばいに滿つる義
【盈】 は段々みちゆく、器にみつる義。
【滿了】マンレウ ㊀おはる、かたづく㊁定まりたる期間が完全に終る。
【滿干】マンカン 潮のみちひき。
【滿山】マンザン 一つの山のこらず、山全體。
【滿天】マンテン そら一ばい。
【滿引】マンイン 弓を一ばいに引しぼる。
【滿月】マンゲツ ㊀陰曆十五夜の月、もちづき㊁うみづき、又產後の一個月。
【滿日】マンモク 見わたすかぎり、目一ばい。
【滿作】マンサク 穀類の十分よくみのること

【滿廷】マンテイ 朝廷又は法廷に居る人殘らから
【滿身】マンシン だ一ばい、全身。「ず。
【滿面】マンメン かほ一ばい、かほぢゆう、
【滿足】マンゾク 望の通りに達した氣分、充分、みちたる。
【滿座】マンザ ㊀其場所に居るもの全部㊁滿足して悅ぶ、滿足と喜悅。
【滿悅】マンエツ 定員に滿つると。
【滿員】マンイン 花の全く開きたるさま。
【滿開】マンカイ ㊀一ばいにつみこむ㊁新聞雜誌の紙面を同事件又は同種の記事等にて埋めること。「と讀むは誤り。
【滿腔】マンコウ はらいつぱい注意まんくう
【滿期】マンキ 一定の期日のつきること。
【滿腹】マンプク はらいつぱい。
【滿潮】マンテウ みちしほ（干潮の對）。
【滿點】マンテン 規定の點數に充つる。
【滿願】マングワン 神佛に願をかけてその日數のみちること。「う、天下のこらず。
【滿天下】マンテンカ 世界ぢゆう、くにぢゆ
【滿艦飾】マンカンショク ㊀軍艦の船體を旗・電燈等にてかざり祝意を表すること㊁轉じて婦人が厚化粧して着飾ること。
【滿身是膽】マンシンコレタン 身體全體に膽力がみち〳〵て非常に大膽なこと。
盈滿エイマン 滿滿ヒイマン 貯滿チヨマン 鬱滿ウツマン

〔漁〕〔漁〕漢 ギョ ㋑すなどる、とる、いさる、あさる、魚を捕ること ㋺魚を捕る如くむさぼること ㋩すなどり、すなどる人、漁夫

【漁火】ギョクワ いさりび、魚をとる爲め海

【漁父】ギョフ 次に同じ。「上にて焚く火。

【漁夫】ギョフ 魚をとる人、れふし。

【漁舟】ギョシウ いさりぶね、魚をとる船。

【漁色】ギョショク 女色を好む、女色を漁る。

【漁村】ギョソン 漁夫のすむ村里。

【漁翁】ギョウオウ 漁夫の老人。

【漁笛】ギョテキ 漁村にて聞える笛の音。

【漁業】ギョゲフ すなどりの業。

【漁船】ギョセン 漁舟に同じ。

【漁父之利】ギョフノリ 兩者が互ひに爭ふて ゐる間に第三者がその際をねらひて全部の利益を占めること。

〔漂〕〔漂〕漢 ヘウ 呉 ㋑たゞよふ、流し浮べる ㋺高く飛ぶさま、又輕きさま ㋩さらす、綿又は布類を白くする

【漂失】ヘウシツ ながし失ふ、ながれうす。

【漂白】ヘウハク 藥品等で白くさらす。

【漂流】ヘウリウ たゞよひ流れる。

【漂泊】ヘウハク さまよふ、さすらふ。

【漂鳥】ヘウテウ 食を求めて居所をかへる鳥

【漂然】ヘウゼン ㋑高遠なる貌 ㋺たかい貌

注意 飄然とはその意異なる。

【漂漂】ヘウヘウ 高く飛び上るさま。

【漂着】ヘウチャク たゞよひつく、漂流人や 漂流船が陸につくこと。

【漂説】ヘウセツ 根も葉もない話。

【漂蕩】ヘウタウ ㋑水にたゞよふ、又さまよふ、又さすらふ ㋺水害にて財産を失ふ。

【漂白粉】ヘウハクフン さらしこ。

〔漆〕〔漆〕漢 シツ 呉 シチ 等の七の字に漆を代用することがある ㋑うるしの木の一 ㋺うるしの木の脂より とる塗料 ㋩うるしの如く黑し又そのいろ ㋥うるしす、漆をぬる

【漆工】シツコウ うるしぬり、ぬしや。

【漆書】シツシヨ うるしにて書く、又其文章。

【漆瘡】シツサウ 漆にかぶれて生ずる瘡。

【漆黑】シツコク うるしの如く黑き色。

【漆器】シツキ うるしぬりの器具の總稱

【漆姑蕈】シツコタシ ねづみたけ。

（漆姑蕈）

〔漏〕〔漏〕漢 ロウ 呉 ル 慣用音 ㋑もる、もらす（泄）隙間より水が出る ㋺祕密が他に知れる、手ぬかりあると ㋩水時計 ㋥わする（遺失）㋭支那家屋の西北隅へあな（竅）すきま ㋬うがつ（穿）

【漏斗】ロウト じやうご、口の小さい容器に液類をつぎ込むに用ふるもの。

【漏刻】ロウコク みづどけい。「た事がしれる

【漏泄】ロウセツ もらす、水がもれる、隱れ

【漏屋】ロウヲク あばらや、貧家。

【漏洩】ロウセツ ㋑水がもる ㋺祕事の他にも れること 注意 **ろうえい**と讀むは誤り。

【漏脫】ロウダツ 漏れ落ちる、もれぬける。

【漏壺】ロウコ 水時計の水をうけるつぼ。

【漏聞】ロウブン ほのかにきく、もれ聞く。

屋漏フロウ 脫漏ダツロウ 潰漏クワイロウ 遺漏イロウ

疎漏ソロウ 洩漏エイロウ 頽漏タイロウ 滲漏シンロウ

〔演〕〔演〕漢 呉 エン ㋑ながる、水が長々と流れる貌 ㋺流れしみこむ、又うるほふ（潤）㋩ひく（引）又しく（布）實地に行ふ、意義を說き明かす ㋥ひろむ（廣）のぶ（延）引のばす、弘める ㋭水を潛り行くこと、およぐ ㋬水の廻りまがるさま

【同訓異義】 **のぶ** 演・述・陳其他の用法は一〇三一頁の述を見よ。

【演舌】エンゼツ 演說に同じ。

【演武】エンブ 武術の稽古をする。

【演奏】エンソウ 音樂を奏すること。

【演習】エンシフ ㋑あとさらひ、けいこ ㋺軍事上の練習をすること。

【演義】エンギ ㋑意義を述べて明かにすること ㋺事實を面白く述べる。

【演算】エンザン 算術にて立てし式により計算して答を出すこと、運算。

【演說】エンゼツ ㋑自己の意志を衆人に對して述べること ㋺又理義を說明すること

【演壇】エンダン 演說をする者の立つだん。

【演劇】エンゲキ しばゐをする、又芝居、狂言、わざをぎ。「又その遊藝。

【演藝】エンゲイ 公衆の前にて遊藝をする、

【演題】エンダイ 演說の題目。

【演繹】エンエキ ㋑論理學の語にて結果より推して原因を究め事實によりて原理を求むること、演繹法 ㋺意義を說明する意。

【演舞場】エンブジヤウ 藝人などがその技藝をなして公衆に觀覽せしめる所。

【演繹法】エンエキハウ 演繹の ㋑に同じ。

光演クワウエン 敷演フエン 布演フエン 通演ツウエン

披演ヒエン 宣演センエン 廣演クワウエン 謹演コウエン

〔漕〕〔漕〕漢 サウ 呉 ザウ ㋑こぐ（水上に舟を進めること）㋺水路 ㋩ふなぢ（水運、舟行、水路）

【漕渠】サウキヨ 舟などの通行するみぞ。

〔漢〕〔漢〕漢 呉 カン ㋑あまのがは（銀河）㋺支那古代に名高き王朝の號（前漢・後漢又は西漢・東漢に分ち二十六帝凡そ四百四十年間の稱）㋩から（支那本土）川の名（楊子江の一支流）㋥男子の稱、をとこ（多くは賤みていふ）㋭國訓から（支那、もろこし）

【漢子】カンシ やつこ、をとこ、やつ、男子を賤しめ輕んじて言ふ語。

【漢土】カンド 唐土、もろこし、支那。

【漢文】カンブン 支那固有の文章。

【漢和】カンワ ㋑支那と日本 ㋺詩句と和歌とを連ねたる句 ㋩又漢和辭典の略。

【漢語】カンゴ 漢字でつゞつた言葉。

【漢音】カンオン 支那漢字音の一、隋以前の支那北部の音（呉音は南部）。

【漢詩】カンシ 和歌の對、からうた。

【漢籍】カンセキ 漢文の書物。

【漢文學】カンブンガク 漢文を研究する學問。

【漢和辭典】カンワジテン 漢字及び漢字の熟語を和辭した字書。

好漢カウカン 銀漢ギンカン 雲漢ウンカン 星漢セイカン

霄漢セウカン 羅漢ラカン 癡漢チカン 醉漢スヰカン

半漢ハンカン 風漢フウカン 無賴漢ブライカン

〔漫〕〔漫〕漢 バン 呉 マン ㋑みだりに、無理に、ほしいまゝに、むやみに ㋺そゞろ、とりとめもなく、何となしに ㋩長く遠き貌、又平らかなるさま ㋥あまねし（徧）㋭破りて不明なること ㋬おこたる（慢）しまりなき貌 ㋮壁をぬること、又ぬる ㋯ひろし、はるけし、はてしなし ㋰もだゆる（懣）㋱みつ（滿）はびこる ㋲雲などの美しきさま

【同訓異義】 **みだし** 漫・妄・猥其他の用法は二六九頁の妄を見よ。

【漫言】マンゲン みだりに言ふ、とりとめなき言ひぐさ。

【漫性】マンセイ 急性の反對、徐々に、ゆる「ゆると長く。

【漫畫】マンガ ㋑いたづらがきの繪畫 ㋺譯もなくかく繪 ㋩滑稽又は諷刺畫。

【漫遊】マンユウ あてどもなく歩き廻ること

【漫然】マンゼン あてもなく、ぼんやりと、成算なし。
【漫筆】マンピツ 思ひつきたるまゝにかきし「もの、隨筆。
【漫評】マンヒヤウ 思ふまゝになす批評。
【漫漫】マンマン ㋑水のひろ〳〵としてはてなきさま㋺美しき色の形容。
【漫罵】マンバ むやみにのゝしる。
【漫錄】マンロク 漫筆に同じ。
浩漫カウマン 汗漫カンマン 沈漫チンマン 周漫シウマン
浸漫シンマン 滋漫ジマン 瀾漫ランマン 混漫コンマン
散漫サンマン 渺漫ベウマン 靡漫ビマン 爛漫ランマン

【漬○】【漬】

漢呉シ 注意せき と讀むは誤り㋑つく、水につかる、水にひたす、つける、ぬらす、うるほふ㋺しむ（染）そむ㋩國訓つく（つけもの）
【同訓異義】ひたす 漬・浸・漸其他の用法は五九九頁の浸を見よ。
【漬浸】シシン うるほひゝたること。
【漬墨】シボク よごれて黑くなる。

【漲●】【漲】

漢呉チヤウ ㋑みなぎる、水があふれる（溢）㋺盛んにはびこる、又水の大なる貌
【漲溢】チヤウイツ みなぎりあふれる。

【漸①】【漸】

漢センサン 呉ゼンソン 慣用音ゼン
㋑やうやく、だん〳〵、ぜん〳〵、やや、又きざし、いとぐち㋺じゅん、次第㋩ひたる（漬）ひたす、うるほす（濕）しむ（染）水につける㋥流れ入る、そゝぐ、又そのさま㋭くゞるへ感化する㋟岩のきつ立ちて高きさま㋠國訓やうやく（やう〳〵、からうじて）
【同訓異義】すすむ 漸・進・薦其他の用法は一〇四〇頁の進を見よ。
【同訓異義】ひたす 漸・浸・漬其他の用法は五九九頁の浸を見よ。
【同訓異義】やうやく 漸・浸・寖等の用法は三〇四頁の寖を見よ。
【漸次】ゼンジ しだい〳〵に、だん〳〵に。
【漸加】ゼンカ しだいに加はる。
【漸染】ゼンセン ㋑だん〳〵に染まる㋺次第々々に感化せられる。「を高める。
【漸進】ゼンシン 段々に進む、次第々々に度
【漸層法】ゼンソウハウ 語句・思想などを次第に高く深く大きく按排する修辭法。

【滌●】【滌】

注意てうとよむは誤り㋑あらふ、すゝぐ㋺垢やけがれを洗ひ落す
【滌洗】テキセン そゝぎ洗ふ、せんたくする。
滌滌カンテキ 疏滌ソテキ 掃滌サウテキ 清滌セイテキ
蕩滌タウテキ 洗滌センテキ 雪滌セツテキ 湫滌ソウテキ

【滲●】

漢呉シン ㋑しむ、にじむ、しみとほる、浸染する㋺したゝり落ちる㋩ひたすひたる（浸）注意さんと讀むは誤り。
【滲水】シンスキ 水がしみこむ。
【滲入】シンニフ 内部にしみこむ注意さんにふと讀むは誤り。
【滲泄】シンセツ しみでること、もれる。
【滲透】シントウ しみとほること。
【滲漉】シンロク にじんで漏れ出ること。

【滸●】

漢コ 呉ク ほとり、みぎは、き し

【滾●】【混・渾通字】

漢呉コン ㋑水の流れるさま㋺わかす（煮沸）㋩ころがりゆく貌
【滾滾】コンコン 水のながれるさま。

【漉●】

漢呉ロク ㋑こす、したむ、した たり漏る、液體をして他物をくゞらせ滓を取り去る、濾過㋺國訓すく（紙をつくること）
【漉過】ロククワ 液體をして他物を透過せしめること、こす。

【概●】

漢カイ 呉ガイ キケ ㋑そゝぐ（灌注）つぎこむ、ながし入れる㋺あらふ、すゝぐ（濯）㋩しづかに流れる貌㋥すでに
【同訓異義】そそぐ 概・注・灌其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【漑○】

漢呉リ ㋑しむ、しみこむ㋺したゝる㋩うすし、又かろし（輕薄）㋥淋漑は雨の聲
【同訓異義】うすし 漑・薄・菲其他の用法は九〇四頁の薄を見よ。

【漠●】

漢バク 呉マク ㋑すなはら、沙の野原㋺ひろし（漫）廣くしてはてなきさま㋩きよし（清）㋥しく（施）ちりしく、又布きならべる、しげる（茂）㋭しづかへさびし、又そのさま㋟はかりごと（謀）㋠明らかならざる貌、とりとめなき貌
【漠然】バクゼン ひろくしてとりとめのないさま、又要領を得ぬこと。

【漣○】

漢呉レン ㋑さゞなみ（小波）㋺涙を ながすさま、さめ〳〵
【漣如】レンジヨ 涙のこぼれる貌。
【漣落】レンラク 涙が落ちる貌、「讀むは誤り
【漣猗】レンイ さゞなみ、細波注意れんきと

【漪○】

漢呉イ さゞなみ（漣）細波

【漱●】

漢シウ 呉シユ ソウ ㋑すゝぐ（濯）あらふ㋺くちすゝぐ、うがひする、口中を洗ふ
【漱滌】ソウテキ 水にてそゝぎあらふ。

【漾●】【漾古字】

漢呉ヤウ ㋑たゞよふ、水のゆれうごく貌、水の漂ひ動く貌、洋々、漂々
【漾漾】ヤウヤウ 水の漂ひ動く貌、洋々、漂々
【漾漾】シヤウヤウ ㋑のみもの、飲料 ㋺しる、ものゝな
【槳○】漢呉シヤウ かみの液汁㋩一說に米のとぎ汁
【槳果】シヤウクワ 汁の多いくだもの。

【潁●】

漢エイ 呉ヤウ 川の名

【瀋】

六二九頁の瀋を見よ。

十三畫

【潑・淥略字】【潑】

漢ハツ 呉ハチ ㋑そゝぐ、水を散らしかける㋺水もる、したゝる㋩高麗の方言にて足㋥雨が一しきりふる㋭勢の盛んなるさま㋟魚のをどり跳ねるさま
【潑剌】ハツラツ 魚のはね跳るさま、勢のよき形容注意潑溂と書くは誤り。
【潑潑】ハツハツ 前に同じ。

【潔●】【潔】

漢ケツ 呉ケチ ㋑いさぎよし、けがれがなくて清し㋺いさぎよくす㋩行が正しい、清廉である
【潔白】ケツパク ㋑きよくして白きこと㋺心清くしてけがれなし。
【潔淨】ケツジヤウ きよし、いさぎよし。
【潔齋】ケツサイ 心身を清めてものいみする
【潔癖】ケツペキ きれいずき、潔疾。
玉潔ギヨクケツ 皎潔カウケツ 修潔シウケツ 不潔フケツ
氷潔ヒヤウケツ 秀潔シウケツ 至潔シケツ 精潔セイケツ
方潔ハウケツ 公潔コウケツ 泪潔ケンケツ 清潔セイケツ

【潟●】【潟別字】【潟】

漢セキ 呉ジヤク ㋑かた、ひがた（海水の進退により浸され鹽分多き地）㋺國訓うら（はま、灣などにいふ字）

【潛俗字】【潛①】【潛】

漢呉セン ㋑ひそむ、ひそまる、かくれしのぶ、かくる㋺くゞる、もぐる、水を渉る、お

よぐ(游)㋑かくす、しのばせる、靜かにおちつかせる㋺ひそかに、ふかし㋩しづむ(沈)㋥魚の息ふ所、ふしづけ

【同訓異義】かくる　潛・藏・隱其他の用法は一一一一頁の隱を見よ。

【潛水】センスキ　水中にもぐる、水をくゞる。

【潛伏】センブク　㋑ひそみかくれる㋺内部にとぢこもつて外に出ぬ。

【潛潛】センセン　心をひそめる、沈思。

【潛兵】センペイ　潛めてある兵、伏兵。

【潛行】センカウ　㋑忍びあるき、人目をさけてかくれ歩く㋺水中にくゞりゆく。

【潛幸】センカウ　おしのびの行幸。「せる。

【潛思】センシ　心をひそめる、心を落つか

【潛熱】センネツ　固體が液體に其液體が氣體に化す時其熔融液又は蒸氣に含む溫度

【潛德】セントク　隱れたる仁德、又その德者。

【潛龍】センリヨウ　㋑時至らずしてかくれ居る龍㋺天子の未だ位に卽かざる時の稱又まだ世に出ぬ大人君子の稱。

【潛水器】センスイキ　潛水者が水をくゞりて海底に事業をなさんが爲めに用ふるもの及びその他の諸道具。

（潛水器）

【潛水艦】センスイカン　水中に潛んで航海する一種の小軍艦、潛航艇、潛水艇。

【潛勢力】センセイリヨク　表面に表はれざる勢力、かくれたる力。

【潛航艇】センカウテイ　水中を潛行する軍艦。

【潛在意識】センザイイシキ　心理學上の語、吾人の視覺に現はれずして活動する心のはたらき。

（潛航艇）

潤（ジユン）

漢　ジユン　㋑うるほふ、ぬれる、水分を含む、しめる㋺うるほす、ぬらす、かざる、立派にす、恩を施す㋩ふやす(滋)ます(益)まうけ(利益)㋥つや(光澤)ひかり㋭かざる、つやを出す㋬おだやか(溫和)

【同訓異義】うるほす　潤・濕・濡其他の用法は六二六頁の濕を見よ。

【潤色】ジユンシヨク　かざる、つやを出し色をつける、文章をかざること。

【潤益】ジユンエキ　㋑利益、まうけ㋺殖す、足す、ふやす。

【潤筆】ジユンヒツ　㋑文字を書く㋺書畫の揮

【潤飾】ジユンシヨク　潤色に同じ。

【潤澤】ジユンタク　㋑うるほふ、ぬらす㋺惠む、なさけをかける㋩つやをつける。

【潤目鰊】ウルメイワシ　我國の南海に多く產し鰊に似て細長く六すぱかり、脂肪分少く味は淡泊である。

（潤目鰊）

潮（テウ）

漢　テウ　㋑うしほ（海水が一定の時間を以て滿干する現象にして、潮はさししほ、汐はひきしほ、又一說に潮は朝のしほ、汐はゆふがたのしほ）㋺さす、現れ出る、色がつく㋩州の名㋥國訓しほ（海の水）うしほ（醬油を用ゐず食鹽にて味をつけし汁）

【潮汐】テウセキ　しほ、うしほ。

【潮水】テウスキ　うしほ、海水。「する時刻。

【潮候】テウコウ　しほどき、しほのさし引き

【潮紅】テウコウ　あかくなる、赤みを帶びる。

【潮流】テウリウ　㋑海水の流れ㋺時勢、又世の趨勢、世態の傾向。

江潮カウテウ　且潮タンテウ　晨潮シンテウ　晚潮バンテウ

暮潮ボテウ　侯潮コウテウ　迎潮ゲイテウ　落潮ラクテウ

早潮サウテウ　怒潮ドテウ　順潮ジユンテウ　風潮フウテウ

澁・澀（シフ）

漢・慣用音　ジフ

㋑しぶし、しぶる、とゞこほる(滯)ふさがる、はかどらず、平易でない㋺味ひしぶし㋩國訓しぶ（柿の實より採りし染料、栗の實の內皮・樹の幹・果實等より出る液汁）

【澁味】シブミ　㋑澁い味㋺ぢみ。

【澁滯】ジフタイ　はかどらぬ、とゞこほる。

艱澁カンシフ　奇澁キシフ　險澁ケンシフ　粗澁ソシフ

獷澁キヤウシフ　結澁ケツシフ　梗澁カウシフ　鈍澁トツシフ

澄（チヨウ）

漢　チヨウ　㋑すむ、かにして清きこと、きよし、すます、透明にす㋺たゝふ(湛)㋩山の名、又酒の名㋥國訓すます（殊更眞面目ぶる）

【澄心】チヨウシン　㋑清き心、靜かなる心㋺心をすます、邪念を去る。

【澄空】チヨウクウ　すみわたれる空。

【澄高】チヨウカウ　㋑月などの高くすみわたるさま㋺氣品の清らかに高尙なること

【澄酒】チヨウシユ　すみたる酒、清酒。

【澄碧】チヨウヘキ　青々と水が清く澄む。

【澄爽】チヨウサウ　清くさわやかなこと。

【澄徹】チヨウテツ　澄んで底の見えること。

高澄カウチヨウ　平澄ヘイチヨウ　清澄セイチヨウ　淵澄エンチヨウ

潰（クワイ）

漢　クワイ　㋑つひゆ、大水にて堤のくづれること、戰敗してちりぢりに逃げるさま㋺くづる、つぶれる㋩みだる(亂)ちる(散)にぐ(逃)㋥さく、やぶる、くづす㋭いかる(怒)

【潰出】クワイシユツ　物がこはれてとばれ出る水が氾濫する。

【潰走】クワイソウ　敗けて逃げはしる貌**注意ついそう**と讀むは誤り。

【潰決】クワイケツ　堤などがやぶれる、くづ

【潰裂】クワイレツ　つぶれさける、破壞。

【潰瘍】クワイヤウ　內臟のくづれ損ずること

粉潰フンクワイ　決潰ケツクワイ　禍潰クワクワイ　亂潰ランクワイ

洪潰コウクワイ　隕潰ヰンクワイ　破潰ハクワイ　奔潰ホンクワイ

潦（レウ）

漢　ラウ　呉　ロウ　誤り㋭大雨にて水が みなぎるさま㋺にはたづみ（路上に流れし雨水）㋩ひたす、ひたる

【潦水】ラウスキ　にはたづみ、たまり水。

【潦浸】ラウシン　大雨にうたれて濡れる。

潭（タン）

漢　タン　シン　㋑ふかし(深)　又その貌㋺きし(岸)㋩ふち(淵)

【潭思】タンシ　深く考へる、ふかきおもひ。

【潭深】タンシン　㋑水がふかい㋺學問などの

【潭淵】タンエン　深きふち。「ふかきこと。

【潭奧】タンアウ　學問などのふかきこと。

潢（クワウ）

漢　クワウ　呉　ワウ　㋑いけ、水たまり、たまり水㋺河の名、星の名㋩水の涌く光り㋥紙を染める、又表具をする、紙をしたてる㋭水の深く廣きさま

潤（俗字）・磵（通字）

漢　カン　呉　ケン　㋑谷㋺山と山とに夾まれたる水流、たにがは、たにみづ

【潤水】カンスキ　谷河の水、溪水、谷水。

【潤聲】カンセイ　谷河の水おと。

【潤籤】カンライ　雨に同じ。

潯（ジン）

漢　呉　㋑きしみぎは、ほとり、ふち㋺江の名（江省西潯州府にある潯江）㋩地名（江西省所在）

潛（サン）・潛（誤字）

漢　呉　㋑雨の降る貌㋺涙のながれるさま

【潛然】サンゼン　涙のながれるさま**注意せんぜん**と讀むは誤り。「ふるさま。

【潛潛】サンサン　㋑前に同じ㋺バラ〳〵雨の

潺（セン）

漢　呉　㋑水の流れる貌、ちよろ〳〵と水の流

れる貌㊐涙の流れる貌、さめ〴〵

【潺湲】センソウ　水の流れるさま。

【潺湲】センクワン　㊀水のながれるさま㊐涙のながれるさま。

【潺潺】センセン　小川の水のちよろ〳〵と流れる貌。

【澆○】

漢ケウ　ラウ　レウ　かろ〴〵し㊐そゝぐ、水を注ぎかける㊅水のめぐり流れるさま

【同訓異義】うすし　澆・淡・薄其他の用法は九〇四頁の薄を見よ。

【同訓異義】そそぐ　澆・注・灌其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【澆季】ゲウキ　滅亡にちかい世。

【澆淳】ゲウジユン　薄きことゝ厚きこと。

【澎○泙】

漢ハウ　水の盛んなる貌、又水の聲

呉ビヤウ

【澎湃】ハウハイ　水や波の激して相うつ聲。

【潴】

六二九頁の潴を見よ。

【瀋】

六一四頁の瀋を見よ。

【瀑】

七一五頁の瀑を見よ。

十三畫

【澱●】【淀通】【澱】

漢テン　呉デン

㊀どろ、おり（滓）かす㊐よどむ（水流の淀みて波のたゞよふもの）㊅よど（淀）水流のよどみしどろ

【澱粉】デンプン　植物體を組成する一の物質又其を採集した白色の粉末、葛粉の類。

【澤●】【沢略字】【垣】

漢タク　セキ　呉シヤク　ジヤク

㊀さは（水のあつまりて草の生ひたる處）廣く淺き池㊐うるほふ、うるほす、しめす㊅うるほひ、めぐみ、なさけ㊁つや、いろつや、つやをつく（光潤）㊂する、もむ、こする㊃雨などのうるほひ㊄あらふ（洗濯）㊆衣の下にきるもの、下ばかま、ふだんぎ（褻衣）㊇にほひよきあぶら㊈射術を稽古したる所、又弓を射る家の稱（澤宮）㊉釋に同じ、とく

㊁ふち、秩祿　㊀あまた㊐足りて十分なる萬物をうるほすめぐみ、慈雨。恩惠をほどこす。「品。

【澤山】タクサン

【澤雨】タクウ

【澤潤】タクジユン

【澤庵漬】タクアンヅケ　乾大根を糠に漬けた食

恩澤オンタク　潤澤ジユンタク　藪澤ソウタク　贅澤ゼイタク

山澤サンタク　仁澤ジンタク　色澤シキタク　光澤クワウタク

【濃○】【濃】

漢ヂヨウ　ドウ　呉ノウ

㊀こし、あつし（厚）こまやか、又おほし㊐情あつし、色ふかし、味こし㊅濃いこと、濃い度合㊁鹽の多きさま

【濃度】ノウド　液體又は氣體の分子量の濃きとうすき。【薄の度合。

【濃淡】ノウタン　こきくも、密雲。

【濃雲】ノウウン　濃い、心のこまやかなこと

【濃厚】ノウコウ　又こつてりしてゐる。「したる裝ひ。

【濃粧】ノウシヤウ　あつげしやう、こつてり

【濃愁】ノウシウ　ふかい心配、深い悲しみ。

【濃霧】ノウム　深くかゝりたるきり。

【濃艷】ノウエン　あくどい程うつくし、あでやかにして美くし。

【激●】

漢コク　呉キヤク

㊀はげし、きびし、きつい、たけし㊐水流を遮りて其の勢をつよくす㊅つく（衝）つきあたる、はげしくす㊁言論の直にすぐること㊂感じはげむ、感じうごくゝ俗に反して異見を立てること㊃清き聲㊄はやせ、又風の聲

【激切】ゲキセツ　言語のきびしいこと。

【激怒】ゲキフン　甚しくいかる。

【激怒】ゲキド　はげしく怒る、又其いかり。

【激昂】ゲキカウ　はげしく昂奮するさま。

【激甚】ゲキジン　きびし、はなはだし。

【激流】ゲキリウ　水勢の烈しくながれると、又そのながれ。「㊐強く心に感ず。

【激動】ゲキドウ　㊀はげしく動く、あらだつ

【激浪】ゲキラウ　水勢のはげしきなみ。

【激烈】ゲキレツ　極めてはげし、甚だきびし

注意劇烈と書くは誤り。

【激変】ゲキヘン　きはめてはげし、音聲の高くはげしきさま。「元氣をつけてやる。

【激發】ゲキハツ　勵ましおこす、奮發させる、

【激湍】ゲキタン　はやい流れ、水が石に激して勢ひはげしく流れる瀨。

【激落】ゲキラク　相場などが急激に落ちること

【激痛】ゲキツウ　激しく痛む、又そのいたみ。

【激賞】ゲキシヤウ　言を極めてほめる。

【激論】ゲキロン　はげしくいひあらそふ。

【激震】ゲキシン　激しく動く、又激しい地震。

【激勵】ゲキレイ　激發に同じ。

【激戰】ゲキセン　はげしき戰、はげしく戰ふ。

【激變】ゲキヘン　かはりかたの甚しきこと、急激なる變化。

哀激アイゲキ　電激デンゲキ　霆激テイゲキ　感激カンゲキ

詭激キゲキ　矯激ケウゲキ　切激セツゲキ　奔激ホンゲキ

奮激フンゲキ　悲激ヒゲキ　峻激シユンゲキ　憤激フンゲキ

【濁●】【濁】

漢ダク　呉ヂヨク

慣用音ダク

㊀にごる（清の對）混り物ありて分明でない、液體の澄まぬ貌㊐みだれる、よどれる、けがれる㊅にごり、にごす㊁にごりたる世、政教のすたれたる世、この世㊂星の名

【濁世】ダクセイ　にごりたる世、道德・風俗等のすたれた世。「ダ・バ行のやうな音。

【濁音】ダクオン　濁つて發音する音、ガ・ザ・

【濁宮】ダクフ　清廉潔白でなく得た富。

【濁酒】ダクシユ　にごりざけ、どぶろく。

【濁流】ダクリウ　㊀にごり水の流㊐濁流滔々として流る㊁清廉ならざる心の人。

【濁浪】ダクラウ　水のにごりたる波。

【濁惡世】ヂヨクアクノヨ　佛教の語、にごりけがれてゐる世の中。

【凛俗字】【凜●】

漢サウ　呉ソウ

㊀あらふ、すゝぎ清め㊐潔白にする

【凜洒】サウサイ　すゝぎ洗ふ。

【凜凜】サウサウ　沸かんと欲するさま。

【凜濯】サウタク　洗ひすゝぐ、洗濯、洗滌。

【澣●】【浣通字】

漢呉クワン

㊀あらふ（濯）すゝぐ（衣又は垢をあらふにいふ）㊐月に三度の休み（唐代官吏が十日目毎に一日の休暇を賜はり私宅にて沐浴休息せしに起る）

【澣濯】クワンタク　あらひすゝぐ。器物をあらひ清める。

【澪○】

漢レイ　呉リヤウ

㊀川の名㊐國訓みを、みよ（河海の船の航行する道すぢ）

【澮●】

漢クワイ　呉エ

みぞ、こみぞ（溝よりも小さくして水の溝に注入するもの）

【澳●】

漢イク　呉アウ

㊀くま（曲りて入りこみたるがけ）㊐みぎは㊅國の名、澳太利（Austria）の略

【澹●】

漢タン　呉ドウ

㊀しづか、おだやか、やすらか㊐あはし、さつぱりせるさま、あつさりして居る、又そのさま㊅水の動搖する貌

【澹如】タンジヨ　あつさりしたさま。

【澹泊】タンパク　あつさりして無慾なること

【濆○】【濆俗字】【噴通字】

漢呉フン

㊀きし（水厓）みぎは、ほとり㊐わく、

又大水のあふれ出でゝ別に小水をなすこと㋑水をふく、又はく

【濆水】フンスヰ　ふき出す泉、又そのもの。

【過】六一二頁の渦を見よ。

十四畫

【濕●】【濕】

漢呉　シフ　慣用音　シツ

㋑うるほふ、しめる、しめす㋺ぬらす、しめらす、うるほはす㋩うるほひ、しめり㋥牛の物をかむときに耳を動かす貌㋭坂の下のぬかるみ

【同訓異義】**うるほす**　「る意。

【沾】は水がかゝつてしつぽりとぬれ

【泡】は露などのしめりを帶ぶる義。

【濕】は乾の反對でしめる義。

【潤】はうるほひなり、つやのある義。

【澤】は潤澤などゝ用ひ其意潤に近し

【濕布】シツフ　ガーゼなどを水・藥液等に浸して局部をしめすこと。

【濕地】シツチ　水氣のある土地、しけち。

【濕風】シツフウ　濕氣をふくみたる風。

【濕度】シツド　空氣中に現存せる水蒸氣の張力と其の時の溫度に對する水蒸氣の最大張力との度合。

【濕氣】シツキ　しめり氣、しつけ、水氣。

【濕潤】シツジユン　しめり、うるほひ、濕す。

【濕度計】シツドケイ　濕度を計る器械。

【濟●】【濟】【㴱】

略字　漢呉　セイ　サイ

㋑わたり、わたしば㋺なる(成)なす、たす㋩加へる、ます㋥わたる(渡)㋭成就させる、する、すます㋬やむ(止)㋣たすく、すくふ(救)㋠おす、おしのける川の名(山東省濟源縣に發す)㋡賢者の多くあるさま

【同訓異義】**わたる**　濟・渉・渡其他の用法は六〇九頁の渡を見よ。

【濟世】サイセイ　時弊をたゞす、世をすくふ。

【濟民】サイミン　民の難儀をすくふ。

【濟度】サイド　佛道にて一切衆生をすくふ。

【濟美】サイビ　美をなす、父祖の業を完成す

【濟濟】セイセイ　㋑才ある者の多き貌㋺美しきさま、又盛んに多きさま。

【濟生會】サイセイクワイ　恩賜金を基本として設置した貧民の病氣を療治する財團法人

既濟キセイ　康濟カウセイ　振濟シンセイ　未濟ミサイ

寧濟ネイセイ　成濟セイセイ　經濟ケイセイ　開濟カイセイ

全濟ゼンセイ　匡濟キヤウセイ　博濟ハクセイ　廣濟クワウセイ

【濡○】【濡】

漢　ジユ　ジ　呉　ニユ　ニ

㋑うるほふ、ぬる、水にぬれる、ひたる、ひたす(漬)㋺ぬらす、うるほす、しめす㋩なれる、みづ〳〵しくつやあること、とゞこほる(滯)とゞまる㋥ゆばり(尿)小便

【同訓異義】**うるほす**　濡・濕・潤其他の用法はこの頁の濕を見よ。

【濡染】ジユセン　うるほひそむ。

【濡衣】ヌレギヌ　㋑水にぬれたる衣服㋺事實なきことを有るが如くにされること。

【濡場】ヌレバ　男女の情事、劇の一場面。

【濤○】【濤】

漢　タウ　なみ、呉　ダウ　海中に高くおこるおほなみ

【濤波】タウハ　おほいなるなみ、大波。

狂濤キヤウタウ　傾濤ケイタウ　松濤ショウタウ　波濤ハタウ

翠濤スヰタウ　洪濤コウタウ　驚濤キヤウタウ　奔濤ホンタウ

銀濤ギンタウ　漲濤チヤウタウ　驅濤クタウ　怒濤ドタウ

【濫●】

漢呉　ラン　カン　はびこる、ころがる㋺うかぶ(泛)㋩みだり、みだる(物事の度に過ぐること)道にそむく㋥ひたす(漬)㋭ぬすむ(竊)㋬うきたること

ば(浮鮈)㋣音のはやくしてみだりがましきこと㋠漬けたる果物㋡あやまつ、あやまち、まぎらはしくす㋢みだりに、むやみに㋥竹の律聲を集める意㋭たらひ、浴器

【同訓異義】**みだり**　濫・妄・漫其他の用法は二六九頁の妄を見よ。

【濫用】ランヨウ　みだりに用ゐる、無暗に費す、權利若くは權力を超える注意

【濫刑】ランケイ　濫罰に同じ。

【濫伐】ランバツ　みだりに樹木を伐り倒す。

【濫造】ランザウ　粗末なるものを製造すること、みだりに造り出す。「つくる。

【濫製】ランセイ　不注意に製造す、やたらに

【濫費】ランピ　むだづかひ、みだりに費す。

【濫發】ランパツ　みだりに出し又は發行する

【濫獲】ランクワク　むやみに禽獸魚類を捕へる

【濫罰】ランバツ　法によらずみだりに罰す。

【濫賞】ランシヤウ　むやみに賞を與へる。

【濫觴】ランショウ　物のはじまり、起原注意

らんちやうと讀むは誤り。

淫濫イン　横濫ワウ　姦濫カン　冗濫ジヨウ

胃濫ヰン　枉濫ワウ　僭濫セン　越濫エツ

放濫ハウ　暴濫バウ　酷濫コク　苛濫カ

【濯●】【濯】

漢呉　タク　(滌)あらふ(洗)そそぐ(灌)清める、汚を落す㋺おほいなり(大)㋩ひかる、光りかゞやく、又肥えたること㋥はげやま(草木なき山)㋭のむ(飲)

【濯盥】タククワン　手を洗ふこと。

【濱○】【濱】

俗字　漢呉　ヒン

㋑はま、きし、みぎは(水際)㋺地の相近きこと㋩かぎり、はて㋥水にそふ、水の近くにある陸

【濱千鳥】ハマチドリ　㋑はまべに居る千鳥㋺あとの枕詞。

【濱木綿】ハマユフ　熱帶地の海岸に生ずる草

の名、濱芭蕉、又は濱おもと。

水濱スヰヒン　河濱カヒン　海濱カイヒン　率土濱ソツトヒン

【濘●】

漢　デイ　呉　ニヤウ　㋑ぬかる、泥

慣用音　ネイ

で歩行しにくし㋺ぬかるみ㋩水の沸く貌、又少しの水㋥ひたす(涵)

【濛○】漢　ボウ　㋑小雨のふるさま、

呉　モウ　しよぼ〳〵、細雨㋺霧などのふかき貌㋩くらし、うすぐらし、物事の分明ならざる貌

【濠雨】ガウウ　こさめ、細雨。

【濠昧】ガウマイ　雲霧がとぢこめてくらき貌

【濠濠】ガウガウ　㋑小雨の降るさま㋺きりあめにてうすぐらきさま。

【濠氣】ガウキ　海の上に立つ深い霧。

【濠○】【壕】

通字　漢　カウ　呉　ゴウ

慣用音　ガウ

㋑ほり(壕)城下の池、おほり㋺南洋の大陸濠太利亞(Australia)の略

【濶●】

漢　クワツ　㋑ひろ

呉　クワチ　し、大きい、はるか、遠い、心がひろくして小事にかゝはらぬこと㋺うとし(疎)とほゞし、世事に通ぜぬ㋩くるしむ(苦)㋥大きくす、ひろくす又ゆるめる

【濶步】クワツポ　おほまたに歩く、又安心して自由に行動す。「〳〵とせるさま。

【濶然】クワツゼン　ゆつたりしたる貌、ひろ

【濶達】クワツタツ　心廣く小事にかゝはらぬ

【盪】七一五頁の盪を見よ。

【鴻】一一八一頁の鴻を見よ。

十五畫

【瀉●】【瀉】

別字　漢　シヤ　呉　セ

㋑そゝぐ、水が下にながれる、水を下にながす㋺かたむく(傾)㋩鹽分を含みたる土地、しほつち、又地に草木なき土㋥はく(吐)はきだす㋭もらす(泄)もぐる、くだす、下痢する、又その病

【同訓異義】 **そそぐ** 瀉・注・灌其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【瀉土】シヤド 鹽分を含める土。

【瀑●】【濕】

漢 ホク ハク 呉 ボク 漢慣用音バク

㋑たき(高所より直下する水)飛泉㋺水のわく壁、又波の起る貌㋩にはか雨、水の沸く聲

【濺】

漢呉 ㋑そゝぐ、灌注す㋺水のはやく流れるさま、水があたる㋩けがしそゝぐ

【同訓異義】 **そそぐ** 濺・注・灌其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【濾●】

漢 リヨ 呉 ロ こす(こまかき目をくぐらせて水を清淨ならしむ)一説にあらふ、すます(澄)

【瀆●】

漢呉 ㋑たゞよふ㋺水のはてなく廣きさま

【漬●】

漢 トク 呉 ドク ヅ ㋑みぞ(溝)水路、こみぞ㋺小さきどぶ(小渠)㋩けがる、けがす、にごる、みだる㋥あなどる(慢)かろんず㋭かさなる(重複)㋬かへる(變)㋣支那の江・河・淮・濟四大川の稱

【同訓異義】 **けがる** 漬・汙・汚其他の用法は五七九頁の汙を見よ。

【漬職】トクシヨク 官公吏が職務上不都合な行爲をなすこと、公職を汚すこと。

【漬職罪】トクシヨクザイ 公務員が職權を濫用し又は收賄等をする場合の犯罪。

十六畫

【瀧○】【滝略字】【瀧】

漢 ラウ 呉 ル 漢呉 ロウ ㋑雨のふる貌㋺うるほひゝたす(沾潤)㋩はやせ(湍)二川の名(江西省永豐縣にあり)又州の名㋭國訓たき(瀑)

【瀨●】【瀬】

漢 ライ 呉 レ ㋑せ(水を流れる淺きながれ)㋺はやせ(湍)の沙上

【瀨戸】セト 陸地と陸地にはさまれた海。

【瀨踏】セブミ 水の深淺をはかること、轉じて物事をこゝろみる、ためす。

急瀨 キフライ　石瀨 セキライ　淺瀨 センライ　淨瀨 ジヤウライ　濤瀨 タウライ　清瀨 セイライ　渓瀨 ケイライ　迅瀨 ジンライ

【瀕○】

漢呉 ヒン ㋑みぎは(水厓)はま(濱)きし、ほとり㋺水にせまる、水にそふ、水に近く位す㋩せまる(迫)

【瀕死】ヒンシ 死にせまること、しにかゝり瀕死の狀態。

【瀕海】ヒンカイ 海にのぞみたる所、沿海。

【瀘○】

漢呉 ロ 川の名(雲南省にあり)

【瀚●】

漢呉 カン ㋑北海の名㋺水の貌㋩廣大なる貌二海濱は支那北邊の沙漠

【瀛○】

漢 エイ 呉 ヤウ ㋑うみ(海)大うみ、わだつみ㋺澤の中、又海中の島の名(仙人のすむ山)

【瀛洲】エイシウ 仙人が居住してゐると云ふ海中の三神山の一。

【瀝●】

漢 レキ 呉 リヤク ㋑したゝる、したゝり、したむ、しづむ㋺酒を飲みて盡きんとする時の餘りのしづく㋩すこしのながれ(細流)二雨雪の聲、又風の聲㋭そゝぐ(流注)

【瀝血】レキケツ ㋑血をそゝぎて必ず報ひんことを誓ふ㋺まごころを示す。

【瀝青】レキセイ 塗料の一、チヤン。

【瀝瀝】レキレキ ㋑雨雪の聲の形容㋺風の聲

【瀞●】

漢 セイ 呉 ジヤウ ㋺國訓とろ(河水のおだやかなるところ)

【瀟○】

漢呉 セウ ㋑風雨の暴れて疾き貌㋺はやし、はげし㋩きよし、水清くしてふかし二川の名(湖南省にあり)

【瀟洒】セウシヤ さつぱりときれいなること。

【瀟碧】セウヘキ 竹の異名。

【瀟灑】セウサイ 瀟洒に同じ注意**せうれい**と讀むは誤り。

【瀟湘八景】セウシヤウハツケイ 瀟水と湘水との附近にある瀟湘夜雨・山市晴嵐・遠浦歸帆・煙寺晚鐘・漁村夕照・洞庭秋月・平沙落雁・江天暮雪の八景。

【瀦○】

漢 チヨ 呉 ト ぬま、いけ、水たまり

十七畫

【瀰●】【弥略字】

漢 ビ 呉 ミ ㋑ひろし、はるか、水のはるかに遠き貌㋺水の流れる貌㋩水の滿ちあふれる貌

【瀰漫】ビマン 廣くゆきわたる、廣がりはび

【瀰瀰】ビビ 水のながれるさま。

【瀲●】

漢呉 レン ㋑なみぎは(波際)㋺うかぶ(泛)㋩波の靜かに動くさま、又あふれる貌

【瀲灩】レンエン 水のあふれる貌、又水の動く貌注意**けんえん**と讀むは誤り。

【瀾○】

漢呉 ヤク ㋑ゆびく、ゆがく(特に湯にひたすこと)ゆびたし㋺にる(煮)㋩ゆでる二あらふ(洗)そゝぐ

【瀾○】

漢呉 ラン ㋑なみ、大なみ㋺波起る、なみだつ、又そのさま㋩したゝる、ちる(分散)二米の洗ひ汁、しろみづ

「おしよせるさま。」

【瀾瀾】ランラン ㋑なみだの落ちる貌㋺波の

【瀾漫】ランマン 大波の廣がり流れるさま。

【瀾濤】ランタウ 大なるなみ、おほなみ。

輕瀾 ケイラン　勢瀾 セイラン　洪瀾 コウラン　波瀾 ハラン　濤瀾 タウラン　狂瀾 キヤウラン　驚瀾 ケイラン　澄瀾 チヨウラン

十八畫

【灌●】【渶俗字】

漢呉 クワン ㋑そゝぐ、水をつぎかける(漑)㋺水を流し込ませる(注)又水が流れ込む㋩のむ(飲)二あつまる(聚)むらがる、又むらがり立つ木㋭誠を盡して相告げることヘ水の盛んに流れる貌ト盥に同じ、手をあらふ

【同訓異義】 **そそぐ** 灌・注・漑其他の用法は五八九頁の注を見よ。

【灌木】クワンボク ㋑たけ低くむらがり生ずる樹木の稱㋺山吹・牡丹等の如く草形木質の樹の稱。

【灌注】クワンチユウ そゝぐ、ほとばしる、水

【灌沐】クワンモク そゝぎあらふ、入浴する。

【灌頂】クワンチヤウ ㋑戒を受けて佛門に入る受戒者の頂に諸佛大慈の水をそゝぎかける儀式、㋺受戒又修道昇進のとき頂に香水をそゝぐ佛式。

「をそゝぐ。」

【灌漑】クワンガイ 田に水をひく又作物に水

【灌腸】クワンチヤウ 大便の通じを促すため肛門より大腸に藥物を注入する治療法

【灌佛會】クワンブツエ 陰曆四月八日の釋迦誕生日に甘露水を佛像にかける佛事

（灌佛會）

法は五八九頁の注を見よ。

十九畫

【灘●】【滩】

漢タン 呉ナン ㋑せ、はやせ(石多く水勢早き所)又水が走り流れる所㋺水のほとばしり流れるさま㋩國訓なだ(陸に遠くして波のあらき所、あらうみ)

【灘瀨】タンキャウ　急流のひどき、早瀨の音。

【灑・洒】漢 サイ サ 注意れいと 呉 シャ セ よむは誤り
イそゝぐ、水をまきそゝぐ、水が散りかかる ロちる、わかる（分）ハ風が物を飛揚する貌 ニなぐ（投）ホおどろく（驚）ヘ大なる恐トおつ（落）チ水をかけて洗ひきよめる リふく、風が物を吹あげる

【灑掃】サイサウ　水をまき散らしてはき清む

【灑落】シヤラク　さつぱりしたるさま、洒落。

【灩俗字】【艷・灩】エン　たゞよふ、ゆるぐ　うごく、

二十一畫

【灝・】漢 カウ カン 呉 ゴウ コン　ひろし（廣）おほいなり
（大）灝々は廣大なる貌

【灝氣】カウキ　秋澄みたる氣。

【灝灝】カウカウ　廣々と大きいさま、雄大。

二十二畫

【灣・】【湾略字】【灣】漢呉 ワン
水の曲りいりこみし所、いりえ

【灣入】ワンニフ　海水の陸地に入りこむことと又そのところ、入江。

【灣流】ワンリウ　太西洋中の赤道流の一、メキシコ灣より起り東北に流れて歐洲の海岸に至る海流 注意 灣流と書くは誤り

火（ひ）部

【火・】【炎】漢呉 クワ　イひ（燃えて光熱を發するもの）ほのほ、火えん、きりび、（燒）もえる、やける、ニ凡て發光體をいふ、又もえる如く光るもの赤火をつけてもやす、火を放つ、火事ヘ兵制、卒十人を火と稱す ト心の物に激してのぼせるをいふ チあかし、ともしび、又おき（炭火）リたきび、火をたく ヌ物事の急にせまるさま

【火口】クワコウ クチビ　イ火山の噴火する口 ロほくち、ひうちの火をつける材料 ハ火門。

【火山】クワザン　火焰を吹き出す山。

【火斗】クワト　ひのし、熨斗。

【火夫】クワフ　汽罐の火をたく職の人。

【火田】クワデン　イ草木を燒きはらひて肥料となし耕作する ロ畑。

【火焔】クワエン　イほのほ ロねなし葛の異名

【火雲】クワウン　イひでりぐも ロ夏の雲。

【火傷】クワショウ　皮膚が火又は熱湯にて傷くこと、やけど。

【火葬】クワサウ　死者を燒きて葬むる、土葬。

【火綿】クワメン　無煙火藥の原料にする爆發藥、木綿の纖維を精製し強度の硝酸と硫酸の混和液を以て製す。「の火具。

【火箭】クワセン　點火して射る矢、又信號用

【火器】クワキ　銃砲の類、又ひいれ。

【火酒】クワシユ　酒精分の多い酒、燒酎。

【火勢】クワセイ　燃える火の勢ひ。

【火遁】クワトン　己が姿を火を以て隱す忍術

【火戰】クワセン　銃砲にて行ふたゝかひ。

【火輪】クワリン　イ太陽 ロ火輪船の略。

【火難】クワナン　火災、火事。

【火藥】クワヤク　硝石・硫黃・木炭等の粉末にて混合した發火藥、彈丸・花火等に用ふ

【火爐】クワロ　ひばち、轉じてゐろり、こたつ、ストーブの類。

【火鷄】クワケイ　イ南洋に產する走禽類 ロ鴕鳥・ひくひどり・七面鳥 ハ鷄の足に火をつけて敵軍に飛び込ませ敵を亂す攻法

【火元】ヒモト　火事を出した家。

【火鉢】ヒバチ　火を入れて暖をとる器。

【火蓋】ヒブタ　火繩筒の火口に被せる蓋。

【火繩】ヒナハ　昔の鐵砲の導火線。

【火壺】コタツ　火壺の上に蒲團をかけ暖をとるもの、炬燵。

【火山灰】クワザンバイ　火山から噴き出す灰。

【火山脈】クワザンミヤク　火山の性質をおびた山脈。

【火山湖】クワザンコ　「出來た湖。

【火吹竹】ヒフキダケ　噴火口に水がたまつて火を吹きおこす筒。

【火成岩】クワセイガン　熔けた岩がかたまつて出來た岩。

【火取蟲】ヒトリムシ　「見て飛んで來る夏の蟲。

【火見櫓】ヒノミヤグラ　蛾・燈蛾の如くあかりを火事を發見する櫓。

【火輪車】クワリンシヤ　支那語にて汽車。

【火事羽織】クワジバオリ　江戸時代火事場に急ぐ時著用した羽織。

（火事羽織）

【火事場泥棒】クワジバドロボウ　イ火事場の混雜に乘じて盜みをする者 ロ他人のどさくさにまぎれ己れの利益をはかる者。

香火 カウクワ　漁火 ギヨクワ　爛火 リンクワ　烟火 エンクワ
石火 セキクワ　猛火 マウクワ　烈火 レツクワ　尖火 シンクワ
放火 ハウクワ　炬火 キヨクワ　篝火 コウクワ　燎火 レウクワ
燈火 トウクワ　螢火 ケイクワ　鬼火 キクワ　水火 スイクワ
湯火 タウクワ　星火 セイクワ　大火 タイクワ　明火 メイクワ

【火天】クワテン　梵語十二天の一、身色深赤にして火焰中に住し、念珠・仙杖及澡瓶を持し、これを供養すれば諸々の火神・仙衆共に壇場に入り受供して衆生を守護すと。

（火天）

「やきすてる。

【火中】クワチユウ　火の中、又火中に入れて

【火刑】クワケイ　火あぶりの刑。

【火宅】クワタク　佛家で煩惱の盛んなる此世を火災中の家屋に譬へていふ。

【火攻】クワコウ　火ぜめ、やきうち。

【火技】クワギ　火器を取扱ふわざ。

【火災】クワサイ　火のわざわひ、火事。

【火定】クワヂヤウ　佛教信者が小乘の涅槃に入らんとして自ら火中に投じて死ぬこと

【火花】クワクワ　イひばな、煙花、はなび ロ電氣が放射する時發する光。

【火星】クワセイ　地球に最も近き惑星。

【火食】クワシヨク　物を煮て食す。

【火急】クワキフ　火の出る如く急なる意、極めて俄かなること、大至急、特急。

【火車】クワシヤ　イ火攻めに用ゐる具 ロ地獄の火のくるま ハ惡婆 ニ汽車又は火輪車

【火敎】クワケウ　宗敎の一、拜火敎。

人火 ジンクワ　野火 ヤクワ　烽火 ホウクワ　焱火 エンクワ

【灬】火に同じ、火の字が宇蓋の脚になる時の形、烈火又連火

二畫

【灯・】【燈本字】【灯】漢 テイ 呉 チヤウ
イはげしき火（烈火）

【灰・】【灰俗字】【灰】漢 クワイ 呉 ケ
イはひ（物が燃えて殘りたるもの）物をやきて造る粉末 ロ燃え盡く、又滅び絶ゆ ハ活氣を失ひしもの

【灰土】クワイド　灰と土、つまらぬもの。

【灰色】クワイショク　イ灰の如き色 ロ事に當りて進退去就の態度の不鮮明なるもの。

【灰心】クワイシン　冷かにして靜かなる心、轉じて意氣沮喪の意に用ふ。

【灰汁】クワイジフ　イ灰を水にひたして得た水、あく、ロ植物より出る茶湯色の水。

【灰燼】クワイジン　灰ともえかす、燒けぼとり

【灰白色】クワイハクショク　薄いねずみ色。

蛤灰 カフクワイ　死灰 シクワイ　冷灰 レイクワイ　石灰 セキクワイ

【炙】一〇六頁の光を見よ。

三畫

【灸・】【灸別字】【𤇾】漢 キウ 呉 ク

イやいと（醫術の一種、點灸）ロやく（灼）ハはしら（柱）

【灸點】キウテン 灸をすゑる。

【灸治】キウヂ 灸をすゑて病をいやす。

【災・】【災・】【災】漢呉 イわざはひ（自然に起る凶事）ロ火事、大火事、火元の知れぬ火事ハさいなん、又不意の出來事ニわざはひす、わざはひを蒙らせる

【同訓異義】わざはひ 災・殃・禍其他の用法は七四七頁の禍を見よ。

【災厄】サイヤク わざはひ、さいなん。

【災妖】サイエウ 天災地變、わざはひ。

【災害】サイガイ 災難にて被りたる損害。

【災異】サイイ 天災地變、暴風雨・大火・地震・洪水などの變事、災變。

【災禍】サイクワ わざはひ。

【災難】サイナン わざはひ、災變。

天災テンサイ 火災クワサイ 水災スイサイ 變災ヘンサイ

【灾・】漢 レイ 呉 リヤウ ロ靈の略字 イ少しく熱するさま

【灼・】【灼】【灼通字】漢 シヤク 呉 サク

イやく（燒）ロあつし（熱）ハ盛んなるさま ニあきらか（明）ホおどろく（驚）ヘあぶる、熱さをこらへて灸をすゑる

【同訓異義】あきらか 灼・明・照其他の用法は四八二頁の明を見よ。

【灼灼】シヤクシヤク イ盛んなり ロ明かなる貌

【灼然】シヤクゼン 物事の明らかなるさま。

【灼熱】シヤクネツ あつく熱す、やけて熱し。

【灾】この頁の災を見よ。

四畫

【炎・】【炎】漢 タン オン ドン 呉 エン

イもゆ、やける、もえ上る ロほのほ（焔）ハもえ上る ニあつし（熱）ホやく（焚）ヘけける、もやす ヘさかんなり（盛）ト南方の天子東北の風リ美しく盛んなる貌

【炎上】エンジヤウ イ火災に罹りて燒けること 燒失 ロ宮廷寺社等の燒失。

【炎天】エンテン イ夏の暑き空 ロ南方の天。

【炎炎】エンエン イ美しく盛んなり ロ火勢の盛なるさま。

【炎帝】エンテイ 夏炎を司る神、夏の神、又「單に夏の意。

【炎威】エンヰ 夏のはげしき暑さ。

【炎涼】エンリヤウ イあつさと涼しさ ロ人情

【炎陽】エンヤウ 夏の異名。

【炎暑】エンショ きびしきあつさ。

【炎塵】エンヂン 日中のあつき塵、又火の子。

【炎熱】エンネツ きびしき暑氣、炎暑。

【炎溽】エンジヨク 蒸し暑い、溽暑。

【炎精】エンセイ 炎、かげらふ、陽炎。

【炎燒】エンセウ 燃ゆる、燒ける。

光炎クワエン 火炎クワエン 朱炎シユエン 涼炎リヤウエン

【炊】漢呉 イかしぐ、飯をたく ロふく（吹）ハ動きのぼる スヰ

【炊事】スヰジ 飯をかしぐ、轉じて一般の食事料理の義、にたき。

【炊烟】スヰエン 飯をたくときにのぼるけむり、かまどのけむり。

【炊爨】スヰエン 前に同じ。

【炊金饌玉】スヰキンセンギヨク 此上ない美食。

【炒・】漢 サウ 呉 セウ いる（煎）

【炒豆】イリマメ 火でいりたる豆。

【炒粉】イリコ 米の粉をいつた菓子。

【炕・】漢呉 イかわく（乾）ほす、かカウ わかす、ひる ロあぶる（炙）ハたゆ（絶）ニ高ぶるさま ホはる（張）ヘあぐ（抗）トをんどる（床下に火氣を通じて室内をあたゝめるしかけ）

【炙・】【炙別字】漢 セキ シヤク 呉 シヤク セ

イあぶる（肉をやく）火あぶりにす ロ苦痛を與へる、迫害する ハしたしみ近づく ニあつし（熱）ホやく（燒）あぶりもの

【炉】六四九頁の爐を見よ。

五畫

【炭・】【炭】漢呉 イすみ（木きにして製したる燃料、木炭）炭をもやした火 ロ火氣が傳はりて火となりしもの ハはひ（灰）ニもえのこり ホ元素の名 ヘ石炭の略

【炭火】タンクワ 炭の火、すみび。

【炭山】タンザン 石炭を埋藏せる山。

【炭化】タンクワ 化學上の語、或物體が炭素となる作用、又炭素と化合すること。

【炭田】タンデン 炭層の多き土地。

【炭坑】タンカウ 石炭を掘出す坑。

【炭量】タンリヤウ 炭山に埋藏する石炭量。

【炭酸】タンサン 無水炭酸が水と化合して生じたるものにして酸性反應を示す。

【炭團】タドン 炭の粉をこねて丸めし物。

【炭層】タンソウ 土の中にある石炭の層。

【炭水化物】タンスヰクワブツ 炭素と水素との化合物。「化合物。

【炭化石灰】タンクワセキクワイ 石灰と炭素との

【炭酸加里】タンサンカリ 植物性の灰中に多く存する溶解しやすき白色粉末。

【炭酸瓦斯】タンサンガス 炭素と酸素の化合物

泥炭デイタン 石炭セキタン 瑵炭トタン 氷炭ヒヨウタン

【炤】【灼通字】漢呉 イてらす、照 ロてる（照）ロ昭に作る、あきらか イひかる、かゞやく、かゞやかす ロかゞり、かゞてらす ハあきらか（明）ニひかり、かゞやき、光明 ホみえをはる、てらふ

【炫・】漢 ケン ゲン 呉 イあきらか（明）ロいちじるし

【炫光】ゲンクワウ 光りかゞやくこと。

【炫然】ゲンゼン 光りかゞやく貌。

【炫爍】ゲンエウ ひかりかゞやく。

【炬・】漢 キヨ 呉 コ イ藁などを束ねてもやす、かゞりび、たいまつ（松明）ロたく、やく ハ鋭く光るものにたとふ ニ國訓こたつ（炬燵）

【炬燵】コタツ 暖をとる裝置、火燵。

【炮・】漢 ハウ 呉 ベウ 注意砲と混用するは誤り イやく、あぶる、肉を毛ぐるみにして燒く、まるやきロ物につゝみて燒く、又そのやきもの ハ柴を燒きて行ふ祭の名 ニやく（灼）ホ庖・砲に通ず ヘ刑罰の一

【炰○】漢 ハウ 呉 ベウ イやく、あぶる ロほとる、氣强くわばる

【炸・】漢呉 サク アフ イ火氣によつて裂けはじける、爆發する ロあげる（食物を油にてあゞ）

【炸發】サクハツ 火藥が爆發すること。

【炸彈】サクダン 炸藥を罐にこめし者、又炸藥の彈丸、爆裂彈。「爆發せしめる藥。

【炸藥】サクヤク 砲彈の中にしこみて彈體を

【炳・】漢 ヘイ 呉 ヒヤウ イあきらか（明）ロいちじるし（著）ハ明かなる火、又著明なるさま

【同訓異義】あきらか 炳・昭・明其他の用法は四八二頁の明を見よ。

【炳乎】ヘイコ あきらかなる貌。

【炳然】ヘイゼン 顯著、明らかなるさま。

【炷・】漢 シユ 呉 ス イとうしん（燈心）とうしみ、とうす、燈中の火心 ロたく、香を焚く、薫ずる。

【炯】六三六頁の烱を見よ。

【畑】六八九頁の畑を見よ。

【秋】七五一頁の秋を見よ。

【点】一一九二頁の點を見よ。

六畫

〔烈〕〔烈〕漢 レツ 呉 レチ イはげし、火勢きびしロたけし（猛）ハあらし（暴）きびし、きつい、甚しいニたゞし（正）氣性がつよく正し㋷ひかる（光）明らか、いちじるし、又明らかに知れるヘうつくし（美）トそこなふ（害）チのこり（殘）リわざ（事業）てがら、功業ヌさく（裂）ルル高大又は至難の意ヲ憂ふる貌ワあぶる（炙）もやす、やく

【烈士】レツシ 氣性つよく節義を守る士。

【烈女】レツヂヨ 操の堅き女。

【烈日】レツジツ 燒くが如くあつき日。

【烈火】レツクワ 火勢のはげしきこと、猛火。

【烈夫】レツフ 烈士に同じ。「言葉の強い貌

【烈烈】レツレツ ㋷勇ましい貌ロ憂ふる貌ハ勢ひのはげしきかぜ、暴風。

【烈風】レツプウ

【烈寒】レツカン はげしきさむさ。

【烈祖】レツソ いさをある祖先。

【烈婦】レツフ 烈女に同じ。

【烈暑】レツショ きびしい暑さ。

嚴烈ゲンレツ 慘烈サンレツ 誠烈セイレツ 雄烈ユウレツ
壯烈ソウレツ 武烈ブレツ 剛烈ガウレツ 風烈フウレツ
芳烈ハウレツ 遺烈イレツ 忠烈チユウレツ 猛烈マウレツ
寒烈カンレツ 勳烈クンレツ 威烈イレツ 餘烈ヨレツ
鴻烈コウレツ 孝烈カウレツ 勁烈ケイレツ 霜烈サウレツ

〔烏〕〔烏〕漢 ヲ 呉 ウ イ鳥の名、からすロ歎辭、あゝハいづくんぞ（安）なんぞ（何）どうして、何とてニ黑色を烏といふ、くらしホ日又は歲月の意

【烏巾】ウキン くろのづきん、烏角巾。

【烏合】ウガフ 烏の集りの如く規律のたゝざるにいふ例烏合の衆。

【烏瓜】ウクワ からすうり、王瓜。

【烏兎】ウト イ日と月の異稱ロつきひ。

【烏有】ウイウ イいづくんぞ有らんの意、即ち物事のあらざること、跡かたもなしロ火災にて燒き盡したこと。

【烏角】ウカク 黑色の角ある頭巾。「の金。

【烏金】ウキン イ鐵又は赤銅の稱ロ高利

【烏呼】ヲコアア なげき又はほめる言葉。「名。

【烏雲】ウウン イ黑雲ロ婦人の黑髮ハ陣法の

【烏散】ウサン うたがはしきこと。

【烏賊】ウゾク 海魚の一、いか。

【烏喙】ウカイ イとりかぶと、かぶと花（毒草）ロ烏のくちばしハ貪慾なる人の相

注意 **うたく**と讀むは誤り。

【烏髮】ウハツ くろがみ、黑き髮。

【烏頭】ウトウ 烏喙のハに同じ。

【烏鵲】ウジヤク 烏の名、かさゝぎ。

【烏滸】ヲコ 物笑ひの種となるほど愚なこと

【烏口】カラスグチ 線を引く圖引道具。

【烏貝】カラスガヒ どぶ貝の一種

【烏鳩】カラスバト 鳩鴿の一種で全身が黑く體は普通の鳩よりもやゝ大きい。

【烏麥】カラスムギ 禾本科の一年生草本で莖の高さ二尺ばかり葉は細長く尖り花は四月頃に開き實は食用となり又莖葉は牧草に適する

【烏合衆】ウガフノシウ 烏合に同じ。

【烏龍茶】ウーロンチヤ 臺灣特產の紅茶の類。

【烏雲陣】ウウンノヂン 出沒變化極りなく敵に味方の有樣を知らしめざる陣立。

【烏鷺爭】ウロノアラソヒ 碁をかこむ。

【烏羽玉】ウバタマ ひあふぎの實、色の黑きもの故、烏羽玉のを黑・夜・夢・暗などの枕詞とす。

（蔘 烏）

（鳩 烏）

【烏帽子】エボシ 上古禮冠の下に被りし頭巾、延喜の頃よりは別々になり冠は正服以上に用ゐ烏帽子は平服に用ゐた、立烏帽子・長烏帽子・風折烏帽子等種々ある。

（烏帽子）

【烏賊魚】イカ 魚の名、烏賊。

【烏之雌雄】カラスノシユウ 物の善惡・是非等の互にまぎらはしい喩。

雅烏ガウ 孝烏カウ 靈烏レイウ 霜烏サウ
曉烏ゲウ 群烏グン 晚烏バン 野烏ヤウ
神烏シン 曙烏ショウ 栖烏セイウ 馴烏ジユン

〔烝〕〔蒸通字〕〔烝〕漢呉 ジヨウ 呉 ショウ イむす、火氣の上昇する貌、むれる、熱せらるロふかす、熱した湯氣をあてるハあつし（熱）むしあつしニすゝむ（進）ホおこる（興）のぼる（昇）わく（涌）ヘおほし（衆）トきみ（君主）チあつし（厚）リひさし（久）ヌ冬の祭の名

【烝民】ジヨウミン 多くの人民、衆民、衆庶。

【烝徒】ジヨウト 多くのともがら、衆徒。

【烝烝】ジヨウジヨウ イ盛んなる貌、火氣の上炎烝エンジヨウ 艾烝ガイジヨウ 炊烝スキジヨウ 煩烝ハンジヨウ 結烝ケツジヨウ 上烝ジヤウジヨウ 煎烝センジヨウ 爛烝ランジヨウ

〔烋〕漢 キウ 呉 ケウ カウ イほこる（矜）氣づよくゐばる口よし（善）ハうつくし（美）ニかすか（微）ホやはらか（和）ヘよろこび（慶）

〔烘〕漢 コウ 呉 ク イかゞり び（燎）ロやく（燒）たく（焚）もやす、もえるハ火の貌ニてらす（照）ホあきらか（明）ヘ火にてあぶり乾かす

〔烙〕漢呉 ラク カク イやく（燒）鐵を熱して身體をやきつける、やきがねをあてるロやきがね、やきばり（火鉞）ハ刑の名、炮刑

【烙印】ラクイン やきはん、やきいん。

【烙刑】ラクケイ 火あぶりの刑、火刑。

〔烟〕六四〇頁の煙を見よ。

〔羔〕八二五頁の羔を見よ。

〔馬〕一一五五頁の馬を見よ。

七畫

〔烹〕〔烹〕漢 ハウ 呉 ヒヤウ イにる（煮）にえる、にられるロにやき、料理、又其食品ハ神に供へる牲肉

【同訓異義】**にる** 烹・煎・煮其他の用法は六四一頁の煎を見よ。

【烹茶】ハウチヤ 茶をにる、煎茶。

【烹炮】ハウハウ にる、やく。

【烹煎】ハウセン 煮ることゝ煎ること。

【烹熟】ハウジユク 十分に煮る。

〔烽〕〔烽〕漢 ホウ 呉 フ イのろし、狼煙（外敵が國境に侵入せしを合圖するもの）ロ寇を防ぐ意ハ馬に被らせる物

【烽火】ホウクワ のろし、戰爭又は變事のとき合圖にあげる火

【烽煙】ホウエン 前に同じ

【烽燧】ホウスイ 前に同じ。

（火 烽）

【烹醢】ハウカイ イ肉を煮又細く切つて鹽漬にするロ支那古代の刑法ハ殺戮の意。

〔焉〕〔焉〕漢 エン 呉 イづくんぞ（安）なんぞ、いかんぞロいづくにか、いづれの所でハ事物をさす辭、これ、これを、こゝに、これよりニ語の已むことを表はす辭ホ語句の調子を添へて用ゐる無意味の助辭ヘ物事を形容する時語

調を助くる字㋑句末に置き反語の意を あらはす㋒他の助辭と連續して用ふ

【同訓異義】いづくんぞ

【安】は何處にか、さがすの意もある。

【惡】はどうして、人を輕蔑するの意

【焉】は烏に似て意廣し。「がある。

【烏】は何んとしてと嘆ずるの意。

【烱】俗字 **【炯●】** 漢ケイ　㋑のぼる　呉キャウ　㋺明らか

【烱烱】ケイケイ　きら〳〵と明らかなるさま

【烱眼】ケイガン　明かに物を見ぬく、明察の意

【煢○】 漢ケイ　㋑兄弟なき者㋺うれふ　呉ギャウ　れふ（憂）

【煢煢】ケイケイ　㋑うれふる貌㋺單獨の貌。

【煢獨】ケイドク　みよりのなき者。

【魚】 一一七二頁の魚を見よ。

【黑】 一一九一頁の黑を見よ。

八畫

【焚◐】【燔】古字 **【𤇾】** 漢フン　呉ホン　ボン

㋑やく（燒）もえる、やける、たく、もやす㋺たふる（僵）たふす㋩原野・山林等を燒きて獵すること

【焚掠】フンリャク　火をつけて掠めとる。

【焚燒】フンセウ　やける、もやす。

【焚燎】フンレウ　㋑やく㋺たきび。

【焚火】タキビ　地上でもやす火、又篝火。

【焚付】タキツケ　たきつける材料。

【焚書坑儒】フンショカウジュ　秦の始皇帝が經書をやき學者を生埋めにした故事。

【無○】〔**毋**〕〔**亡**〕 漢ブ　㋑なし（亡）　呉ム　有の反對㋺あらず、ず（不）意味の打消に用ゐる語㋩不に同じ（語の上に冠らせ反對の意を現はす）㋥空虛の意、むなし、又そのことを示禁止の意、なかれ（勿）㋭乃の上に冠して「むしろ何々することなからんか」とよむ反語㋛虛の上に冠して「すべて」とよむ㋜僞の上に冠して無益の意を示す㋝毋・无に通じ用ふ

【同異義】なし

【亡】は存の反對である。

【勿】はさうするなと禁ずるの意。

【微】は物の減少する義。

【沒】は滅沒の義である。

【毋】はその意無より重く勿より輕し

【無】は有の反對である。

【罔】はあるとは見えぬの意。

【莫】は確と決定してゐない意。

【同訓異義】むしろ　無乃・寧無・寧等の用法は三〇六頁の寧を見よ。

【無二】ムニ　二つなしの意、すぐれたること

【無力】ムリョク　力なし、即ち資力・勢力・權威・腕力等の貧弱なるにいふ。

【無上】ムジャウ　此の上なし、最上。

【無下】ムゲ　㋑これより下なし、最下等㋺いちづ、いちがい例無下にことわる。

【無已】ムイ　㋑やむを得ぬ、しかたがない㋺はてなし、かぎりがない。

【無心】ムシン　㋑自然である㋺我をわすれる㋩物を乞ひもらふ、又乞ひ願ふ意。

【無乃】ムシロ　寧と同じ意義である。

【無才】ムサイ　はたらきがない。

【無口】ムクチ　多く語らぬ。

【無用】ムヨウ　役にたゝない、むだ。

【無名】ムメイ　㋑きまつた名がない㋺隱れて世にあらはれぬ㋩理由なし、名義が立たぬ㋥氏名が判明せぬ。「る貌。

【無比】ムヒ　比すべきものなし、すぐれた

【無告】ムコク　頼る人のないこと。

【無私】ムシ　私なきこと、公平。「起る義。

【無妄】ムモウ　易の封の名、轉じて突然に

【無色】ムショク　色がない、透明である。

【無我】ムガ　㋑私意私心なし㋺自家なし㋩自己なし㋥己を空虛にしたる貌。

【無言】ムゴン　言葉を發せず、默する貌。

【無住】ムジュウ　住職なき寺院。

【無形】ムケイ　かたちがない、又その物。

【無明】ムミャウ　佛語にて過去の煩惱で心の明がなくなること。

【無狀】ムジャウ　善行がない、亡狀の意。

【無法】ムハフ　㋑道にはづれる㋺亂暴。

【無念】ムネン　㋑心に思ふ所なき貌㋺殘念。

【無味】ムミ　㋑うまみなし㋺平凡の意。

【無限】ムゲン　はてがない、限りがない。

【無病】ムビャウ　病氣がない、たつしや。

【無根】ムコン　㋑根なし㋺よりどころなし

【無能】ムノウ　はたらきがない。「い人。

【無宿】ムミュク　㋑住む家がない㋺戸籍のな

【無恥】ムチ　恥づべきことを知らぬこと。

【無垢】ムク　㋑清淨にて一點の汚れなき意㋺白無垢は上・下著迄表裏共白色の帛にて作りし衣服㋩無垢衣は袈裟の異名

【無骨】ムコツ　㋑まとまりなき文章㋺風流を解せぬこと、又その者。

【無益】ムヤク　何の利得もない、役立たぬ意

【無效】ムカウ　㋑效力なし、かひなし㋺目的とする法律上の效果が發生しないこと 注意無功と書くは誤り。「なす。

【無理】ムリ　道理にはづれる、强ひて事を

【無料】ムレウ　料金を要せぬ意、無代、たゞ無限に同じ。

【無涯】ムガイ　無限に同じ。

【無望】ムバウ　思ひもよらぬ、期せざること

【無情】ムジャウ　まことなし、不親切、心なし

【無常】ムジャウ　佛語、世上の事物の生滅轉變して定めなきをいふ、はかなき貌。

【無量】ムリャウ　數量の極めて大なること。

【無筆】ムヒツ　文字を知らぬ、又その人。

【無期】ムキ　期日に一定の限りなきこと。

【無視】ムシ　あなどり輕んずる貌、有れどもなきが如く見ること。

【無盡】ムジン　一定の口數と給付金額とを定め定期に掛金を拂込ましめ一口毎に抽籤・入札其の他の方法に依つて掛金者に對し金錢の給付を爲すこと。 注意無慰の㋺の誤用。

【無殘】ムザン　ちゑがない、思慮がない。

【無智】ムチ　

【無賃】ムチン　賃金が要らない。

【無漏】ムロ　清淨無垢な境涯。

【無電】ムデン　無線電話の略稱。

【無極】ムキョク　㋑絕對無限なる宇宙の根元㋺物の限りなきをいふ。

【無逸】ムイツ　㋑佚遊安樂することなきをいふ㋺書經周書の篇名。

【無算】ムサン　數量の極めて多きこと。

【無罪】ムザイ　犯罪が成立せぬ、罪がない。

【無銘】ムメイ　刀劍類に作者の銘がない。

【無辜】ムコ　罪なき者。

【無慘】ムザン　無慰の㋺の誤用。

【無數】ムスウ　人數の少きをいふ。

【無爲】ムヰ　自然に任せて何のなすこともなき貌 例無爲にして日を暮す。

【無慾】ムヨク　慾心がない。「なし。

【無窮】ムキウ　窮りなし、はてなし、限り

【無稽】ムケイ　でたらめ、よるところなし。

【無緣】ムエン　㋑えんがない、ゆかりのないこと㋺死者を弔ふべき親類のなきこと

【無斷】ムダン　ことわりなし、斷らない。

【無邊】ムヘン　廣々として物の限りなき貌。

【無實】ムジツ　㋑事實のなきこと㋺無き罪を有るが如くせられること。

【無點】ムテン　訓點のつかぬ漢文、白文。

【無慮】ムリョ　およそ、おほかた、たいてい

【無雙】ムサウ　㋑並ぶものなし、二つとない㋺裏と表が同じ樣に見える仕立方。

【無慰】ムザン　㋑恥づべきことを知らず㋺情けない、いたはしい、むごたらしい 注意無慘・無殘と書くは誤り。「の者。

【無籍】ムセキ　戸籍に姓名を記さぬ、又そ

【無數】ムスウ　數量が數知れず多きこと。

【無論】ムロン　言ふまでもなし、もちろん。

【無德】ムトク　人望なきをいふ。

【無謀】ムボウ　かんがへなし、無理又は亂

暴の意に通ず。

「みなし。

【無張】ムキヤウ はてなし、かぎりなし、きは

【無類】ムルキ ㋑並ぶものなし㋺極めて珍らしき意㋩善にも惡にも此上なきこと

【無人】ブニン ㋑人の居らざること 例無人島㋺人手の少きこと。

【無性】ブシヤウ なまけること、不精。

【無音】ブイン たよりなし、無沙汰。

【無事】ブジ ㋑たつしやである、無病息災㋺何もなす事なき意。

【無道】ブダウ 道理に反する貌。

【無粋】ブスキ ㋑風流を解せぬ㋺人情にうとい㋩無作法、無禮。

【無聊】ブレウ ㋑爲す事なく退屈する㋺頼みなきこと 例無聊に苦しむ。

【無頼】ブライ ㋑やくざ、ならずもの㋺安んずるなし、苦しい㋩憎み罵る語、又愛するの極わざと罵る語。

【無禮】ブレイ 禮儀にかなはざるをいふ。

【無難】ブナン さはりなし、無事。

【無一物】ムイチブツ ムイチモツ 一物もなきさま、總ての物のつきし貌。

【無分別】ムフンベツ 考へがない、無鐵砲。

【無生物】ムセイブツ 自力を以て生活を營み又は成長することなき物の總稱。

【無主義】ムシユギ 生活又は活動の準繩とすべき一定の主義なきこと。

【無言劇】ムゴンゲキ しぐさのみにてせりふのなき劇、例へば映畫劇の如し。

【無名指】ムメイシ くすりゆび、べにさし指。

【無邪氣】ムジヤキ あどけなし、つみがない。

【無花果】ムクワクワ 果樹の一、いちじく。

【無制限】ムセイゲン はてしなし、かぎりなし

【無抵當】ムテイタウ 金錢の貸借に抵當物のないこと 例無抵當にて貸す。

【無所屬】ムシヨゾク 何れの黨派にも屬せずして獨立すること。

【無定見】ムテイケン 一定の主義節操なく見識の定まらざるをいふ。

【無風帶】ムフウタイ 回歸無風帶とも言ひ、地球上の南北兩緯度とも凡そ三十度の所、年中無風なる地帶。

【無風流】ブフウリウ 風流でない、よこつ。

【無思慮】ムシリヨ ㋑深き考へのなきをいふ㋺無邪氣に通ず、あどけなし。

【無記名】ムキノイ 姓名を記さぬ、選擧などに無記名で投票する場合にいふ。

【無造作】ムザウサ 容易、てがる、たやすし。

【無神論】ムシンロン 有神論の對、宇宙間に神の存在することを否定する論。

【無神經】ムシンケイ 感じのにぶきこと。

【無責任】ムセキニン ㋑法律上又は道德上の責任を負はぬ㋺自己の責任を輕んずる

【無辜詩】ムセイノシ 書や畫のこと。

【無煙炭】ムエンタン 石炭の一種。

【無慈悲】ムジヒ 人をあはれむ心のなきこと

【無意識】ムイシキ 睡眠の時の如く自我の觀念の活動せぬ狀態、又故意でなきこと。

【無感覺】ムカンカク ㋑感じのにぶきこと㋺情のうすきこと㋩感情を押へつける。

【無産黨】ムサンタウ 無産階級を代表して組織せられた政治上の黨派。

【無趣味】ムシユミ 趣味のなきこと。

【無盡藏】ムジンザウ ㋑天地自然界に萬物の無盡なるをいふ㋺中より取り出すとも盡くることなくして藏せらるゝこと。

【無盡講】ムジンカウ 頼母子講の一種。

【無緣寺】ムエンジ 東京市の回向院の如く弔ふべき者なき死者のみを葬りたる寺院

【無機物】ムキブツ 鑛物を構成する物質。

【無緣塚】ムエンヅカ 弔ふものなき亡者の塚

【無作法】ブサハフ 禮儀に適はぬこと。

【無沙汰】ブサタ 久しくたよりがない。

【無禮講】ブレイカウ 貴賤上下の別なく打寛ぎ遠慮なく振舞ひて酒宴など催すこと

【無二無三】ムニムサン ㋑傍目も觸らず一心になる貌㋺これのみにて他になきこと

【無用長物】ムヨウノチヤウブツ 何の益もなき意。

【無產階級】ムサンカイキフ 最下層階級、下流民、佛語プロレタリアートの譯。

【無量壽佛】ムリヤウジユブツ 阿彌陀如來の別名

【無間地獄】ムゲンヂゴク 八大地獄の一、絕えず苦痛を受ける地獄。

「藥。

【無煙火藥】ムエンクワヤク 煙のでぬ一種の火

【無線電話】ムセンデンワ 電波によりて通ずる電話、ラヂオ。

【無電檢波器】コヒーラー 細い硝子管に細い金屬の粉を入れ其兩端に電極を附したもの、マルコニ式無線電信機の主要部にして金屬粉の電氣抵抗が高いが電波に達するときは夫れが著しく減ずる性を利用したものである。

（無電檢波器）

【無政府主義】ムセイフシユギ 國家組織を排し個人の自由意志による社會を建設せんとする主義、英語アナーキズムの譯。

【無定位針電流計】ムテイヰシンデンリウケイ 無定位針を用ひた電流計で弱い電流を計るに用ひられるもの。

（無定位針電流計）

有無ウム 虛無キヨ 絕無ゼツム 皆無カイム

【焦○】

漢 セウ 呉 ショウ

イこぐ、こがす、火にやけて黑くなる、又あぶる㋺心を傷めること、こげる、はしやぐ、かわきゝる㋩こがれる（思ひなやむ、甚しく心をいたむ）㋥萎れて色の黑くなること㋭こげくさし、きなくさい㋬呼吸又は飲食物の通ふ所㋣やつる（窶）㋠國訓こがる（甚しく思ふ貌、戀ひしたふ）

【焦土】セウド 燒け土、家などの燒けて跡形もなくなるに用ふ。

「らだつ。

【焦心】セウシン 氣をもむ、心をいたむ、いらだつ。

【焦眉】セウビ 危急の眼前にせまりたる貌。

【焦慮】セウリヨ 心配する、氣をもむ。

【焦點】セウテン ㋑球面鏡又はレンズ等に光線の集合する點㋺事物の中心。

【焦熱】セウネツ 非常にあつく熱する。

【焦心苦慮】セウシンクリヨ 心を焦して苦心する

【焦眉之急】セウビノキフ 甚しく危急なる場合

【焦熱地獄】セウネツヂゴク 佛語、八大地獄の一

【然○】

俗字 【燃】

漢 セン 呉 ネン

イもえる、もやす㋺しかり、さやうである、承認又はうべなふ語㋩斷定の語、しかり、かくの如し、この通りである㋥承認、うべなひ㋭しかし、さやうに、そんなに、しかへ文意を轉ずる所に用ふ、しかして、しかるに、しかも、しかばば、しかれども㋣文意を修飾するに用ふる語㋠物事を形容する語、又は形容を助くる辭

【同訓異義】しかるに 然・爾・而等の用法は八三三頁の而を見よ。

【然諾】ゼンダク うけがふ、引きうく。

怡然イゼン 肅然シユクゼン 浩然カウゼン

蹴然シユクゼン 果然クワゼン 魁然クワイゼン 晏然アンゼン

嘿然ゼン 自然ゼン 莞然クワンゼン 翕然キフゼン

蹶然ケツゼン 卓然タクゼン 超然チヤウゼン 傑然ケツゼン

皓然カウゼン 偶然グウゼン 慨然ガイゼン 寃然リヤクゼン

幽然イウゼン 酒然シヤゼン 亨然テイゼン 天然テンネン

淘然タウゼン 漠然バクゼン 嬋然センゼン 愕然ガクゼン

炳然ヘイゼン 昭然セウゼン 爛然ランゼン 欣然キンゼン

【焙●】

漢ハイ 呉ベ あぶる（焙）火慣用音ハウ 氣にあてゝ熱す、はうじる

【焙烙】ハウロク 物を炒る素燒の淺い土鍋。

【焜●】

漢昆 イかゞやく、てらす、コン 又かゞやかす、光輝あらしむ㋺ひかる（光）㋩あきらか（晃）

【焜爐】コンロ 小型の爐。

【焠・】【淬通字】漢 サイ 呉 セ イにら ぐ（燒き たる刃物を水につけて堅める）ロやく

【猝・】漢 キン 呉 コン イてらす（燿）ロ皮膚の一部に熱を發する

【猝衝】キンショウ 皮膚筋肉の一部に熱を起してづきづきいたむ。

【焰・】【焰訛字】漢呉 エン イもえ始めて ほのぐ立ちあがるさま ロ火のあがる 貌 ハほのほ、ひさき

【焰焰】エンエン 字解のイを見よ。

【焰音器】シンギングフレーム 細管の尖端より瓦斯を噴出せしめて點火し之を他の稍太い直立の管中に下方より挿入すると炎が振動して美妙な音を發するもの

（焰音器）

【淡・】漢呉 エン イほのほ（焰）ひばな（火華）ロ焰のあがるさま

【勞】一五一頁の勞を見よ。

【爲】六五〇頁の爲を見よ。

【黑】一一九一頁の黑を見よ。

九畫

【煉・】【練・錬別字】【楝】

漢呉 レン イねる、とかしねる（金石をとかして精錬す）ロ液汁にてこねる（臍下三寸の所）に蓄へる ハ仙術にて不老不死の薬をねること。

【煉丹】レンタン イねり藥の名 ロ體氣を丹田

【煉瓦】レンガワ 粘土を長方形にして燒きてかためたる土木建築材料 注意 裸瓦と書くは誤り。

【煉炭】レンタン 炭の粉をねり固めた物、たどん、又石炭を粉にして練り固めた物。

【煉乳】レンニフ コンデンスミルク、牛乳を精製した一種の飲料。

【煉物】ネリモノ ねり固めて作りたる物。

【煉塀】ネリベイ 土と瓦で築いた塀。

【煮・煑】【煑】漢呉 ショ 慣用音 シャ イにる（煮）ロ火にかけてうでる、にえる、熟する ハにて食ふ

【同訓異義】にる 煮・烹・煎其他の用法は六四一頁の煎を見よ。

【煮沸】ショフツ 煮立てゝわかす 注意 しやふつと讀むは誤り。

【煙・烟】【煙】漢呉 エン イン イけぶり、けむり、けぶる、いぶる ロ火氣 ハ雲の如き氣又靄・雲の類 ニすゝ（煤）ホ煙草の略

「し。

【煙火】エンクワ イ飯をたく煙 ロ花火 ハのろ

【煙汀】エンテイ 霞の中に隱見する水ぎは。

【煙雨】エンウ きりあめ、霧雨。

【煙波】エンパ 霞がゝつた水面。

【煙草】エンサウ たばこ、茄科の草の一種。

【煙筒】エントウ イ煙突 ロきせる。

【煙景】エンケイ 霞のたなびく景色。

【煙滅】エンメツ 煙の如く消えうせる 注意 湮滅とは其の意異なる。

【煙管】エンクワン きせる、パイプ。

【煙毒】エンドク イ石炭の煙の中に含む毒 ロ鉛を精煉する時に出る有毒なる煙。

【煙幕】エンマク 軍艦・飛行機等が其の所在をくらますために吐き出す煙の幕。

【煙瘴】エンシヤウ 熱帶地方に流行する風土病

【煙塵】エンヂン イけむりとちり ロ戰爭の塵

【煙霞】エンカ イ煙とかすみ ロ山水の景色。

【煙霞癖疾】エンカノヘキシツ 山や水を愛してやめられぬくせ。

「で療養する。

【煙霞療養】エンカレウヤウ 空氣の新鮮な土地

炎煙エン　松煙シヨウエン　浮煙フエン　長煙チヤウエン

陰煙インエン　晨煙シンエン　寒煙カンエン　空煙クウエン

水煙スイエン　晩煙バンエン　煤煙バイエン　喫煙キツエン

【照・】【照】漢呉 セウ イてらす、光を放つ、光にさらす、彼と此を引合す、つきあはす ロかゞやく、てる、光りがうつる、日がさす、晴天である ハひかり、又あきらか（明）つやゝ光る ニくらべ察す（對照）規則等にあてはめる、明らかに知る ホ證明書又は旅券の類 ヘ寫眞

【照尺】セウシヤク 著彈の距離を定める爲銃身の上に取りつけたるもの。

【照明】セウメイ 舞臺上の一切の光線藝術、又電燈等を利用する一切の光線。

【照射】セウシヤ 照り返す、反射する光。

【照破】セウハ 悉くてらす、てらしつくす。

【照準】セウジユン イ照しあはせる標準、目あて ロ銃身又は砲身を目標に的中するやうに据ゑること。

【照會】セウクワイ イてらしあはす ロかけあふ、問ひ合す ハ官廳の書類。

【照影】セウエイ かげ、うつし ゑ、肖像。

【照臨】セウリン イ月が上から照し臨むこと 轉じて神佛が人を監し又君主が天下を治めるにいふ ロ他人の來訪の敬語。

【照覽】セウラン イあきらかに見る、てらしみる ロ次に同じ。

【照鑑】セウカン 神佛が明らかに監視する。

【照覆】セウフク 照し合せて返す、回答。

【照魔鏡】セウマキヤウ 惡魔を照らしてその本體を見ぬくといふ鏡。

隱照インセウ　遐照ヘンセウ　夕照セキセウ　朗照ラウセウ

晨照シンセウ　晩照バンセウ　餘照ヨセウ　落照ラクセウ

廻照クワイセウ　燭照ショクセウ　偏照ヘンセウ　遍照ヘンセウ

均照キンセウ　殘照ザンセウ　辨照ベンセウ　覆照フクセウ

淵照エンセウ　浚照シユンセウ　察照サツセウ　即照ソクセウ

【煩・】【煩】漢 ハン 呉 ボン 一部音

イわづらはし、どて〳〵する、繁雜 ロいかりあらそふ ハもだゆ（悶）わづらふ、わづらひ、思ひなやむ、苦勞する ニわづらはす、面倒をかける、又めんだうくさし

【煩冤】ハンエン たへがたい心配。

【煩逆】ハンギヤク 胸がわるくむかつく。

【煩務】ハンム わづらはしき務め。

【煩勞】ハンラウ わづらひつかれること。

【煩悩】ハンノウ 煩はし、面倒。

【煩累】ハンルキ 煩はしき苦しむ、思ひなやむ。

【煩悶】ハンモン もだえ苦しむ、思ひなやむ。

【煩瑣】ハンサ わづらはし、くだ〳〵し。

【煩脈】ハンミヤク うるさく思ふ、厭ふ。

【煩雜】ハンザツ 秩序亂れてわづらはしき貌

【煩慮】ハンリヨ うるさき思ひ。

【煩憂】ハンイウ 心配すること。

【煩劇】ハンゲキ わづらはしくせはし。

【煩簡】ハンカン 繁雜と簡易、煩はしいことと手輕なこと。「書くは誤り。

【煩惱】ボンノウ 情慾のわづらひ 注意 煩腦と

【煆・】漢 カ 呉 ケ イあつし（熱）ロかわく（乾）ハかゞやく（燿）ニやく（燒）熱する

【煇○輝】漢 クン 呉 キ イひかり、ひかる、かゞやく（燿）光明 ロ輝を作り鼓を治むる工人 ニやく（炒）ふすべる、焦灼

【煌○】漢 クワウ 呉 ワウ イかゞやく、かゞやきて明らかなるさま ロひかり（光）ハ明らか ニ火花

【煌煌】クワウクワウ 光りかゞやく貌。

【煎○】漢呉 セン イいる、にる、よくにる、熟する ロにだす、せんじる ハ心をいためる ニつく（盡）ホへる（減）につまる、轉じてせまる（急迫）

【同訓異義】にる 煎・烹は調味してにる。

【煎】は汁の乾くまで煮つめる意。
【煮】は調味せずにたゞ煮わかすの義
【飪】は丁度煮え加減の意。
【煎和】センクワ　煮て味を調へる。「其葉茶。
【煎茶】センチャ　葉茶を湯で煎じた飲料、又
【煎餅】センベイ　うどん粉に砂糖を加へて燒いた菓子。
【煎藥】センヤク　㋑せんじたる藥㋺藥をせん「じること。
【煎海鼠】イリコ　なまこの腸を去りゆでゝ日光にほした食料品、ほしこ。

【煒●】　漢呉　㋑あかし、さかんにあ　キ　かし㋺あきらか（明）㋩眞の赤色、まつか

【熙○】【熙俗字】　漢呉　㋑ひかる　キ　イ　（光）ひかり（光明）㋺かがやく、光輝を發す㋩おこる（興）㋥ひろし、ひろまる、ひろめる㋭やはらぐ（和）㋬かわく（燥）㋣よろこび、よろこぶ、又さいはひ㋠たはむる（戲）又たのしむ㋡壯大なる貌、又ながし（長）

【同訓異義】**たのしむ**　熙・娛・樂其他の用法は五四一頁の樂を見よ。
【熙熙】キキ　㋑かゞやく貌㋺やはらぐ貌。

【煖●】【暖通字】　漢　ダン　ケン　呉　ナン　クワン

㋑あたゝか（温）㋺あたゝかし（暖）あたたむ㋩あたゝまる、ぬくめる、ぬくまる、ぬくし㋥人の名

【煠●】　漢サフ　呉セフ　㋑やく（灼）　㋺うでる、
漢呉テフ　ゆでろ、水に入れて煮たてる

【煤○】　漢　バイ　㋑すゝ（煙が物に附
呉　マイ　著して生じたる黑い塵）煙塵㋺いしずみ（石炭）㋩すみ（墨）㋥すゝばむ

【煤田】バイデン　石炭層の多量なる土地。
【煤炭】バイタン　石炭のこと。
【煤煙】バイエン　すゝけむり、石炭の煙。
【煤氣】バイキ　㋑すゝ㋺石炭瓦斯。

【煥●】　漢呉　㋑ひかり、火のひか　クワン　㋺あきらか（明）㋩あたゝかにかゞやく、光輝をはなつ、光りかゞやく㋭やはらぐ（文）

【煥發】クワンパツ　かゞやき現はれる　注意大詔煥發と書くは誤り。
【煥麗】クワンレイ　煥きてはなやかなる貌。
輝煥キクワン　華煥クワン　炳煥ヘイクワン　昭煥セウクワン
明煥メイクワン　照煥セウクワン　燭煥ショククワン　啓煥ケイクワン

【煦●】　漢呉　㋑あつし（熱）㋺あた　ク　コ　ゝむ（温）日光にてあたゝめる㋩めぐむ（恩）

【煬●】　漢呉　㋑あぶる（炙）火にて身　ヤウ　體をあたゝむ㋺たく、やく、火を盛んにもやす㋩人名

【煽】　六四〇頁の焰を見よ。

【煙】　二三九頁の煙を見よ。

十一畫

【熊○】【熊】　漢　イウ　呉　ウ　慣用音　ユウ

㋑くま（猛獸の名）㋺人の名㋩山の名
【熊膽】イウタン　くまのゐ、藥物として用ふ。
【熊戲】イウギ　熊が食に乏しくなると川邊に出て鮭などを巧にとりこれを竹の枝にさして肩にかついで立ち走るが元來が無智であるから竹の元を止むることをなさず、走るにしたがひ鮭は竹の枝より落ち去つて了ふこれを熊戲といふ。

（熊戲）

【熊羆】ユウヒ　熊とひぐま轉じて力の强いことの形容。
【熊谷草】クマガイサウ　蘭科の多年生草本で深山の陰地又は竹

（熊谷草）

林に自生し春莖を出して淡紅紫色の不整齊花を開く。
【熊虎之將】ユウコノシヤウ　熊や虎のやうに勇「猛な大將。

【熏○】【熏通字】【薰】

漢　クン　呉　コン　㋑くすべる、ふすぶ、煙らせる、いぶす、煙をあてゝ黑くす、すゝけさせる㋺あつし（熱）㋩火氣の盛んなる貌㋥やく（灼）㋭やはらぎよろこぶ（和悅）㋬東南の風㋣かほる（熏）又香を焚きてにほひをしみ込ませる㋠醺に同じ、ゑふ（醉）り嗜に通ず、ひぐれ「めて盛んなる貌。
【熏灼】クンシヤク　やける、もえる、勢の極
【熏籠】クンロウ　いぶしかご、伏籠。
【燻製】クンセイ　獸・魚肉を燻べ乾したもの。

【煽●】　漢呉　㋑さかんなり、勢力が　セン　盛大である㋺火の盛んなる貌、又火をおこす、火がおこる㋩おだてる㋥おこす、あふる、助け盛んならしむ㋭國訓あふる（扇にて風を起す、風をあてゝ火勢を盛んにす、酒を多くのむ、痛飲する、戸など風にうごく）あふり（あふるの名詞、又馬具の一）

【煽動】センドウ　おだてる、そゝのかして事をなさしむ、けしかく。
【煽風器】センプウキ　電氣を利用して風をおこす裝置の道具。

【熄●】　漢　ショク　㋑きゆ、火がきえ　呉　ソク　る㋺やむ（止）㋩ほろぶ（亡）なくなる㋥うづみ火（著火）

【同訓異義】**きゆ**　熄・消・滅等の用法は六六〇頁の消を見よ。
【熄滅】ソクメツ　滅び失せる、消える。
【熄火山】ソククワザン　噴火を休止せる火山。

【熅○】【熅俗字】　漢　ウン　㋑鬱せる煙、又
呉　ヲン　火氣の盛んなる貌㋺あつし（熱）㋩ほなき火、おき、うづみ火、炭火

【熒●】　漢　ケイ　㋑あきら　ヤウ　か（明）小
呉　ギヤウ　さきあかり㋺ひかり（光）光りかゞやく㋩くらます、目がくらむ㋥屋下の燈火㋭ほのぼのとみえる（藥草の一）㋬螢に通ず㋣星の名㋠うたがふ（疑）まどふ、まどはす「の名。
【熒惑】ケイワク　災禍を與へ又兵亂を起す星

【熔】　一〇八四頁の鎔を見よ。
【熔岩】ヨウガン　火山から噴出した岩。
【熔解】ヨウカイ　火熱にとける。「度の極限。
【熔融點】ヨウユウテン　物質が火熱にとける溫
【熔鑛爐】ヨウクワウロ　鑛石をとかすかま。

【熕】　陝字　熕砲は㋑おほづゝ、火砲
コウ　㋺砲身

【熈】　六四二頁の熙を見よ。

【榮】　五三八頁の榮を見よ。

十一畫

【熟●】【熟】　漢シユク　㋑にる　呉ジユク　（煮）よく火を通す、充分に煮沸す、にゆ（食物のよく飪えること）㋺ただる（爛）㋩なる（成）みのる、うむ、みがいる㋥しばゝ（屢）㋭つまびらか（審）あきらか、精密㋬つら〳〵、しみ〴〵、よくよく㋣充分發育して完全な體となる㋠充分に習ひ覺える、なれる

【熟字】ジユクジ　熟語を現はす文字。
【熟手】ジユクシユ　十分になれた人。
【熟成】ジユクセイ　出來上ること。
【熟否】ジユクヒ　熟すと熟さないと。
【熟思】ジユクシ　次に同じ。
【熟考】ジユクカウ　十分に思案をする。
【熟知】ジユクチ　よく知る、知りつくす。
【熟省】ジユクセイ　つら〳〵考へてみる。
【熟食】ジユクショク　食物を煮やきすること。

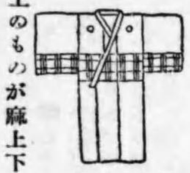
【熟悉】ジユクシツ ことゝくく知りつくす。
【熟柿】ジユクシ よく熟したる柿の實。
【熟眠】ジユクミン よくねむる、熟睡。
【熟達】ジユクタツ よくなれる、上手になる。
【熟視】ジユクシ 心をとめてみる、よく見る。
【熟語】ジユクゴ 二個以上の文字を組合して或る一つの意味をあらはす語、成語。
【熟睡】ジユクスイ 熟眠に同じ。
【熟察】ジユクサツ よく考へる、熟思。
【熟圖】ジユクト とくと考へ工夫する。
【熟練】ジユクレン ㋑一つの技に能くなれたること、熟達㋺ねりぎぬの衣服。
【熟醉】ジユクスイ 十分に酒に醉ふ。
【熟談】ジユクダン ゆつくりと談合す。
【熟慮】ジユクリヨ よく考へる。
【熟蒂】ジユクバン 野蒂人にしてやゝ文化に浴して進歩し政府の命令に服する者。
【熟鐵】ジユクテツ 十分にきたへた鐵。
【熟議】ジユクギ 十分によく談じはかる。
【熟覽】ジユクラン 心をとめて詳しく見る。
【熟讀】ジユクドク 心をとめてよく讀む。
【熟柿主義】ジユクシシユギ 徐に時機の到來を待つ主義。
習熟シユウジユク 稔熟ネンジユク 未熟ミジユク 奈熟ハウジユク
和熟ワジユク 半熟ハンジユク 成熟セイジユク 黄熟クワウジユク

【熨・𤇾】

漢 ウツ 呉 ヲチ 漢呉 ヰ

㋑おさへあたゝむ㋺膏藥をはる㋩のす火斗にて布帛を展す㋥ひのし㋭國訓のし（贈物に添へて敬意を表する證物、のしあはび、又それになぞらへし折紙）㋑のし紙㋩ひのし、火斗。

【熨斗】ウツト
【熨斗目】ノシメ 經は生絲緯は練絲を用ひ袖と腰の邊りにのみ縞を織り出したるものにして德川時代武家の禮服と定められ士分以上のものが麻上下の下に着用した。


（目斗熨）

【熱・熱】

俗字 漢 ゼツ 呉 ネチ

㋑あつし（冷の對）火氣慣用音 ネツ つよし㋺あつい度合、あつさ、又あついこと㋩あつくなる、あつくする㋥身體のあたゝまり（體温）又體温の高まる病氣（熱病）㋭のぼせる、激昂する、興奮する㋬一心になる、熱中する、そのさま㋣きのり（物事に對する心の趣向）㋠雜沓のさま

【熱火】ネツクワ 眞赤な火。
【熱中】ネツチユウ ㋑或る一事を深く思ひ込む貌㋺心にもだえ憂ふる貌。
【熱心】ネツシン 心をこめる、一心になる貌。
【熱血】ネツケツ ㋑あつき血しほ㋺熱誠。
【熱性】ネツセイ 物に激しやすい氣質。
【熱烈】ネツレツ 感情が高ぶること、又ふるひ起つて激しくなるさま。
【熱病】ネツビヤウ 熱を持つ病氣。
【熱帶】ネツタイ 地球上赤道を中心として南北回歸線の間にある部分。
【熱度】ネツド ㋑熱の度合㋺又熱心の程度。
【熱腸】ネツチヤウ 熱心に同じ。
【熱線】ネツセン 熱の輻射する方向。
【熱鬧】ネツタウ 往來が激しく騷しい 注意ねつしと讀むは誤り。
【熱望】ネツバウ 熱心なる希望又は慾望。
【熱情】ネツジヤウ 盛んな情愛、情心ふかし。
【熱量】ネツリヤウ 熱の容量の單位カロリー
【熱誠】ネツセイ あつき眞心、赤心。
【熱湯】ネツタウ たぎりたる湯、にえ湯。
【熱罵】ネツバ きびしくのゝしる。
【熱變】ネツヘン 物體が熱の爲に變化する。
【熱離】ネツリ 化學上の語、熱の爲めに化合物が分解して元素に還る作用。
【熱容量】ネツヨウリヤウ 温度を一度だけ高めるに要する熱量。

【熱電堆】ネツデンタイ 蒼鉛とアンチモンとを交互に數多折りまげてつなぎ合はせこれを電流計に導いたもの

（堆電熱）

炎熱エンネツ 燒熱セウネツ 薄熱ハクネツ 焦熱セウネツ
温熱ウンネツ 沸熱フツネツ 沸熱ホツネツ 苦熱クネツ
餘熱ヨネツ 殘熱ザンネツ 暖熱ダンネツ 蒸熱ジヨウネツ

【熬○】

漢 ガウ 呉 ゴウ ㋑いる（炒）いりつける、火にあて汁を取り去つて熟する、又火氣なしに煮こがすㄖいれる、いり、いりたる物

【瑩】

六七八頁の瑩を見よ。

【熳】

一〇八六頁の鏝を見よ。

十二畫

【熾・熾】

漢呉 シ 注意しよくと讀むは誤り㋑さかんなり（盛）㋺火勢つよし、猛烈なり㋩かしぐ（炊）㋥やく（燒）もやす、たく（焚）盛んに火をたく

【同訓異義】さかんなり 熾・盛・隆其他の用ゐは七一三頁の盛を見よ。

【熾烈】シレツ 熱又は光等のはげしきこと 注意しきれつと讀むは誤り。
【熾盛】シセイ はげしくして盛んなること 注意しさせいと讀むは誤り。
【熾熱】シネツ 熱のさかんなるさま。

【燃○】

本字 【然】

漢 ゼン 呉 ネン

もゆ、もやす
【燃料】ネンレウ 燃燒材料、薪炭の類。
【燃犀】ネンサイ 暗い所を明るく照らすこと
【燃燒】ネンシヤウ もやす、やく、やける。

【燈○】

俗字 【灯】

漢呉 トウ

㋑ともしび㋺あかり㋩あかし、又蠟燭の火㋥佛家にて佛の道、佛教と。
【燈下】トウクワ ともしびのもと。
【燈心】トウシン 燈明の火を點ずるもの（燈心草のずゐにて造る）燈炷。
【燈火】トウクワ あかり、ともしび。
【燈用】トウヨウ あかりに用ふ。
【燈花】トウクワ 燈心の先に出來るかたまりのもえかす、丁子頭。
【燈架】トウカ ともしびを乘せるだい。
【燈明】トウミヤウ 神佛に供へるみあかし。
【燈蛾】トウガ あかりにたかる蛾、ひとり蟲
【燈船】トウセン 航路目標を示す爲めにあかりをつけ置く船。
【燈影】トウエイ 燈火のひかり。「する燈明臺
【燈臺】トウダイ ㋑燈火の臺㋺航海の目標と
【燈穗】トウスイ 燈火に同じ。
【燈籠】トウロウ ㋑木・竹等のわくに紙或は布をはり其の中に火をともす具。
【燈火可レ親】トウクワシタシムベシ 秋季の讀書に適する氣持を言ひ表した語。
金燈キン 神燈シン 鳳燈フウ 孤燈コ
法燈ハフ 殘燈ザン 微燈ビ 簷燈エン
暗燈アン 篝燈ロウ 冷燈レイ 佛燈ブツ

【燐○】

漢呉 リン ㋑おにび（陰鬼火）火、怪火㋺元素の一（動物の骨を生成するものにして發火點低く空氣中にて自然に燃燒す）
【燐寸】リンスン すりつけぎ、マッチ。
【燐火】リンクワ ㋑燐の青き火㋺きつね火。
【燐礦】リンクワウ 燐酸物をふくむ礦石にして肥料の原料となる。

【燒○】

漢呉 セウ ㋑やく（燔）たく、やきすてる㋺火を放つ㋩もやす（燃）もえる、やける、又その火㋥野をやくこと、の

び㋺國訓やく（炙る、立ち働らく、熱して固める、嫉妬を起す、日にやける）

【燐刃】セウジン 刃物の刃を燒き急に水中に冷卻して鍛えたる物、やきば、やいば。

【燒尖】セウシツ 燒けてなくなること。

【燒灼】セウシヤク やく、やける、焦灼。

【燒却】セウキヤク やき棄てる、燒棄。

【燒夷】セウイ やきはらふ、やき平らぐ。

【燒死】セウシ 燒けてしぬ、やけじに。

【燒香】セウコウ ㋑香をたく㋺香を燒きて佛にたむける、上香。

【燒酎】セウチウ 酒精分の强い酒の名。

【燒痕】セウコン 物のやけたあと、燒跡。

【燒棄】セウキ やきすてる。

【燒盡】セウジン 燒きつくす、のこらず燒く。

【燒生】ヤケフ やけ野に草の茂りたる所。

【燒野】ヤケノ 野火でやけた野はら。

【燒筆】ヤキフデ 細き木の端を燒きて下畫をかくに用ゐるもの。

【燒繪】ヤキエ 燒饅等で木・布・竹・象牙などの面を焦がし畫いた繪。

【燒太刀】ヤキダチ 切れ味のよい太刀。
延燒エンセウ 坐燒ザセウ 焚燒フンセウ 屠燒トセウ
紿燒ショセウ 燃燒ネンセウ 類燒ルイセウ 炎燒エンセウ

【燕㊀】【宴・讌・醼通字】

漢呉 ㋑鳥の名、つばめ、つばくらめ、つばくろ、あエン たゝかい春になると來て秋頃になると去る小さいわたり鳥、玄鳥㋺さかもり㋩やすんず（安）やすむ（息）ひまでやすむ、いこふ（憩）㋥國の名（戰國七雄の一）㋭地名（直隸省地方）

【燕子】エンシ 鳥の名、つばめ。

【燕石】エンセキ ㋑玉に似たる石、支那の燕山より産出す㋺似て非なるもの又は眞價のなきものに喩ふ。

【燕好】エンカウ 丁寧に待遇すること。

【燕京】エンケイ 支那北京の別名。

【燕居】エンキヨ ひまでやすむ、くつろぐ。

【燕室】エンシツ 休息する部屋。

【燕麥】エンバク からすむぎ、すゞめむぎ。

【燕雀】エンジヤク すゞめとつばめ、轉じて取るに足らぬ人に喩へていふ。

【燕子花】エンシクワ 草の名、かきつばた。

【燕子花】カキツバタ ㋑鳶尾科の多年生草本で池沼や濕地に生え莖は劍の如き形をなし初夏の頃青紫色又は白色の花をひらき主として觀賞用として栽培する㋺襲の色目で表は二藍・裏は萠黃のもの㋩紋所の名。

（燕子花）

【燕尾服】エンビフク 西洋風の禮服の名、上著の形が燕の尾に似たるより言ふ

（燕尾服）

【燕尾筋】エンビフク かりまた、やじりの一種で二股の形して開いたもの。

紺燕コンエン 乳燕ニユウエン。來燕ライエン 洒燕シユエン

【熹○】

漢呉 日光の微かなる貌、ほのぼのと明るいキ

【燁●】

漢呉 かゞやく、ぴか〳〵す、エフ 又そのさま

【燋㊀】

漢サク 呉ソク ㋑こがす、こげる㋺たいまつ（炬）かゞりび、松明㋩まだ火をつけぬ燭セウ

【燎●】

漢呉 ㋑たきび、にはび（庭火）かゞりび（篝火）かりび（狩火）地上に火をたきてあかりをとる㋺てらす（照）㋩あきらか（明）又そのさま㋥やく、耕地の雜草をやく、やける、もえるレウ

【燎火】レウクワ かゞりび、にはび。

【燎野】レウヤ 火を放つて野原の雜草をやく

【燎場】レウジヤク かゞりび、篝火。

【燎原火】レウゲンノヒ ㋑野をやく火、その火

の盛んにもえひろがると㋺惡意の長じ易きことにたとへていふ語。

【燔○】

漢ハン 呉ハン ㋑やく（燒）㋺あぶる（炙）㋩肉をやくこと㋥膰に同じ、祭に供する肉、ひもろぎ。

【燔肉】ハンニク まつりにく、ひもろぎ。

【燔祭】ハンサイ 基督教にて、いけにへを燒いて神に供ふる祭。

【燗●】

漢呉 ㋑爛に同じ、たランぐる㋺酒のかん邦音カン

【燧】

六四〇頁の焰を見よ。

【勳】

一五三頁の勳を見よ。

【樵】

五四六頁の樵を見よ。

【榮】

八一〇頁の榮を見よ。

【螢】

九二一頁の螢を見よ。

十三畫

【營○】【營略字】【營】

漢エイ 呉ケイ ヤウ キヤウ ㋑いとなむ㋺はかる（度）計畫す㋩つくりなす（造）こしらへる㋥をさむ（治）副業をする、家業をする㋭めぐる（周）㋬まもる（衛）㋣小さき塞チとりで（陣屋）㋠たましひ（魂）㋡まどふ（惑）まどはす又おそれる㋢いへ（家）㋤いひとく（辯解）㋥星の名㋦往來するさま㋧支那古代の地名

【營田】エイデン ㋑田地に關する制度、屯田の如きもの㋺官の名、經理を掌る官。

【營利】エイリ 財產上の利益をはかる、金もうけ 注意營利と書くけ誤り。

【營私】エイシ 自分の事のみはかる。

【營所】エイショ 軍隊のたむろする所。

【營造】エイゾウ 家などをつくり設ける。

【營業】エイゲフ なりはひ、收入を得生計を立てる爲めに繼續的に營む仕事、主として商業に關係する事業にいふ。

【營倉】エイサウ 軍人を處罰するに用ゐる兵營內の監禁所。

【營養】エイヤウ 榮養の誤用。「等の修理。

【營繕】エイゼン つくろひおぎなふ、建築物

【營造物】エイゾウブツ ㋑設け造りたる建物㋺公衆の爲め直接の便益に供用する設備

【營業稅】エイゲフゼイ 營業の種類によつて納める稅金。

繕營ゼンエイ 屯營トンエイ 築營チクエイ 軍營グンエイ
廢營ハイエイ 星營セイエイ 修營シウエイ 地營チエイ
經營ケイエイ 露營ロエイ 天營テンエイ 裁營サイエイ
柳營リウエイ 宿營シユクエイ 陣營ヂンエイ 野營ヤエイ

【燈●】【燈】

漢ショク 呉ソク ㋑とも しび、あかり（燈火）㋺かゞり火（篝火）㋩たいまつ（炬火）㋥かゞやく（輝）㋭てらす（照）㋬星の名

（燭架）

【燭光】ショククワウ ㋑光度の單位、熔融點に達したる白金の一平方糎の表面より發する光を一燭光と稱す㋺燈火の光。

【燭架】ショクカ 蠟燭たて、燭臺。「の火影

【燭影】ショクエイ 燈火

【燭淚】ショクルキ 蠟燭のたれ。

【燭剪】ショクセン 蠟燭のしんきり。

【燭臺】ショクダイ 蠟燭たて、燭架。

銀燭ギンショク 煌燭クワウショク 丹燭タンショク 巨燭キヨショク
玉燭ギヨクショク 明燭メイショク 電燭デンショク 燎燭レウショク

【燠●】

漢イク ウ 呉オク ヲ 慣用音アウ

㋑あたゝか（暖）㋺あつし（熱）甚だあつし㋩苦痛を慰安する、言葉をかける

【燥●】

漢サウ 呉ソウ ㋑かわく（乾）かわかす、ひる、ほす ㋺とろかす、やく（燒）㋩うるほひなし、

水氣がない、はしやぐ、濕味がない

【燦●】【粲通字】漢呉 サン あきらか（明）あざやか（鮮）きらびやかなるさま

【燦然】サンゼン きらびやかなるさま。

【燦爛】サンラン はなやかに美くしい。

【燧●】漢呉 スキ ㊀太陽より火を取ること、又それに用ゐる具、ひうちいし（燧石）㊁ひうち、燧石と鐵とをうち合せて火をつくり出す㊂火とり鏡（凸レンズ）㊃うちび、きりび、てんびゝのろし（烽）たいまつ〈警備の意

【燧石】スイセキ ひうち石 注意つゐせきと讀

【燧烟】スイエン のろし、狼煙。「むは誤り。

【燧烽】スイホウ 前に同じ。

【燬●】漢呉 キ ㊀やく（燒）やける㊁はげしき火（烈火）㊂火盛んなり㊃火おこる

【燮●】【燵俗字】漢呉 セフ ㊀やはらぐ㊁にる㊂大いに熟す㊃程よくをさめる、調和す

【燵和】セフワ やはらげて程よくする。

【燵理】セフリ 程よく治める。

【燵】國字 タツ 火燵は煖をとる裝置

【礁】七三八頁の礁を見よ。

【黛】一一九二頁の黛を見よ。

【點】一一九二頁の點を見よ。

十四畫

【鬱●】漢呉 セン ㊀のび（野火）㊁いくさび（兵火）㊂のろし（烽火）

【爐○】漢呉 ジン ㊀もえのこり、もえかす、もえさし、ほくそ㊁のこり（殘餘）あまり、災難のあと㊂亡ぼされし時僅かに殘りし人民又は一族

【爐灰】ジンクワイ もえかすと灰。「くなる。

【爐滅】ジンメツ ㊀ほろびつきる㊁もえてな

【爐餘】ジンヨ ㊀もえのこり、もえさし㊁いきのこり、殘黨、遺民。

【爛●】漢シヤク 呉サク ㊀てらす（照）㊁ひかる（光）㊂かゞやく、かゞやかす㊃あきらか（昭）

【爆●】【爆】漢ハク 呉ボク 慣用音バク

十五畫

【爍】六四三頁の爍を見よ。

十六畫

㊀やく（燒）一時にはげしく燃える㊁さく、火勢にてさける、燃えてはじける㊂火迫る㊃かわく（乾）㊄あつし（熱）

【爆沈】バクチン 水雷にて艦船を破り沈める

【爆音】バクオン 飛行機が滑走を初める時の發動機の音。

【爆破】バクハ 火藥の力でこはす。

【爆發】バクハツ ㊀火力にて破裂する㊁物事が急にやぶれる。

【爆鳴】バクメイ 爆發して高い音を出す。

【爆裂】バクレツ 火にて破り裂く。

【爆彈】バクダン 爆裂彈に同じ。

【爆聲】バクセイ 爆發する音。

【爆裂彈】バクレツダン 物に當る時直ちに爆發する如く火藥を裝置したる彈丸。

【爍●】漢シヤク 呉サク 注意れきと讀むは誤り ㊀かゞやく（輝）きらめく、光を放つ貌㊁とく（熔）とかす、とろかす、又その貌

【爍金】シヤクキン かねをとかすこと。

【爍爍】シヤクシヤク きら〳〵とかゞやく貌。

【爟】この頁の爟を見よ。

【爨】八二三頁の爨を見よ。

十六畫

【爐●】【鑪通字】【炉略字】漢呉 ロ ル ひばち ゐろり（火を蓄へる所）

【爐開】ロビラキ 茶人の家で陰暦十月一日に爐を開いて茶をたてる儀式。

【爐架】ロカ 炬燵のやぐら。

【爐頭】ロトウ ゐろりのそば、爐邊。

【爐邊】ロヘン ゐろりのそば、ろばた。

香爐カウロ　紅爐コウロ　火爐クワロ　焜爐コンロ

夏爐カロ　藥爐ヤクロ　手爐シユロ　煖爐ダンロ

十七畫

【爛●】漢呉 ラン ㊀たゞれる㊁火傷、やけどす㊂にる（火熟）にえすぎる㊃くさる（腐敗）㊄熟しすぎる、つぶれる、形がくづれる㊅あきらか（明）㊆たゞらす、たゞらかす

【爛漫】ランマン ㊀さかんなる貌㊁ちらばる貌㊂花の咲き亂れる貌㊃明らかにかゞやく貌 注意爛漫と書くは誤り。

【爛醉】ランスヰ 十分にゑふ、酩酊。

【爛熟】ランジユク ㊀果實が熟しすぎてくづれる㊁十分に其事に通達することをいふ㊂盛りを過ぎ衰微の有樣にあること

光爛クワラン　敗爛ハイラン　藥爛ヒラン　灼爛シヤクラン

焦爛セウラン　毀爛キラン　昭爛セウラン　煥爛クワンラン

熟爛ジユクラン　潰爛クワイラン　朽爛キウラン　照爛セウラン

【鶯】一一八三頁の鶯を見よ。

【鸞】一一九三頁の鸞を見よ。

【鸞】一一九三頁の鸞を見よ。

十八畫

【爝●】漢シヤク 呉サク ㊀ともしび（燈火）㊁かがりび（篝火）たいまつ㊂てらす、てる（照）

二十二畫

【鬱】一一九三頁の鬱を見よ。

二十五畫

【爨●】漢呉 サン ㊀かまど（竈）へつゝひ㊁かしぐ（炊）飯をたく㊂飯たきの女、おさん

【爨炊】サンスヰ めしをたく、炊事。

【爨妙】サンビ 飯たき女、おさん。

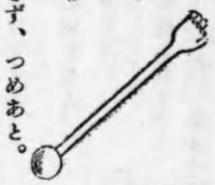
爪（ソウ）部

【爪●】【瓜別字】【爪】漢呉 サウ セウ

㊀つめ（手足の指の甲をなす角質のもの）鳥獸の指の端にある角質狀のもの、總て物のはしにあり爪の形せるもの、琴など彈ずる時指頭にかぶせるもの㊁たすけ、たのみとなるもの㊂つめ切る、爪でひつかく、爪にてあとをつける㊃とる（取）㊄つまむ（摘）

【爪牙】ソウガ 鳥の爪と獸の牙、轉じて自分の守りとなるもの

【爪杖】ソウヂヤウ まどの手といふ、背のかゆきところをかくに用ゐるもの。



（爪杖）

【爪痕】ソウコン つめきず、つめあと。

【爪楊枝】ツマヤウジ こやうじ、くろもじ。

【爪印】ツマイン 印形の代りに爪にすみ又は朱肉をつけておす、又其印。

【爪草】ツメクサ 山野に自生する多年生草本で葉は披針形をなし白い小花を開く。

（爪草）

【爪彈】ツマビキ ㊀斥けて寄せつけぬ、擯斥

する㋺三昧線を爪にて音低く彈く。

一畫

【爪】六八〇頁の爪を見よ。

三畫

【妥】二七一頁の妥を見よ。

【孚】二八四頁の孚を見よ。

【豸】九八七頁の豸を見よ。

四畫

【爬○】漢ハ　㋑かく(掻)爪でひっかくぐる㋺とる(把)　呉ベ　かく、ひきむしる、

【爬行】ハカウ　爪をかけてはい歩く。

【爬蟲類】ハチウルヰ　とかげ・わに・へび等の如く皮膚に甲鱗を被り爬行する冷血脊椎動物の總稱。

【爬羅剔抉】ハラテキケツ　㋑隱れたる物事をさぐり出す㋺人の缺點をあばく㋩隱れたる人物を探し出す。

【爭①】【爭俗字】【爭】漢サウ　呉シャウ　㋑あらそふ、あらそひ、優劣をせり合ふ㋺きそふ(競)うばひ合ふ、我先にとあらそふさま㋩いさむ(諫)㋥うったふ(訟)けんくわをする㋭をさむ(理)㋬わきまふ(辨)㋮いかでか、どうして

【爭子】サウレ　親の不善を諫める子。

【爭友】サウイウ　忠告して善導する友。「臣。

【爭臣】サウシン　君の非行を諫めて善導する

【爭訟】サウショウ　法律の定める手續を以てとりさばくこと、あらそひ、うったへ。

【爭奪】サウダツ　爭ひうばふ、とりあひ。

【爭端】サウタン　爭ひのもと、喧嘩のいとぐち

【爭議】サウギ　議論をたゝかはして爭ふ。

【爭論】サウロン　口論、意見の衝突。

【爭點】サウテン　爭ひの中心點、判斷を受けんとする事項。

【爭亂】サウラン　さうどう、みだれる。

【爭鬪】サウトウ　あらそひたゝかふ。

分爭フンサウ　喧爭ケンサウ　力爭リヨクサウ　戰爭センサウ

然爭フニサウ　兵爭ヘイサウ　雄爭ユウサウ　交爭カウサウ

【乳】四〇頁の乳を見よ。

【受】一七九頁の受を見よ。

【采】一〇六五頁の采を見よ。

五畫

【爰○】【爰】漢エン　㋑こゝに(曰)　呉ヲン　㋺ゆるし(緩)又そのさま㋩いかる(怒)㋥かふ(易)かへる㋭かなしむ(哀)㋬うれふ(愁)

【同訓異義】ここ

【爰】は於し是の意にて句頭に置く字。

【茲】は此と同義である。

【爰書】エンショ　犯罪に關する書類、獄書、

六畫

【奚】二六五頁の奚を見よ。

七畫

【覓】九四五頁の覓を見よ。

八畫

【爲①】【爲】漢呉　㋑なる、なり、たる、たり㋺つくる(作)こしらへる、生產す㋩なす、する、行ふ㋥をさむ(治)をさめる、修業す㋭なさしむ、せしむ㋬はたらき、しわざ、所業、おこなひ(行)㋮ふり、まね㋯ため、ために㋰たすく(助)すける㋱ゝらる、せらる、させらる㋲あてる、あてがふ㋳いふ、なづける㋴おもふ、みなす㋵まなぶ、習ふ㋶思ふ、おもへらく㋷まねす、いつはり裝ふ

【同訓異義】なす

【作】は物をはじめつくるの義。

【就】は共に爲したる事をしとぐる。

【成】は前に同じ。

【濟】はなしおほせるの意。

【爲】は事をするの意。

【爲人】ヰトトナリ　うまれつき、性質。

【爲方】シカタ　やりかた、仕方、仕樣。

【爲政】ヰセイ　政治を行ふこと。

【爲替】カハセ　離れし土地に金錢を送るに正金のかはりに手形を以てする方法。

有爲イウ　云爲ウン　至爲シ　作爲サク

所爲シヨ　無爲ム　與爲ヨ　施爲シ

【舜】八六七頁の舜を見よ。

九畫

【亂】四一頁の亂を見よ。

【愛】三九九頁の愛を見よ。

十畫

【孵】二八六頁の孵を見よ。

十四畫

【爵・】【爵】漢シャク　㋑さかづき、　呉サク　すゝめの形せる杯㋺くらゐ(位)官位、位階をさづく㋩つかさ(主掌)㋥すゝめ㋭くらゐ㋬爵と位。

【爵位】シヤクキ

【爵扶】シヤクフ　位と扶持、爵祿。

【爵祿】シヤクロク　前に同じ。

【爵號】シヤクガウ　公・侯・伯・子・男の五爵。

貴爵キシヤク　天爵テンシヤク　高爵カウシヤク　貶爵ヘンシヤク

玉爵ギヨクシヤク　祿爵ロクシヤク　人爵ジンシヤク　封爵ホウシヤク

豐爵ホウシヤク　顯爵ケンシヤク　名爵メイシヤク　襲爵シウシヤク

父　部

【父・】【父】漢フ　㋑ちゝ、てゝ　呉ホ　ゝおや、生れたるものより生みたるものをいふ㋩おきな(老叟)郷村の重なる老人㋥男子の美稱(多く老年)㋭おやぢ、いなかおやぢの通稱、身分いやしき老人

【父子】フシ　父と子、親子。

【父兄】フケイ　父と兄。

【父母】フボ　㋑父と母㋺子の父と母に對する如き關係にあるもの。「黨の先輩。

【父老】フラウ　一鄕一村の重立った老人、鄕

【父君】フクン　自分の父の敬稱。

【父祖】フソ　㋑祖先㋺父と先祖。

【父事】フジ　父として尊び仕ふ。「行ひし道

【父道】フダウ　㋑父として守るべき道㋺父の

【父爺】フヤ　父の謙稱、おやぢ。

【父禮】フレイ　父親につかへる道。

【父母國】フボノクニ　ふるさと、生れ故郷。

獄父ガフ　嚴父ゲンフ　諸父シヨフ　王父ワウフ

大父タイフ　君父クンフ　祖父ソフ　乃父ダイフ

繼父ケイフ　叔父シユクフ　子父シフ　舅父キウフ

伯父ハクフ　老父ラウフ　親父シンフ　高祖父カウソフ

二畫

【交】五〇頁の交を見よ。

四畫

【斧】四七一頁の斧を見よ。

六畫

【爹○】漢タ　㋑ちゝ(父)㋺目上の者を呼ぶ稱　呉ダ

【釜】一〇七三頁の釜を見よ。

九畫

【爺○】【耶通字】【爺】漢ヤ　呉ユ

㋑ちゝ(父)㋺尊敬する語、大人㋩國訓おやぢ(としより、又我父の謙稱)
【爺爺】ヤヤ ㋑父㋺大人(長上の尊稱)。

爻部

【爻◑】漢カウ 呉ゲウ ㋑易の卦をなす六つの畫段㋺ならふ(倣)㋩かたどる(象)まじはる(交)

三畫

【希】三九三頁の希を見よ。

四畫

【肴】八四三頁の肴を見よ。

五畫

【俎】七九頁の俎を見よ。

七畫

【爽◑】【爽】漢呉サウ ㋑さわやか(淸快)さつぱりしてこゝろよし、勢よし㋺あきらか(明)あかるい又そのさま㋩よあけ(昧爽)夜があけて明るい㋩ひろし、ひろ〴〵して心よし㋥神靈が明らかである㋭あらたか光りかゞやきてあかるし、又あきらかにす㋬たがふ(違)みだる、あやまる

【同訓異義】たがふ 爽・差・違其他の用法は三三五頁の差を見よ。
【爽快】サウクワイ さわやか、心地よし。
【爽氣】サウキ さわやかなる心もち。
【爽涼】サウリヤウ 涼しく心地よし。
【爽然】サウゼン ㋑爽快なる貌㋺失意の貌、ぼんやりしたるさま。

十畫

【爾●】【邇 通字】【尔 略字】漢ジ 呉ニ ㋑なんぢ(汝)㋺しかく、しか、かくの如く、このやうに、そんなに㋩しかり㋥ちかし(邇)㋭然・如・乎と共に形容の助辭㋬おほし(衆)㋣花の盛んなる貌㋠のみ(語尾にありて意味なき語)たゞそればかり、その(其)

【同訓異義】しかるに 然・爾・而等の用法は八三三頁の而を見よ。
【同訓異義】なんぢ 爾・汝・若其他の用法は五八〇頁の汝を見よ。
【爾今】ジコン このゝち、以後、自今。
【爾汝】ジジョ ㋑人をかろんじ呼ぶ稱、なんぢ、うぬ㋺親しい間柄に呼ぶ稱。
【爾來】ジライ ㋑ちかごろ㋺其後、それ以來。
【爾時】ジジ その當時、そのころ。
【爾後】ジゴ そのゝち、それより後。
【爾曹】ジサウ おまへがた、汝等。
【爾餘】ジヨ その他、そのほか。

十一畫

【樊】五四四頁の樊を見よ。

十五畫

【攀】四五六頁の攀を見よ。

二十二畫

【鬱】五五一頁の鬱を見よ。

爿部

【爿○】漢シヤウ 呉ザウ ㋑ほこ(戈)㋺わかつ、木を兩分す

三畫

【壯】二四四頁の壯を見よ。

四畫

【妝】二七一頁の妝を見よ。

【牀○床】漢シヤウ 呉ザウ ㋑ゆか、とこ、室内の板じき㋺すのこ(簀)㋩身を安座せしむる具(ねどこ、こしかけ、ねだい)㋥ゐげた

【牀几】シヤウギ 床几に作る、こしかけ、輕便にして折疊む如く作りし物。
【牀机】シヤウギ ㋑陣中又は狩場などで用ひる脚の交叉せる腰掛㋺長いこしかけ。
【牀架】シヤウカ ゆかだな。
【牀榻】シヤウタウ こしかけ、ねだい。
【牀褥】シヤウジヨク ねどこ、ねだい。

(牀 机)

六畫

【狀】六六〇頁の狀を見よ。

七畫

【奘】二六四頁の奘を見よ。

八畫

【將】三一一頁の將を見よ。

【肅】八四〇頁の肅を見よ。

七畫

【奬】二六六頁の奬を見よ。

十一畫

【槳】五四三頁の槳を見よ。
【漿】六二一頁の漿を見よ。
【臧】八五六頁の臧を見よ。

十三畫

【牆○】【墻 俗字】漢シヤウ 呉ザウ ㋑かきね、かき、へい(土塀)㋺ついぢ㋩柩をかざる衣

【牆下】シヤウカ かきねのした、かきのもと。
【牆垣】シヤウヱン かき、かきね。
【牆壁】シヤウヘキ かこひのかべ、ぬりかべ。

片部

【片●】【片 俗字】【片】漢呉ヘン ㋑ひら、木や紙のひとひら、はし、きれ、かけら㋺木をわかつ、わかたれたる木、わかつ(判)㋩さく㋥ひらく㋭一つの物事の半分、又二つのものゝ一方㋬かた〴〵㋣はなびら(花瓣)㋠英國の貨幣、ペンス(Penny. Pence)のあて字、邦貨の四錢一毛五絲に當る

【片片】ヘンペン ㋑きれ〴〵㋺かた〴〵、一方㋩斷片のひら〴〵と飛ぶさま。
【片言】ヘンゲン ㋑ひとことば、一語㋺一方のみの言ひ分、かたこと。
【片月】ヘンゲツ ゆみはり月、かたわれ月。
【片志】ヘンシ 少しの意、自己の志の謙稱。
【片時】ヘンジ かたどき、少しの時間。
【片思】ヘンシ かたおもひ。
【片書】ヘンショ 少しのかきつけ、斷簡。
【片雲】ヘンウン ちぎれぐも、わづかのくも。
【片語】ヘンゴ 片言隻語に同じ。
【片影】ヘンエイ わづかのかげ。
【片手】カタテ 片手の方、一方の手。「慈姑
【片栗】カタクリ 山野に自生する宿根草、山
【片隅】カタスミ 片方のすみ。
【片外】カタハヅシ 婦人の髮の結ひ方、髮を輪に結び、笄をぬけば直に下髮となる、德川時代に、

(片 外)

御殿女中又は武家の內室などのおもに結ひたるもの。
【片破月】カタワレヅキ 片月に同じ。
【片翼】ヘンヨク かた〴〵のつばさ。
【片假名】カタカナ 我が國字の一、漢字の偏又は旁から變態して作れるもの。
【片言隻語】ヘンゲンセキゴ 一言半句、一寸した言葉、一こと二こと。
【片務契約】ヘンムケイヤク 當事者の一方のみが義務を負ふべき契約。
【片假名信號】カタカナシンゴウ 右手に赤旗・左手に白旗をもち之を動かして種々の片假名の象形を示し通信する方法

（片假名信號）

玉片ギヨクヘン　花片クワヘン　萬片マンペン　氷片ヒヨウヘン
飛片ヒヘン　風片フウヘン　鴉片アヘン　斷片ダンペン

四畫

〔版・〕〔板〕通字〔版〕漢ハン 呉ヘン ㋑いた（板）城を築く時土を兩方よりかぶせる板㋺ふだ（簡牘）㋩戸籍台帳㊁一丈の長さ、又一說に長さ八尺或は二尺の長さ㋭しやく（笏）㋬そむく（叛）㋣戸口を記す帳簿、戸籍㋠書物を版木にほりて世にひろめる、轉じて印刷の意
【版木】ハンボク 板木に作る、文書圖畫等を印刷したる板、はんぎ。
【版本】ハンポン 板木を印刷せる書物、印本。
【版行】ハンカウ 板行に作る、書籍を印刷して世に公にすること。
【版圖】ハント 版は戸籍、圖は地圖、領土の義
【版權】ハンケン 著作物を複製又は飜譯し若しくは之れを發行する權利、現今は之れを著作權といふ。
【版牘】ハンドク 物を書くふだ、轉じて書き「もの、文書。
【版籍】ハンセキ ㋑書物㋺領土。
【版籍奉還】ハンセキホウクワン 明治維新の際諸藩が其土地人民を朝廷に返せしこと。

八畫

〔牌〇〕〔𤖺〕漢ハイ 呉ベ ㋑ふだ（凡て事物を書きしるして標示するに用ゐるもの）かけふだ、立札㋺たて（盾）㋩ゐはい、木主、又看板
【牋〇】【箋】通字 漢セン 呉ゼン ㋑君主にたてまつるかきつけ㋺かきものかきつけ㋩文書を書き記すもの、紙札等。

九畫

【肅】八四〇頁の肅を見よ。
〔牒・〕漢テフ 呉デフ ㋑ふだ（札）文字を書くもの、又文書㋺官府の命令文㋩系圖がき（系譜）㊁うつしぶみ（移文）㋭うつたへぶみ（訴狀）㋬ちやうめん（帳簿）㋣ゆかいた（牀板）
【牒狀】テフジヤウ ㋑まはしぶみ、回狀㋺役所の公文書㋩訴訟文書、うつたへぶみ。
玉牒ギヨクテフ　譜牒フテフ　書牒シヨテフ　訟牒シヨウテフ
官牒クワンテフ　錄牒ロクテフ　名牒メイテフ　簡牒カンテフ

十畫

【牕】七六三頁の窓を見よ。
【牓・】漢呉ハウ かけふだ、がく、標示するふだ

十一畫

【牖〇】【牗】俗字 漢イウ 呉ユ ㋑まど（窓）壁ある格子まど㋺ひらく、みちびく（導）いざなふ（誘）
【牎】七六三頁の窓を見よ。

十五畫

【牘・】漢トク 呉ドク ㋑てがみ（手紙）㋺文字を書き記すふだ㋩樂器の名㊁かきつけ、かきもの、文書
【牘箋】トクセン てがみ、書翰、書簡、書狀。

牙部

〔牙〇〕〔牙〕俗字〔牙〕漢ガ 呉ゲ ㋑きば、身をまもるためになるもの、きばの形したる物の總稱、又特に象のきば、象牙㋺かむ（嚙）㋩天子又は將軍の旗、又軍府の治所㊁きざし（芽）㋭はがみ、はぎしり㋬きばの形をして腰に佩びる玉㋣さいとり、賣買の仲介人
【牙人】ガジン 仲買さいとり。
【牙門】ガモン 大將軍の陣營。
【牙保】ガホ さいとり、なかゞひ。
【牙城】ガジヤウ 本城、天守、本丸。
【牙旗】ガキ 天子又は將軍の旗、竿頭を象牙を以て飾るより言ふ。
【牙營】ガエイ 大將軍の陣屋、本陣、中堅。
【牙婆】ガバ 物事の周旋をして口錢をとる老女、きもいりばゞ。
【牙錢】ガセン 手數料、口錢。
【牙籌】ガチウ 象牙のかずとり。
【牙保罪】ガホザイ 不正品の賣買を周旋して口錢をとりし罪。
爪牙サウガ　犬牙ケンガ　齒牙シガ　象牙ザウガ

三畫

【邪】一〇五五頁の邪を見よ。

八畫

【牚〇】漢タウ 呉チヤウ ㋑さゝふ（支）㋺さゝへばしら（支柱）
【雅】一一一三頁の雅を見よ。

牛（牜）部

〔牛〇〕〔牜〕漢ギウ 呉ゴ ㋑うし（獸の名）㋺星の名、二十八宿の一、ひこぼし
【牛皮】ギウヒ ㋑牛のかは㋺飴と砂糖と澱粉で製した菓子。
【牛耳】ギウジ 同盟の主人公、一團體を支配するをその團體の牛耳を執るといふ
【牛後】ギウゴ 鷄口の對、うしのしり、大なる者に從屬し支配を受くるに言ふ。
【牛旁】ゴバウ 野菜の一、牛蒡 注意 午蒡と書くは誤り。
【牛疫】ギウエキ 牛につく流行病の一。
【牛膝】ギウシツ 草の名、ゐのこづち、野邊に生じ莖に節ありて牛の膝に似てる

（牛膝）

【牛痘】ギウトウ 牛のはうそう、種痘に用ふ。
【牛飲】ギウイン 馬食の對、牛の如く飲む。
【牛酪】ギウラク 牛乳を精煉した食料品、バタ
【牛追物】ウシオフモノ 馬上で牛を追つて射つ戯れ。
【牛刀割レ鷄】ギウタウモテトリヲサク 大なる技量「を小事に用ゐることに喩ふ。
耕牛カウギウ　牝牛ヒンギウ　野牛ヤギウ　風牛フウギウ
犧牛ギギウ　肥牛ヒギウ　蝸牛クワギウ　犀牛サイギウ
【牜】國訓 うしへん 牛の字が偏に來る時の形

二畫

〔牝・〕〔牝〕漢ヒン 呉ビン 注意 ひとよむは誤り ㋑めす、めん、動物の女性（畜母）一說に飛ぶものは雌雄といひ走るものは牝牡といふ㋺たに（谿谷）㋩か

ぎのあな、かぎあな
【牝牡】ヒンボ めすとをす、雌雄。
【牝瓦】ヒングワ 屋上に仰向けにふく瓦。
【牝遊】ヒンイウ 畜類のさかりのつくこと。
【牝雞司レ晨】ヒンケイシニシンツカサドル 婦人が勢力を有し夫をさし措きて萬事を支配する

【牟○】

漢 ボウ 呉 ム
イ牛の鳴き聲の形容 ロむさぼる(貪) ハとる(取)うばふ(奪)ニかつ(勝)ホまさる(倍)ヘおほいなり(大)トすゝむ(進)チをかす(冒)リおほむぎ(大麥)ヌ土の釜 ルくらし(昏)ヲひとみ(眸)ワかぶと(兜)カ務に通ず

三畫

【牡・】【牡】

漢 ボウ 呉 ボ 慣用音 モ
イを、をん、をす、動物のをす(畜父)ロとざし(閉)とざす ハかぎ(鑰)ちやうまへ、戸のくるゝ
【牡丹】ボタン 灌木の一、初夏美麗な大輪の花を著ける、花王、洛陽花。
【牡瓦】ボグワ 屋上に下向きにふく瓦。

（牡丹）

【牡蠣】ボレイ 貝類の一種、かき。

【牢○】

漢 ラフ 呉 ロウ
イをり(牛馬を養ひ入れる所)ロひとや(罪人を容る所)らうや ハあてがひぶち ニ牛羊豕の三牲具はるを一牢といふ ホかたし(堅)又そのさま、かたむ(固)ヘあたひ(値)トとす(漉)チいけにへ(犠牲)リくら、こめぐら、米倉
【牢固】ラウコ かたし、堅固。
【牢死】ラウシ 獄中にて病死する。
【牢愁】ラウシウ 萬事思ふ如くならず不平で
【牢記】ラウキ 能く記憶する。「たまらぬ。
【牢獄】ラウゴク らうや、ひとや。「籠絡。
【牢籠】ラウロウ 人を己が術中にまるめる、

【牣・】

漢 ジン 呉 ニン
イみたす(滿)ふさぐ(塞)ロます(益)ハしなやか(柔)

【告】一九四頁の告を見よ。

四畫

【牧・】【牧】

漢 ボク 呉 モク
イ牛馬をはなしがひにす、のがひロまき、家畜をのがひにする所、牧場 ハやしなふ(畜養)ニまちはづれ(郊外)ホみる(察)ヘつかさどる(司)トをさむ(治)チのぞむ(臨)リ古代九州の長官の名、轉じて一地方を治める者、をさ(長官)ヌ田を司る官 ルつかふ(使)ヲ腹黑き牛 ワ井田の半（二牧を以て一井とす）
【牧民】ボクミン 地方の民を治める。
【牧草】ボクサウ まきばのくさ、まぐさ。
【牧者】ボクシヤ 牛馬などを飼つてゐる人。
【牧畜】ボクチク 畜類を放養すること。
【牧師】ボクシ 基督教の教會の主任者、耶蘇教の傳道者。
【牧場】ボクヂヤウ 「ろ、まき場、牧地。
牛馬などを放ちかふとこ
【牧童】ボクドウ 牛かひのこども。
【牧養】ボクヤウ 畜類を養ふこと。
【牧牛兒】ボクギウジ 牛飼ひの童子。
【牧畜時代】ボクチクジダイ 牧畜を以て生業としたる古の時代。
耕牧カウボク 民牧ミンボク 畜牧チクボク 放牧ハウボク

【物・】【物】

漢 ブツ 呉 モチ 一部音 モツ
イもの(凡てこの世に存在し形體あるものにいふ)ロこと(事)ことがら、事實又同種類の窰 ハみる(相)形狀相貌等をみたてる ニたぐふ(比)ホばけもの、怨靈ヘ動物の毛色トの國訓もの（完全の事物、本もの、出來上りしものゝと、口にいふことば、苦情、あらそひ、他語の上に冠し語調を整へる語）
【物力】ブツリヨク 物を生ずる力、生產力。
【物化】ブツクワ イ物故ロ物の變化すること
【物外】ブツグワイ 世俗のほか、世外。
【物色】ブツシヨク イ人相書にて人を探すロ一般に物事をさぐり求めること ハものゝいろ、あやめ。「なもの、ものごと。
【物件】ブツケン イ權利の目的となる物ロし
【物我】ブツガ 物と我、物界と心界。
【物怪】ブツクワイ へんげ、ものゝけ、化物。
【物界】ブツカイ 有形なる自然界の範圍。
【物故】ブツコ 死ぬこと、死。「物理學の略
【物理】ブツリ イ物の性質、物事の道理ロ
【物情】ブツジヤウ イ事物のありさまロ世間のやうす、世の中のありさま。
【物產】ブツサン 其土地に產出する物品。
【物資】ブツシ しなもの、材料。
【物象】ブツシヤウ イ物の形ロ自然の風景。
【物論】ブツロン とりさた、世間のうはさ。
【物慾】ブツヨク 物質に對する慾念。
【物質】ブツシツ 一定の容積及び重さ價値等を有する物の總稱。「の交換の比例。
【物價】ブツカ 物のねだん、貨物と貨幣と
【物議】ブツギ 世論、世間の取沙汰。
【物騷】ブツサウ 世間の樣子の穩かならぬ貌
【物權】ブツケン 直接に有體物の上に行はれ一般に對抗し得る權利。
【物體】ブツタイ イ有形にして知覺精神なきもの ロ物質より成る體形。
【物事】モノゴト いろ〳〵のこと。
【物語】モノガタリ イはなすこと、談話ロはなしの次第をかき記した草紙。
【物理學】ブツリガク 物の性質及運動・エネルギー等に就て研究する學問。「範圍。
【物質界】ブツシツカイ 有形物又は自然科學の
【物價調節】ブツカテウセツ 法令又は其他の方法により物價の高低を平調にすること
【物質的文明】ブツシツテキブンメイ 形に現はれたるものゝ文明、精神的文明の對。

五畫

英物エイブツ 幣物ヘイモツ 寶物ハウモツ 官物クワンブツ
外物グワイブツ 造物ザウブツ 三物サンブツ 品物ヒンブツ
萬物バンブツ 庶物ショブツ 群物グンブツ 方物ハウブツ
海物カイブツ 禮物レイモツ 天物テンブツ 生物セイブツ
動物ドウブツ 植物ショクブツ 尤物イウブツ 群物グンブツ
舊物キウブツ 奇物キブツ 珍物チンブツ 靈物レイブツ
樂物ラクブツ 風物フウブツ 財物ザイブツ
怪物クワイブツ 美物ビブツ 人物ジンブツ 廢物ハイブツ

【牦】

漢 バウ 呉 モウ
水牛に似て支那の西北に產する野牛その尾は長大にして旌の旄にせらる

（牦）

【犧牛兒】ゲンノシヨウコ 犧牛兒科の多年生草本で路傍畦畔等に自生し地上に匍匐し長さ四五尺に達す莖及葉は共に藥用に供せられ最も下痢に効用がある

（犧牛兒）

【牲・】

漢 セイ 呉 シヤウ
いけにへ(神を祭り、又は賓客に供へる畜類)
【牲殺】セイサツ いけにへとなる物を殺す。
【牲犢】セイトク いけにへとする牛。

【牴・觝】

漢 テイ 呉 タイ
イふる(觸)さはる、あたるロいたる(至)ハあふ(會)ニおふかた(大略)ホくひちがふ、さはる。
【牴牾】テイゴ 【牴觸】テイショク さしさはる、あたりさはる
注意 低觸と書くは誤り。

六畫

【特・牯】

漢 トク 呉 ドク 牛をうし（牡牛）㊀凡て動物のをすにいふ、又一疋のいけにへの牛㊁たゞ、ひとり（獨）ひとつ、ひとりだち（獨立）㊂たぐひ（匹）㊃ぬきんでる、格別である㊄ことに、とりわけ、別段に、格別に㊅三歳になるけもの㊆つれあひ（配偶者）

【同訓異義】ことに 特・殊・異等の用法は六九二頁の異を見よ。

【特立】トクリツ 世にぬきんでたるさま。

【特有】トクイウ そのものにのみ有する意。

【特色】トクシヨク ㊀他にすぐれたるありさま ㊁他にことなるありさま。

【特旨】トクシ 特別なるおぼしめし。

【特別】トクベツ とりわけ、なみ〳〵ならず。

【特急】トクキフ 特別急行列車の略。

【特技】トクギ 比類のなきわざ。

【特例】トクレイ 例外のしきたり、特別の例。

【特免】トクメン 特旨をもつてゆるす。「質。

【特性】トクセイ 其物のみに有する格別な性

【特命】トクメイ 特別の命令、特別の任命。

【特定】トクテイ 特別にきめる、又その定め。

【特典】トクテン 特別のおきて、特別の例。

【特効】トクカウ 特別なる効能。

【特約】トクヤク 普通以外に格別なる契約。

【特長】トクチヤウ 特にすぐれたる長所。

【特恩】トクオン 特別のめぐみ。

【特派】トクハ 特別に派遣すること。

【特待】トクタイ 特別にとりあつかふ。

【特設】トクセツ 特に其事の爲めに設ける。

【特殊】トクシユ 普通以外との意。

【特異】トクイ 特殊に同じ。

【特赦】トクシヤ 犯罪人に對し天皇の大權を以て刑の執行を免ずること。

【特賣】トクバイ 特別の廉價にて賣り出す。

【特稱】トクシヨウ 普通以外の特別の稱呼、又とくべつにとなへる。

【特許】トクキヨ 或る發明品を獨占し之を利用する特別の權利を與ふること。

【特報】トクハウ 規定の時刻外に發する報知又は責任關係にある事件以外の通報。

【特筆】トクヒツ 特別に大きく書き記す。

【特等】トクトウ とくべつによい等級。

【特發】トクハツ 特別に發すること、別仕立の發送又は報知。「に類のなき長所。

【特徵】トクチヨウ ㊀特旨を以て任官す㊁他

【特價】トクカ 特別に安くしたる代價。

【特種】トクシユ トクダネ ㊀特別なる種類㊁新聞雜誌等に於て他に記載されぬ獨特の記事。

【特選】トクセン 特に選びあげる。

【特質】トクシツ 特に其物にのみある性質。

【特點】トクテン 他に比して異なる箇所。

【特操】トクサウ 堅く守つて變らぬ操。

【特權】トクケン その人のみが特別に行ひ得る權利。

【特待生】トクタイセイ 授業料を免じ特別に待遇する優等生。

【特許權】トクキヨケン 發明又は繼承者が一定の期限内に其製作販賣使用などを專有する事を官府から許される權利。

【特別配當】トクベツハイタウ 普通の配當以外に株主に對してする配當。

【特筆大書】トクヒツタイショ 極めて顯著なることの形容、又はその事を書き記すこと。

【特設電話】トクセツデンワ 加入者に其費用を負擔せしめて架設する電話。

怪特クワイ 絶特ゼツ 殊特シユ 貞特テイ

獨特ドク 秀特シウ 奇特キ 傑特ケツ

【牽】

七畫

漢 呉 ㊀ひく（引）前方へ引きとめる㊁ひきゐる（率）引つれて行動を指揮す、又ひかれてゆく動物㊂かゝはる（拘）㊃物を引くに用ゐるもの、つな（繩）紐㊄迫りてなさしむべ星の名、たなばたの男星㊅蔓草の一、あさがほ㊆ひかる、引張られる、ひきつけられる

【同訓異義】ひく

【引】は本義は弓を引くの義なれどもその用途廣し。

【延】は引き延ばすの意。

【惹】はひきつく、ひきまとふの意。

【挽】は力を出して引張るの意。

【援】は引つかけて手前へ引寄せる意

【掣】は引きとめて自由にさせぬ意。

【曳】は地を引きづり行くの意。

【牽】は牛馬などを先きに立てゝ引き行くの意、又引きつけられて自由にならぬ意。

【輓】は挽に同じ。

牽牛【ケンギウ】㊀星の名、ひこ星㊁あさがほ

牽引【ケンイン】引きよせる、互に引合ふ。

牽制【ケンセイ】他をひきとゞめて自由を束縛する。

牽掣【ケンセイ】前に同じ。

牽牛花【ケンギウクワ】朝顏の花。

牽牛星【ケンギウセイ】牽牛の㊀に同じ。

牽强附會【ケンキヤウフクワイ】むりにこじつけること。㊁牽强附會の說。

（牽牛花）

【牾】

漢 ゴ 呉 グ 字通 さかふ、そむく、もとる

【迕・忤】

漢 ゴ 呉 グ 字通 むりにこじつけて嗜好する。

【犀】

漢 セイ 呉 サイ ㊀猛獸の一、さい㊁かたし、又兵器の堅固なるもの㊂さね（ゆふがほのさね）㊃額上の骨が髮の生際に入りて隱起するもの、貴人の相といふ㊄木犀は香木の一、もくせい

【犀利】サイリ ㊀武器の固く鋭いこと㊁文章などの勢ひのするどきこと。

【犀甲】サイカフ 犀の皮の鎧。

【犀角】サイカク 犀の角、藥用に供す。

八畫

【犂】

漢 レイ 呉 ライ 字通

㊀からすき、すき（農具の一、主として牛馬にひかせて耕す）㊁たがやす（耕）㊂夜あけごろ㊃むすぶ（結）㊄くろし（黑）又老人の皮膚の垢じみたること㊅まだらうし㊆恐れをのゝく貌

【犂牛】リギウ 黑き牛、又はまだら牛。

【犂明】レイメイ 黎明に作る、夜あけごろ。

【犂頭鯊】サカタザメ さかたぶか

又はすきえひともいふ、えひの一種で身長二尺餘りに達し常に淺海の沙底に潛在し乾して食料に供せらる、支那人はこれを魚脣と稱し

（犂頭鯊）

【牛〇】

漢 呉 ㊀奔の古字、はしる㊁國訓ひしめく（おしあひさわぐさま）

十畫

【犒・】

漢 カウ 呉 コウ ㊀ねぎらふ（勞）飲食を贈りて軍士を慰問する意㊁ねぎらひ（慰問の贈物）

【犒勞】カウラウ ねぎらひいたはる。

【犖・】

漢 呉 ラク 注意らうとよむは誤り ㊀まだらうし、雜色の牛㊁あきらか（分明）又そのさま㊂すぐれたるさま

十一畫

【犩〇】

漢 バウ 呉 メウ ㊀からうし、毛の長きもの㊁牛に似て尾の長き畜類、又其の尾㊂旄牛㊃黑色の牛

【靠】

一一三〇頁の靠を見よ。

十五畫

【犢・】

漢 トク 呉 ドク こうし（牛の仔）

【犢鼻褌】トクビコン ふんどし、ふどし。

十六畫

【犧○】漢キ　呉ギ　㋑いけにへ（神に供へる畜類にして特に毛色の純なるもの）轉じて他の爲めに身命をすてるもの㋺いけにへの牛の形を彫りたるさかだる㋩翡翠にて飾りたる酒器

【犧牲】ギセイ　㋑天地宗廟を祭るに用ゐる生きたる牛㋺或る目的を遂せしめん爲めに提供したもの。

【犨○】漢シウ　呉シュ　㋑人名㋺牛の息する

犬部

【犬。】【犬】漢呉ケン　㋑いぬ（家畜の一にて大なるを犬、小なるを狗）㋺俗に刑事のことを犬といふ

【犬馬】ケンバ　㋑犬と馬㋺己が勞力の謙稱。

【犬羊】ケンヤウ　㋑犬と羊㋺つまらぬものゝ

【犬戎】ケンジユウ　西方の夷狄の名。（喩へ。）

【犬猿】ケンエン　㋑いぬとさる㋺非常に仲のわるきに喩ふ。

【犬張子】イヌハリコ　玩具の一種、張子細工にて作る、背は面を小兒に似せ體は臥せる犬の姿とし小兒の誕生の時其傍に置きて魔除にした、今は面身共に犬に似せて專ら宮參の贈物とす

（犬張子）

【犬馬勞】ケンバノラウ　自己の骨折りをいふ。

【犬追物】イヌオフモノ　鎌倉時代の武人の遊戲、鎌朝が武士に武事を練らしめんがため犬を放ちて騎射せしめし遊戲

（犬追物）

【犬兎之爭】ケントノアラソヒ　犬兎相爭ひて共に斃れ田夫の獲る所となりし故事に因み二者利を爭ひ却つて第三者の爲めにその利を奪はれるを喩へていふ。

【犬馬之齒】ケンバノヨハヒ　己れの年齡の稱。

蜀犬ショクケン　田犬デンケン　食犬ショクケン　疾犬シツケン

鷙犬ドケン　猛犬マウケン　怪犬クワイケン　守犬シユケン

吠犬ハイケン　特犬トクケン　駿犬シユンケン　義犬ギケン

狂犬キヤウケン　乳犬ニユウケン　獵犬レフケン　愛犬アイケン

【犭】㋑犬字が漢字の偏に來る時の形㋺國訓けものへん、いぬへん

二畫

【犯。】【犯】誤字【犯】漢ハン　呉ボン　㋑をかす、しのぐ（凌）ふれる（觸）あたる（當）抵抗す、たがふ（違）さかふ、反對す、法を無視す、おきてを破る、女を姦す、うちかつ㋺こゆ（越）㋩うつ（伐）うち入る、亂入す㋥しでかす、引おこす

【同訓異義】をかす　犯・侵・干其他の用法は七七頁の侵を見よ。

【犯人】ハンニン　法律上の罪を犯したる者。

【犯則】ハンソク　規則ををかしそむくこと。

【犯意】ハンイ　罪を犯すこゝろ、故意。

【犯行】ハンカウ　罪を犯す行爲。「不法行爲。

【犯罪】ハンザイ　法律上の刑に處せらるべき

三畫

【犴。】漢呉カン　ガン　㋑のいぬ（野犬）のらいぬ㋺村里にある監獄

【吠】一九五頁の吠を見よ。

【犲】九八七頁の犲を見よ。

四畫

【狀。】【狀俗字】【状】漢ジヤウ　呉ザウ

㋑かたち、すがた、なりふり、ありさま、おもむき、情況㋺のぶ（陳）ありさまを語る、次第を話す㋩有樣やおもむきを表示す㋥かきつけ、ふだ、てがみ、文書（特に書狀）

【狀況】ジヤウキヤウ　やうす、もやう。

【狀袋】ジヤウブクロ　手紙を入れる袋。

【狀差】ジヤウサシ　手紙をはさみておく具。

【狀詞】ジヤウシ　訴訟に關する書類。

【狀貌】ジヤウバウ　すがた、顏かたち。

【狀態】ジヤウタイ　やうす、有樣。

異狀イジヤウ　奇狀キジヤウ　美狀ビジヤウ　牒狀チヨウジヤウ

殊狀シユジヤウ　無狀ムジヤウ　陳狀チンジヤウ　貌狀バウジヤウ

形狀ケイジヤウ　儀狀ギジヤウ　行狀ギヤウジヤウ　容狀ヨウジヤウ

姿狀シジヤウ　白狀ハクジヤウ　書狀ショジヤウ　情狀ジヤウジヤウ

【狂○】【狂】漢キヤウ　㋑くるふ、氣がふれる、狂人になる㋺きちがひ、精神の狂ふ病氣、又その人㋩さわぐ（騷）あばれる㋥まどふ（惑）まどはすくるはす㋭犬の走る貌㋬國訓くるふ、くるひ（戲れ遊ぶ、機械が損ずる、あてが外れる、心が亂れる、正しくなくなる）

【狂人】キヤウジン　きちがひ、精神病者。

【狂犬】キヤウケン　㋑かみつく犬、狂狗㋺恐水病にかゝりし犬。

【狂夫】キヤウフ　狂人、きちがい、また馬鹿なおこなひをする者。

【狂句】キヤウク　俳句の一、おどけの窟をふくむもの。

【狂妄】キヤウバウ　狂ひて道にたがふ。

【狂言】キヤウゲン　㋑理にたがひたる言、又は常度にはづれし大言㋺古の俳優、田樂に屬し又は能樂の間に行ふおどけのしぐさをなすもの㋩歌舞伎芝居のしくみ㋥特にしくんだいつはりごと。

【狂奔】キヤウホン　或事に熱中して奔走する

【狂死】キヤウシ　氣がくるつてしぬ。

【狂風】キヤウフウ　つよき風、暴風。

【狂氣】キヤウキ　氣がふれる、きちがひ。

【狂喜】キヤウキ　喜びて常態を失ふさま。

【狂亂】キヤウラン　くるひみだれる貌。

【狂歌】キヤウカ　㋑歌道に準ぜずしておどけたる歌㋺狂人じみたる辭にて歌ふ。

【狂態】キヤウタイ　狂人じみたる行爲。

【狂熱】キヤウネツ　狂人じみるほどの熱心。

【狂暴】キヤウバウ　狂人じみて亂暴なること

【狂濤】キヤウタウ　あれくるふ大波。

【狂躁】キヤウサウ　物くるはしくさわがしいこと、心が狂ふて落付かぬ。

【狂瀾】キヤウラン　㋑はげしくあれくるふ波㋺物事の崩れ衰ふるにたとへていふ。

【狂犬病】キヤウケンビヤウ　狂犬にかまれて生ずる病氣、恐水病。

【狂言綺語】キヤウゲンキゴ　人情に投ずるやうにかざつた文章。

愚狂グキヤウ　清狂セイキヤウ　酒狂シユキヤウ　醉狂スキヤウ

猖狂シヤウキヤウ　顚狂テンキヤウ　酢狂サキヤウ　悖狂ハイキヤウ

【狆○】漢呉チユウ　㋑貴州・雲南地方の蠻族の名㋺ちん（犬の一種）

（狆）

【狃●】漢ヂウ　呉ヌ　㋑なる、なれて意に介せぬ㋺たゞす（正）㋩足あと㋥ゆび（指）㋭むさぼる（食）

【狄●】漢テキ　呉ヂヤタ　㋑えびす、北方のえびす、王化に浴せぬ民㋺下士㋩おほしか㋥とほし（遠）㋭いそがし（忙）㋬諸侯の奥方の署物㋮低き位の伶人㋯音聲のはやきさま

【戾】四一八頁の戾を見よ。

五畫

【狐○】【狐】漢呉コ　きつね（野獸の一）㋑哺乳

類中の食肉獸で山野の穴に棲み夜出て食物をさがす㋺奸佞な人、又娼妓の異稱㋩いなりずし㋥きつねうどん。

（狐）

【狐臭】コシウ わきが、腋臭。
【狐狸】コリ 狐とたぬき、又は單に狐。
【狐惑】コワク うたがひまどふ。
【狐媚】コビ 巧みにこびへつらふこと。
【狐貉】コカク きつねとむじな。
【狐疑】コギ 疑深きにいふ、うたがひ惑ふ。
【狐憑】コヒヨウ きつねつき。
【狐格子】キツネカウシ きつねまど。
【狐鼠之盜】コソノタウ 小盜人、あきすねらひ

妖狐エウコ 三狐サンコ 輕狐ケイコ 隴狐ロウコ
疑狐ギコ 雄狐ユウコ 短狐タンコ 奔狐ホンコ
素狐ソコ 神狐シンコ 城狐ジヤウコ 群狐グンコ
文狐ブンコ 巨狐キヨコ 白狐ビヤクコ 野狐ヤコ

〔狗•〕〔㺃〕 漢コウ 呉ク ㋑いぬ（家畜の一）㋺犬の小さき犬㋩熊虎の子

【狗盜】クタウ 小盜人、こそどろ。
【狗鼠】クソ 人格のいやしき者に喩へいふ
【狗馬心】クバノココロ 我まごゝろの謙稱。

韓狗カンク 天狗テング 木狗ボクク 狂狗キヤウク
傑狗ケツク 功狗コウク 疾狗シツク 屠狗トク
牲狗セイク 吠狗ハイク 走狗ソウク 良狗リヤウク
庸狗ヨウク 短狗タンク 乳狗ニユウク 狎狗カフク

【狎•】 漢カフ 呉ケフ ㋑なる、手なれる、習熟す㋺ちかづく（近）したしむ（親）㋩なれあなどる、かろんず（輕）㋥たはむれる（戲）㋭かはるがはる（交）㋬やすんず（安）

【同訓異義】なるる
【狎】はなれなれしくなじむの義。
【褻】はなじみて心安くなる意。
【馴】は人になれるの意。

【狎愛】カフアイ 近づけて愛す、又その者。
【狎褻】カフセツ みだりがはしき意。

【狒•】 漢ヒ 呉ビ ㋑ひゝ（人に似たる怪獸にして獰猛人をも食ふ）㋺淫慾さかんなる人

（狒）

【狙•】 漢シヨ 呉ソ ㋑さる、てながざる、又やまこ㋺わるがしこし（狡猾）㋩ねらふ、うかゞふ（窺）見當をつける

【狙害】ソガイ 時機を窺ひて妨害を加ふ。
【狙擊】ソゲキ ねらひうつ。
【狙獲】ソクワク おほざる（猿の一種）。

【狛•】 漢ハク 呉ヒヤク ㋑狼に似たる獸㋺國訓こま（こまいぬ）

【狛犬】コマイヌ 高麗から渡つて來た犬の象を石に彫りつけ神社の前庭などにすゑておくもの。

（狛 犬）

【吠】 六八九頁の吠を見よ。

六畫

〔狡•〕〔㹱〕 漢カウ 呉ケウ ㋑顔は美くしいが心がねぢけてゐる㋺又もとる（戾）㋩くるふ（狂）氣がふれる㋥はやし（疾）はしこい、すばやい㋭わるがしこし（獪）ずるい㋬みだる（猾）

【狡兎】カウト すばやいうさぎ、ずるい兎。
【狡智】カウチ わるがしこきこと。
【狡童】カウドウ わるがしこいこども。
【狡猾】カウカツ わるがしこくずるい。
【狡獪】カウクワイ 前に同じ。

〔狩•〕〔狩〕 漢シウ 呉シュ ㋑かり、鳥獸を捕へること、特に冬期の獵㋺草を燒き

拂ひすてる㋩かる、かりす㋥命を受けて守る土地、任地

【同訓異義】かる 狩・獵・蒐其他の用法は八九七頁の蒐を見よ。

【狩衣】カリギヌ 昔の官服の一種。
【狩獵】シユレフ かり、蒐狩。
【狩野派】カノハ 明應年間狩野正信の創始せる畫風。
【狩裝束】カリシヤウゾク 昔時、狩獵に用ひし裝束、袖細に直垂を着け、行縢をはき、太刀を佩び、鎧通をたばさみ、竹笠又は綾藺笠を被り、重籐の弓を持ち征矢を携ふるを正式とした。

（狩 衣）

（狩裝束）

【狢•貉】 漢バク 呉ミヤク 漢呉カク むじな（狸に似たる野獸）

【狠○】 漢グワン ゲン 呉ギン ゴン 慣用音コン ㋑犬の鬪ふ聲、かみ合ふ㋺もとる

【狠戾】コンレイ ねぢける、もとる。

【独】 六六七頁の獨を見よ。

【狗】 三七〇頁の徇を見よ。

【臭】 八六〇頁の臭を見よ。

七畫

〔狸○〕〔貍〕〔𤞞〕 漢呉リ たぬき、野獸の一

【狸爺】タヌキヂヂ そらとぼけて心の横著なる男。
【狸寢入】タヌキネイリ ねたふりをしてゐること、「と、そらねいり。

〔狹•〕〔陜〕通字〔狭〕 漢カフ 呉ケフ 慣用音ケフ ㋑せまし（廣の對）小さい、多くない㋺せばむ、せばまる、又せましとす

【同訓異義】せまし
【狹】は廣または闊の反對である又心のせまきにも用ふ。
【窄】は寬の反對で狹又は隘である。
【褊】は衣服の身幅のせまきをいひ又土地又は心のせまきにも用ひる。
【隘】は谷間などのけはしく、せまき意又心のせまきにも用ふ。

【狹小】ケフセウ 狹くしてちひさし。
【狹軌】ケフキ 軌條の狹き鐵道、幅三呎六吋以內のもの（廣軌の對）。
【狹窄】ケフサク せまし、せまき貌。
【狹斜】ケフシヤ ㋑支那長安の曲巷にして娼婦の住みし所㋺轉じていろまち、遊里。
【狹量】ケフリヤウ 心が小さい、度量が狹い。
【狹義】ケフギ 範圍をせまくして見た意味。
【狹隘】ケフアイ せまし、てぜま。

〔狼○〕〔狼〕 漢呉ラウ ㋑おほかみ（野獸の一）㋺みだる（亂雜）㋩狼の如く殘忍にして物をそこなふもの㋥あはてる、うろたへる

（狼）

【狼火】ラウクワ のろし、狼煙。
【狼戾】ラウレイ ㋑ねぢけて道理に反く㋺ごた〱とちらばる、狼藉。
【狼抗】ラウカウ 心がむしやくしやして人に逆らふ。
【狼狽】ラウバイ 字解の㋥を見よ。
【狼疾】ラウシツ ㋑反省する能はざること。
【狼藉】ラウゼキ ㋑物の縱橫に散亂する貌、㋺亂行、暴行[注意]狼籍と書くは誤り。

〔狽•〕〔狽〕 漢呉バイ ㋑狼の一種㋺狼狽はあわつ、うろたへる

【狷○】漢呉 ㋑せまし(狹)ためらふ ケン（猶豫）㋺氣みぢか、短慮㋩片意地といはれる程義を固守する

【狷介】ケンカイ ㋑かたいぢ㋺人を容れる度

【狷狹】ケンケフ 心がせまい、狹量。「量が狹い

【狷○】漢 ギン 呉 ゴン 狷々は犬の爭ひかみあふ聲

八畫

【猛・】【猛】漢バウ 呉ミャウ 慣用音マウ

㋑たけし、たけ〳〵し、あらあらし、きびし、つよし(强)㋺わるし(惡)㋩いかる(怒)㋥やぶる(破)㋭殘酷、ひどい

【猛士】マウシ たけきものゝふ。

【猛火】マウクワ 勢ひはげしき火。

【猛志】マウシ 堅固なるこゝろざし。

【猛虎】マウコ 猛くあらき虎。

【猛雨】マウウ 激しき雨。

【猛威】マウヰ はげしき勢ひ、盛んなる勢。

【猛省】マウセイ 深く自らかへりみる。

【猛惡】マウワク ㋑强くして惡し㋺勢ひ强し

【猛烈】マウレツ ㋑たけくしてはげし㋺いきほひのはげしきさま。

【猛將】マウシヤウ 勇悍なる大將。

【猛進】マウシン 勢ひはげしく進む。

【猛然】マウゼン 勢のはげしき貌。

【猛獸】マウジウ 性質の荒々しき獸類の總稱

剛猛ガウマウ 勁猛ケイマウ 精猛セイマウ 激猛ゲキマウ

雄猛ユウマウ 武猛ブマウ 勇猛ユウマウ 驍猛ゲウマウ

【猊○貌】漢 ゲイ 呉 ガイ 獅子の類㋺佛敎にて獅子座の意(高僧の座席)

【猊下】ゲイカ 高僧を敬して言ふ語。

【猊座】ゲイザ 佛座の敬稱、獅子の座。

【猋○】漢 つむじかぜ(旋風)はやて

【猋風】ヘウフウ はやて、つむじかぜ。

【猖○】漢 シヤウ 呉 シヤウ ㋑あばれる、たけくるふ㋺あばれ廻る

【猖獗】シヤウケツ 勢の盛んなるにいふ、はげしくあばれまはる。

【猗○】漢 イ 呉 イ ㋑去勢したる犬㋺つよき犬㋩つく(附)㋥すなほ、又女の形容㋭樹木等のしなやかなるさま㋬歎息の聲、あゝ㋮すなほなるさま㋯調子を整へる爲め語尾に置くことばりさゞなみ

【猜○】漢 サイ 呉 せい 注意 ㋑うたがふ(疑)うたがひ㋺そねむ、ねたむ(嫉)㋩もとる(很)㋥うらむ㋭他の美しきをきらひにくむ

【猜忌】サイキ 疑ひそねむ、いみそねむ。

【猜疑】サイギ そねみ疑ふ、ねたみて氣をまはす 注意 せいぎと讀むは誤り。

【猝・】【猝】【卒通】漢 ソツ 呉 ソチ

【同訓異義】 にはか にはかに、にはかに、だしぬけ

法は一〇五二頁の遽を見よ。

猝・卒・遽其他の用

【猝然】ソツゼン にはかに、だしぬけに。

【然】六三九頁の然を見よ。

【猟】六六八頁の獵を見よ。

【獼】六六九頁の獼を見よ。

九畫

【猥・】【猥】漢ワイ 呉エ 注意 わい と讀

㋑おほし(多)さかんなり(盛)㋺みだる、入りまじる(亂雜)㋩みだりにす、混雜さす㋥みだら、けがらはし、又そのこと、情事をつゝしまぬ㋭みだりに、やたらに㋬謙讓の辭に用ふ

【同訓異義】 みだり 猥・妄・濫其他の用法は二六九頁の妄を見よ。

【猥雜】ワイザツ どたまぜになる、亂雜。

【猥婆】ワイセツ ㋑みだりがましきこと㋺色情を起し若くは發動せしむる醜行。

凡猥ボンワイ 悲猥ヒワイ 積猥セキワイ 紛猥フンワイ

【猪俗字】【豬○】【猪】漢呉 チヨ

㋑ゐのこ、ゐのしし、㋺我國の十圓紙幣の異名

【猪口】チヨク ㋑形の小なる酒杯㋺菌の名。

【猪突】チヨトツ 猪の如く向ふ見ずに突進む、眞一文字に進む貌

【猪勇】チヨユウ 猪の如く眞一文字に進むこと、向ふ見ずの勇氣。

【猪鼻】チヨビ あふむきたる鼻、しゝばな。

【猪顆】チヨケイ 人の頸の短くして猪の如くなるをいふ、ゐくび

【猪牙船】チヨキフネ 明暦年間江戸で作られし細長く早き川船、猪牙。

【猪武者】ヰノシシムシヤ 向ふ見ずの勇者。

（猪）

（猪牙船）

【猫俗字】【貓○】【猫】漢 ベウ 呉 メウ

ねこ、家畜の一

【猫兒】ベウジ 猫の子。

【猫車】ベウシヤ 荷物を運送する一輪車。

【猫眼】ベウガン 猫の眼の如く物事が時々變ること。

【猫額】●コビタヒ 狹き所、又せまき土地。

【猫額大】ベウガクダイ 猫の額程の廣さ。

【猫自殺】ネコジサツ 劇藥「猫イラズ」を嚙みて自殺するを略していふ。

【猫撫聲】ネコナデゴエ 殊更にやさしく裝うた聲、おべつか聲。

（猫車）

【猶○】【猶】漢 イウ 呉 ユ

㋑さる、猿の屬にして疑ぶかき獸㋺ためらふ、疑惑、決せぬさま㋩なほ、まだ、引つゞきて、さら、だに、いまも、やはり㋥より、から㋭はかりごと㋬うごかす、うごく㋮かくのごとし㋯「なほ何々す」と讀みかへしてよむ

【同訓異義】 なほ

【仍】はその上に尙ほ重ねての意。

【尙】は其上に尙ほ加へたすの意。

【猶】はやはりの意である。

【猶子】イウシ ㋑猶ほ子の如しの意、兄弟の子、をひ(甥)㋺養子、義子。

【猶豫】イウヨ ㋑遲疑して決せず㋺一定の期日を延すこと。

【猶太敎】ユダヤケウ ユダア人の宗敎、キリスト舊敎。

【猩○】漢 サウ セイ 呉 シヤウ ㋑しやうゝ（猴の屬）㋺想像上の動物(能く酒をのみ蟬ふもの)

【猩猩】シヤウジヤウ ㋑獸の名㋺大酒家

【猩紅熱】シヤウコウネツ 身體が赤くなり烈しく熱の發する病氣

【猩猩草】シヤウジヤウサウ 大戟科の一年生草本で莖の高さ一二尺夏秋の候枝梢上の數葉は紅色を呈して花瓣狀をなし其間に數箇の綠黃色なる小花が咲き觀賞用として庭園に栽培せられる。

【猩猩緋】シヤウジヤウヒ 鮮かなべに色。

（猩猩）

（猩猩草）

【猴○猴】漢 コウ 呉 ク さる、ましら（獸の一）

【猷・】漢 イフ 呉 ユ ㋑みち(道)㋺はかる(謀)はかりごと㋩いつはり(詐)㋥ゑがく(圖)㋭ごとし(若)㋬咲酔、あゝ

【猨】この頁の猿を見よ。

【獻】六六九頁の獻を見よ。

十畫

【獄●】【獄】漢 ギョク ㋑うつたへ、さばき、つみ（罪）㋺ひとや、らうや、罪人を入れ置く所 呉 ゴク

【同訓異義】うったう　獄・愬・訴其他の用法は九五七頁の訴を見よ。

【獄丁】ゴクテイ 牢番、獄卒、看守。

【獄囚】ゴクシウ 牢屋にある罪人、囚人。

【獄卒】ゴクソツ 獄丁に同じ。

【獄門】ゴクモン ㋑獄屋の門㋺斬罪に處せられし者の首をさらすこと。「死ぬ。

【獄死】ゴクシ 牢屋で

【獄吏】ゴクリ 囚人を扱ふ官吏。

【獄舍】ゴクシヤ らうや、かんごく。

【獄則】ゴクソク 囚人の守るべき規則。

【獄裡】ゴクリ 牢屋のうち、牢内。

【獄窗】ゴクサウ 牢屋のまど、牢獄の中。

決獄ケツゴク　斷獄ダンゴク　折獄セツゴク　地獄ジゴク　牢獄ラウゴク　亂獄ランゴク　訟獄ショウゴク　陰獄インゴク

（門　獄）

【獅○】【狮】漢 シ 呉 シ 猛獣の名、しゝ、ライオン

【獅子吼】シシク ㋑獅子が一たび吼ゆれば百獣は威服する如く、又佛一たび法を說けば惡鬼外道も說服せらるゝといふ喩から轉じて雄辯の形容辭㋺强悍なる妻が夫を怒鳴りつけること。

【獅子座】シシザ 佛又は高僧の坐る座席。

【獅子舞】シシマイ 獅子頭を被りて舞ふ舞、もと神事に奏せし舞樂なりしが後世俗間には惡魔を祓ふ意のものとして行はる。

【獅子頭】シシガシラ ㋑獅子の頭に似せてつくつた木製の具㋺櫛齒狀の葉を有し山地に自生する羊齒類㋩體が丸く肥えて頭上に肉疣のある金魚。

【獅子身中蟲】シシシンチウノムシ 獅子の身中に寄生する害蟲の如く內部にひそみ居て禍をなす者。「る如く激しき勢ひ。

【獅子奮迅勢】シシフンジンノイキホヒ 獅子の荒れ

（子　獅）

（獅子舞）

（頭子獅）

【猿○】【猨】漢 エン 呉 ヲン さる、ましら

【猿若】サルワカ ㋑寛永年中中村勘三郎の創めたる歌舞伎、猿樂より出でたるが故に此名あり㋺歌舞伎の猿若の眞似をしてあるく乞食。

【猿猴】エンコウ 手長猿、ましら。

【猿臂】エンピ 猿のひぢの樣な長い臂。

【猿劇】エンゲキ さるしばゐ。「止めるもの。

【猿轡】サルグツワ 口にふくませて聲を出すを

【猿樂】サルガク 滑稽を演ずる一種の舞樂。

【猿智慧】サルジエ しめくゝりなき才智。

【猿猴草】エンコウサウ 毛茛科の宿根草、水邊に生ず莖は地に就きて延び葉は圓形心臟狀にて長き花莖を有す花は小形黃色を盆栽として高く釣る時は花莖は垂れて手長猿の手の如きより此名あり

駄猿ダエン　窮猿キユウエン　心猿シンエン　猴猿コウエン

（若　猿）

（草猴猿）

【猾●】漢 クワツ 呉 カチ ㋑わるがしこし（黠）ずるい㋺みだる（亂）さわがす㋩もてあそぶ（弄）

【猾賊】クワツゾク 狡猾で人を害する。

十一畫

【獘●】漢 シヤウ 呉 サウ すゝむ、ほめすゝむ

【獐○】漢 シヤウ 呉 サウ しか（麋の類）の

【獲】九八八頁の貘を見よ。

十二畫

【獗●】漢 ケツ 呉 クワチ ㋑たける（哮）㋺くるふ（狂）㋩たけり狂ひて盛んにはびこる

【獞●】漢 キツ 呉 キチ ㋑おどろく（驚）あわてる㋺くるふ（狂）㋩はしる（走）とぶ（飛）

【獘】三五九頁の弊を見よ。

【器】二一四頁の器を見よ。

【獸】一一九一頁の獸を見よ。

十三畫

【獨●】【独】略字【独】漢 トク 呉 ドク ㋑ひとりもの、ひとり、ただひとり、相手がない、人の補助を受けぬ㋺單に其事に限る意味をあらはす語㋩のみは、何々のみは二國の名（獨逸の略）

【獨力】ドクリヨク 自分一個のちから。

【獨占】ドクセン 他の競爭者をしりぞけて己れ一人にて利を占む、ひとりじめ。

【獨立】ドクリツ 人によらず己一人の實力にて生活活動する意。

【獨自】ドクジ 衆に秀で其者只一人の意。

【獨行】ドクカウ ㋑つれなくしてたゞ一人行く㋺己一個の力にて事をなす。

【獨身】ドクシン ㋑自分一人、單身㋺ひとり身、つれあひなくして暮す者。

【獨房】ドクバウ ㋑はなれざしき㋺一人入れる部屋㋩囚人を一人入れて置くところ

【獨吟】ドクギン 一人にて詩歌を作り歌ふ。

【獨步】ドクホ ㋑才能秀で並び進む者なき貌㋺獨り步く。「吟唱する、ソロ。

【獨唱】ドクショウ 樂譜により一人で詩歌を

【獨活】ドククワツ 植物の名、うど。

【獨得】ドクトク 他に學ばず自ら會得する。

【獨酌】ドクシヤク 相手なく一人で酒を飲む

【獨裁】ドクサイ 君主の獨斷を以て政治を行

【獨修】ドクシウ 獨學にて勉强する。「ふ。

【獨奏】ドクソウ 一人で音樂をかなづる。

【獨特】ドクトク 其ものゝみ有する意 注意 正しきは獨得と書く。

【獨創】ドクサウ 他に模倣せず自己自身より出でたる思想、又はその作物。

【獨語】ドクゴ ㋑ひとりごと、相手なくして物をいふ㋺獨逸語の略。

【獨尊】ドクソン 自分のみ尊しとする。

【獨善】ドクゼン 自分だけをよくする。

【獨學】ドクガク 師友のたすけなく己れ一人にて學問すること。「の一、こま。

【獨樂】ドクラク ㋑己れ一人の樂しみ㋺玩具

【獨擅】ドクセン 我が思ひの儘になす意 注意 **どくだん**と讀むは誤り。

【獨斷】ドクダン ㋑己一人にてきめる㋺研究もつまず確かな證明もせず唯斯くあるべしと判斷する。

【獨嘯】ドクセウ 獨りうそぶく。「を有する者

【獨立人】ドクリツニン 完全な私權行使の能力

【獨木橋】ドクボクケフ まるきばし、獨梁。

【獨任制】ドクニンセイ 一人の官吏を以て或職務を掌らしめる制度。

【獨立國】ドクリツコク 他國の干涉を受けずして獨立權を有する國。

【獨眼龍】ドクガンリウ かたための英雄。

【獨壇場】ドクダンヂャウ　己れ一人の勢力範圍
【獨案内】ヒトリアンナイ　讀めば十分判るやうにしてある書物。
【獨舞臺】ヒトリブタイ　㋑一人の役者で技を演ずる㋺己れ一人で思ひのまゝに振舞ふ
【獨立自尊】ドクリツジソン　獨力を以て事を行ひ己の人格を高め卑劣なことをせぬ意
【獨立自營】ドクリツジエイ　獨力にて事業を營む
閑獨カン　孤獨コドク　專獨センドク　寡獨クワドク

【獪・】漢　クワイ　㋑わるがしこし（黠）㋺惡才多き
呉　ケ
貌㋩みだる（亂）
【獪猾】クワイクワツ　狡猾、わるがしこし。

十四畫

【獲・】【蒦俗字】【穫別字】漢　クワク　呉　ギャク　㋑う（得）狩して獸を捕ふ、又その獲物、負ふ、せおふ㋺手に入れる、とる、とらへる㋩えらる、信ぜらる、氣に入る㋥けがれる、けがされる、つかれるさま㋭戰時の分捕品㋬苦しみ㋣昔の勇士烏獲の名㋠はしため、下婢
【獲得】クワクトク　得る、取る、手に入る。
【獲物】エモノ　㋑狩又は漁りにて得たるもの㋺自分のえてな武器。
漁獲ギョクワク　採獲サイクワク　捕獲ホクワク　禽獲キンクワク

【獖○】漢　ヒン　呉　ビン　かはをそ（獺の異名）一說には獺の小なるもの、又獺の屬
【獰○】漢　ダウ　呉　ニャウ　あし（惡）容貌がにくゝし、性質があら〳〵し（荒）あら〳〵しくきつい
【獰猛】ダウマウ　わるづよい、强暴注意ねいもうとよむのは誤り。

十五畫

【獵・】【獵俗字】【猟略字】漢　レフ　呉　ロウ　㋑かり、鳥獸を狩りとらへること、特に冬の獵（春は蒐、夏は苗、秋は獮といふ）㋺かる、かりをす、又とらふ（捕）㋩うどかす（震）㋥しへたぐ（虐）㋭ふ（歷）㋬つぐ（次）㋣ふむ（踏）㋠風のふくさまり國訓すなどり（魚をとる）
【獵犬】レフケン　狩獵に使役する犬。
【獵夫】レフフ　獵師に同じ。
【獵期】レフキ　狩獵を許される時期。
【獵服】レフフク　狩獵の時のきもの。
【獵師】レフシ　かりうど、獵人。
【獵銃】レフジウ　狩獵に用ゐるてつぱう。
【獵場】レフバ　狩する場所、かりくら。
【獵獵】レフレフ　風の吹く貌
【獵虎】ラツコ　體長は三四尺ばかり、形は狸に似て脚は鰭狀をなし趾間に蹼膜を張り柔密な美毛を有する海獸。

（獵虎）

【獸・】【獸】漢　ジウ　呉　ジュ　㋑けものの、けだものㅁほじゝ
【獸心】ジウシン　獸の如き心、人道にもとれ
【獸革】ジウカク　獸類のなめしがは。「る人。
【獸行】ジウカウ　人道にそむきたる行爲。
【獸疫】ジウエキ　獸類の流行病。
【獸炭】ジウタン　獸の骨を燒いて造る炭。
【獸畜】ジウチク　㋑けものㅁ畜類の如く扱ふ
【獸慾】ジュウク　下劣なる情慾。「する醫師。
【獸醫】ジウイ　牛馬など家畜の疾病を治療
海獸カイジウ　奇獸キジウ　禽獸キンジウ
鳥獸チウジウ　猛獸マウジウ　毒獸ドクジウ
野獸ヤジウ　怪獸クワイジウ　瑞獸ズイジウ　仁獸ジンジウ　馴獸ジュンジウ

【獷・】漢　クワウ　呉　ソウ　㋑あら犬ㅁあらし、粗野、あし（暴惡）

十六畫

【獻・】【献俗字】【獻】漢　ケン　呉　コン　㋑たてまつる（神佛又は目上に物をさしあげると）すゝむㅁかしこし（賢）又その人㋩國訓こん（酒を進めてさす杯の數、料理の取合せ、献立）
【獻上】ケンジヤウ　さしあぐ、たてまつる。
【獻本】ケンボン　書物を進呈すること。
【獻呈】ケンテイ　献上に同じ。
【獻芹】ケンキン　人に物を贈る謙辭。
【獻身】ケンシン　㋑一身をなげ出すㅁ己が利害を顧みず全力をつくして事に當る貌
【獻金】ケンキン　金子を奉納する。
【獻納】ケンナフ　たてまつり納む、奉納。
【獻替】ケンタイ　君主を補佐すること。
【獻歲】ケンサイ　一月一日、歲首。
【獻酬】ケンシウ　杯のやりとり。
【獻策】ケンサク　よき謀策をすゝめる。
【獻謀】ケンバウ　はかりごとを進む、献策。
【獻立】コンダテ　料理の組合せ。
【獻立表】コンダテヘウ　料理の種類を組合せ書付けて表示したるもの。
禮獻レイケン　嘉獻カケン　文獻ブンケン　進獻シンケン
貢獻コウケン　奉獻ホウケン　納獻ナフケン　登獻トウケン

【獺・】漢　タツ　呉　タチ　慣用音　ダツ　注意らい と讀むは誤り、かはをそ、かはうそ

十七畫

【獮○】漢呉　㋑さる、ましら（猴の一種）ㅁはゝざる（母猿）おほざる
【獮猴】ビコウ　さる、ましら。
【獮猴桃】シラクチ　獮猴桃科の落葉灌木、老大なものは高さ數丈に達し周圍二尺に及ぶ五六月頃梅花に似た帶綠白色の花を着く果實は楕圓形にして大さ鷄卵の如く甘味ありて食用に供せられ木材及樹皮は種々の用途に供せらる。

（獮猴桃）

二十畫

【獲・】漢　クワク　呉　コク　おほざる、大猿、大猨

玄　部

【玄○】【玄】漢　ケン　呉　ゲン　㋑くろ、赤ぐろき色ㅁ天の異名㋩深遠なる道理、特に老子の說
【玄人】ゲンジン　くろうと、其道に通じた人。
【玄天】ゲンテン　㋑北方の天ㅁ天又は空。
【玄旨】ゲンシ　深遠なるおもむき又は意味。
【玄米】ゲンマイ　しらげざる米、つかぬ米。
【玄武】ゲンブ　天の北方の神。「る神。
【玄冥】ゲンメイ　㋑雨の神、水神ㅁ刑殺を司
【玄妙】ゲンメウ　幽遠精妙の意。
【玄孫】ゲンソン　孫の孫、やしやご。
【玄鳥】ゲンテウ　つばめ、燕。
【玄理】ゲンリ　深遠なる道理、又學說。
【玄黃】ゲンクワウ　㋑黑と黃、又天の色と地の色、轉じて天地、宇宙ㅁ馬の病むことㅂ黑又は黃色の幣帛㋥五行說から配當された中央の帝。
【玄奧】ゲンアウ　奧ふかくして測り難きこと
【玄學】ゲンガク　老・莊一派の學說。
【玄德】ゲントク　㋑人に知られぬかくれた德行ㅁ奧ふかく測り知ることの出來ぬ德
【玄關】ゲンクワン　㋑玄妙なる道に進む端緒又佛門に歸依する入口ㅁ禪寺の客殿に入る門㋩家の正面の入口。
【玄武岩】ゲンブガン　火成岩の一種。
【玄武門】ゲンブモン　㋑北の門ㅁ朝鮮平壤の北門㋩唐代に於ける洛陽城の門の名。
【玄圃梨】ゲンポナシ　鼠李科の落葉喬木、樹

幹長大にして花は小形にして白く花梗は花後に肥大し甜味ありて食用とすべく木材は種々の用に供する。

（玄圃梨）

【玄裳縞衣】ゲンシヤウカウイ 鶴の姿の形容。
窮玄キユウゲン　深玄シンゲン　青玄セイゲン　儒玄ジユゲン
淵玄エンゲン　妙玄メウゲン　幽玄ユウゲン　清玄セイゲン

二畫

【弦】三六二頁の弦を見よ。

五畫

【玆○】【茲別字】漢ケン　呉ゲン　漢呉シ
注意 茲は全然別字なるも我が國では一般に俗字として混用されてゐる㋑くろし、にごる㋺とし（年）㋩とき（時）㋥この、これ、こゝ

【畜】六九〇頁の畜を見よ。

六畫

【率・】【率】漢シユツ　リツ　呉シユチ　リチ　漢呉スキ　慣用音ソツ　㋑ひきゐる、ひきつれる㋺したがふ（遵）よりそふ、從ひ守る㋩すぐ（統）㋥おほむね、すべて、大略㋭めあて（目標）物の標準㋬かる〳〵し（輕）急にあわてるさま、禮式等にかゝはらぬ貌㋣わりあひ、比例、比較㋠大名のかしら（帥）㋡數學上にては寝素數の絶對値

【同訓異義】したがふ　率・從・順其他の用法は一一三六頁の順を見よ。

【率土】地上全體、全世界。
【率由】したがひよる、循守。
【率先】衆に先だつこと　注意 率先と禮式同じ。　【率爾】次に同じ。　【書くは誤り。
【率直】ありのまゝで正直なこと
【率然】㋑にはかなるさま、俄然、又言語動作のあわてるさま㋺常山に棲む蛇の名、常山蛇ともいふ。
【率循】率由に同じ。　「した。
【率土之濱】天下、國内、あめがきの職工㋥皎潔なる人にいふ。
輕率ケイソツ　率率ソツ　眞率シンソツ　督率トクソツ
通率ツウソツ　牧率シウソツ　首率シユソツ　大率オホムネ
將率シヤウソツ　約率ヤクソツ　勵率レイソツ　任率ニンソツ
漢呉くろし（黒）くろぬりの弓

【蜍○】漢呉ロ

【摯】二八六頁の摯を見よ。

【率】六五八頁の率を見よ。

玉部

【玉・】【王別字】【玉】漢ギヨク　呉ゴク　キウ　㋑たま、寶石類の總稱、又玉の如き美しきもの㋺天皇に關する物の上に置く美稱㋩他人の事に關する物事の上に添へる美稱㋥玉の如くす、玉となりて、玉として㋭瑪瑙に似たる鐵石へ玉に加工する人㋬國訓たま（丸きもの、丸き形、しろもの）ぎよく（藝・娼妓のあげだい、鷄卵）

【玉人】美人の稱、轉じて婦人の美稱㋩玉みがきの職工㋥皎潔なる人にいふ。
【玉山】容姿の美しき喩。
【玉札】他人の手紙の敬稱、玉翰。
【玉女】㋑美しき女、又仙女㋺他人の娘をいふ敬稱㋩かざりごけの異稱
【玉肌】玉の如く美しきはだ。
【玉成】有德の人となるの意。
【玉佩】玉製のおびもの。
【玉杯】杯の美稱。
【玉兎】月の異名。
【玉歩】他人の歩みの敬稱。
【玉冠】玉にて飾りたる冠、晃。
【玉函】㋑美しき小箱㋺玉手箱。
【玉姿】容姿の美、又他人の容貌の敬稱。
【玉帝】道教で天上世界の神、天帝。
【玉面】美しき顔又他人の顔の敬稱
【玉音】㋑天子のおことば㋺他人の訪れの敬稱㋩琴などのよき音。
【玉章】他人の詩文や手紙の敬稱
【玉書】神仙の傳へたる書物。
【玉座】天子の御座所、天皇の御座。
【玉屑】㋑ちら〳〵と降る雪㋺不死長生の仙藥㋩名句を玉の粉に喩へいふ
【玉帳】㋑玉にて飾れる幕㋺將軍の居る陣屋㋩藝娼妓の玉代を記す帳簿
【玉壺】㋑玉で製した透きとほるやうなつぼ㋺酒の異名㋩玉漏。
【玉笏】玉でかざりし笏。
【玉詠】人の詩歌の敬稱。
【玉堂】㋑他家の敬稱㋺立派なる家㋩女官の室、又漢代の役所の名。
【玉摧】立派な死に方。「の死。
【玉碎】玉となつて碎ける、名譽
【玉葉】天子の御一族。
【玉盤】㋑平い鉢類㋺月の異名。
【玉質】玉の如き美しき生れつき
【玉樓】㋑美しきたかどの、玉で飾りし御殿㋺左右の肩の稱。
【玉顔】玉面に同じ。
【玉蟾】月の異名。
【玉鼎】天皇の印章。
【玉露】㋑最上の煎茶㋺玉のつゆ。
【玉髓】最上の玉、石英の一種。
【玉體】㋑天皇・皇族方の身體の尊稱㋺美人のはだの形容。
【玉垣】神社の周圍にある垣。
【玉串】㋑榊の枝に木綿又は紙をつけ神に供へるものの榊の別名。
【玉鬘】㋑昔玉を緒に貫きて頭に懸けし一種の裝飾㋺かもじ、かづら㋩けまん（華鬘）
【玉螺】前鰒類の貝で介殼稍球形にして螺層短く

（玉螺）

（玉鬘）

（玉串）

外面は淡肉色又は帶黄褐色を呈し、海岸の砂中に埋沒して棲息し性活潑にして肉食を好む我國にては日本海・東海・西南海に產する。

【玉山將頹】容姿の立派なる人が酒に醉ふたさま。
【玉石同架】玉も石も同じ箱に並べる如く智者も愚人も同樣に扱ふ。
【玉石俱焚】善惡の差別なく共に滅びる喩。
【玉石混淆】善い者も惡い者もまじり合つて居ること。「降る貌。
【玉屑紛紛】雪がちら〳〵と
【玉不レ琢不レ成レ器】質のよい玉でも磨かなければやくに立つものにならぬ。
嘉玉カギヨク　素玉ソギヨク　玄玉ゲンギヨク　珠玉シユギヨク
含玉ガンギヨク　美玉ビギヨク　冠玉クワンギヨク　水玉スイギヨク
尺玉シヤクギヨク　碧玉ヘキギヨク　火玉クワギヨク　瓊玉クイギヨク
瑤玉エウギヨク　雙玉サウギヨク　璧玉ヘキギヨク　縹玉ヘウギヨク

【王】國訓たまへん、わうへん　玉が漢字の偏に來るときの形

【王・】【王】漢呉ワウ　主、きみ、帝王、支那では三代の時天下を統一せし

者、周末には諸侯の僭稱㊁尊稱として用ゐる字㊂帝王の男子の特稱㊃德義を以て天下を統一する者の稱（覇者の對）㊄君主となる、王たり、王となす㊅さかん也（盛）㊆皇子より五世以下の皇族

【王土】ワウド　帝王の領土、君主の領分。

【王子】ワウジ　君主の男兒の子。

【王女】ワウジョ　㊀内親王の宣下なき皇族の女子㊁天子の女。　「從ふ。

【王化】ワウクワ　天子の善政に人民がなつき

【王父】ワウフ　㊀祖父㊁帝王の父。

【王母】ワウボ　㊀祖母㊁帝王の母。

【王妃】ワウヒ　王の妻、きさき。

【王瓜】ワウクワ　烏瓜の異名。

【王佐】ワウサ　天子の政治を輔佐する者。

【王命】ワウメイ　帝王の命令。

【王事】ワウジ　皇室にかゝる事がら。

【王法】ワウハフ　王者のたてた法律。

【王者】ワウジヤ　帝王、きみたるもの。

【王室】ワウシツ　㊀帝王の御家、皇室㊁國家。

【王城】ワウジヤウ　㊀帝都㊁佛陀の居る所。

【王政】ワウセイ　王者の行ふ政治。

【王師】ワウシ　天子の統率する軍隊。

【王統】ワウトウ　帝王の血統、皇統。

【王道】ワウダウ　㊀王者の行ふべき道㊁善德を以て下民に臨む政治。

【王綱】ワウカウ　王者の定めし政治。

【王業】ワウゲフ　王政に同じ。

【王學】ワウガク　王陽明の唱道せし學說。

【王澤】ワウタク　王者のめぐみ。

【王覇】ワウハ　王者と覇者。

【王女御】ワウニヨゴ　皇女、王孫女などの女御となら せ給へるをいふ。「才能の士。

【王佐才】ワウサノサイ　王者の輔佐たるに足る

【王者師】ワウシヤノシ　帝王の師となる人。

【王政復古】ワウセイフクコ　德川幕府が倒れ、元の如く朝廷に於て國政を行ふ政體にもどりし政變、明治維新。

【王臣匪躬】ワウシンヒキウ　臣は自分一身上の事を考へず君主のために盡す。

君王クンワウ　盛王セイワウ　聖王セイワウ　哲王テツワウ

前王ゼンワウ　天王テンワウ　后王コウワウ　帝王テイワウ

群王ハキワウ　賢王ケンワウ　法王ハフワウ　名王メイワウ

一畫

【主】　三二頁の主を見よ。

二畫

【全】　一一二頁の匡を見よ。

【匡】　一五八頁の全を見よ。

三畫

【玕】　漢呉　琅玕は玉に次ぐ美石

【玖・】　漢キウ　㊀玉に似た黑色の美石㊁數字の九に代用　呉ク

【厄】　三一八頁の厄を見よ。

【弄】　三五九頁の弄を見よ。

四畫

【玩・】【翫通字】【玩】　漢呉　グワン

㊀もてあそぶ（弄）おもちやにする、なぐさみものにする㊁おもちや（玩具）㊂なれる、したしむ㊃めでる、このむ、めなれる

【同訓異義】　もてあそぶ　「づらしがる

【弄】　はなぶりものにするの意。

【玩】　はもてあそびなぐさむの意。

【翫】　はなれてあそぶの意。

【玩弄】グワンロウ　㊀もてあそぶ㊁おもちやにする。　「物事を能く考へる。

【玩味】グワンミ　㊀食物をかみわけて味ふ㊁

【玩具】グワング　もてあそびもの、おもちや。

【玩物】グワンブツ　㊀無用のものをもてあそぶ㊁おもちや、玩具。　「る。

【玩索】グワンサク　よく考へて其意義を求め

【玩弄物】グワンロウブツ　慰みもの、なぶりもの

嗜玩シグワン　珍玩チングワン　耽玩タングワン　愛玩アイグワン

悅玩エツグワン　賞玩シヤウグワン　翫玩セイグワン　雜玩ザツグワン

【　】　三〇八頁の寶を見よ。

【笵】　三一八頁の笵を見よ。

【玟・珉】　漢ビン　玉に次ぐ美石　呉ミン

【玦・】　漢ケツ　㊀形環の如くにして缺けたる佩玉㊁ゆがけ（弓を射る時右手の大指にかくるもの）

五畫

【珊・珊】【珊】　漢サン　㊀おびだまの音㊁珊瑚は海中に生ずる植蟲の巢、又は之を製したるもの㊂よろめき歩くさま、千鳥足㊃きびしきさま㊄センチ・サンチ（Centi metreの略）は米突法の單位

【珊珊】サンサン　佩玉の鳴る音。「を見よ。

【珊瑚】サンゴ　宇解の㊁

【珊瑚礁】サンゴセウ　珊瑚蟲の骨骼が堆積して生じたる海中の巨礁にしてその海面に露出せるものを珊瑚島といふ。

（珊瑚）

【珍・】【珍俗字】【珍】　漢呉　チン

㊀めづらし、又そのもの㊁たから（貴重なる物）㊂たつとぶ、たふとし（貴）又そのもの㊃うつくし、又そのもの㊄うまし、又そのもの㊅めづらしとす、普通と異る、めづらしと思ふ

【珍木】チンボク　珍しくて容易に得られぬ樹

【珍什】チンジフ　めづらしき道具。　「木。

【珍卉】チンキ　珍しき草花。

【珍品】チンピン　めづらしき品。

【珍巧】チンコウ　巧みなる細工。

【珍事】チンジ　㊀意外の出來事㊁珍しい事

【珍味】チンミ　めづらしき味のあるもの、又容易に食はれぬ御馳走。

【珍肴】チンカウ　めづらしいさかな。

【珍重】チンチヤウ　㊀讃美又は貴重の意㊁珍しくして大切にする。

【珍客】チンキヤク　めづらしい客人。

【珍果】チンクワ　めづらしきくだもの、奇果。

【珍奇】チンキ　稀れで珍らし、又その物。

【珍祕】チンピ　大切にして祕藏する意。

【珍珠】チンジユ　たま、眞珠。

【珍異】チンキ　珍奇に同じ。

【珍祥】チンシヤウ　めづらしきゝざし、吉兆。

【珍烹】チンパウ　めづらしき料理、美味なる

【珍羞】チンシウ　珍饌に同じ。　「馳走。

【珍書】チンショ　めづらしい書物。

【珍說】チンセツ　めづらしきはなし。

【珍聞】チンブン　珍らしき噂、耳よりな話。

【珍談】チンダン　奇しき話、耳あたらしき話。

【珍膳】チンゼン　珍饌に同じ。

【珍寶】チンパウ　めづらしきたから、貴重品。

【珍藏】チンザウ　大切にしまひ置く。

【珍饌】チンセン　珍らしき食物、うまき物。

【珍襲】チンシフ　珍藏に同じ。

饌珍センチン　寶珍ハウチン　殊珍シユチン　妙珍ミヤウチン

【玲・】　漢レイ　呉リヨウ　㊀明かに見える貌㊁金屬類又は玉の鳴る聲㊂すきとほれる貌

【玲瓏】レイラウ　字解の㊁を見よ。　「る貌。

【玲瓏】レイロウ　㊀前に同じ㊁清らかにすめ

【玻・】　漢呉　玻璃はがらす、ピードロ、ギヤマン

【玻璃】ハリ　㊀梵語にて水晶の類㊁硝子、ギヤマン。

【玻瓈】ハリ　前に同じ。

【玻璃瓶】ハリビン　がらす瓶

【玻璃器】ビーカー　化學實驗用の薄いガラス皿。

（玻璃器）

【玭◐疵】 漢 セイ ㊀色のあざや 呉 サイ かなるさま ㊁玉の中に在る石㊂きず(玷)玉のきず

【珀●】 漢 ハク 琥珀は松脂などの 呉 ヒャク 化石した鑛石

【珂○】 漢 カ ㊀玉に次ぐ美石、又は 呉 ケ 白瑪瑙ともいふ ㊁珂にてかざりし轡

【珈○】 漢 カ ㊀かみかざり、髪にさ 呉 ケ す珠、玉のかざり ㊁首かざり㊂玉の類を垂れたる物

【珈琲】コーヒー 帶地に產する木、又その果實を烙燒して作る飲料。

【珉】 六七三頁の玫を見よ。

【玳】 六七七頁の璃を見よ。

【璽】 六七九頁の璽を見よ。

【皇】 七〇九頁の皇を見よ。

【鬥】 一一六九頁の鬥を見よ。

【珠○】【珠】 漢 シュ ㊀たま 呉 ジュ（河海に產する圓形の玉）㊁圓くして玉の形をなすもの㊂物の美稱

【珠母】シュボ 貝の名、あこやがひ。

【珠玉】シュギョク ㊀たま㊁すぐれたるものの喩㊂美しき容姿に喩ふ。

【珠算】シュザン 算盤にて計算する算法。

【珠數】ジュズ ずゝ、佛を念ずる具、念珠。

【珠箔】シュハク たまのすだれ、玉簾、玉簾。

【珠瑙】シュタク 玉の耳飾り。

【珠履】シュリ 玉にてかざれる履物。

【珠簾】シュレン たますだれ。

瑠珠 シュ　連珠 レンシュ　美珠 ビシュ　寶珠 ハウシュ
離珠 リシュ　瓔珠 エイシュ　赤珠 セキシュ　念珠 ネンシュ
數珠 スウシュ　貴珠 キシュ　明珠 メイシュ　眞珠 シンジュ

【班○】【斑】 別字 **【班】** 漢 ハン 呉 ヘン ㊀わかつ、わかる、くばる、配分す ㊁ならび(並)ならぶ㊂くらゐ(位)席次、位をつける㊃ついで(序)㊄かへす、ひきもどす、めぐり逃まぬ貌㊅まじる、まだら㊆車の行く音㊇ひとし、同じい㊈明らかなるさま

【同訓異義】わかつ 班・分・別其他の用法は一三一頁の分を見よ。

【班田】ハンデン 孝德天皇の御代一般公民に一定の法により田地を分ち與へたる法

【班次】ハンジ 位の順次、位次。

【班長】ハンチャウ 一つの組のかしら、

【班列】ハンレツ 班次に同じ。

【班師】ハンシ 軍をひきかへすこと。

【珞●】 漢 ラク 呉 ニ 瓔珞は玉の首かざり

【珥●】 漢 ジ 呉 ニ 耳かざり、みゝだま

榮班 エイハン　官班 クワンハン　常班 ジャウハン　輪班 リンハン
同班 ドウハン　下班 カハン　微班 ビハン　朝班 テウハン

【珪】 二三一頁の圭を見よ。

【珪石】 ケイセキ 石英の異名、砂石。

七畫

【現○】【見】 通字 **【現】** 漢 ケン 呉 ゲン ㊀たまのひかり ㊁あらはる、あらはす、出現す ㊂うつゝ(實在)㊃いまのよ(今世)㊄玉に次ぐ美石㊅いま、げんに、まのあたり㊆國訓うつゝ(覺めてゐる時、又そのこと、ぼんやりせる狀態、半睡半醒の狀態、ゆめうつゝ)

【同訓異義】あらはる 現・見・顯其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【現代】ゲンダイ いまの代、現今の時代。

【現今】ゲンコン たゞいま、いま。

【現化】ゲンクワ ゲンケ 空想や理想を實在の上に現はすこと、又自然に實現すること。

【現在】ゲンザイ ㊀過去未來とのさかひめ、いま㊁まのあたり、げんに。

【現行】ゲンカウ 現在實地に行ふの意、又現在行はれて居ること。

【現存】ゲンゾン ㊀現にある㊁生きて居る。

【現住】ゲンヂュウ ㊀現に今すんで居る所㊁現在官職にある。「寺の住職

【現務】ゲンム 現在行ひつゝある事務。

【現役】ゲンエキ 常備兵役の中にて現在兵營にあり服役中の軍人。

【現狀】ゲンジャウ 只今の狀態、今の有樣。

【現況】ゲンキャウ 現在の有樣、實地の狀態。

【現品】ゲンヒン 現存の品物、實地の品物。

【現金】ゲンキン ㊀露骨なる利己主義㊁現物のかね、げんなま。「しよ、しやば。

【現世】ゲンセイ 今の世、現在の人生、うつ

【現身】ゲンシン ウツシミ 此身、今のからだ。

【現時】ゲンジ いま、今の時代、當世。

【現象】ゲンシャウ ㊀事物のあらはれたる形㊁人の主觀に物のうつる相。

【現場】ゲンヂャウ その物事のありし場所。

【現像】ゲンザウ 寫眞の種板にうつりし物の像を目に見るやうに現はし出す。

【現然】ゲンゼン あきらかに見える。

【現當】ゲンタウ 佛語にて現在と未來。

【現實】ゲンジツ ㊀現在にあらはれてあること㊁實際の狀態又は事實。

【現職】ゲンショク 現につとめて居る役目。

【現行犯】ゲンカウハン 現在行ひ又は現在行ひ終りたる際に發覺したる犯罪。

【現行法】ゲンカウハフ 現在行はれて居る法律

【現人神】アラヒトガミ 此世にあつて人の形を成してゐる神、いきがみ、天皇のことを稱し奉る。

【現世安穩】ゲンセアンヲン 現世が安らかで穩「やかなこと。

【現代思想】ゲンダイシサウ その時代に於て最も優勢なる人生觀又は社會觀の傾向。

【現狀維持】ゲンジャウイジ 現在の狀態を變ぜしめずして持續するをいふ。

出現 シュツゲン　發現 ハツゲン　普現 フゲン　權現 ゴンゲン

【球○】【球】 漢 キウ ㊀たま、 呉 ク 美しき玉㊁玉で作つた磬(樂器)㊂圓形を現はす語㊃國訓まり(毬)

【球技】キウギ たまつき。

【球竿】キウカン 體操用具の一。

【球根】キウコン 玉の如くまるくこえた根。

【球形】キウケイ 玉の如き圓き形。

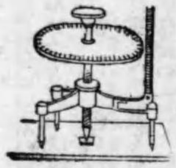
【球狀】キウジャウ 玉の如き形の意。

【球莖】キウケイ 地下莖にして慈姑の如く球

【球戲】キウギ 球技に同じ。「狀をなすもの

【球燈】キウトウ ほゝづきちやうちん。

【球尺】クマザシ 圓筒や球等の大きさをはかり又は極めて薄いものゝ厚みをはかるものさし。



（尺球）

【理●】【理】 漢 リ 呉 をさまる ㊀をさむ、(治)㊁あや、すぢ(條)すぢみち㊂ことわり、りくつ、道理㊃とゝのふ(整)玉を磨きとゝのへる㊄たゞす(正)すぢ道を正しをさめる㊅宇宙の本體、又人の守るべき道㊆たのむ(賴)たのもし㊇性質りなかだち(媒介)又裁判官㊈つかひ(使)行人㊉星の名㊋皮膚のきめ㊌繕ひなほす、處理す、はからふ

【理化】リクワ ㊀物理と化學㊁民を治め導く

【理外】リグワイ 道理のほか、道理意外。

【理由】リイウ わけ、ゆゑ、わけがら。

【理法】リハフ ㊀物の行動變化の法則㊁一切萬物の行動變化の法則。

【理性】リセイ ㊀心意作用の根本をなす智情意の三方面の知的性能㊁思考能力。

【理治】リチ とゝのへをさむ。

【理非】リヒ 理と非、正と邪、善と惡等の意

【理事】リジ ㊀事をさばく㊁法律上法人を代表して其の事務を行ふ常置の機關。

【理財】リザイ 財政をとゝのへ治む。

【理智】リチ 思考の根本となる能力。

【理解】リカイ ㊀さとり知る㊁納得する。

【理想】リサウ 未だ實行するに至らないが心意に蓄積する希望。

【理義】リギ すぢみち、道理。

【理窟】リクツ ㊀すぢみち㊁無理にこじつけた理由 注意 正屈と書くは誤り。

【理學】リガク ㊀物理學・化學・天文學等すべて自然に關する科學の總稱㊁物理學の略語㊂哲學の古い名稱㊃宋代に理氣の說を主張した學、宋學、程朱學。

【理論】リロン 事實と一致した絕對的說明

【理勢】リセイ 自然の成行、自然の數。

【理窟】リクツ わけがわかる、さとる。

【理髮】リハツ 髮をゆひ又刈る。

【理障】リシヤウ 佛語、人の正智をくらまして宇宙の眞理に違背すること。

【理轡】リバン 未開の土地を治める。

【理不盡】リフジン 無理無體にすること。

【理想化】リサウクワ ㊀自分の理想どほりにすること㊁まじり物又は無用のものを除き去つて其物についての感想智識を純粹のものにすること、醇化。

校理カウリ　大理タイリ　變理セフリ　章理シヤウリ
決理ケツリ　運理ウンリ　綜理ソウリ　統理トウリ
人理ジンリ　治理チリ　義理ギリ　代理ダイリ
攝理セツリ　條理ジヤウリ　法理ハフリ　料理レウリ
連理レンリ　分理ブンリ　生理セイリ　究理キウリ

【琅○】【瑯俗字】 漢呉 ㊀玉に似たラウ る一種の美石㊁玉石の鳴る淸き響㊂珎琅は釉藥の一㊃琅琊は地名（山東省所在）

【琅琅】ラウラウ ㊀玉石の相うつ音㊁金屬の鳴る聲㊂鳥のなきごゑ。「㊂玉の聲。

【琅璫】ラウタウ ㊀罪人を縛る鐵の鎖㊁すゞ

【琉○璃】【瑠俗字】 漢 リウ 呉 ル ㊀紺色の寶玉、又七寶の一ともいふ㊁【琉球の略稱

【琉璃】ルリ 紺色の寶玉。

【琊○琊】 漢 ヤ 呉 エ 琅琊は地名

【凰】 一二八頁の凰を見よ。

【望】 五〇七頁の望を見よ。

【馬】 一一五五頁の馬を見よ。

八畫

【琴○】【琴】 漢 キン 呉 ゴン 慣用音 コン ことゝ（樂器の一種）古くは五絃、我國では普通十三絃

【琴心】キンシン ㊀心を琴の音によせる㊁思を琴歌にかこつける 例 琴心に觸る。

【琴曲】キンキヨク ことの曲、ことをひく藝。

【琴書】キンシヨ 琴と書物。

【琴高】キンカウ 鯉に乘つて天にのぼつたといふ仙人の名。

【琴柱】コトヂ 琴の絃を支へるもの。

【琴瑟調】キンシツノフラウ ㊀夫婦相和すること㊁兄弟朋友の情愛にもいふ。

【琴瑟之樂】キンシツノタノシミ 夫婦和合の樂み、一家和合の樂み 注意 きんぴつと讀むは誤り

【琵●】【琶】 漢 ヒ 呉 ビ ㊀樂器の絃を順にならすこと㊁琵琶は樂器の一

【琵琶】ビハ 樂器の名、よつのをどと、昔は馬上にて彈きたりといふ。

【琵琶魚】ビハギヨ 魚の名、あんこう、鮟鱇。

【琵琶法師】ビハホウシ 琵琶を彈ずる法體の盲人、琵琶に合はして故事を語つたものであるが後には平家物語に節をつけて語るやうになつた。

（琵琶法師）

【琶○】【琶】 漢 ハ 呉 ベ ㊀樂器の絃を下から順にならす㊁琵琶は樂器の名

【琢●】 漢 タク 呉 トク ㊀えらぶ（擇）㊁みがく、うつ、ゑる、槌や鑿でうつて玉を整へる㊂研究の意

【琢磨】タクマ ㊀珠玉をみがく㊁學術を研究し又は練磨すること。

【琥●】 漢 コ 呉 ク ㊀琥珀は寶石の一、樹脂の土中にて化石となつた物㊁虎形に作れる玉の盃㊂虎の皮のあやを刻める瑞玉

【琦○】 漢 キ 呉 ギ ㊀珍らしき一種の玉㊁珍らし、くし（奇）人並はづれてゐる㊂おほいなり（偉大）

【琦行】キカウ 風がはりの行ひ、奇行。

【琤○】 漢 サウ 呉 ス ㊀玉のうち合ふ音㊁水の流れる貌㊂琴の聲の形容

【琤琤】サウサウ 字解の㊁㊂を見よ。

【琮●】 漢 ソウ 呉 ス 古天子又諸侯が土產に使用せし四角の玉

【琲●】 漢呉 ハイ 呉 ベ ㊀つらぬく（貫）玉をつらぬく㊁玉を貫きたる物、たまのを㊂國訓珈琲は樹木、又その果實にて製したる飲料の名

【琳○】 漢呉 ㊀美しき一種の玉㊁玉リン の相觸れて鳴る音

【琳琅】リンラウ ㊀玉の相うつ音㊁美玉の名

【琺俗字】【珐】 漢 呉 ハフ ホフ 珐琺は鐵物を原料として製したる釉藥エナメル

【琺琺】ホフホフ 四七〇頁の琺を見よ。

九畫

【瑞●】【瑞】 漢呉 ㊀天子が諸ズキ 侯を封ずる時與へしゝるしの玉㊁わりふ（割符）㊂天が善政に感じて降すよきしるし（吉兆）㊃めでたし、よろこばし㊄國訓みづ（善美の意を示す讃辭）

【瑞兆】ズキチウ めでたきしるし、吉兆。

【瑞相】ズキサウ ㊀瑞兆㊁扁々しき人相。

【瑞祥】ズキシヤウ 前の㊀に同じ。

【瑞雲】ズキウン めでたき雲、祥雲。

【瑞氣】ズキキ めでたいうんき。

【瑞徵】ズキチヤウ 瑞相に同じ。

【瑞應】ズキオウ 字解の㊂を見よ。

【瑞驗】ズキケン 瑞兆に同じ。「等迄ある。

【瑞賓章】ズキハウシヤウ 勵章の一、一等より八

【瑞穗國】ミヅホノクニ 我が日本の美稱。

巽瑞ズキ　應瑞オウズキ　徵瑞チヨウズキ　絕瑞ゼツズキ
奇瑞キズキ　嘉瑞カズキ　祥瑞シヤウズキ　吉瑞キチズキ
寶瑞ハウズキ　慶瑞ケイズキ　天瑞テンズキ　符瑞フズキ
降瑞カウズキ　典瑞テンズキ　聖瑞セイズキ　靈瑞レイズキ

【瑇●】【玳字】 漢 タイ 呉 ダイ トク ドク 瑇瑁は海龜の一種。

【瑇瑁】タイマイ ㊀海龜の一種㊁その甲を鼈甲といひ裝飾用の器物を作る。

【瑕○】 漢 カ 呉 ゲ ㊀きず、たまのきず㊁あやまち（過）缺點㊂なんぞ㊃蝦に通ず、蛙の一種

【瑕疵】カシ きず、又あやまち、過失。

【瑕瑾】カキン 玉のきず、又あやまち、物又は意思表示に存する缺點。

【瑕釁】カキン あやまち。

毀瑕キカ　瑜瑕ユカ　細瑕サイカ　疵瑕シカ

【瑙●】【碼】 漢ダウ 呉ノウ 瑪瑙は慣用音 ナウ 玉に次ぐ一種の文石、

【瑚○】漢コ 呉ゴ ㊀珊瑚は海中に生ずる植蟲の巣㊁瑚璉は殷時代に用ひたる祭器【瑚璉器】コレンノキ 人物がすぐれて瑚璉の如くたふとき意。

【瑛○】漢呉エイ ㊀玉のひかり㊁六稜をなす一種の美石、水晶

【瑜○】漢呉ユ ㊀美しき一種の玉、又其ひかり【瑜伽宗】ユカシユウ 印度の世親の開きし大乗佛教の一宗派。【瑜伽三密】ユカサンミツ 瑜伽宗に於て身・口・意の三つを修する祕密の法。

【瑟●】漢シツ 呉シチ ㊀大琴、琴に似たる樂器㊁慎むさま ㊂おほし（多）又そのさま ㊃あざやか（鮮）又そのさま、又一説に密なるさま【瑟瑟】シツシツ 風のさびしく吹くさま。【瑟縮】シツシユク ちゞんで伸びざるさま。

【珥●】【珥俗字】漢ジ 呉ニ ㊀背諸侯が天子に參朝する時、天子の執れる玉の稱㊁珥璃は海龜の一種。

【瑯】六七六頁の琅を見よ。

【聖】八三六頁の聖を見よ。

【項】一一三八頁の項を見よ。

十畫

【瑣●】【瑣俗字】漢呉サ ㊀ちひさし（小）こまかい、些少㊁ひくし（低）いやし（卑）㊂みめよし（美）わかし（若）㊃門等の板に鎖の形にてほりたる模様、又くさり（鎖）【瑣末】サマツ 小さいこと、些細なこと。【瑣細】ササイ 前に同じ。「細小なるさま。【瑣瑣】ササ ㊀玉の鳴る音㊁疲勞せる貌㊂「うてな。

【瑤○】漢呉エウ ㊀美しき一種のたま㊁善美の意をあらはすほめことば【瑤臺】エウダイ ㊀玉のうてな㊁神仙の居る【瑤顏】エウガン 顏の美しきをいふ。

【瑩●】漢エイ 呉ヤウ ㊀玉に似たる一種の美石㊁ひかり（玉の光）㊂あきらか（明）あざやか（鮮）㊃てらす（照）ひかりかゞやく

【瑪●】【碼通字】漢バ 呉メ 瑪瑙は寶石の一

【瑰●】漢クワイ 呉ケ 漢呉キ ㊀玉に似た一種の美石㊁めづらし（珍奇）㊂玫瑰は赤色の一種の玉、又植物の名、はまなす

【瑳●】漢呉サ ㊀玉其他の物の色の鮮かなるさま㊁みがく（磋）㊂巧みに笑ふ、白齒をちらりと見せて笑ふ貌

【瑠】六七六頁の琉を見よ。

【瑯】六七六頁の琅を見よ。

【碧】七三五頁の碧を見よ。

十一畫

【瑾●】漢キン 呉コン ㊀瑜瑾は一種の美しき玉㊁赤い玉 注意 瑕疵の義に混用するは誤り

【璃○】【璨黎通字】漢呉リ ㊀瑠璃は寶玉の一㊁玻璃は硝子

【璉●】漢呉レン 瑚璉は殷時代に用ゐし祭器

【璋○】漢シヤウ 呉サウ 圭を半分に割きたる玉の笏

十二畫

【璞●】漢ハク 呉ボク 慣用音ボク あらたまゝ、まだ磨かぬ玉

【璞玉】ハクギヨク あらたまゝ、磨かぬ玉。【璞玉渾金】ハクギヨクコンキン あらたまと金鑛、人の性質の質樸純美なる喩。

【璠】六七六頁の琉を見よ。

十三畫

【環○】【環】漢クワン 呉ゲン ㊀たまき、輪狀をなしてゐる壁の一種㊁わ、くわん ㊂めぐる（廻）まはる、めぐらす ㊃内外を巡察する官 ㊄縱横共相ひとしきこと【同訓異義】めぐる 環・繞・遶共他の用法は八一五頁の繞を見よ。【環列】クワンレツ 圓くならぶ、回りならぶ。【環周】クワンシウ とりまく、めぐる。【環坐】クワンザ まるくすわる、くるまざ。【環海】クワンカイ 國の四方をめぐらす海。【環狀】クワンジヤウ 環のやうにまるい形。【環堵】クワント 四方各五丈の小さい室。【環視】カワンシ 取りまきて見る。【環境】クワンキヤウ 其物の周圍を取圍みて之れに影響を及ぼすゝべての事物・事情。【環繞】クワンゼウ 四方をとりまく。【環紋毒蛇】コブラ 印度地方に產する蛇類の一種で長さ四五尺ばかり頸部及び背部に黑い眼鏡のやうな環の紋を有し蛇類中最も劇烈な毒がある。

金環キンクワン 刀環タウクワン 指環シクワン 碧環ヘキクワン 玦環ケツクワン 榮環エイクワン 周環シウクワン 旋環センクワン

（環紋毒蛇）

【璧●】漢ヘキ 呉ビヤク たま（玉）環狀をなせるたま（外邊圓く内孔四角なる璫玉にして環の太さは内孔の二倍あるもの）【壁門】ヘキモン 玉で飾つた門。【壁玉】ヘキギヨク たま、圓き玉。

十四畫

【璽●】【璽略字】【璽慣用音ジ】漢呉シ ㊀しるし、おして、いんぎよう㊁天子諸侯の印㊂秦漢以後は特に帝王の印【璽書】ジシヨ 御璽をおしたる文書。

十五畫

【瓊●】【璨黎通字】漢レイ 呉ライ 硝石より製したる透明體、水玉

【瓊●】漢ケイ 呉ギヤウ ㊀たまゝに、一種の如き美しきものゝ形容【瓊戶】ケイコ 玉で飾つた戶。【瓊玉】ケイギヨク 美くしいたま。「の異名。【瓊英】ケイエイ ㊀玉に似た美しい石㊁梅花【瓊姿】ケイシ 玉の如き美しき姿。【瓊筵】ケイエン 玉の如く美しき宴席。

十六畫

【瓏○】漢ロウ 呉リユル ㊀玉の相うちて發する音の形容㊁雨乞に用ゐる玉㊂明らかなる貌【瓏玲】ロウレイ 玲瓏の㊀・㊂を見よ。

十七畫

【瓔●】漢エイ 呉ヤウ ㊀瓔珞は玉に似たる一種の石㊁瓔珞は玉をつらねたる首飾【瓔珞】ヤウラク 玉をつらねたる首かざり。【瓔珠】エイシユ たま。【瓔琅】エイラウ 玉に似た一種の石。

瓜部

【瓜°】【爪別字】【爪俗字】 漢 クワ 呉 ケ

うり、蔓生にて水分に富み果實を結ぶものゝ總稱又その果實

【瓜分】クワブン 瓜を割く如く土地等を人に

【瓜期】クワキ 任期が滿る。〔分ち與へる。

【瓜田之履】クワデンノクツ 嫌疑を受け易い行ひ、李下の冠の類。

（瓜）

三畫

【孤】 二八五頁の孤を見よ。

六畫

【瓠◐】 漢 コ クワタ ㋑ひさご、ゆふがほ、ふくべ ㋺破れたかめ ㋩ぼろ〳〵に缺ける

十一畫

【瓢°】【瓢】 漢 ヘウ ㋑瓠の一種、ひさご、ふくべ、へうたん、又其實の中身をとり去り酒等を入れる樣に造れる容器 ㋺ひしやく

【瓢簞】ヘウタン ㋑葫蘆科の一年生蔓草で莖は卷鬚となつて他に卷つき葉は心臟形をなし白形を開き葉果を結ぶ ㋺ひさごとかたみ ㋩酒をいれるふくべ

【瓢蟲】テンタウムシ 體軀は半球形で觸角の末端は桿棒狀をなす小形の蟲。

（瓢簞）　（瓢蟲）

十四畫

【瓣●】 漢 ヘン 呉 ベン ㋑瓜のなかご、實 ㋺はなびら ㋩多くの片よりなる果實の肉の一片 ㋥機械の兩室の間にある片瓣

【瓣香】ベンカウ 人を尊敬して私淑する意。

【瓣鰓類】ベンサイルヰ 軟體動物の一、はまぐり

瓦部

【瓦●】【瓦俗字】【瓦】 漢 グワ 呉 ゲ

㋑かはら、土を燒きて作りたる板にて屋根を葺き又土間に敷くもの ㋩いとまき ㋥桶の脊 ㋭國訓グラム（重量の單位にて尺貫法の約二分六厘七毛の重さ）佛語(Gramme)のあて字

【瓦石】グワセキ 瓦と石、價値なきものゝ意。

【瓦全】グワゼン 瓦となりて全き義、つまらぬものとなつて命をたもつこと。

【瓦解】グワカイ 瓦の如くゝづれること。

【瓦礫】グワレキ 瓦と小石、價値なきものゝ

【瓦磚】グワセン かはら。〔言ひ。

【瓦斯】グワス ㋑氣體の總稱 ㋺石炭瓦斯の略 ㋩瓦斯糸、又其織物の略。

【瓦釜雷鳴】グワフライメイ 愚人が誇り顏に其持說を吹聽すること、又愚人が分外の位に在るに喩へていふ。

【瓦斯米突計量器】グワスメートルケイリケウキ 瓦斯の米突を量る器械

（瓦斯米突計量器）

二畫

【瓩】 國字 量目、一グラムの十倍デカグラム、二匁七分

三畫

【瓧】 國字 量目、一グラムの千倍キログラム、二百七十匁

四畫

【瓩】 國字 量目、一グラムの十分の一、デシグラム

【瓧】 國字 量目、一グラムの千分の一、ミリグラム

【甕】 國字 量目、一キログラムの千倍、トン（又はグラムトン）我が一六六六斤六六（我が二六六貫六六七匁に當る）

【瓷】 この頁の甕を見よ。

六畫

【瓶俗字】【瓶°】【瓶】 漢 ヘイ 呉 ビヤウ

慣用音 ビン ㋑つるべ、水を汲む具 ㋺かめ、みか、もたひ（液體を入るゝ金屬又は陶器）㋩かしぐうつは（炊器）又花いけのかめ ㋥びんは硝子製の德利、又口とつるのある湯わかし

【瓷°】 漢 シ 呉 ジ 質堅くしてきめの細かい陶器、磁器

【甌】 國字 量目、一グラムの百倍ヘクトグラム

九畫

【甄●】 漢 シウ 呉 シュ ㋑しきがはら、地に敷きならべる平瓦、井の內側をたゝむ瓦 ㋺いしだゝみ ㋩すゑ（陶）土器をつくること、又その人 ㋺あきらか（明）あきらかにす、わかつ ㋩多くの中よりえらびわける、あらはす（表）㋥みる（察）㋭陣形の名、又陣の左右に張れる翼へ鳥の飛ぶ貌 ㋮人を敎へ導くこと

【甄工】ケンコウ 陶器をつくる人、陶工。

【甄別】ケンベツ ㋑はつきり區別する ㋺わかち、わかつ 注意 **えんべつ**と讀むは誤り。

【甕】 國字 量目、一、センチグラムの百分の

十一畫

【甌°】 漢 オウ 呉 ウ ㋑かめ、小さきかめ（小盆）はち、こばち、ほとぎ ㋺古代の地名

【甕°】 漢 ボウ 呉 ミヤウ ㋑いらか、屋根の棟をおほふ瓦、むながはら ㋺屋根、むね ㋑かはら、しきがはら

【甄°】 漢呉 セン ㋺いとまき

十二畫

【甑◐】 漢 ソウ 呉 ショウ ジョウ こしき（飯を炊ぐ物、せいろうの類）

十三畫

【甓●】 漢 ヘキ 呉 ヒヤク ㋑しきがはら、かはら ㋺かめ ㋩井戸側の石だゝみ

【甕◐】【甕・公式】 漢 ヲウ ヨウ 呉 ウ ユ ㋑かめ、みか、もたひ（器）㋺つるべ、井戸の水を汲みあげる具 ㋩酒を容れる器

甘部

【甘°】【甘】 漢 カン 呉 コン ㋑あまし、うまい、おいしい、砂糖の如くあまい、味がよい、言葉がやさしい、五味の一、又その食物 ㋺あまんず、あましとす ㋩たのしむ（娛）よろこぶ、このむ ㋥たけなは（酣）㋭あかし（丹）へよくねむる

【甘心】カンシン ㋑氣持をよくする、又よき氣もち ㋺思ひのまゝに處分する。

【甘瓜】カンクワ まくはうり、甜瓜。
【甘言】カンゲン ㋑人の氣に入る言葉、へつらひの言葉㋺聞きてうれしき言葉。
【甘受】カンジユ 甘んじて受く、心よく受く。
【甘苦】カンク 樂しみと苦しみ、あまきと
【甘美】カンビ あまくうまい。 にがき。
【甘草】カンザウ 豆科の多年生の草本で莖の高さ三四尺、葉は藤に似て初夏に蝶形花を開き地下莖及び根は藥用に供する。

（甘草）

「讀むは誤り。
【甘蔗】カンシヤ さたうきび 注意かんしよと
【甘藷】カンダク 心よく承知する、快諾。
【甘薯】カンシヨ さつまいも、琉球芋、甘諸。
【甘酸】カンサン 甘苦に同じ。
【甘藷】カンショ さつまいも、甘薯。
【甘橘】カンキツ 蜜柑の一名、柑橘。
【甘醴】カンレイ あまざけ。
【甘露】カンロ あまいつゆ、神藥。
【甘藍】ハボタン 蔬菜の名、玉菜。
【甘栗】アマグリ ㋑支那人の創始した栗菓子㋺栗を熟砂の中にて蒸燒したる物。

（甘藍）

【甘鯛】アマダヒ 近海の泥砂中に棲み硬鱗類に屬する魚、體色は背部が紅くして腹部は白く肉は美味である。
旨甘シカン 肥甘ヒカン 珍甘チンカン 甜甘テンカン
豐甘ホウカン 酸甘サンカン 蘇甘ソカン 蜜甘ミツカン

（甘鯛）

三畫

【其】一一九頁の其を見よ。

【邯】一〇五五頁の邯を見よ。

四畫

【甚・】【甚】漢 吳 ジン ㋑はなはだ、いみじく、すてきに、非常に㋺はなはだし、非常である、いみじ㋩過ぎて激しきもの、度にすぎし物事㋥なんぞ（何）
【同訓異義】はなはだ
【太】はこの上もなくの意。
【孔】は甚に同じ。
【泰】は太に同じ。
【甚】はひどく又はきつくの意。
【絕】は外に比類なくの意。
【酷】は至極てひどき義。
【甚大】ジンダイ 非常におほきい。
【甚深】ジンシン はなはだふかい。
【甚寒】ジンカン 非常にさむい、酷寒。
【甚暑】ジンショ 非常にあつい、酷暑。

【某】五二二頁の某を見よ。

六畫

【甜○甛】漢 テン ㋑うまし（美）㋺あまし（甘）
吳 デン
【甜瓜】テンクワ まくはうり、甘瓜。
【甜菜】テンサイ さたうだいこん、あまな。

【甚】二三五頁の甚を見よ。

七畫

【棊】五三四頁の棊を見よ。

八畫

【嘗○】【嘗】二一二頁の嘗を見よ。

【尠】三一八頁の尠を見よ。

【臺】八六一頁の臺を見よ。

生部

【生○】【生】漢 セイ 吳 シヤウ ㋑いく、いきる、いかす、命がある㋺うむ（生）子をうむ㋩うまれる、子が產れる、この世に出る、始まる、おこる、又そのこと㋥起す、はじめる、なる、わく㋭なす、つきるべいきること、又いきてゐる人、いきてゐるもの㋬おほく長ず、成長する、草木が生える㋣ふやす、えふる㋠いのち（生命）㋡よすぎ、なりあひ（生計）㋢いきながら、生れながら、自然にそなはりて㋤なま、熟せぬ、十分でない㋥しやうき、き、きじ、雜りなし㋦讀書人の稱、又自己の謙稱㋧俗語として語尾に用ふ㋨あやにく、思ひの外し國訓なる（果實がみのる）
【生人】セイジン いきてゐる人。 「の類。
【生口】セイコウ ㋑いけどり、ほりよ㋺牛馬
【生生】セイセイ 萬物のたえず出來ること。
【生平】セイヘイ 平生、ふだん、つね。
【生民】セイミン じんみん、たみくさ。
【生母】セイボ うみの母、實の母。
【生血】セイケツ いきち、生命あるものより取りたる血液。
【生辰】セイシン 生れし日、誕生日。「した色。
【生色】セイショク ㋑顏色に出る㋺いきく
【生肉】セイニク なまの肉。
【生存】セイゾン いきながらへる、生息。
【生成】セイセイ できる、しでかす。
【生兵】セイヘイ 新兵、又あらての兵士。
【生年】センネン ㋑生れた年㋺生存の年數。
【生命】セイメイ いのち、壽命。
【生佛】セイブツ いきぼとけ、高僧の尊稱。
【生孩】セイガイ 生れたての子、あかご。
【生來】セイライ うまれつき、性質、天性。
【生花】セイクワ 活花のこと、草木の花枝を切り採りて之れを花器にいかして置くと、又其技術。

（生花）

【生活】セイクツ ㋑命をたもつ、いきてゐる㋺くらし、世渡り
【生死】セイシ 生きると死ぬ。
【生物】セイブツ いきたるもの、生類。
【生面】セイメン ㋑初對面㋺新らしき方面。
【生育】セイイク おひそだつ、生長。
【生息】セイソク 生存に同じ。
【生前】セイゼン ㋑まだ死せざるうち、生きてゐる時㋺さきの世、過去。
【生別】セイベツ いきわかれ、生別離。
【生長】セイチヤウ そだてる、おひたつ 注意成長と書くが正しい。
【生計】セイケイ ㋑すぎはひ、暮しむき、活計㋺人が生活をするための計畫。
【生家】セイカ さと、生れたる家、實家。
【生致】セイチ いけどりて連れきたる。
【生捕】セイホ いけどること。
【生殺】セイサツ いかすところす
【生徒】セイト 學生、學校の子弟。
【生訣】セイケツ いきわかれ、生別。
【生路】セイロ 命が助かる、にげ道、活路。
【生業】セイゲフ すぎはひ、なりはひ、生活の爲めの業務。
【生國】セイコク シヤウゴク 自分のうまれたくに。
【生魚】セイギヨ なまざかな、鮮魚。
【生產】セイサン ㋑生計となるべき產業㋺自然の產物に人工を加へてより以上の價値あるものを作る作業。
【生殖】セイシヨク 子をうみふやすこと。
【生氣】セイキ ㋑萬物の成長發達㋺いきいきしたるいきほひ㋩元氣を出す。
【生慾】セイヨク 生きんとする慾望、本能の慾
【生硬】セイカウ 圓熟の域に達せぬこと。
【生勳】セイドウ 繪畫等の眞に迫るさま。

【生意】セイイ ㋑いきる心もち㋺いき〳〵した心㋩別な考へを起す。
【生食】セイキン いけどり、生捕。
【生鮮】セイセン 鮮かにして生々したる貌。
【生還】セイクワン 無事にかへる意。
【生縛】セイバク 生捕りて縛る、いけどる。
【生蕃】セイバン 未だ文化に服せぬ蠻民。
【生類】セイルイ いきてゐるもの、動植物。
【生靈】セイレイ ㋑生命㋺人民、人類㋩いきりやう、生きて居る人の怨靈。
【生齒】セイシ ㋑齒がはえる㋺當年に生れ
【生擒】セイキン 生捕に同じ。「し子、當歲。
【生得】シヤウトク ㋑生れながらの性質、天性、天稟㋺生捕㋩生來。
【生者】セイシヤ 生きとし生けるもの 注意 せいじや と讀むは誤り、
【生害】セイガイ 自殺、自害。
【生涯】シヤウガイ 一生の間、終世、一生涯。
【生薑】シヤウガ 〈薑荷科の多年生草本で夏の頃淡黃色の花を開き根莖は香味料又は藥用にする、はじかみ

（生薑）

（生蕃）

【生憎】アヤニク をりあしく。
【生意氣】ナマイキ 物知り顏をする、出すぎる、きいたかぶりをする。「なやみ。
【生活苦】セイクワツク 生活上の苦しみ、貧の
【生別離】セイベツリ いきわかれ、生訣。
【生存鬪】セイゾンキヤウソウ 自我のまゝに生活し得ざる人間界の苦しみ、即ち人間として生きんが爲めに經驗する各種の苦惱
【生物學】セイブツガク 生物を研究する學科。
【生產力】セイサンリヨク 財物を造り出す能力
【生產費】セイサンヒ 生產の爲に用ゐる費用
【生理學】セイリガク 生物の生活原理を究める學、又人體の生理を研究する學。
【生活戰】セイクワツセン 生活せん爲め自然的に行はるゝ生物間の競爭。
【生命保險】セイメイホケン 人の死亡を條件として所定の料金を支拂ふ保險。
【生活狀態】セイクワツジヤウタイ 生活の有樣。
【生活意思】セイクワツイシ 人間の持つてゐる生きんとする欲求。
【生產過】セイサンクワツ 生產が需要よりも多い。
【生者必滅】シヤウジヤヒツメツ 生ある者はいつかは必ず死すべしとの意。
【胎生】タイセイ 卵生ランセイ 一生シヤウ 養生ヤウジヤウ
【狂生】キヤウセイ 儒生ジユセイ 更生カウセイ 餘生ヨセイ
寒生カンセイ 衛生エイセイ 發生ハツセイ 攝生セツセイ
學生ガクセイ 舍生シヤセイ 濺生サウセイ 簇生ソウセイ
平生ヘイゼイ 養生シセイ 門生モンセイ 長生チヤウセイ
書生シヨセイ 群生グンセイ 蒼生サウセイ 後生コウセイ
寄生キセイ 先生センセイ 往生ワウジヤウ 放生ハウジヤウ

四畫

【星】 四八四頁の星を見よ。

【晴】 七二一頁の晴を見よ。

六畫

【產●】【產俗字】【產】 漢サン 呉セン
㋑うむ、子をうむ、又うまれる、出生する㋺うみたるもの、うまれたる處㋩出る、生ずる、出來る㋥なりはひ、くらし（生業）㋭たから（資財）㋬樂器の名
【產出】サンシユツ つくりだす、できる。
【產地】サンチ ㋑其物を生ずる土地、產出地㋩人の生れ出た土地。
【產衣】サンイ 生兒にはじめて著せる衣服
【產卵】サンラン 卵をうむ。「うぶぎ。
【產科】サンカ 產婦を取扱ふ醫術。
【產物】サンブツ その土地にて產出する物。

【產前】サンゼン 子をうむ前。
【產後】サンゴ 子をうみたる後。
【產婆】サンバ とりあげばゝ、助產婦。
【產婦】サンプ 子を產んだ女。
【產業】サンゲフ ㋑生產の事業㋺よわたりのためのしごと、なりはひ。
【產蓐】サンジヨク 產婦のねどこ。
【產褥】サンジヨク 前に同じ。
【產額】サンガク 物の產出する量。
【產土神】ウブスナガミ うぢがみ、其人の生れた土地を鎭め守る神。
【產靈神】ムスブノカミ 造化のかみ、造物主。
【產兒制限】サンジセイゲン 米國のサンガー夫人が唱導せし說にて自然的に產出すべき嬰兒を人工を加へてその數に制限を加へ多產を防ぐこと。
【產業組合】サンゲフクミアヒ 組合員の產業又は其の經濟の發達を企圖する爲めに設けられた法人。

七畫

【甦俗字】【甦○】【蘇通字】 呉ス 漢ソ
よみがへる、いきかへる
【甦生】ソセイ よみがへる、いきかへる 注意 かうせい と讀むは誤り。

【甥○甥】 漢サウ 呉シヤウ 慣用音セイ
㋑をひ（兄弟姉妹の子）㋺むこ（壻）㋩外孫（女の嫁ぎて產みし子）㋥妻の兄弟姉妹の夫㋭舅及姑の子

用部

【用●】【用俗字】 漢ヨウ ㋑もちひる、役に立てる、つかふ、はたらかせる㋺聞き入れる、取上げる、人を任用す㋩行ふ、はたらく、行動す、又はたらき、つかひみち㋥役立つ道具㋭ものいり、入費、つひえ㋬よう、仕事、所要㋣もつて（以）㋠たから（財）もとで（資本）
【用人】ヨウニン 德川時代に大名や貴人の家に仕へて諸事を取扱ひし者。
【用才】ヨウサイ 才ある人を用ふる。
【用心】ヨウジン ㋑氣をつける、注意㋺心を用ふ、いましめ、警戒。
【用水】ヨウスイ 使ふために貯へる水。
【用兵】ヨウヘイ いくさをすること。
【用材】ヨウザイ つかふ材木、使ふ材料。
【用法】ヨウハフ 用ひ方、使ひ方。

【用金】ヨウキン ㋑維新前大名が臨時に人民から取立てた金㋺入用の金。
【用件】ヨウケン なすべき事がら、ようむき。
【用言】ヨウゲン 動詞・形容詞の如く語尾の
【用度】ヨウド いりめ、入費。「變化する語。
【用例】ヨウレイ 用ゐたるためし。
【用捨】ヨウシヤ ㋑用ゐることゝ捨てること
㋺手紙にては宜しきやうにとの意。
【用途】ヨウト つかひみち、用ゐる方面。
【用意】ヨウイ ㋑こゝろがけ㋺準備する。
【用紙】ヨウシ その事に使用すべき紙。
【用事】ヨウジ つとむべき事、なすべき事。
【用語】ヨウゴ つかふことば、使用する語。
【用器畫】ヨウキグワ 器具を用ゐて描く圖畫。
【用意周到】ヨウイシウトウ 細心の注意。
國用「クヨウ」 聘用ヘイヨウ 公用コウヨウ
信用シンヨウ 錄用ソウヨウ 徵用チヨウヨウ 藥用ヤクヨウ
官用クワンヨウ 適用テキヨウ 試用シヨウ 軍用グンヨウ
選用センヨウ 擢用タクヨウ 歲用サイヨウ 費用ヒヨウ
登用トウヨウ 採用サイヨウ 食用ショクヨウ 效用コウヨウ
辨用ベンヨウ 節用セツヨウ 財用ザイヨウ 小用セウヨウ

二畫

【甫●】 漢フ 呉ホ
㋑男子の美稱㋺おほいなり（大）㋩はじめて、はじめ、まさに㋥大なる貌、又おほ

し(多)ホわれ(我)ヘあざな(字)

【同訓異義】はじめ　甫・初・始其他の用法は一三五頁の初を見よ。

【甬●】漢ヨウ　呉ユ　イ花の咲き出るさま　ロつね

七畫

【甯】三〇六頁の寧を見よ。

十畫

【鋪】八六六頁の鋪を見よ。

十四畫

【黼】一一九四頁の黼を見よ。

田部

【田●】【佃通字】【田●】漢テン　呉デン　イた、稻をつくる地　ロはた、はたけ、はたけの形したる所　ハたつくる、はたをつくる　ニたみをやしなふホかり、かりす(畋・佃)　ヘ周代の田制にて一井の地

【田夫】デンフ　ゐなかもの、百姓。

【田父】デンフ　前に同じ。

【田田】デンデン　イ太鼓の音の形容　ロ蓮葉等の水面に浮ぶ貌　ハ物のつらなるさま。

【田里】デンリ　むらさと、村里。

【田舍】デンシャ　ゐなか、地方。

【田地】デンヂ　田はた、耕作地。

【田宅】デンタク　田と家、田地と宅地。

【田時】デンジ　農事のいそがしき時。

【田租】デンソ　耕作地に課する租稅、田稅。

【田畝】デンポ　たはた、田のうね。

【田家】デンカ　田舍の家、百姓家。

【田園】デンボ　田とはたけ、たんぼ、

【田野】デシャ　田地、はたけ、

又田舍の地。「らもち。

【田鼠】デンソ　鼠の一種、むぐ

【田園】デンエン　イたはた　ロ郊外の地。

【田樂】デンガク　イ田樂燒又は田樂豆腐の異稱　ロ舞樂の名、古昔農夫の勞を慰めんために笛鼓を用ゐてをかしき藝をなせしに始まる。

【田鳴】デンチウ　イ稻を植ゑる田　ロ田畑、又その呼。

【田獵】デンレフ　かりをする、狩獵。

【田作】タツクリ　ごまめ、正月の料理に用ふ。

（田樂）

（田鼠）

【田螺】タニル　水田に棲む一種の貝。

【田鶴】タヅ　つる　注意田にゐる鶴の義では「ていふ。ない。

【田舍漢】デンシヤカン　田舍もの、人を卑しめ

【田園生活】デンエンセイクワツ　都會の雜閙を避け田舍又は郊外に生活すること。

【田園文學】デンエンブンガク　都會を主材とした文學に對し田園生活を主材としたもの

【田園都市】デンエントシ　家屋を餘り接近せしめず且つ庭園を多く設けて田園趣味を加味したる都市。

青田カウデン　屯田トトン　公田コウデン　名田メイデン
代田ダイデン　瓦田リヤウデン　營田エイデン　方田ハウデン
區田クデン　寸田スンデン　守田シユデン　桑田サウデン
火田クワデン　狩田シウデン　石田セキデン　井田セイデン
搜田ソウデン　食田シヨクデン　墾田コンデン　穰田ジヤウデン
天田テンデン　力田リヨクデン　山田サンデン　悲田ヒデン

【由●】【由●】漢ユウ　呉ユ　一音ユイ　イよる(因)たよる、したがふ　ロふ(經)以てす、因緣す、於てす　ハより(自)　ニもちゐる(用)　ホよし、わけ、いはれ、すぢみち、しかた、みちべたすく(輔)　ト由々は自得の貌　チよろこぶ貌　リ猶に通ず、なほ　ヌひこばえ(木が枝を生ずること)　ルこ國訓よし(推量して問ふ語)

【由由】イウイウ　ヲ自得又は喜悅の貌　ワため らふ　カ重大、甚だし。

【由來】ユライ　ヲいんねん　ロもとから。

【由緣】ユエン　ゆかり、ちなみ。

【由緒】ユシヨ　いはれ、來歷、ゆゐしよ。

自由ジイウ　事由ジイウ　緣由エンユウ　經由ケイユウ

【甲●】【甲】漢カフ　呉カン　一部音ケフ

イ草木の芽をつゝむうすき皮(孳子)　ロきのえ(十干の第一)　ハ第一番の義、又最もすぐれしものゝ稱　ニはじまる(始)　ホなる(狎)　ヘよろひ(鎧)　トころも(衣)　チから(介)　リ龜蟹類の脊を掩ふ堅い殼　ヌつめ(琴などを彈じる時に用ゐるもの)　ルこ假に名の代名詞として用ふ、なにがし　ヲ宋代の制にて十家一組の稱　ワ臺灣にて地積の單位、一甲は約百二十二坪ほどに當る　カ聲の高い調子

【甲乙】カフオツ　ヨたれかれ　タ優劣をあらはす語　レ順序を示す語。

【甲子】カウシ　イ十干と十二支　ロきのえね。

【甲士】カフシ　よろひをつけたる武者。

【甲兵】カフヘイ　甲士に同じ。

【甲夜】カフヤ　午後八時、初更。

【甲首】カフシユ　イかぶとを被りたる戰士　ロよろひ武者のくび。

【甲科】カフクワ　「者の第一等。

【甲冑】カフチウ　官吏登用試驗に及第したるよろひ

かぶと、具足　注意 **かふちう**と讀むは誤り。

（甲冑）

【甲板】カンパン　船の上部のゆか、デッキ。

【甲殼】カフカク　かふ、かふら。

【甲蟲】カフチユウ　殼を有する蟲類の汎稱。

【甲鐵艦】カフテツカン　鐵板にて包みし軍艦。

【甲留喇叭】コルネフト　イ眞鍮又は銀製の西洋樂器　ロ試金術の一種で金銀の混合した延板を卷き硝酸に作用せしめて其うちの銀を除き去つた後に殘る金。

（甲留喇叭）

【甲種興行】カフシユコウギヤウ　衞生又は教育上害ありとして十五歲以下の子供を入場せしめざる演劇・活動寫眞等の興行物。

堅甲ケンカフ　上甲ジヤウカフ　合甲ガフカフ　兵甲ヘイカフ
鱗甲リンカフ　令甲レイカフ　帶甲タイカフ　玄甲ゲンカフ
文甲ブンカフ　金甲キンカフ　鐵甲テツカフ　開甲カイカフ
保甲ハウカフ　精甲セイカフ　戍甲ジユカフ　素甲ソカフ

【申●】【申●】漢シン　呉　イさる(十二支の一)　ロかさね(重)　ハより(自)　ニのぶ(舒)　ホあくび(欠)　ヘゆるやかにのび〳〵せる貌　トのぶ(伸)　チひく(引)　リ國訓まをす(語る、告げる)

【同訓異義】のぶ　申・述・陳其他の用法は一〇三一頁の述を見よ。

【申告】シンコク　上に申し上ぐ。「告の訴狀。

【申狀】シンジヤウ　鎌倉・室町時代に於ける原

【申報】シンポウ　事件を上に知らせる。

【申盟】シンメイ　くり返してちかふ。

【申誥】シンコウ　訓戒をのべる。

【申諭】シンユ　のべさとす、言ひきかす。

【申達】シンダツ　申したつする、通知する。

【申請】シンセイ　上に向つて或事柄を申出る

【申證】シンショウ　イ明かなこと　ロ明白な證據

【申分】マフシブン　イいひゝらき、又いひぶん　ロひなん、缺點。

【申付】マフシツケ　いひつけ、命令。

【申立】マフシタテ　一定の主張を申述べる。

【申込】マフシコミ　契約を結ばんとする者が相手方に對して爲す意思表示。

十一畫

〔男〕〔男〕

漢 ダン ㋑を、を 呉 ナン のこ、をとこ、丈夫、だんし㋺むすこ、をとこの子㋩爵位の第五番目㋥血氣さかりの男㋭父母に對する子の自稱

【男子】ダンシ ㋑をとこ、女に對していふ ㋺をのこ、大丈夫㋩むすこ、男の子。

【男工】ダンコウ 男の職工。

【男系】ダンケイ 男親の系統。

【男女】ダンジョ ナンニョ 男と女、むすことむすめ。

【男兒】ダンジ 男子に同じ。

【男性】ダンセイ 女性の對㋑男㋺男たる性質㋩文法上ことばが具有する男の性質。

【男裝】ダンサウ 女子にして男子の裝ひをすること、又そのよそほひ。

【男爵】ダンシャク 爵位の第五位。

【男色】ナンショク ダンショク 男子が男子の容色を愛する、かげま（女色の對）。

【男房】ナンバウ 昔の藏人職、女官と同樣に天子の側に近く仕へしより言ふ。

【男風】ナンプウ 男色に同じ。

【男根】ナンコン 男の性殖器、陰莖。

【男性美】ダンセイビ 女性の優婉なる美に對し男性の剛壯勇健なる肉體及び精神上の美を稱す、男らしきうつくしさ。

【男地獄】ラトコヂゴク 男妾、をとこめかけ。

【男女花】ラトコヘル 春に至り舊根より生じ女郎花よりは大きく花色白しその他は凡て女郎花に似てゐる。

（男女花）

【男女同權】ダンヂョドウケン ナンニョドウケン 男も女も社會上に於ける權利の平等にして差別なき見方

【男尊女卑】ダンソンヂョレ ナンソンニョヒ 男を尊びて女を卑しむ風習をいふ。

奇男キダン 庶男ショダン 聖男セイダン 童男ドウダン

〔町〕〔町〕

漢 テイ ㋑まち 呉 チャウ （畦）田地の區別、あぜ、區域、くぎり㋺市街、ちやう㋩距離の單位（六十間）又地積の單位（十段）㋥地方自治體の一㋭一郭の中を道にてくぎりたる一區内㋬商家の たち並ぶ繁華な所、市街㋣家の中を區劃したる部屋

【町人】チャウニン 昔の士族が商人を呼んだ「言葉。

【町村】チャウソン 町と村との地方自治團體と併稱して町村といふ、共に最下級の地方自治團體で法人である。

【町氏】チャウミン まちのひとゞ。

【町長】チャウチャウ 町制をしく自治團の長。

【町家】チャウカ 町の家、市街地の家。

【町會】チャウクワイ 町内の相談をする會。

【町筋】マチスヂ 町のとほり、通り。

【町村會】チャウソンクワイ 町村に於て選出した町村會議員を以て組織し町村に關する事件及び法律勅令に依り其の權限に屬する事件即ち條例規則の改廢・町村の事業・歳入豫算の決定・決算報告の認定・町村稅・不動產の管理及び訴願訴訟和解に關する件等に付て議決をなす會

【町村制】チャウソンセイ 町村の自治の爲に設けられたる特別の法律。

【町奉行】マチブギャウ 德川時代江戸・京都・大阪・駿府・山田・奈良等に置かれて市政を司りし役。

【町村組合】チャウソンクミアヒ 數町村の事務を處理するため其の協議に依り監督官廳の許可を得て設立する組合。

〔甸〕

漢 テン ㋑天子の直轄する土地、周制にて王都を去る五百清里以内の土地、又町はずれの地㋺ぬく（挺）㋩をさむ（治）㋥かり（狩）かる㋭田野の產物㋬周代の稅制にて車一乘（兵士七十五人）を出す土地

〔畊〕

漢 ボウ ㋑たみ（民） 呉 ミャウ モウ ㋺無智なる人民㋩田をつくる人㋥ひろきの（曠野）

〔畀〕〔卑別字〕

漢 呉 ㋑たまふ（賜） ヒ ㋺あたふ（與）

【畊〇】

【畫】六九一頁の畫を見よ。

四畫

〔界・畛・堺〕〔界〕

漢 カイ 呉 ケ ㋑さかひ（境）土地のさかひ㋺かぎる（限）わけしきる（分畫）くぎる、かぎり、くぎり㋩わけはなす（離間）㋥さかひす、境界が接して居る㋭あたふ（與）㋬場所

【界限】カイゲン さかひ、くぎり、かぎり。

【界紙】カイシ 罫を引きたる紙。

【界域】カイキキ さかひ、境界。

【界隈】カイワイ あたり、近所、附近。

【界標】カイヘウ 境界線を示す爲設けた標識

眼界ゲンカイ 境界キャウカイ 彊界キャウカイ 夷界イカイ

分界ブンカイ 天界テンカイ 三界サンカイ 上界ジャウカイ

下界ゲカイ カカイ 塵界ヂンカイ 國界コクカイ 遠界エンカイ

蕃界ハンカイ 部界ブカイ 邊界ヘンカイ 限界ゲンカイ

封界ホウカイ 空界クウカイ 淨界ジャウカイ 法界ハフカイ

世界セカイ 花界クワカイ 仙界センカイ 十界ジフカイ

〔畏・畏〕〔畏〕

漢 呉 ㋑おそる（懼）

おそれはゞかる、おのゝく、こはがる、かしこむ㋺いむ（忌）㋩したがふ（心服）㋥いましめる、用心する㋭國訓かしこし（勿體ない、恐れ多い、ありがたい）かしこむ（恐れつゝしむ）かしこまる（つつしみうく、ひざまづく）

【同訓異義】おそる 畏・恐・懼其他の用法は三八六頁の恐を見よ。

【畏友】イウ 敬愛し且つ心服すべき友。

【畏日】ジツ 夏の日（冬の日は愛日）

【畏附】フ おそれて服從する。

【畏怖】フ おそれおそれる。

【畏服】フク おそれてしたがふ。

【畏敬】ケイ おそれつゝしみ敬ふ。

【畏縮】シユク 恐ろしくてすくむ貌。

【畏懼】ク おそる、おぢおびえる。

猜畏サイ 嫌畏ケン

嶂畏ソン 憂畏イウ

〔畑・畠〕〔畑〕

國字 はた、はたけ（水のない田、農作物をつくる所）

〔畎・畎古字〕

漢 呉 ㋑ながれ、小さき流（小川）㋺みぞ（溝）㋩たに（谷）㋥ゐなか（田舍）㋭たんぼ（田圃）

【畝】六九〇頁の畝を見よ。

【畊】八三四頁の耕を見よ。

【畋】一二二頁の畋を見よ。

【畔】三八二頁の思を見よ。

【畕】五二〇頁の果を見よ。

【畝】五七一頁の畏を見よ。

【畚】五七一頁の畚を見よ。

【畛】八四四頁の畛を見よ。

五畫

〔畜〕〔畜〕

漢 ハン ㋑あぜ、界㋺はなる（離）㋩そむく（叛）㋥さかひ、はた、ほとり

【同訓異義】そむく 畔・倍・叛其他の用法は一八〇頁の叛を見よ。

【畔岸】ハンガン ㋑限り、はて㋺人を近けぬ。

【畔界】ハンカイ 田地さかひ、あぜ。

【畔逆】ハンギヤク そむきさかふ、反逆。
【畔援】ハンエン 此を捨てゝ彼を取るの意、我意をふるまふこと。
【畔道】ハンダウ 田のあぜみち、地ざかひ。
海畔カイハン 木畔ボクハン 岸畔ガンハン 營畔エイハン
徑畔ケイハン 際畔サイハン 疆畔キヤウハン 天畔テンハン
道畔ダウハン 枕畔チンハン 潤畔カンハン 籬畔リハン

【畜・】【蓄通字】【畜】

漢チク キク キウ 呉トク コク ク 慣用音チク
㋑つむ(積)つみ重ねる、たくはふ(貯)㋺をさむ(牧)あつむ(聚)㋩とゞむ(止)㋥家にかふ動物㋭やしなふ(養)㋬かふ(飼)㋮おこす(起)㋯したがふ(從)
【畜生】チクシヤウ ㋑佛語、すべて鳥獸蟲魚などの稱㋺人を罵りていふ俗語。
【畜牧】チクボク 牛馬類を野に養ふこと。
【畜産】チクサン 家に飼ふけもの、家畜類。
【畜積】チクセキ たくはへる、又畜へた物。
【畜養】チクヤウ 牛馬を飼ふこと。
【畜藏】チクゾウ たくはふ、又その物。
【畜類】チクルキ 家にかはるゝ鳥獸、家禽。
【畜生道】チクシヤウダウ 佛說にて冥途六界の一、物慾に迷ひ道ならぬ行ひをなすことを戒めていふ。

五畜ゴチク 獸畜ジウチク 羈畜キチク 擾畜ジウチク
奴畜ドチク 牧畜ボクチク 耕畜カウチク 奇畜キチク

【畝・】【畝古字】【畝本字】

漢ボウ 呉ム 慣用音ホ
㋑田地の面積の名、古は百步、後には二百四十步㋺あぜ、うね㋩農場、ゐなか㋥國訓せ(田畑の面積の單位、三十步)㋭あぜ、くろ、なはて(田間の陌)㋮つくる㋯つくる

【畛・】【畛】

漢シン 呉ヒツ
いたす(致)㋺つぐ(告)つげる㋥つくす、さかひ、はて(界)
【畛域】シンキヤ ㋑あぜ、又さかひ、かぎり㋺畛域之見は一部局に限られたる見解。

【畠・畑】

國字 白田、穀物をつくる所、はたけ
注意 畚とは別字である

（畚鍤）

【畚・】【畚別字】

漢ホン 慣用音ホン
が同義に用ひられてゐる㋑ふご、土をもるゝもの㋺もつこ、あじか
【畚鍤】ホンサフ もつことすき、土など運ぶ具。

【留】

六九三頁の留を見よ。

六畫

【畢・】【畢】

漢ヒツ 呉ヒチ
㋑をはる(竟)をはり、はて、しまひ㋺みな(皆)ことごとく、つくす(盡)㋩かき(牆)㋥星の名、あめふり㋭ふだ(簡)文字を記したる木札㋬あみ(網)あみす
【同訓異義】をはる 畢・卒・終其他の用法は七九六頁の終を見よ。
【同訓異義】ことごとく 畢・悉・盡其他の用法は三八九頁の悉を見よ。
【畢生】ヒツセイ 死ぬまで、一生涯。
【畢竟】ヒツキヤウ つまり、はてには、けつきよく、つゞまるところ
注意 必竟と書くは誤り。
【畢業】ヒツゲフ 業を終る、一つの事業をし終る。

【略・】【略】

漢リヤク 呉ギヤク
㋑かんがへ(智慮)はかりごと(謀計)㋺さかひ(境界)㋩かなめ(要所)㋥すぢ(經路)みち(道規)㋭いとなむ(營)をさめる㋬もとむ(求)㋮とる(取)かすむ(掠)せめとる㋯をかす(犯)そむく(背)㋰あらまし(大略)ほゞ、おほよそ㋱とし(利)㋲はぶく(省)

【同訓異義】はかる 略・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。
【略式】リヤクシキ 正式の手續を省きて簡略にしたるしかた。
【略言】リヤクケン 事の大略を說くこと。
【略服】リヤクフク てがるの服裝。
【略取】リヤクシユ ㋑奪ひとる、かすめ取る㋺幼者をおどかして連れて行く。
【略述】リヤクジユツ 大要をときあかす。
【略解】リヤクカイ リヤクゲ 大要の意味を說明す、又その說明をしたるもの。
【略奪】リヤクダウ かすめ奪ふ、掠奪。
【略稱】リヤクシヨウ はぶいてよぶなまへ。
【略儀】リヤクギ 省略したる儀式、略式。
英略エイリヤク 叡略エイリヤク 侵略シンリヤク 兵略ヘイリヤク
簒略サクリヤク 計略ケイリヤク 謀略ボウリヤク 將略シヤウリヤク
權略ケンリヤク 戰略センリヤク 商略シヤウリヤク 才略サイリヤク
智略チリヤク 大略タイリヤク 遠略エンリヤク 王略ワウリヤク

【畦○】【畦】

漢呉 ㋑うね、あぜ、くろ㋺はたけ、はた㋩田地五十畝、又は二十五畝の稱
【畦畛】ケイシン 田地のさかひ、へだて。
【畦道】ケイダウ 田間の道、あぜみち。

【時・】

漢シ チ 呉ジ ヂ
つりのには(祭場)天地の神及び五帝を祀る所、ま

【累】

七九五頁の累を見よ。

七畫

【番・】【番】

漢呉ハン 呉バン 慣用音バン
㋑物事の順序をつける辭㋺かはりばん、交替して事にあたる㋩つがふ、二つ組み合す㋥つよし、いさまし、又そのさま㋭西方の野蠻人㋬つがひ(禽獸のめすとをすの一對)二つの物のつぎ合ふ所、關節㋮つるむ、交尾、矢はづに弦をかける㋯順番、次第㋰みはり、斥候
【番人】バンニン みはりをする人。
【番外】バングワイ きまつた番の外、臨時。
【番兵】バンペイ みはりの兵、番卒、哨兵。
【番附】バンヅケ 演藝・勝負事等の順序及び出演者の氏名などを順番に記したもの
【番茶】バンチヤ 下等な茶。
【番組】バングミ 演藝勝負事等の組合せ。
【番衆】バンシユウ 昔、殿中に勤番して雜務を司りし武家の職名。
【番號】バンガウ 順序又は區別を示すしるし
【番頭】バントウ 營業に關する特定の事柄をする商業使用人。
【番小屋】バンゴヤ 當番人の居る小屋。
交番カウバン 當番トウバン 輪番リンバン 更番カウバン

【畫・画】【畫俗字】【画】

漢 クワク クワイ 呉 ギヤウ エ
慣用音グワ
㋑かぎる、かぎり(界限)くぎる、くぎり、さかひ㋺わかつ(分)さかひをたてる、區劃す㋩易の卦の象㋥はかる、はかりごと(計策)㋭ゑ(繪)ゑがく
【畫一】クワクイツ ㋑整ひて正しき貌㋺一樣にす㋩明らかにして曲りなき貌。
【畫策】クワクサク 計略をめぐらす、計策
注意 劃策と書くは誤り。
【畫工】グワコウ ゑかき、繪師。
【畫伯】グワハク 畫家の敬稱。
【畫足】グワソク 無用のものを書き足す意。
【畫局】グワキヨク 繪畫を取扱ふ役所。
【畫帖】グワヂヤウ ㋑繪畫の手本㋺畫をかきこ
【畫家】グワカ 畫工に同じ。
【畫眉】グワビ かきまゆ、畫きたる眉毛。
【畫筆】グワヒツ ゑをかくふで、彩筆。

【畫師】グワシ 畫工に同じ。
【畫舫】グワバウ 彩色した美しい船。
【畫餅】グワヘイ 地に畫いた餅の意にて實用にならぬ譬、轉じてむだ、徒勞。
【畫像】グワザウ 肖像畫。
【畫壇】グワダン 畫家・美術家等の活動する「社會。
【畫譜】グワフ 季節の順によりて山・水・花鳥を描きしもの。「料。
【畫題】グワダイ 畫にかゝれる題目、畫の材
【畫讚】グワサン 畫の傍らに書きそへた讚。
【畫龍點睛】グワリヨウテンセイ 名人が龍を畫いて最後に睛を入れしに、其龍が天にのぼりしといふ故事より大切な一點に手を入れて物事を成就するの喩へにいふ

機畫キクワク 參畫サンクワク 規畫キクワク 措畫ソクワク
點畫テンクワク 宇畫ジクワク 筆畫ヒツクワク 繪畫クワイクワク
祕畫ヒクワク 壁畫ヘキクワク 計畫ケイクワク 石畫セキクワク
主畫シユクワク 墨畫スミエ 圖畫ヅグワ 口畫コウクワク

【異俗字】【異・】【異】 漢 異 イ

イことなり、ことなる、ちがふ、ことにす、別々にする、離れる、ちがひ、差別 ロすぐれたり、あやし(怪めづらし(珍) ハことなれる事、變つて居る事、怪しい事柄 ニことなりとす、怪しむ、珍らしがる、奇とす

【同訓異義】 ことに

【殊】 は物のきれ離れて違ふ意。
【特】 はひとり取りわけてすぐれる義
【異】 は物の彼と此と違ふの意。
【異人】イジン イ他人、別人 ロ外國人 ハ奇特なる人 ニあやしい人、仙人の類。
【異才】イサイ 衆にすぐれたる才能、又其人
【異父】イフ 同母にして父のみ違ふもの。
【異心】イシン ふたごゝろ、叛心。
【異日】イジツ 他日、別の日。
【異名】イメイ イミヤウ 本名の外の別の名。
【異母】イボ 父は實父で母が違つて居ること、又腹ちがひ。
【異本】イホン 珍本、めづらしい書物。
【異存】イゾン 人と異なりたる意見。
【異同】イドウ 同じことゝ異なること、又異なること、ちがひ、差違。
【異邦】イハウ 異國に同じ。
【異形】イギヤウ イめづらしき形 ロあやしげ
【異性】イセイ 男女その性を異にせるをいふ、即ち男よりは女、女よりは男。
【異見】イケン 人に反對する說、異なる說。
【異狀】イジヤウ イあやしき樣子 ロ平生とことなりたる有樣。
【異相】イサウ イ人並よりかはつた人相 ロ人間が死んで幽鬼となつたこと。
【異俗】イゾク 變つた風俗、珍らしい風習。
【異彩】イサイ すぐれたる色彩。
【異域】イキキ よその國、異國、異鄉。
【異常】イジヤウ 平生にかはりたる物事、なみなみならぬ事。
【異國】イコク 外國、よその國。
【異鄉】イキヤウ 他鄉、他國又は外國。
【異敎】イケウ 自分の信奉する以外の宗敎。
【異朝】イテウ 外國の朝廷。
【異義】イギ 普通とは異つてゐる意義。
【異數】イスウ 特別の待遇。
【異腹】イフク はらちがひ。
【異聞】イブン イ珍らしき話、耳あたらしきうはさ ロ人とちがつたきゝごと。
【異說】イセツ イ人とちがふ論 ロめづらしき意見又は論述 ハ反對の論。「風體。
【異樣】イヤウ イ異りたる有樣 ロあやしき
【異數】イスウ 特別のあしらひ 注意 極めて少い意に用ふるは誤り。
【異圖】イト わるだくみ、むほん。
【異境】イキヤウ ことなる國、他國、外國。
【異端】イタン 正しき敎にそむきたる道。
【異論】イロン 異說のイ・ハに同じ。
【異類】イルキ イちがつたゝぐゐ ロ己と人種を異にする者。

【異議】イギ イ反對の論 ロ裁判所其の他行政官廳等の命令に對し其の命令を受けし者が不服を申立てること ハ契約當事者の一方が相手方に對して爲す反對の意味を含める意思表示。「態の出現。
【異變】イヘン 異事變亂、平生と異つた狀
【異口同音】イクドウオン 多人數が同時に聲をそろへて同樣のことをいふこと。
【異域之鬼】イキキノキ 他の國で死ぬること
【異國情緒】イコクジヤウチヨ イ外國風の氣分のあること ロ作品に外國の風物や情味をとりいれて書かれたる一種の氣分、エキゾティツク・ムード。
【異敎主義】イケウシユギ 基督敎の敎義に反對し熱情・肉感によつて生きる主義。

奇異キ 同異ドウ 怪異クワイ 變異ヘン
靈異レイ 崖異ガイ 表異ヘウ 分異ブン
寵異チヨウ 秀異シウ 珍異チン 雄異ユウ
詭異キ 敬異ケイ 妖異エウ 祥異シヤウ
疑異ギ 歎異タン 顯異ケン 特異トク
茂異ボウイ 別異ベツ 大同小異ダイドウセウイ

【罟○】【留俗字】【留】 漢 リウ 呉 ル

イとゞまる(止)とめる、とめ置く、後に殘す、殘しおく、生存せしめる ロおくれる(遲) ハひさし(久) ニしづか、ゆるやか(徐) ホをさむ(治) ヘうかゞふ(伺) トきいろ(黃)の絲すかたし(牢) リながれる(流) ヌ星の名(すばるぼし) ルルーブル(露國の貨幣の基本單位、邦貨の約一圓六錢、Rubleのあて字)

【同訓異義】 とどまる 罟・止・駐其他の用法は五五六頁の止を見よ。
【留心】リウシン 心をとめる、注意、留意。
【留守】リウシユ ルス イ居守に同じ、不在の意 ロ天子出御の後に留り守る ハ他行中家を守る ニ舊幕時代の役目、留守居役。
【留任】リウニン 任期が滿ちたる後も尙ほその職にとゞまる。「別れを告げる。
【留別】リウベツ 旅に立つ人が後に留る者に
【留保】リウホ 權利をうつす場合に自己に其の權利の一部を殘し置くこと。
【留意】リウイ 物事に心を注ぐ、氣をつける
【留置】リウチ イとめおく、保存す ロ郵便物を差出人が指定した郵便局に留置き受取人の出頭を待つて之に交付すること。「する。
【留滯】リウタイ 物事の滯る貌。
【留學】リウガク 學問修業のため外國に滯留
【留題】リウダイ 名所を遊覽して詠む詩歌。
【留置場】リウチチヤウ 警察署などにてかりに罪人又は被疑者を留め置く所。
【留守宅】ルスタク 主人の不在の家。

邀留エウ 閒留カン 苦留ク 駐留チユ
苛留カ 淹留エン 去留キヨ 遲留シヤ
滯留タイ 稽留ケイ 停留テイ 扶留フ
久留キウ 繫留ケイ 遣留ケン 拘留コウ
遷留セン 裁留サイ 止留シ 少留セウ

【畯・】 漢 呉 イ シユン

ひやくしやう ロたをさ(田を掌る役人)

六九〇頁の畯を見よ。

【畷】

二四〇頁の畷を見よ。

【甥】

六八五頁の甥を見よ。

八畫

【當○】【當】 漢 呉 イ タウ

あたる、引受ける、應ず ロ任につきて事を行ふ ハむかふ(敵對)つりあふ、匹敵す ニあたひす、適す、かなふ ホつかさどる(主)任ず ヘいたる(抵)會す、その時に出あふ トふせぐ(防)まもる チ罪を法文にあてゝ斷ず、又あてる、あたる、道理にかなふ、宜しきにかなふ リひきあて、かた、抵當 ヌそこ(底) ルいま、實際の、この、そ

の子かくなる筈である「まさに何々すべし」と反りよむ

【同訓異義】あたる　當・丁・中其他の用法は二七頁の中を見よ。

【同訓異義】べし　當・可・合其他の用法は一八三頁の可を見よ。

【當人】タウニン　本人、その人。

【當下】タウカ　そのとき、たゞいま。

【當日】タウジツ　その日。

【當分】タウブン　しばらく、さしあたり。

【當方】タウハウ ㋑こちら、此方㋺自身。

【當代】タウダイ　今の代、現代、現世。

【當世】タウセイ　今の時代、現世、現代。

【當今】タウコン　いまどき、現今。

【當年】タウネン　其の年、本年。

【當主】タウシユ　いまのあるじ、現代の主人。

【當直】タウチヨク　とのゐ、とまりばん。

【當初】タウシヨ　はじめ、いぜん、そのかみ。

【當座】タウザ　そのば、しばらくの意。

【當局】タウキヨク ㋑圍碁をなす者㋺時の要路にある人の意㋩事に當り又は臨む人

【當地】タウチ　その地、この土地。

【當面】タウメン　まのあたり、現在、目前。

【當時】タウジ　たゞいま、其とき、其ところ。

【當惑】タウワク　仕方にまよふ、處置に困る。

【當番】タウバン ㋑あたりばん㋺交替して勤むべき時に當ること、又その人。

【當然】タウゼン　當りまへ、正にしかるべし。

【當路】タウロ　その道にあたる、政治をつかさどる、又その人。

【當該】タウガイ　それにあたる意。「げらる。

【當選】タウセン　えらびにあたる、えらびあ

【當歸】タウキ　野草の一、やまぜり。

【當籤】タウセン　籤にあたる、あたり籤。

【當事者】タウジシヤ　或事件に直接關係ある者

【當意卽妙】タウイソクメウ　その場にのぞみオ略によつて早速とうまく應待すること

勾當コウタウ　過當クワタウ　配當ハイタウ　不當フタウ

相當サウタウ　適當テキタウ　至當シタウ　穩當ヲンタウ

【畷●】漢テツ　テイ　なはて、あぜみ　呉テチ　ち（田間の道路）

【畸○】漢キ　㋑わりのこり（零餘）整割當てたる殘りの田㋺かたよる㋩あやし、めづらし、ことなり（異）㋥かたはもの、不具

【畸人】キジン　㋑品行氣風の常人と異なる人㋺俗事に拘らぬ人㋩かたは者、不具。

【畸形】キケイ　かたは者、不具。

【畫】六九一頁の畫を見よ。

九畫

【畷○】漢ショウ　あぜ、稻田のあ　呉ジヤウ　ぜみち　四九三頁の暢を見よ。

【暢】

十畫

【畿○】漢キ　㋑さかひ（疆）土地のさかひ、はて、かぎり㋺帝都を去る五百里以内の地、又それ以外の地を五百里宛に區劃したる地域㋩門の内、又門のしきみ、門限㋥帝都、みやこ

【畿内】キナイ　㋑王城の附近、天子直轄の地㋺我國にては五畿内の略、卽ち大和・山城・河内・攝津・和泉の五國。

【夥】二五一頁の夥を見よ。

十一畫

【糞】一二〇頁の糞を見よ。

【奮】二六六頁の奮を見よ。

【鳴】一一八一頁の鳴を見よ。

十二畫

【鰈】二八一頁の鰈を見よ。

【戴】四一七頁の戴を見よ。

十三畫

【壘】二四三頁の壘を見よ。

十四畫

【疇○】漢チウ　㋑たはた、畝を植ゑる田㋺たがやしをさむ（耕治）㋩田のくろ、あぜ、うね㋥たれ（誰）㋭きのふ、さき、むかし、以前㋬家業を世々相傳ふるもの、今は主として天文學者をいふ㋮たぐひ（類）なかま、同類、分類せられたる項目㋯つれあひ（匹偶）㋰ひとし（等）㋱やはらぐ（和）

【疇日】チウジツ　前日、さきの日。

【疇官】チウクワン　字解の㋬を見よ。

【疇昔】チウセキ　㋑きのふ、又昨夜㋺さき頃、過ぎし頃

注意 じゆせきと讀むは誤り。

畫疇クワツチウ　沃疇ヨクチウ　田疇デンチウ　良疇リヤウチウ

畃疇センチウ　荒疇クワウチウ　平疇ヘイチウ　翠疇スヰチウ

【疆○】【彊別字】漢キヤウ　㋑さかひ（界）　呉コウ　くにざかひ、かぎり、はて、きは㋺さかひす、かぎる、さかひをつける、へだてる、はじむ㋩たゞす（界正）㋥境を守る㋭盈の白くなりて死すること㋬かたし

【疆域】キヤウヰキ　さかひ、土地のさかひ。

【疆埸】キヤウヂヤウ　㋑田のあぜ㋺國ざかひ。

【畧】七三八頁の畧を見よ。

十六畫

【疊●】【疊略字】【畳】漢デフ　呉デフ　㋑かさぬ（累）つみあげる、かさなる（重）㋺國訓たゝみ、たゝむ（しまひとぢる、をり重ねる）

【疊重】デフチヨウ　かさねる、かさなる。

【疊嶺】デフレイ　かさなりつゞきたる峰。

【疊紙】タタウガミ　㋑鼻紙㋺紙を疊みて中に物を入れるやうにしたもの。

【疊算】タタミザン　疊の上に簪などを投げて落ちたる所から緣までの疊目の丁半によつて吉凶を占ふこと。

十七畫

【疊●】【畳】

疋部

【疋●】【足】漢ショ　ヒツ　呉ヒチ　ソ　㋑あし（足）㋺しるす（記）㋩たゞし（雅）㋥ひき、布帛二端の稱、動物を數へること、又德川時代には鳥目十文の稱（一貫文を百疋とし舊銀貨の一分に當る）

四畫

【是】四八六頁の是を見よ。

【胥】八四六頁の胥を見よ。

六畫

【蛋】九一六頁の蛋を見よ。

七畫

【疏●】【疎通字】【疏】漢ショ　呉ソ　㋑うとし、親しみうすし、近しくない、はなれて遠い、うとむ、うとんず、うとまれる、又うときもの㋺よく知らず、十分通ぜぬ㋩とほる、とほす、開く㋥まばら、隙がある、ぬける所がある㋭あらい、精巧でない、又あらい米㋬しく（布）㋮あをもの、野菜㋯とほのく、まれにする㋰事物をくはしくのべる㋱

書物の註解

【疏水】ソスキ　土地を切りひらきて水を通ず、又その水道。

【疏外】ソグワイ　のけ者にす、疎んじて遠ざける。

【疏斥】ソセキ　前に同じ。

【疏朴】ソボク　あらくて飾り氣がない。

【疏狂】ソキヤウ　常道をはづれあはてる貌。

【疏宕】ソタウ　なみ外れて勇氣あること。

【疏雨】ソウ　まばらに降る雨。「その文書。

【疏奏】ソソウ　簡條書にして申上げる、又

【疏通】ソツウ　㋑とほる、滯りなくとほす　㋺分ち說いて明かにすること。

【疏解】ソカイ　㋑書物のくはしき註解㋺くはしく申しひらきすること。

【疏數】ソサク　うといとちかい。

簡疏カン ソ　稀疏キ ソ　寬疏クワン ソ　奏疏ソウ ソ

情疏ジヤウ ソ　浮疏フ ソ　扶疏フ ソ　義疏ギ ソ

手疏シユ ソ　密疏ミツ ソ　上疏ジヤウ ソ　諫疏カン ソ

【疎・疏】【踈俗字】【疎】

漢 ショ　呉 ソ　前の疏と同字であるが從來の慣例に依りその用法を異にす例へば物事を一つ〳〵くはしくのべる等の場合には疏を用ふるが如し、尙その用法は疏と疎の熟語に就て研究せよ

【疎末】ソマツ　うとい、又念を入れぬこと、めんみつならぬこと、粗末。

【疎放】ソハウ　物事にしまりなきさま。

【疎忽】ソコツ　そゝつかしい、てぬかり。

【疎密】ソミツ　あらいことゝ細かきこと。

【疎野】ソヤ　禮儀作法に適はぬさま。

【疎食】ソシ　そまつな食物、粗末な飯注意

そしよくと讀むは誤り。「そまつ。

【疎略】ソリヤク　㋑まばらに省く㋺おろそか、

【疎遠】ソエン　久しく會はない、無沙汰。

【疎隔】ソカク　うとみ遠ざく。

【疎濶】ソクワツ　音信をおこたる、御無沙汰。

八畫

【楚】　五三五頁の楚を見よ。

九畫

【疑○】【疑】

漢 呉 ギ　㋑うたがふ、思ふ㋺まどふ（惑）おそる（恐）あやしむ、又そのこと、又まぎらはし㋩おそらくは、おほかた㋥きちふ（嫁）ホもとる（戾）ヘうたがふらくは

【疑心】ギシン　うたがひたゞろ、まどふ心。

【疑兵】ギヘイ　敵をして實數よりも兵數多しと疑はしむる爲めに置く兵。

【疑念】ギネン　疑心に同じ。

【疑似】ギジ　互ひにまぎらはしきこと。

【疑問】ギモン　㋑疑ひたづねる㋺疑はしき

【疑義】ギギ　不審のことがら。「こと。

【疑惑】ギワク　うたがひまどふ、まよひ。

【疑團】ギダン　うたがひ、うたがひの心。

【疑獄】ギゴク　㋑罪狀がこみ入つて裁斷の容易ならざる事件㋺世人に疑念を懷かしむる刑事々件。

【疑點】ギテン　うたがはしき箇所。

【疑懼】ギク　うたがひおそれる。

嫌疑ケン ギ　斷疑ダン ギ　決疑ケツ ギ　闕疑ケツ ギ

狐疑コ ギ　質疑シツ ギ　沈疑チン ギ　繁疑ハン ギ

疒部

【疒○】

漢ダク　㋑やまひ、やむ（疾）　呉ニヤク　㋺よる（倚）㋩國訓やまひかんむり、やまひだれ

二畫

【疔○】

漢 テイ　呉 チヤウ　かさ（多く顏面に生ず）めんちやう

【疚○】

漢 キウ　呉 ク　㋑やまし㋺心がなやむ㋩うしろ暗し㋥病みて久しいこと。

【同訓異義】やむ　疚・疾・病其他の用法は六九八頁の病を見よ。

【痂○】

漢 呉 カ　瘢痕の上に生ずる薄皮。

【痂氣】カキ　大小腸・腰等の病。

【痂痛】カツウ　臍のあたりに劇しい痛みを起す腸の病氣、人間よりも馬に多い。

【痂瘤】カリウ　胸腹などの筋肉がひきつり劇しく痛みて痙攣を起す病氣。

四畫

【疫・】【疫】

漢 エキ　㋑えやみ、はやりやまひ（流行病）疫病㋺やくびやうがみ、病魔

【疫病】ヤクビヤウ　わるい流行病、惡疫。

【疫痢】エキリ　急性の傳染病の一。

【疫癘】エキレイ　えやみ、流行病。

【疫病神】ヤクビヤウガミ　㋑疫病を流行せしむるといふ想像上の惡神㋺疫病神がつく㋩人にゝくまるゝ者。

【疣○】【肬通字】

漢 イウ　呉 ユ　㋑いぼ（皮肉の結ぼれて突起したるもの）むだもの、餘計のもの、物の表面に附く粒狀のもの㋺ふるふ（顫）

【疣子】イウシ　いぼ。

【疣瘡】イウサウ　いぼ。

【疣結】イボユヒ　瘤結ともいふ、繩にて竹垣などを作る時の結び方、いぼゆひ

【疥・】

漢 カイ　呉 ケ　㋑かゆし㋺ひぜん（皮膚病の名、疥癬）㋩おこり（瘧）ぎやく、おこりを病む

（疣）

【疥癬】カイセン　皮膚病の一、ひぜん。

【疥瘡】カイサウ　ひぜん、濕瘡。

【疥癘】カイレイ　かゆき吹出物の病氣。

五畫

【疲○】【罷通字】【疲】

漢 ヒ　呉 ビ　㋑つかる、くたびれる、體力が衰へる、つからす、つかれ㋺うむ（倦）氣力が沮喪す、財つきてくるしむ㋩やせる（疲）㋥やむ、やまひ（病）

【疲勞】ヒラウ　くたびれてつかれる。

【疲倦】ヒケン　つかれあきる、うむ。

【疲弊】ヒヘイ　つかれよわる。

（疥癬蟲）

【疲憊】ヒハイ　つかれる。

【疲弊荒廢】ヒヘイクワウハイ　疲れ弱つて荒れ果てる。

【疵○】【玼通字】【疵】

漢 シ　呉 シ　㋑きず、病所、患部、やまひ㋺あやまち（過失）短所、つみ、缺點㋩そこなふ（傷害）又きずあと㋥にらむ（眦）

【疵瑕】シカ　㋑きず㋺かげ、缺點、あやまち。

【疵癘】シレイ　わざはひ、たゝり、さはり。

【疾・】【疾】

漢 シツ　呉 ジチ　㋑やまひ（病）㋺くるしきこと、難儀、人に害毒を與へるもの㋩にくむ（憎）㋥つとむ（力）ホはやし（速）せはし、とし、すばやい、するどい㋭やまし（疚）ト くるしみ（苦患）チ嫉に通ず、ねたむりやむ、うれふ、わづらふ、心配す㋬あやまち、缺點

【同訓異義】にくむ　疾・惡・憎其他の用法は三九四頁の惡を見よ。

【疾呼】シツコ　せき立てゝよぶ。

【疾雨】シツウ　急雨、勢はげしき雨。

【疾苦】シツク　なやみ、くるしみ。

【疾走】シツソウ　はやく走る。

【疾病】シツベイ　病氣、やまひ。「患ひ。

【疾患】シツクワン　㋑困難、くるしみ㋺病氣、

【疾惡】シツアク　にくみきらふ、嫉惡。
【疾風】シツプウ　はやいかぜ、ときかぜ。
【疾視】シツシ　目をいからしてみつめる、にらむ。
【疾痛】シツツウ　いたむ、いたみ。
【疾驅】シツク　はやく馬を走らす、轉じて速くかけ走る。
【疾言遽色】シツゲンキヨシヨク　早い言語とあはてた顏、落つかぬ貌。

固疾コシツ　罪疾ザイシツ　廢疾ハイシツ
痼疾コシツ　寒疾カンシツ　熱疾ネツシツ　腹疾フクシツ
癘疾レイシツ　足疾ソクシツ　天疾テンシツ　內疾ナイシツ
心疾シンシツ　虐疾ギヤクシツ　跳疾テウシツ　暴疾バウシツ
宿疾シユクシツ　痛疾ツウシツ　衰疾スヰシツ　笑疾セウシツ
忿疾フンシツ

〔病〕●〔病〕　漢ヘイ　呉ビヤウ　㋑やまひ（疾より重し）いたづき、わづらひ、うれひ、くるしみ、缺點、惡癖㋺わづらふ、やむ、病氣になる㋩くるしむ（苦）うれふ、心痛す、氣をもむ㊁うらむ（怨）㋭やます、人をくるしめる㋬はづかしむ（辱）㋣病氣がおもくなる

【同訓異義】うれふ　病・愁・憂其他の用法は三九七頁の愁を見よ。
【病人】ビヤウニン　病氣にかゝれる人。
【病中】ビヤウチユウ　病氣にかゝつてゐる間、「病氣中
【病名】ビヤウメイ　びやうきのなまへ。

【病因】ビヤウイン　やまひのもと。
【病狀】ビヤウジヤウ　病氣の經過又は輕重のありさま、やうだい。
【病夫】ビヤウフ　病める夫、病氣中の男。
【病死】ビヤウシ　病氣にて死ぬこと。
【病床】ビヤウシヤウ　やまひのとこ、病蓐。
【病身】ビヤウシン　病氣がちの體、又其人。
【病室】ビヤウシツ　病人の居るへや、又病院にて患者の居る所。
【病舍】ビヤウシヤ　病人を入れる建物。
【病牀】ビヤウシヤウ　病床に同じ。
【病者】ビヤウシヤ　病人に同じ。
【病原】ビヤウゲン　やまひのもと。
【病歿】ビヤウボツ　病氣の爲め死去すること
【病苦】ビヤウク　病氣の苦痛、やみくるしむ。
【病毒】ビヤウドク　㋑病の毒氣㋺わざはひの元となるものにも言ふ。
【病的】ビヤウテキ　物事が不健全にて常態で「ないさま。
【病臥】ビヤウグワ　病氣で臥して居ること。
【病症】ビヤウシヤウ　病の性質、病氣のたち。
【病院】ビヤウヰン　病人を診察施藥し又は之を收容して治療する所。
【病家】ビヤウカ　病人のある家。
【病菌】ビヤウキン　病のもとゝなるばいきん
【病根】ビヤウコン　㋑病氣の原因、やまひのもと㋺わざはひの根源。

【病氣】ビヤウキ　やまひ、わづらひ。
【病骨】ビヤウコツ　病身に同じ。
【病理】ビヤウリ　病氣について研究する理論
【病間】ビヤウカン ヘイカン　㋑病中に同じ㋺病氣が少しよくなること。
【病勢】ビヤウセイ　病氣のいきほひ、病狀の「輕重。
【病痾】ビヤウア　長病、ながわずらひ。
【病源】ビヤウゲン　病氣のおこり、病のもと。
【病蓐】ビヤウジヨク　病床に同じ。
【病褥】ビヤウジヨク　前に同じ。
【病體】ビヤウタイ　病氣ある身體、又病人。
【病軀】ビヤウク　前に同じ。
【病魔】ビヤウマ　病氣を與へる想像上の惡神又は單に病氣のこと。
【病原體】ビヤウゲンタイ　病氣の原因となるもの
【病入二膏肓一】ヤマヒカウクワウニイル　㋑病氣が非常に重い㋺除去し難き弊風又は弊害。

憂病イウヘイ　貧病ヒンビヤウ　積病セキヘイ　癇病カンペイ
療病レウビヤウ　疾病シツペイ　殘病ザンペイ　多病タビヤウ
熱病ネツビヤウ　悸病キヘイ　痺病ヒヘイ　邪病ジヤヘイ
時病ジヘイ　臥病グワビヤウ　羸病ルヰビヤウ　疵病シヘイ
久病キウビヤウ　瘦病ソウヘイ　俗病ゾクヘイ　癖病ヘキヘイ

〔症〕●〔症〕　漢セイ　呉シヤウ　病氣の性質
【症狀】シヤウジヤウ　病氣の性質、狀態。

【疱】●　漢ハウ　呉ベウ　㋑もがさ（痘）はうさう（天然痘）㋺汁を含み皮膚面に浮上る腫物
【疱瘡】ハウサウ　もがさ、天然痘。

（疱　瘡）

【疳】○　漢カン　呉コン　㋑ひかんの病ひ、小兒が甘き物にあたりて起る病、心・肝・肺・脾・腎の五疳ありといふ㋺花柳病の一、陰部にはれものが出來るもの、疳瘡
【疳癖】カンペキ　潔癖の病的なるさま。
【疳癪】カンシヤク　むかつ腹を立てること。

【疴】○【痾】　漢呉ア　㋑やむ、やまひ、病氣㋺容易になほらぬ病氣㋩女が男となり死者がいきかへる如き變態の病氣㊁小兒の夢中にうなされて起る病氣、おびえ

【疸】●【疸】別字　漢呉タン　㋑わうだんの病、胃より起る一種の病氣㋺あしきかさ

【疹】●　漢呉シン チン　㋑熱病㋺くちびるのかさ（脣瘍）㋩はしか、痲疹㊁はうさう㋭やむ（疾）

【疼】○　漢トウ　呉グ　いたむ（痛）いたみ

【同訓異義】いたむ　疼・傷・悼其他の用法は三九二頁の悼を見よ。
【疼痛】トウツウ　いたむ、うづく。

【疽】○　漢シヨ　呉ソ　㋑かさ、惡性のはれもの（腫物）㋺かゆき病

【痀】○　漢ク　呉ゴ　くゞせ、せむし
【痀瘻】クル　くゞせ、背の曲る病氣。

【痂】○　漢カ　呉ケ　かさぶた

【痃】○　漢ケン　呉ゲン　㋑筋肉のひきつる病氣㋺横痃は花柳病の一、よこね

六畫

【痊】○　漢呉セン　㋑いゆ、いやす、病がなほる㋺病氣をなほす

【同訓異義】いゆ
【已】は病のさつぱりとなほる義。
【愈】は前に同じ。
【痊】は前に同じ。
【瘳】は前に同じ。
【瘥】は少し快き義である。
【療】は治療の意である。
【醫】はいやす義である。

【痌】○　漢呉トウ　㋑いたむ（痛）㋺かさがやぶれる（瘡潰）

【痍】○　漢呉イ　㋑きず（創傷）きずぐち、けが㋩戰後の疲弊の意に用ふ㋺きずつく（傷）

【痒】●【癢】　漢呉ヤウ　㋑かゆし㋺やむ、やまひ（病）㋩かさ（瘍）はれもの

【痔】●　漢チ　呉ヂ　㋑肛門の病、ぢ、しもがさ（隱瘡）
【痔漏】ヂロウ　痔疾の一、あなぢ。

【痕】○　漢コン　呉ゴン　㋑あと、きずあと㋺かた（物の遺留せし跡）あとかた㋩腫れる病氣
【痕跡】コンセキ　㋑あと、あとかた㋺極めて少なき分量。

七畫

〔痘〕●〔痘〕　漢トウ　呉ヅ　もがさ、はうさう
【痘苗】トウベウ　うゑばうさうの原料となる「病毒。
【痘疹】トウシン　はうさう、疱瘡。
【痘痕】トウコン　疱瘡の痕、あばた、いもくさ

〔痛〕●〔痛〕　漢トウ　呉ツ　慣用音ツウ　㋑いたむ、いたく感ず、なやみ悲しむ

ロいたし、いたい、いたみ、いたむこと ハいためる、わづらつて居る ニいたく、はげしく、はなはだしく

【同訓異義】いたむ　痛・傷・悼其他の用法は三九二頁の悼を見よ。

【痛切】ツウセツ　ひし〳〵と身にしみる。
【痛心】ツウシン　甚しく心配し又は悲しむ。
【痛快】ツウクワイ　極めて心地よし。
【痛恨】ツウコン　甚しく殘念に思ふ。
【痛苦】ツウク　くるしみいたむ。
【痛哭】ツウコク　甚しくかなしむ貌。
【痛悼】ツウタウ　人の死をいたみ悲しむこと
【痛惜】ツウセキ　前に同じ。「ずる意。
【痛痒】ツウヤウ　イいたみとかゆみ ロ心に感
【痛傷】ツウシヤウ　ふかく心を傷む。
【痛楚】ツウソ　いたむ、かなしむ、なやむ。
【痛飲】ツウイン　大いに酒を飲む。
【痛論】ツウロン　勢ひはげしく論ずる。
【痛憤】ツウフン　甚しくいかる貌。
【痛感】ツウカン　激しく心をうごかす。
【痛罵】ツウバ　はげしくのゝしる。
【痛諫】ツウカン　きびしくいさむ。
【痛歎】ツウタン　甚しくいたみなげく。
【痛擊】ツウゲキ　きびしくせめつける。
【痛癢】ツウヤウ　痛痒に同じ。
【痛手】イタデ　重い負傷、ふかで、重傷。

哀痛アイツウ　陣痛ヂンツウ　頭痛トウツウ　酷痛コクツウ
齒痛シツウ　沈痛チンツウ　酸痛サンツウ　耳痛ジツウ
悼痛タウツウ　苦痛クツウ　心痛シンツウ　愁痛シウツウ

【痢●】【痢】

う（痢瀉）はらくだし ロくだりもの（下痢したる穢物）

【痢病】リビヤウ　腹が痛み大便の下る病氣。
【痙●】漢ケイ　ひきつる、又筋肉ひきつり　呉ギヤウ　のひきつる病氣、「其病氣。
【痙攣】ケイレン　筋肉の一部がひきつる、又
【痞●】漢ヒ　イつかへ（胸・腹がふ　呉ビ　さがり痛む）ロやまひ、やむ（病）ハよわし（弱）
【痣●】漢漢　あざ、ほくろ（黒子）ほ　シ　くそ、はゝくそ
【痤●】漢サ　はれもの、膿物、ねぶと、　呉ザ　ひぜんがさ、よう（癰）

八畫

【痳●】【淋】通字【痲】漢呉リン

イせんき（痼氣）ロりんびやう
【痳毒】リンドク　痳病の毒。
【痳病】リンビヤウ　尿道がたゞれて小便の通じの惡い病氣、急性のものは出血する。

【痰○】【啖】別字

漢タン　たんの　呉デン　病氣、たんせき

【痲○】【痳】別字

漢バ　呉メ　慣用音マ　イしびれ、しびる、又しびれること ロはしか（痲疹）
【痲疹】マシン　傳染病の一、はしか。
【痲醉】マスキ　藥又は毒のため感覺を失ふ。
【痲痺】マヒ　しびれ、しびれる。

【痺●】【痺】俗字

漢ヒ　イしびる　呉ビ　（痲）しびれ ロ國訓しびれ
【痺鯰】シビレナマヅ　鯰の一種でアフリカのニール河等に產し體長三尺餘に達し口端に三對の觸鬚を具へ全身の皮下に發電器官存しこれに觸るときは强からざる電擊を被るといふ。

（鯰　痺）

【痼●】【錮】通字

漢コ　イながび　呉ク　く病氣（痼疾）ロ一事にこり固り熱中する
【同訓異義】やむ　痼・疾・病其他の用法は六九八頁の病を見よ。
【痼疾】コシツ　ぢびやう。

【痠○】

漢ズキ　呉ニ　しびる、なえる、あしなへ、
漢呉サ　しびれて不隨となる貌

【瘁●】【瘁】俗字

漢スキ　イやむ　呉ズキ　（病）ロつかる（勞）ハやぶる（毀）
【痙●】漢ア　おし（啞）おふし（癌）　呉エ　言語不通の不具者
【痴】七〇二頁の癡を見よ。
【痾】六九九頁の痾を見よ。

九畫

【痼●】

漢ショウ　はる（腫）はらす、　呉ジユ　足が腫れて歩行が出來ぬ、又その病氣

【瘋○】

漢フウ　イづゝう（頭痛）頭　呉フ　風病ロ俗にきちがひの義
【瘋病院】フウビヤウヰン　精神の狂ひし者を收容する病院、瘋癲院。

【瘍○】

漢呉ヤウ　イかさ、頭のできもの　ロふきでもの、はれもの ハ嵩類の瘍病
【瘍醫】ヤウイ　外科醫。

【痾○】

漢インオし、おふし（癌者）　呉オン　又ロのきけぬ病氣
【痾聾】インロウ　おしとつんぼ。
【痾啞】インア　おふし、口がきかれぬ。
【瘉】七〇二頁の癒を見よ。

十畫

【瘟○】

漢呉ウン　イえやみ（疫）はやりやまひ ロもだゆ（悶）ハ少しくいたむ貌

【瘠●】

漢セキ　イやす（痩）身體がほそる、地味が肥　呉シヤク　えぬロへる（減）物が乏しいハやむ（病）ニはぶく（省約）ホやせしめる又やせ
【同訓異義】やす　瘠・痩・羸其他の用法はこの頁の痩を見よ。
【瘠土】セキド　やせ地、地味のうすき地。
【瘠薄】セキハク　地味うすきこと。
【瘠薄】ヨクセキ　黴瘠バイセキ

【瘡○】【創】通字

きりきず（切傷）ロかさ、はれもの（腫物）ふきでもの
【瘡痕】サウコン　きずあと。
【瘡痍】サウイ　イきず、刀きず ロ他より受けたる損害又は打擊。
【瘡醫】サウハシ　瘡痍に同じ。

【瘢○】

漢ハン　あと、きずあと　呉バン
【瘢痕】ハンコン　きずあと。

【瘥●】

漢サ　サイ　イやまひ（疾病）少しの流　呉ザ　ゼ　行病、小疫ロいゆ（癒）なほる、いやす
【同訓異義】いゆる　瘥・愈・痊其他の用法は六九九頁の痊を見よ。

【瘦●】

漢シウ　呉シユ　やす（瘠）や　慣用音ソウ　せほそる
【同訓異義】やす
【瘦】はやせほそる義。
【瘠】は病みて骨の多く出る義。
【羸】は瘦に同じ。
【瘦軀】シウク　やせたる身體。
肥瘦ヒソウ　老瘦ラウソウ　瘠瘦セキソウ　清瘦セイソウ

【瘧●】

漢ギヤク　おこり（間歇熱）わ　呉ガク　らはやみ

【瘤】

七〇二頁の瘤を見よ。

十一畫

【瘰●】

漢呉ラ　イるゐれきロ一　慣用音ルキ　說にひぜんがさ

【瘻○】

漢呉レウ　イいゆ、いやす（癒）ロ病がなほる

【瘴●】漢呉 シャウ ㊀山川等の毒氣によりて起る熱病 ㊁山川のあしき氣、健康を害する自然の毒氣 【瘴癘】シャウレイ 山川の毒氣にあたりて生ずる惡病。

【瘻●】漢 ロウ 呉 ル ㊀かさ、頸に出來る腫物、又久しくいえぬかさ ㊁せむし、くゞせ 【瘻癘】ロウレイ 首の病と癩病。

十二畫

【療●】【療】漢呉 レウ いやす、なほす、療治す、又そのこと 【同訓異義】いゆる 療・愈・痊其他の用法は六九九頁の痊を見よ。 【療方】レウハウ 病をいやす方法。 【療治】レウヂ 病をなほす、治病。 【療法】レウハフ 病氣治療の方法。 【療病】レウビヤウ やまひをなほす。 【療養】レウヤウ 病氣をなほす爲に保養する 救療キフレウ 施療セレウ 治療チレウ 醫療イレウ

【癈●】【癈】略字【廢】別字 漢 ハイ 病氣が固りていえざるをいふ（痼疾） 呉 （

【癈人】ハイジン 不具者、かたわ者。 【癈兵】ハイヘイ 戰時又は演習中負傷して不具となりし兵士。 【癈疾】ハイシツ 病氣で不具となりし者 注意 廢疾と書くは誤り。

【瘤○】【瘤】俗字 漢 リウ 呉 ル こぶ（肉の起りて高くなる病）

【癆●】漢 ラウ ㊀いたむ ㊁藥が反つて毒になる、藥物中毒 ㊂疲れやせる ㊃肺の病氣、らうがい

【癇○】【癇】漢 カン ㊀癲癇は病氣の呉 ゲン 一、てんかん ㊁かん、筋肉の引つる小兒のうふう ㊂物に激感する ㊃精神が過激なる一種の病氣、神經過敏 ㊄癲癇

【癇病】カンビヤウ 小兒の筋肉の引きつる病 【癇癖】カンペキ かんしやくもち。 【癇癪】カンシヤク 物事に激して氣がいらだつ。

【癌○】漢呉 ガン 内膣に發生する惡質の腫物 【癌腫】ガンシユ 癌のできもの。

十三畫

【癒●】【癒】漢呉 ユ ヨ ㊀病むこと、病ひ、 ㊁いゆ、病氣がなほる ㊂まさる（愈） 【同訓異義】いゆる 癒・愈・痊其他の用法は六九九頁の痊を見よ。

【癖●】漢 ヘキ 呉 ヒヤク ㊀くせ、言行・嗜好等が一方にかたよる習性 ㊁飲食物の消化せざる病 【癖癇】ヘキコ 長らく治らない病。

【癘○】【癧】通字 漢呉 レイ ライ ㊀なり、かつたる（癩）あしき瘡を生ずる病 ㊁えやみ（疫）流行病 ㊂はげむ（勵） ㊃きたふ 【癘病】ライビヤウ はやり病、又かつたる。

【癩●】漢 ラン 呉 デン なまづ（皮膚に紫の斑を生ずる病）

十四畫

【癡】【痴】漢呉 チ 注意 ぢと讀むは誤り、おろか、さとからず、智慧が足らぬ、又馬鹿になる 【癡呆】チホウ ばか、おろか。 【癡笑】チセウ げた〳〵わらひ、ばか笑ひ。 【癡話】チワ 男女の戯れ話。 【癡鈍】チドン おろかにして氣轉がきかぬ 【癡情】チジヤウ 色情に動かされる心。 【癡愚】チグ 癡呆に同じ。

【癡態】チタイ おろかな狀態、たはけた態度又は行動。 【癡漢】チカン ㊀たはけ、ばかもの ㊁痴漢 狂癡キチ 大癡タイチ 白癡ハクチ 愚癡グチ

十五畫

【癢●】【痒】漢呉 ヤウ かゆし、かゆみを覺える、むづ〳〵する

【癜○】漢呉 チヨウ 腹にかたまりを生ずる病氣

十六畫

【癨●】漢 クワク 呉 ワク 癨亂は暑さにあたり吐瀉する病氣 【癧●】漢 レキ 呉 リヤク 病の名、るゐれき

【癩●】【癩】俗字【癘】通字 漢漢 ライ 天刑病、なり、らいびやう、かつたる 【癩病】ライビヤウ 惡腫を生ずる一種の惡病

【癪】國字 シヤク ㊀急に痙攣を起して腰腹部等が痛みだし甚しきは人事不省となる病氣、婦人に多し ㊁憤慨する氣

十七畫

【癬●】漢呉 セン 皮膚に生ずるかゆき瘡、ひぜん（疥癬）たむし

十八畫

【癯○】漢呉 クワ ク やす（瘦）すらりとやせる

【癰●】【癰】俗字 漢 ヨウ 呉 ユ 危險なる一種の惡性のできもの

十九畫

【癲○】漢呉 テン ㊀癲癇は一種の病氣 ㊁きちがひ 【癲狂】テンキヤウ 精神病、きちがひ。 【癲癇】テンカン 急激にひきつけて氣絶し口より泡を吐き暫くして生き返へる病。

癶部

【癶●】漢 ハツ 呉 ハチ そむく（背）ゆく（行）ひらく、兩足を左右に張りし形象文字

四畫

【癸●】漢呉 キ ㊀みづのと（十干の最終）四季にては冬、方位にては北、五行にては水 ㊁月、めぐり、月經

【発】七〇四頁の發を見よ。

七畫

【登○】【登】別字【登】漢呉 トウ 慣用音ト ㊀のぼる、のぼす（陞）高くあがる、物の上になる、位につく、のる ㊁すゝめる、たてまつる（上） ㊂なる（成）みのる（熟） ㊃たふとぶ（尊）ほさだむ（定）へたかし（高）おほし（衆） ㊄力を用ゐる時の聲 ㊅帳簿に書入れる ㊆人を引きあげて用ゐる 【同訓異義】のぼる 登・升・昇其他の用法は一六三頁の升を見よ。

【登山】トウサン 山にのぼる。 【登仙】トウセン 昇天して仙人となる。 【登用】トウヨウ 人を引上げて用ゐる。 【登高】トウカウ 高き所に登る、支那にて九月九日丘に登りて菊酒をのむ行事。 【登降】トウカウ のぼることゝ降ること。 【登城】トウジヤウ 城に赴く、城へのりこむ。 【登渉】トウセフ 山野をかけまはること。 【登祚】トウソ 祚は帝位、帝位に登ること。 【登遐】トウカ 天子の崩御。 【登記】トウキ 身分又は權利に關する事項を公の帳簿に記載すること。 【登庸】トウヨウ 登用に同じ。

【登朝】トウテウ 役人となる、朝廷に出仕す。
【登校】トウカウ 學校に行くこと。
【登第】トウダイ 官吏の試驗に及第する意。
【登極】トウキヨク 最高の位に登る、帝位に卽くこと。
【登載】トウサイ 雜誌・新聞等に記事をかき「のせる。
【登簿】トウボ 帳面にかきこむ。
【登錄】トウロク ㋑公の帳簿に或事項を記載する㋺意匠及び商標等の權利を確保せんために法律の保護を請ふ手續。
【登廳】トウチヤウ 役所に出勤すること。
【登壇】トウダン ㋑演說者などが演壇にのぼる㋺壇は祭祀・盟約等大事の儀式を擧ぐるに用ゐるものなるより支那にては普通大將となる義に通ず。
【登舷禮】トウゲンレイ 艦內の兵士が甲板に集りて敬意を表する海軍の禮式、又その禮、登舷禮式。
【登用試驗】トウヨウシケン 官吏を任用するに付き之に必要な學力を有するか否かを試むる試驗にして及第した者は任用され得る資格を有するに至る。
【登錄商標】トウロクシヤウヘウ 商標法に依つて登錄を受けた商標。
退登 カトウ 苦登 クトウ 先登 セントウ 前登 ゼントウ 晩登 バントウ 爭登 サウトウ 善登 ゼントウ
攀登 ハントウ 擢登 タクトウ 豐登 ホウトウ 降登 カウトウ 紹登 セウトウ

【發・癶】【発 略字】【发 俗字】

漢ハツ 呉ホチ

慣用音ホツ ㋑はなつ（矢を射る）㋺おこる（起）出る、生ずㅂあがる（揚）㋩おこす（興）ひきおこす、出す、くり出す、さし出す㋥みだる（亂）㋭あきらかにす、おもてむきにす㋬ちる（散）㋮ひらく（開）㋯あばく、さらけだす㋰すゝむ（進）㋱うごく（動）㋲つかはす（遣）㋳東方の夷の名

【同訓異義】ひらく 發・開・闢其他の用法は一〇九三頁の開を見よ。
【發引】ハツイン 葬式のとき棺を墓地へ送り出すこと。「佛法に歸依すること。
【發心】ホツシン ㋑こゝろざす、思ひ立つ㋺
【發火】ハツクワ ㋑火をはなつ、火が出る㋺火薬を裝塡してこれを爆發せしめる。
【發布】ハツプ ㋑廣く世に觸れ知らす㋺詔勅又は法律命令等を國民に知らしめる爲に布告すること。
【發令】ハツレイ 命令を出す。
【發行】ハツカウ 世にひろめる、出版する。
【發刊】ハツカン 書籍を出版發行すると注意發刊と書くは誤り。
【發生】ハツセイ 事物が始めて出來ること。
【發汗】ハツカン 汗をかく。
【發作】ハツサ ㋑おこる、おこす㋺病氣が急に起り又急にやむ作用。
【發言】ハツゲン ホツゴン 言語を以て意見を發表する
【發狂】ハツキヤウ 精神が狂ひて狂人となる
【發車】ハツシヤ 列車が動きはじめること。
【發足】ハツソク ホツソク 出發又は出立に同じ、あゆみ出す、かどで。「て見出すこと。
【發見】ハツケン 未だ知られざる事物を初め
【發兌】ハツダ 書物を印刷して賣出す。
【發明】ハツメイ ㋑新たに物事を考へ出すこと㋺怜悧の意にも通じ用ふ。
【發信】ハツシン 手紙又は電報を出す。
【發航】ハツカウ 船舶が目的港へ向つて出る
【發芽】ハツガ 植物が芽を出す狀態。
【發育】ハツイク そだち生長すること。
【發表】ハツペウ 一般にあらはし知らしめる
【發疹】ハツシン 皮膚に出るふきでもの。
【發送】ハツサウ 送達の機關を以て居所の異りたる者に或物を送ること。
【發射】ハツシヤ 銃砲のたまを打出すこと。
【發途】ハツト ホツト 出發、かどで。
【發條】ハツデウ ばね、ぜんまい。
【發祥】ハツシヤウ ㋑吉事の現はるゝこと㋺轉じて帝王の出生。「述べる。
【發案】ハツアン ㋑案を立てる㋺己が意見を
【發現】ハツゲン あらはれ出る、現はし出す。
【發展】ハツテン ひろがる、はびこる。
【發起】ハツキ ホツキ 自ら主となりて事を起す
注意はつきと讀むは誤り。
【發砲】ハツパウ 銃砲をはなつ。
【發掘】ハツクツ 埋藏せる物を掘り出す。
【發達】ハツタツ 次第にのび進む貌。
【發情】ハツジヤウ 心を動かす、主として異性に對する情念のきざすこと。
【發程】ハツテイ 發途に同じ。
【發動】ハツドウ 活動する狀、ふるひうごく。
【發揚】ハツヤウ ㋑のべあらはす㋺起し用ふ㋩立ちあがる。
【發發】ハツパツ ㋑魚のいき〳〵としてはねるさま㋺風のはやいさま。
【發意】ハツイ ホツイ 發心の㋑に同じ。
【發酵】ハツカウ 酒を作るときもろみがわくこと、凡てそれに類した作用をいふ。
【發散】ハツサン 出でゝ散る、立ち去ること。
【發語】ハツゴ ホツゴ 文章の最初の言ひ出しの語
【發憤】ハツフン ㋑心をふるひ起す㋺胸のうつを散ず㋩心に怒ること。
【發聲】ハツセイ ㋑聲を出す、言ひ出す㋺歌などをうたふこと、又宮中御歌會の時詩人の詠進歌を讀上げる役。
【發熱】ハツネツ 熱が出る、體溫がのぼる。
【發揮】ハツキ ㋑ふるひ起す㋺はげましふるふ㋩塞がれるを開き通ずること注意發輝と書くは誤り。
【發輦】ハツレン 天子の御出立。
【發賣】ハツバイ 或品物を初めて賣出すこと
【發覺】ハツカク かくれた事のあらはるゝこと
【發議】ハツギ 會議に於て新たに問題を提出し其の理由を陳述すること。
【發露】ハツロ あらはれ出づる貌。
【發句】ホツク 連歌の上句卽ち五七五の三句、轉じて俳諧をいふ。
【發端】ホツタン はじまり、おこり注意はつたんと讀むは誤り。
【發願】ホツグワン 神佛に對する念願を起す
【發作的】ハツサテキ ホツサテキ にはかにおこる作用。
【發頭人】ホツトウニン 物事をし始める人注意はつとうにんと讀むは誤り。
【發信機】ハツシンキ 電信をかける機械。
【發聲器】ハツセイキ 身體中にて音聲を出す機關、聲帶・口腔內の諸器官。「機械。
【發動機】ハツドウキ 他の器械の運轉を起す
【發電所】ハツデンショ 電氣をおこす所。
【發電機】ハツデンキ 電氣をおこす物體。
【發賣禁止】ハツバイキンシ 其筋より新聞雜誌などの賣出しを禁止さるゝこと。
【發熱作用】ハツネツサヨウ 熱をおこすはたらき
【發聲映畫】ハツセイエイグワ 從來の活動寫眞に發聲裝置をほどこしたるもの。
開發 カイハツ 迅發 ジンハツ 風發 フウハツ 明發 メイハツ
興發 コウハツ 善發 ゼンハツ 召發 セウハツ 先發 センハツ
連發 レンパツ 空發 クウハツ 摘發 テキハツ 擅發 センパツ
奮發 フンパツ 激發 ゲキハツ 虛發 キヨハツ 秀發 シウハツ
英發 エイハツ 吐發 トハツ 映發 エイハツ 促發 ソクハツ

【登】一二八頁の登を見よ。

白部

【白・白】【白 俗字】

漢ハク 呉ビヤク 五色の一㋺しろし、かざりなし、色どりなし㋩ひらく（啓）㋪きよし（潔）いさぎよし、正し、公明正大である㋫あきらか（明）あきらかにす、白くす㋬あらはす（現）㋮しらむ、白くなる、明るくなる、夜があけかゝる㋯さかづき（杯）㋰賢愚・正邪・黑白等の意を示すに用ふ㋱まうす、申上げる㋲から、何物もなきこ

とを表はす㋒しろめにてにらむ㋖帝國美術展覽會の審査に於て入選と決定せられた出品に貼る白札、轉じて其作品

【白丁】ハクテイ　ハクチャウ　㋑身分ひくきもの㋺葬式に白衣をつけて供物をもち行く者。

【白人】ハクジン　白色人種、歐米人。

【白刃】ハクジン　しらは、ぬきみのやいば。

【白日】ハクジツ　ひる、まひる、又晴れたる日

【白文】ハクブン　㋑漢文に句讀・訓點のなきもの㋺本文のみにて註釋なき文章。

【白衣】ハクイ　ビャクエ　㋑無位無官の身分、庶人、平民㋺白い著物、素衣。

【白布】ハクフ　白い布、白地の布。

【白玉】ハクギョク　きれいな白いたま。

【白白】ハクハク　あきらかなさま。

【白光】ハククワウ　太陽の周圍にひろがつて銀白色にかゞやく瓦斯體、コロナ。

【白米】ハクマイ　つきしらげたる米、精米。

【白狀】ハクジャウ　犯したる罪狀をありのまに申立てる。「㋩素質の白いもの。

【白地】シロヂ　ハクチ　㋑あからさま㋺白色の織地

【白帆】ハクハン　白い帆、しら帆。

【白雨】ハクウ　にはかあめ、夕立。

（白光）

【白金】ハクキン　しろがね、プラチナ。

【白波】ハクハ　㋑白い波㋺後漢の孝靈帝時代白波谷といふところに盜賊張角の餘黨がたてこもつて賊を働きしに因み盜賊のことをいふ、しらなみ。

【白雁】ハクガン　白色の雁。「交文書。

【白書】ハクショ　英國外務省から發表する外

【白眉】ハクビ　㋑兄弟中にて最も秀でたる者㋺同類中にてすぐれし人。

【白面】ハクメン　シラフ　㋑年少く經驗なき者㋺すがた、容子㋩ふだんの顏。「ワイトハウス。

【白宮】ハクキュウ　アメリカ大統領の官舍、ホ

【白扇】ハクセン　しろいあふぎ。

【白骨】ハクコツ　枯骨、雨露にさらされし骨。

【白堊】ハクアク　㋑しらかべ、又しろつち㋺白墨㋩炭酸石灰。

【白粉】ハクフン　おしろい。

【白鳥】ハクテウ　㋑白き鳥、鷺㋺蛟の異名。

【白眼】ハクガン　㋑眼の白きところ、しろめ㋺いかりて睨む目付。

【白魚】ハクギョ　㋑衣服・書畫等につくむし、しみ、紙魚㋺小魚の一、しろうを。

【白晝】ハクチュウ　ひる、日中。

【白哲】ハクセキ　はだの色の白きこと　注意白

（白鳥）

哲と書くは誤り。

【白紙】ハクシ　㋑しらかみ㋺純にして何事にも染まぬ狀態に喩ふ。「轉じて勅書。

【白麻】ハクマ　唐代に勅書に用ひし紙の名、

【白描】ハクベウ　墨で書いた繪、水墨。「一種。

【白菜】ハクサイ　もと支那に產せしすゞなの

【白旗】ハクキ　白色の旗、昔は源氏の旗、今は降伏の意を表すに用ふ。

【白痴】ハクチ　白癡に同じ。「なぎ。

【白楊】ハクヤウ　木の名、いぬぎり、はまや

【白銀】ハクギン　ぎん、しろがね。

【白髮】ハクハツ　白きかみ、しらが。

【白銅】ハクドウ　銀と錫との合金、ニッケル。

【白熱】ハクネツ　㋑白色の光を發する程非常に熱すること㋺極度に熱中するさま。

【白墨】ハクボク　白堊の㋺に同じ。

【白駒】ハクク　日影、光陰。「すること。

【白筯】ハクカン　彈劾文を書寫して天子に奏

【白戰】ハクセン　㋑から手にて戰ふ㋺詩人が文才を競ふ時その詩題に因んだ文字を文中に用ゐることを禁ずること。

【白癬】ハクセン　皮が白くなつてはげる病。

【白癡】ハクチ　生れながらにして智慧の足らざる人。「即ち陰曆八月の節。

【白露】ハクロ　㋑しらつゆ㋺二十四氣の一

【白鷺】ハクロ　鷺は水に居て魚を餌とし夜

は樹に棲む鳥。

【白虎】ビャクコ　ハクコ　㋑四神の一西方を守る神㋺

【白狐】ビャクコ　毛の白いきつね。

【白毫】ビャクガウ　佛陀の額にある白毫の貌、その光は無量の國を照すといふ

（白毫）

【白檀】ビャクダン　檀香科の常綠喬木で東印度地方の原產にて幹の高さ二丈餘材は黃色にして芳香を有し香料藥用又は器具の料に供せらる。

（白檀）

【白木】シラキ　木地のまゝの木材。

【白洲】シラス　㋑玄關前などの白砂の敷いてある所㋺昔罪人を調べた所。

【白酒】シロザケ　一種の白色の濁り酒。

【白血球】ハクケツキウ　血液の血球中無色のもの、赤血球の對。「い戰ひ。

【白兵戰】ハクヘイセン　㋑白刃を以て戰ふ激し

【白拍子】シラビャウジ　舞の名、男舞ともいふ、遊女などが水干を著て刀をさして舞ふ、鳥羽天皇の頃より始まる又其舞をなす女。

（白拍子）

【白色人種】ハクショクジンシュ　皮膚の色の白き

【白面書生】ハクメンノショセイ　經驗に乏しく年わかき者。「をいふ。

【白玉樓中人】ハクギョクロウチユウノヒト　文人の死したる

【白紙委任狀】ハクシキニンジャウ　委任者が印を捺すのみにて代理人の氏名又は委任事項を記入せざる委任狀。

皓白カウハク　戴白タイハク　面白メンパク　飛白ヒハク
建白ケンパク　明白メイハク　純白ジュンパク　精白セイハク
粹白スキハク　老白ラウハク　肥白ヒハク　自白ジハク
羆白ヒレンパク　淳白ジュンパク　貞白テイハク　鮮白センパク
素白ソハク　深白シンパク　淺白センパク　太白タイハク
乳白ニウハク　三白サンパク　五白ゴハク　曳白エイハク
粉白フンパク　潔白ケツパク　斑白ハンパク　大白タイハク
清白セイハク　黃白クワウハク　堅白ケンパク　黑白コクビャクハク

百

【百畫】

【百】　漢ハク　㋑もゝ、呉ヒャク　ひやく、ほ、十の十倍、多き數をいふ語、もろ〳〵㋺たび〳〵、ももたび、ひやくたび㋩たしかなる意にいふ㋥はげむ（勵）

【百丈】ヒャクジャウ　曳ふねの綱。

【百口】ヒャクコウ　妻子家族のこらず。

【百工】ヒャクコウ　もろ〳〵の職人、又百官。

【百出】ヒャクシュツ　もの事の數多く出る形容

【百方】ヒャクパウ　㋑各方面、四方の國々㋺いろ〳〵のてだて。

【百世】ヒャクセイ　末々の世、のち〳〵。

【百司】ヒャクシ　もろ〳〵のつかさ、百官。

【百全】ヒャクゼン　完全無缺の意。

【百川】ヒャクセン　天の川、銀河。「の行爲。

【百行】ヒャクカウ　もろ〳〵の行ひ、すべて

【百舌】ヒャクゼツ　もず。

【百年】ヒャクネン　もゝとせ、一生涯。

【百折】ヒャクセツ　㋑度々の失敗㋺幾度も曲折するさま。

（百舌）

【百利】ヒャクリ　多くの利益。

【百事】ヒャクジ　さま〳〵の事。

【百里】ヒャクリ　㋑一里の百倍、又遠きこと㋺諸侯の國㋩縣の別稱。「の食物。

【百味】ヒャクミ　もろ〳〵のあぢ、いろ〳〵

【百姓】ヒャクセイ　ヒャクシャウ　㋑庶民㋺農民。

【百草】ヒャクサウ　いろ〳〵の草、ちぐさ。

【百物】ヒャクブツ　樣々の物、諸穀の事物。

【百官】ヒャククワン　諸々の司さ、多くの官職。

【百考】ヒャクカウ　深く考へる、種々の考へ。

【百芳】ヒヤクハウ　もろ〳〵の花、百花。
【百花】ヒヤククワ　種々なる花。
【百計】ヒヤクケイ　種々の計略、多くのはかりごと、もろ〳〵の方法。
【百科】ヒヤククワ　いろ〳〵の學科。
【百般】ヒヤクパン　すべて、さまざま
【百敗】ヒヤクハイ　幾度もやりそこなふ。
【百貨】ヒヤククワ　いろ〳〵の商品。
【百家】ヒヤクカ　㋑多數の大家㋺世間の人々
【百僚】ヒヤクリヤウ　百官に同じ。
【百端】ヒヤクタン　㋑くさ〳〵、さま〴〵、いろ〳〵、百計㋺織物百反。
【百聞】ヒヤクブン　もゝたびきく、たび〳〵聞く、多くきく。
【百乘】ヒヤクジヤウ　百輛の車、又之を出す廣さの土地即ち方十里の面積。
【百雷】ヒヤクライ　澤山のかみなり。
【百穀】ヒヤクコク　いろ〳〵の穀類。
【百錬】ヒヤクレン　たび〳〵きたへる。
【百獸】ヒヤクジウ　あらゆる獸物。
【百合】ユリ　山野に自生する草、ゆりゝ。
【百八鐘】ヒヤクハチノカネ　昔は朝夕にうつ梵鐘今は除夜につく鐘。
【百日紅】ヒヤクジツコウ　木の名、さるすべり。
【百分算】ヒヤクブンサン　元高と歩合と歩合高とを算出する算法の總稱。
【百萬遍】ヒヤクマンベン　多くの人が集つて念佛をとなへる佛事。
【百藥之長】ヒヤクヤクノチヤウ　漢書に「夫れ鹽は食肴の將にして酒は百藥の長なり」とあり、酒のこと。
【百濟琴】クダラゴト　絃

（百濟琴）

器の一で琶に似て小さく琵琶の如く撥で彈くものと縱に抱へて兩手でかきならすものとの二種がある。
【百八煩惱】ヒヤクハチノボンナウ　人間の過去現在未來にわたつて起る種々のまよひ。
【百折不レ屈】ヒヤクセツクツセズ　いくら失敗しても初めの志をまげぬ。
【百發百中】ヒヤクハツヒヤクチユウ　㋑百度發して百度ともあたる意㋺すべての豫言・計畫等の皆あたる意。「はびこること。
【百鬼夜行】ヒヤクキヤカウ　怪しい性行の者が
【百戰百勝】ヒヤクセンヒヤクシヨウ　百度戰ひて百度とも勝つ、戰へば必ず勝つこと。
【百聞不レ如二一見一】ヒヤクブンハイフケシニレカズ　百たび聞くよりも一度見た方がたしかであるの意、實地見學の有效なるをいふ。
千百セン　凡百ボンヒヤク　合百ガフヒヤク　旅百リヨヒヤク
數百スウヒヤク　勸レ百ヒヤクヲススム　利レ百ヒヤクヲリス

二畫

【皁・】【皂俗字】 漢サウ ㋑しづ、呉ソウ いやしきもの、こもの、しもべ㋺馬のかひをけ（槽）ハうまや（厩）うまやのねだ㋩をり（檻）ホ馬三乘（十二匹の馬）ヘ穀實の未だ熟せざることトくろし（黑）くろ

【皃】 九八八頁の貌を見よ。

【皂】 九八八頁の貌を見よ。

三畫

【的・】【的】 漢テキ ㋑まと、呉チヤク 弓のまと、めあて、目標㋺かなめ（要）ハはすのみ（蓮子）ニまこと（實）ホたゞし（端）たしか、確實ヘあきらか（明）明かに目だつさまトさだめて、たしかにチ何々の如き、何々らしい、何々に關してリ俗語の形容詞ヌ英語のチック（tic）の宛字
【的中】テキチユウ　あたる、まとにあたる、ねらひのたがはざる貌。
【的例】テキレイ　最も適當なる例證。
【的然】テキゼン　明らかなる貌
【的確】テキカク　たしか、明確、確實。

【的當】テキタウ　㋑確實に㋺よく適合する。
【的證】テキシヨウ　動かすべからざる證據。
格的カクテキ　端的タンテキ　表的ヘウテキ　標的ヘウテキ
質的シツテキ　射的シヤテキ　儀的ギテキ　審的シンテキ

【帛】 三四〇頁の帛を見よ。

四畫

【皆・】【皆】 漢カイ ㋑みな、呉ケイ 悉く、のこらず、すべて㋺おなじ（同）ハあまねし（遍）ニひとゝ

【同訓異義】**みな**
【僉】は其所に集りある人すべての意
【咸】はことゝくの意、皆は外より指して言ひ、咸は其のものからいふ。
【擧】は一所にこぞりての意。
【皆】はみな一同の義である。
【皆兵】カイヘイ　國民全體が兵役に服すること
【皆目】カイモク　まるきり、さつぱり。
【皆納】カイナフ　のこりなく納入すること。
【皆既】カイキ　日蝕又は月蝕の時、日又は月の全面が缺けて暗くなること、皆既蝕。
【皆勤】カイキン　或期間内一日も缺勤せずして出勤すること。「ない、絶無。
【皆無】カイム　みな、のこらず、物がみな
【皆傳】カイデン　學藝技術等の奥儀をのこらず敎へ授けるをいふ。
【皆濟】カイサイ　借を全部拂ひすます。

【皇・】【惶通字】【皇】 漢クワウ 呉ワウ ㋑すめらぎ、すめら、あめ（天）かみ（上帝）みかど、きみ（君主）㋺特に功德の高大なる者ハ鳳に通ず、黃鳥ニ燕參に似たる草ホおほいなり（大）ヘうつくし（美）うるはしく盛んなりトたゞし（正）又おごそか（莊）チはな（華）リ殿前に土を盛りて門を造りし所、又たまやのもん（寢廟闕）ヌ或る語に添へて天皇に關する事物を表はす㋩通達するさまテひま、いとまワ父母をまつる時の敬稱カ道家・佛家にて神佛に對する敬稱ヨ日本人が特に日本國を稱する語
【皇上】クワウジヤウ　現今のみかど、今上。
【皇子】クワウシ　天皇の御子樣。
【皇天】クワウテン　㋑天の神、天地を主宰する神㋺大空、蒼天。
【皇化】クワウクワ　天子の仁慈、德政、王化。
【皇女】クワウジヨ　天皇の女の御子樣。
【皇考】クワウカウ　㋑みまかりたる父㋺先代の天子。
【皇別】クワウベツ　我民族のうち皇族より出
【皇妃】クワウヒ　太子の嫡室。「でたる氏族。
【皇位】クワウヰ　天皇の御地位、主權の御所在
【皇后】クワウゴウ　天子の妻、きさき。「稱。
【皇妣】クワウヒ　㋑天子の御亡母㋺亡母の尊
【皇居】クワウキヨ　天子のごてん、宮城。
【皇城】クワウジヤウ　前に同じ。
【皇威】クワウヰ　天子のごゐくわう。
【皇典】クワウテン　皇國の貴重なる國史、主として古事記・日本書記等をいふ。
【皇國】クワウコク　外國に對し我國を重んじていふ、すめぐに。「有德の君。
【皇宗】クワウソウ　㋑御歷代の天子のこと㋺
【皇帝】クワウテイ　天子の尊稱。
【皇恩】クワウオン　天子の惠み、帝王の大恩。
【皇皇】クワウクワウ　㋑美しく盛んなさま㋺心の定まらぬさまハ物事の通達せるさま
【皇祖】クワウソ　天子の御先祖、非册二神
【皇孫】クワウソン　天子の御孫、又御子孫。
【皇胤】クワウイン　天子の御血統。
【皇祚】クワウソ　天子の御位。
【皇族】クワウゾク　天子の御一族。
【皇陵】クワウリヤウ　歷代天皇の御墳墓、御陵。

（非册二神）

【皇基】クワウキ 天子が國家を治め給ふ事業又は皇室の基。
【皇統】クワウトウ 天子の御血すぢ。
【皇極】クワウキヨク ㊀天子の御位 ㊁天子が國家を治める大中至正の道。
【皇朝】クワウテウ ㊀當代の朝廷の尊稱 ㊁我國又は我が皇室。
【皇業】クワウゲフ 天子が國家を經營し給ふ「御事業。
【皇運】クワウウン 天子の御運命。
【皇嗣】クワウシ 天子の御よつぎ。「の道。
【皇猷】クワウイウ 天子のはかりごと、帝王
【皇道】クワウダウ 我國體を基礎とする日本固有の道義。
【皇學】クワウガク 日本の制度・文物等を研
【皇澤】クワウタク 天子のめぐみ、皇恩。
【皇謨】クワウボ 天子の御はかりごと。
【皇儲】クワウチヨ 皇嗣に同じ。
【皇太子】クワウタイシ 天位をつがれる皇子。
【皇太后】クワウタイゴウ 先帝の皇后。
【皇太孫】クワウタイソン 皇繼たる天子の御孫
【皇室典範】クワウシツテンパン 皇位繼承其他皇室に關する一切の事を規定せる大法。
上皇ジヤウクワウ 天皇テンワウ 國皇コクワウ 東皇トウクワウ
方皇ハウクワウ 倉皇ソウクワウ 三皇サンクワウ 聖皇セイクワウ

【皈】五六一頁の歸を見よ。

【泉】五八六頁の泉を見よ。

五畫

【皐○皐】【皐俗字】漢カウ 呉ゴウ ㊀さは、きし（水厓）㊁かぎり（限）㊂愚にして道理にくらし ㊃五月の異名、さつき ㊄つゞ（告）へよぶ（呼）㊅あゝ、長くひく聲のさまたかし（高）㊆ゆるし（緩）

【皇】六八九頁の畑を見よ。

六畫

【皎●】【皦通字】漢呉ケウ ㊀月光の白きにいふ ㊁しろし、白 ㊂あきらか（明）㊃ひかる（光）用法 ㊀四八二頁の明を見よ。 ㊁皎・明・昭其他の【同訓異義】あきらか【皎皎】ケウケウ きら〳〵と白く光るさま 注意かうかうと讀むのは誤り。

【凰】一二八頁の風を見よ。

七畫

【皓●】漢カウ 呉ゴウ ㊀しろし（白）しろきさま、色ひかる ㊁しろし（白）㊂白く光ってあかが白い ㊃あきらか（明）白く光ってあかるい ㊄いさぎよし（潔白）㊅むなし（虛）へひろし（廣）㊆呉に通ず、あめ、そら

【皓月】カウゲツ あきらかに照る月。
【皓白】カウハク まつしろ、純白。
【皓皓】カウカウ 白き貌、又いさぎよきさま。
【皓齒】カウシ 白き齒、美人の形容 注意こくしと讀むは誤り。

【兜】一〇八頁の兜を見よ。

【既】四七九頁の既を見よ。

【習】八二八頁の習を見よ。

八畫

【皙●】【皙別字】漢セキ 呉シヤク ㊀しろし、肌白し ㊁一種の棗の木

【鼻】一一九六頁の鼻を見よ。

十畫

【皚○】漢呉ガイ しろし、霜又は雪などの降りて白き貌

【皚皚】ガイガイ 雪等が降りまつしろなる貌

【皛●】漢呉ケウ ㊀あらはす（顯）㊁あきらか（明）白し（白）

【皚●】漢カウ 呉ゴウ 甚だ白きさま。

【皙●】【皙俗字】漢カウ 呉ゴウ ㊀あきらか（明）㊁しろし（白）㊂ひろし（廣）㊃おちつけるさま 注意古く呉に通ず

【樂】五四一頁の樂を見よ。

【縣】八〇六頁の綿を見よ。

【翫】八二九頁の翫を見よ。

【皦】一一七二頁の魄を見よ。

十二畫

【皦○】漢ハン 呉バン ㊀しろし（白）㊁豐かに多き貌 ㊂腹の大なる貌又その腹に髮などの白きにいふ 注意馬の足を繫がれて横に歩く貌

十三畫

【皦●】【皎通字】漢呉ケウ ㊀あきらか（明）あかるい ㊁しろし（白）㊂音曲の音色のはつきりしてゐる貌

【皦日】ケウジツ まひるのあかり、白日。

十五畫

【皦●】漢レキ 呉ラク ㊀白き貌 ㊁明かなる貌

皮部

【皮○】【皮】漢ヒ 呉ビ ㊀かは（動植物の體を被ふもの）すべて物の外被 ㊁まと（的）皮を張つた的 ㊂こけ（苔）㊃うはべ（表）物事の外部 注意けものゝ皮、又かはごろも（革裘）へおほひ（被）㊅こじつけ（强誣）

【皮肉】ヒニク 皮と肉 ㊁智淺く悟ることの深からぬにいふ ㊂愈地惡くあてこすりをいひ又は行ひをすること。

【皮革】ヒカク かは（皮は生のかは、革はつくりたるかは）。

【皮相】ヒサウ ㊀うはべ、うはつら ㊁智識觀察等の淺薄なるにいふ。「貨幣。

【皮幣】ヒヘイ ㊀禮物の贈答品 ㊁白鹿の皮の

【皮膚】ヒフ 身體の外被、はだ、はだへ。

【皮膚病】ヒフビヤウ 皮膚に出來る色々の病

【皮下注射】ヒカチユウシヤ 皮膚に針をさしこみて藥劑を注入する療法。

文皮フン 竹皮チク 羊質虎皮ヤウシツコヒ

【皷】【鼓】五畫 一一九五頁の鼓を見よ。

【皰●】【皰】漢ハウ 呉ベン 一種の皮膚病、もがさ、にきび

七畫

【皺○】漢呉シユン ㊀かは（皮）㊁しわ（皺）ひだ ㊂ひゞあかぎれ

【皺皺】シユンシユウ しわ、ひだ。

九畫

【皸○】【皸】漢クン 呉キン あかぎれ、ひゞ、ひゞがきれる

【頗】一一三八頁の頗を見よ。

十畫

【皺●】漢シウ 呉シユ ㊀しわ（表皮がだるみて細條をあらはすもの）しわの如き形のもの、ひだ ㊁ちゞむ、しわむ、しわがよる ㊂くりのいがさら（ひらたき食器）

皿部

【皿●】【皿】漢ベイ 呉ベウ ミヤウ

三畫

【盂○】漢 ウ 呉 イはち、わん（飯を盛る器）盂の形したるもの ロ草の名、ちからぐさ ハ獵をなすときの陣形の名

【盂蘭盆】ウラボン 梵語にて懸倒を解くの意 陰暦の七月十五日に行ふ佛事。

【孟】二八四頁の盂を見よ。

四畫

【盆○】【盆】漢 ホン 呉 ボン ぎ、はち、酒を容れる瓦器、又平たき鉢の類 ロ茶器・食器等をのせる臺 ハ鹽を焦る器 ニ七月中元の節

【盆石】ボンセキ 盆の中に山川の景をつくりしもの、又それに使用する石。

【盆地】ボンチ 山岳又は臺地等によりて周圍を取りかこはれたる平地の稱。

【盆池】ボンチ 小池、小さい池。

【盆雨】ボンウ 水鉢をくつがへす如き大雨。

【盆景】ボンケイ 盆栽に石などを配置して山水の風景につくりたるもの。

【盆畫】ボングワ 種々の色の砂にて盆の中に山水の形を描きたるもの。

【盆栽】ボンサイ 植木鉢に植ゑたる觀賞用の草木、はちうゑ。

【盈○】【盄】漢 エイ 呉 ヤウ イみつ（充）いつぱいになる、次第にみちる ロあふる（溢）みちあふれる ハあまる（餘）のびる ニ美しくつくる貌、女のたをやかなる姿 ホ水のさら〳〵と流れる貌

【同訓異義】みつ 盈・滿・充其他の用法は六一七頁の滿を見よ。

【盈月】エイゲツ まるい月、陰暦十五夜の月。

【盈貫】エイクワン イ罪惡の多きにいふ ロ弓を十分に張る ハ錢がさしに一ばいになつてさしきれぬ義。

【盈缺】エイケツ イ月の滿ちて圓くなると缺ける ロ物の滿ちると缺けること、榮枯。

【盈虛】エイキヨ 滿ち或はかけること、榮枯。

【盈羨】エイセン 滿ちあふれてありあまる。

【盈虧】エイキ 盈缺に同じ。

【盈縮】エイシユク 物が滿ちて押縮まる貌。

【盈滿】エイマン みちること、十分に足る貌。

【盃】【盄】五一七頁の杯を見よ

五畫

【益●】【益】漢 エキ 呉 ヤク イます（增）加へる、ふやす、又そのこと ロみつ（滿）あふれる（溢）ハます〳〵、だん〳〵、いよいよ ニため、きゝめ、まうけ、利益、又利益を受く、利益を與へる ホ易の卦の名

【同訓異義】ますます

【倍】は一倍以上增すの意。「義。

【加】は今までの上に更に添へ加はる

【增】は益に略同じ。

【滋】は次第に增し加はるをいふ。

（益）は今までよりは增すの意。

【益友】エキイウ 損友の對、自分のために

【益金】エキキン まうけの金、利益金。「友達。

【益鳥】エキテウ 人生に利益を與へる鳥類。

【益蟲】エキチユウ 人生に利益を與へる蟲。

富益フウエキ　便益ベンエキ　損益ソンエキ　規益キエキ

裨益ヒエキ　增益ゾウエキ　饒益ゼウエキ　潤益ジユンエキ

匡益キヨウエキ　忠益チユウエキ　廣益クワウエキ

【盍●】漢 カフ 呉 ゴフ イあふ（合）會す ロ何・不の二字を合し「何んぞ——せざる」と讀む ハいづくんぞ（曷）なんぞ

【盎●】漢 アウ 呉 イはち、ほとぎ（飲料を容れる器）あふる、こぼれる、盛んにあらはれる

【盎盎】五三四頁の椀を見よ。

六畫

【盒●】漢 カフ 呉 ゴフ イさら（皿）一說にさらのふた（盤覆） ロすぼむ（器の口が斂まる） ハ組合せて重ねる器、重箱

【蓋】八九八頁の蓋を見よ。

七畫

【盛○】【盛】漢 セイ 呉 シヤウ ジヤウ イそへもの、もりもの、器に盛り神佛に供へるもの ロもる、器に容れる ハさかんなり、裝飾の嚴かなる貌 ニさかん、さかり、勢がある、富みさかえる、草木が茂る、廣大顯著である ホさかんにす、おこすへさかる、榮える トさかんなりとす、壯とす チ國訓もる（堆くつみ上げる、山盛りにす、藥をあはす、はかりの目をきざむ）

【同訓異義】さかんなり 盛・壯・隆其他の用法はこの頁の盛を見よ。

【盛大】セイダイ 物の盛んなる貌。

【盛王】セイワウ 德望をそなへた君王。

【盛冬】セイトウ 冬のまつさかり、冬のさなか

【盛世】セイセイ 太平にして盛んなる御代。

【盛式】セイシキ 立派なる儀式。

【盛年】セイネン 血氣さかりの年頃。

【盛名】セイメイ 名譽の高きをいふ、人の聲名に對する敬稱。

【盛典】セイテン 大なる儀式、大典。

【盛事】セイジ 目出たき事、立派なる事。

【盛況】セイキヤウ 盛大なるありさま。

【盛服】セイフク 嚴かにして美事なる服裝、又は立派なる衣服。「と、榮枯盛衰。

【盛衰】セイスイ 盛んになることゝ衰へること

【盛夏】セイカ 夏のさかり、まなつ。

【盛時】セイジ 勢ひ盛んなる時、富める時。

【盛運】セイウン 運氣さかんなり、又その氣。

【盛宴】セイエン 盛大なるさかもり。

【盛會】セイクワイ 盛大な集會。

【盛筵】セイエン 盛宴に同じ。

【盛裝】セイサウ 美しく著飾ざる、又其服裝。

【盛飾】セイシヨク 美事なる服裝、又は裝飾。

【盛德】セイトク 高くさかんなる道德。

【盛擧】セイキヨ 盛んなる事業、立派な企て。

【盛觀】セイクワン 立派な見もの、壯觀。

【盛者必滅】セイジヤヒツメツ 盛んなるものも後には必ずおとろへる。

【盛德鴻業】セイトクコウゲフ 盛大なる德望と偉大なる事業。

嘉盛カセイ　齊盛セイセイ　豐盛ホウセイ　大盛タイセイ

昌盛シヤウセイ　明盛メイセイ　美盛ビセイ　鮮盛センセイ

茂盛モセイ　殷盛インセイ　熾盛シセイ　雄盛ユウセイ

貴盛キセイ　富盛フウセイ　全盛ゼンセイ　繁盛ハンセイ

【盜○】【次皿●】【次皿俗字】【盜】漢 タウ 呉 ドウ イぬすむ（偸）ひそかに取る ロぬすびと（盜人） ハ小人

【同訓異義】すすむ

【偸】は忙しき中から人目をしのんで閒暇を得るの意。「ぬ意。

【攫】は此方へ來たものを留めて返さ

【賊】は人を劫すの意。

【盜】は人の物をとるの義。「すむ。

【竊】は人の目をしのびてこつそりぬ

【盜人】タウジン ぬすびと、盜賊。

【盜用】タウヨウ 他人の物をひそかに使ふ。

【盜汗】タウカン ねあせ、睡眠中自ら出る汗。

【盜臣】タウシン ぬすみをなす臣下。

【盜伐】タウバツ 他人の竹木等をきりとる。

【盜泉】タウセン 山東省泗川縣にある泉。

【盜跖】タウセキ 昔の大盜の名。

【盜賊】タウゾク ぬすびと、どろぼう。

【盜難】タウナン 物を盜まれる災難。
【盜竊】タウセツ ぬすみとる。
【盜人萩】ヌスビトハギ 山野に自生する多年生草本で淡紅紫色蝶形の花を開く。

（盜人萩）

姦盜カンタウ 淫盜インタウ 耗盜カウタウ 邦盜ハウタウ
狗盜コウタウ 大盜タイタウ 剽盜ヘウタウ 賊盜ゾクタウ
竊盜セツタウ 群盜グンタウ 偸盜トウタウ 儉盜ケンタウ
劫盜ゴフタウ 宿盜シユクタウ 掠盜リヤクタウ 巨盜キヨトウ

八畫

【盟●】【盟】漢 ベイ 呉 マウ 慣用音 メイ
㋑ちかふ、ちかひを立てる㋺ちかひ、神に犧牲を奉りて約束を守ること、轉じて約束㋩古く盂に通ず
【同訓異義】ちかふ 盟・矢・誓等の用法は九六三頁の誓を見よ。
【盟友】メイイウ 親しく交はる友。
【盟兄】メイケイ 親しき友に對する敬語。
【盟主】メイシユ 同盟者中首長の地位に立つ
【盟休】メイキウ 同盟休業の略稱。
【盟府】メイフ 誓約の書類を入れ置く庫。
【盟首】メイシユ 盟約書の連名の首位に署名し違約者に對して制裁を加へる力を有
【盟約】メイヤク ちかひ、盟誓。［するもの。
【盟誓】メイセイ 盟約に同じ。

【盞●】漢 サン 呉 セン さかづき、小さきさかづき、ちよく
【盞】八九六頁の盞を見よ。

九畫

【盡●】【盡俗字】【尽略字】漢 シン 呉 ジン なる㋺きはまる（極）㋩つくす、をはる、なくつまびらか（審）㋥やむ（止）㋭つくす、力一ぱい、使ひはたす、殘らず出す、十分ならしめる㋬ことごとく（悉）すべて、のこらず、ありたけ㋮まゝ、まかす
【盡力】ジンリヨク 力をつくす、ほねをゝる。
【盡日】ジンジツ ㋑その日一日の間、終日、ひねもす㋺月末にあたる日、みそか。
【同訓異義】つくす 悉は無くし盡すの意でなく殘らずの義。「た意。
【既】は或るものがそこまで全くつき
【殫】は獸を皆ころしつくすの義。
【殲】は人を盡く殺すの意。
【盡】は皆さつぱりとなくなる義。
【竭】はよわりつくるの意。
【索】は物がつきてさびしくなつた意
【罄】は器中が空しくなつた意。
【同訓異義】ことごとく 盡・悉・畢其他の用法は三八九頁の悉を見よ。
【盡言】ジンゲン 憚らずして十分に述べる。
【盡忠】ジンチウ まごゝろを以て仕ふ、忠義をつくす。
【盡瘁】ジンスイ 心を盡し力を勞する貌、つ
【盡頭】ジントウ つきてなくなるところ。
【盡忠報國】ジンチユウハウコク 忠義をつくして國家の爲めにはたらく。
散盡サンジン 窮盡キユウジン 周盡シウジン 小盡セウジン

【監●】【監】漢 カン 呉 ケン ㋑かんがみる（鑑）鏡にてらし見る、他の物をとつて我が戒とす、手本とす㋺かゞみ、かんがみ（鑑）てほん、いましめ㋩めつけ役（檢査）みはりの役、又みはりす㋥上より見おろす㋭らうや（牢獄）
【監奴】カンド 奴僕のかしら。
【監事】カンジ 法人の事務を監査する役員。
【監房】カンバウ 囚人を入れるところ。
【監軍】カングン 軍隊をみまはる役。
【監修】カンシウ 文書の編輯を監督する。

【監査】カンサ しらべる、しらべみる。
【監物】ケンモツ 昔中務省の屬官、大藏内務の出納及諸庫のかぎを監督した官。
【監視】カンシ 取締り見まはつて守ること
【監禁】カンキン 人を或場所に禁足して他出せしめざるをいふ。「る人。
【監督】カントク 取締ること、又その任に當
【監察】カンサツ ㋑他の爲す業を取締り視る意㋺德川時代の目附役。
【監獄】カンゴク 罪人を收容して刑の執行をなす所、刑務所。
【監護】カンゴ 監督してまもる。
【監禁罪】カンキンザイ 不法に他人の自由を束縛して之を幽閉する犯罪。
家監カケン 鏡監キヤウカン 景監ケイカン 馬監バカン
宮監キユウカン 副監フクカン 牧監ボクカン 軍監グンカン

【盤○】【盤】漢 ハン 呉 バン ㋑はち、さら（物を盛る器）㋺たらひ（盥）㋩古く般に通ず、たのしむ㋥蟠に通ず、わだかまる㋭古く磐に通ず、いは、いはを㋬めぐる（旋）めぐらす、まげる
【盤回】ハンクワイ めぐりまがるさま。
【盤石】バンセキ 大石、いはを。
【盤曲】ハンキヨク 山路のまがりめぐる貌。
【盤折】ハンセツ めぐりまがる、盤曲。
【盤坐】ハンザ ひざを組みて坐す、安坐。
【盤陀】ハンダ ㋑馬のくら㋺石の平らかならざるさま㋩鉛と錫の合金にして金屬をつぎ合すに用ゐるもの。
【盤紆】ハンウ 山路などのめぐりくねてゐる
【盤旋】ハンセン めぐりあるく。「ること。
【盤根錯節】ハンコンサクセツ 入りまじりて困難なること、世事の複雜なる狀を蟠りたる根・いりくみたる節にたとへていふ
注意 磐根と書くは誤り。
遊盤ユウバン 殷盤インバン 銅盤ドウバン 玉盤ギヨクバン
屈盤クツバン 情盤ジヤウバン 甘盤カンバン 小盤セウバン
燭盤ショクバン 寶盤ハウバン 羅針盤ラシンバン

十一畫

【盥●】漢 呉 クワン ㋑てあらふ、盥にて手を洗ふ㋺てあらひ「身體を清める意。
【盥浴】クワンヨク 手をあらふとゆあみ、
【盥漱】クワンソウ 手をあらひ口をすゝぐ。

【盧○】漢 ロ 呉 ル ㋑飯を盛る器㋺火を盛る器㋩酒がめを据る意㋥置く所㋭くろ（黑色）㋬ひとみ（眼中の黑子）㋮良き犬の名㋯賭博のこと㋰蘆に通ず（あし）
【盧胡】ロコ 火に笑ふ聲。

十二畫

【盪●】【蕩通字】漢 タウ 呉 ダウ ㋑おす（推）㋺うごかす（動）うごく㋩はなつ（放）㋥あらふ（滌）心を洗ひ清める㋭大なる貌
【盪泊】タウハク 水の上にたゞよふ貌。
【盪滅】タウメツ 平げほろぼす。
【盪擊】タウゲキ 水勢のはげしく打合ふ貌。

十四畫

【盧】三五七頁の盧を見よ。

【壚】一一八五頁の鹽を見よ。

十八畫

【蠱】九二五頁の蠱を見よ。

十九畫

【鹽】一一八五頁の鹽を見よ。

目（）部

【目●】【�罒横目】【冃】呉 モク 漢 ボク

㋑め、めだま、めつき、視官、まなこ、㋺みる（視）見あはす、目くばせ、目で合圖す㋩かど、かぢう（條件）こわけ（細別）㋥かんじんの所、かなめ（要）㋭補佐して明らかに見せしむる者へしながら㋣な、なまへ、となへ（稱號）名を記せしもの、みだし㋠名づける、稱す㋡人を率ゐる者、かしら㋢國訓さくわん（王朝時代の國司の主典）め（はかり、ます等の刻みめ、碁盤のめ、すきま、㋤の面の點、すぢのあらはれたる模樣、物の界をなす線、めかたの單位、鑑定、齒のならべる物の稱、縱横の線の交つて出來たすき、ありさま、境遇）

【目下】モクカ ㋑たゞいま、さしあたり㋺めのした、又我より地位の低き者。

【目代】モクダイ 國司にして任地に赴かぬ時代理せしむる者。

【目今】モクコン たゞいま、目下、刻下。

【目次】モクジ 書中の題目の順序、みだし。

【目的】モクテキ めあて、めど、目ざす所、或る手段を以て得んとする結果。

【目前】モクゼン 目の前、さしあたり、眼前。

【目途】モクト みこみ、めあて。

【目送】モクソウ ㋑見送る㋺目をつけて人の行くを見る。

【目笑】モクセウ 輕侮の意、顔を見合せてひそかに笑ふ貌。

【目睫】モクセフ 目と睫の間、極めて近い距離

【目標】モクヘウ しるし、めじるし。

【目算】モクサン 目分量、豫じめはかる計算。

【目錄】モクロク ㋑書籍の內容の題目のみを卷頭に集め揭げたるもの㋺進物の品目を記したるもの㋩師より門弟に藝術を傳へる階級の名目㋥一見して其の內容を知らしめる爲に作製する名目を併記したる記錄。

【目斷】モクダン 目の及ばぬこと、見えぬこと。

【目擊】モクゲキ 親しく見ること。

【目禮】モクレイ 言語動作によらず目付にて會釋する禮法の一。

【目上】メウヘ 己より地位身分の高き者。

【目方】メカタ 物の輕重、おもさ。

【目附】メツケ 武家の職名、非違を監禁し事狀を具して君侯に上申する役。

【目論見】モクロミ 事を企てる、計畫する。

刮目クワツモク 題目ダイモク 條目デウモク 炫目ゲンモク

注目チユウモク 細目サイモク 書目シヨモク 綱目カウモク

科目クワモク 育目イクモク 奏目ソウモク 總目ソウモク

深目シンモク 張目チヤウモク 明目メイモク 品目ヒンモク

指目シモク 眺目チヤウモク 眇目ベウモク 要目エウモク

黃目クワウモク 眸目ボウモク 比目ヒモク 橫目ワウモク

反目ハンモク 耳目ジモク 面目メンモク 十目ジフモク

屬目ショクモク 寓目グウモク 名目メイモク

【四】 日に同じ　橫目

二畫

【見】 九四五頁の見を見よ。

三畫

【盲・肓】別字【盲】漢バウ 呉ミヤウ

慣用音マウ ㋑めくら、めしひ、失明㋺くらし（暗）㋩はやし（疾）はげし（荒の假字）風がはやい㋥のぞむ（望）

【盲生】マウセイ めくらの學生。

【盲目】マウモク ㋑めくら、めしひ、盲人㋺無

【盲者】マウジヤ 盲人に同じ。「學なる人。

【盲判】マウハン 事の仔細を考へず無責任におすはん、めくらばん。

【盲啞】マウア めくらとおふし。「從ふ。

【盲從】マウジユウ 是非を判斷せずみだりに

【盲腸】マウチヤウ 小腸に續く大腸の一部分

【盲聾】マウロウ めくらとつんぼ。

【盲綿】メクラジマ 織物の稱、經緯共に紺色の木綿絲にて織りたるもの。

晦盲クワイマウ 群盲グンマウ 偏盲ヘンマウ 聾盲ロウマウ

色盲シキマウ 闇盲コンマウ 文盲モンマウ

【直・直】俗字【直】漢チヨク 呉ヂキ 漢呉チ

㋑なほし、まつすぐ、たゞし（正）正直㋺まつすぐにす、のばす、ただす、無實の罪をいひゝらく㋩あたる、その場に臨む、相當する㋥とのゐ、當直、とのゐすぼたゞちに、ぢきにへわざと、ことさらに㋭ぢか、直接、密接㋠ただ、但し「何々のみならず」と反りよむ㋡あたひ、物のねだん、あたひす㋢國訓なほす（匡正す、修繕す、病をいやす）なほる（なほすの自動詞、正しく坐る）

【直下】チヨクカ ㋑すぐした、ました㋺一直線におりる、ひたおりにおりる。

【直立】チヨクリツ まつすぐに立つ。

【直行】チヨクカウ ㋑まつすぐに目的地にゆくこと㋺直情徑行。

【直衣】チヨクイ なおし

のこと、昔天子以下攝家・大臣などの用ひた通常服。

（直衣）

【直言】チヨクゲン 恐れ憚らず眞直にいふ。

【直系】チヨクケイ 一直線につゞく血すぢ。

【直角】チヨクカク 互ひに垂直する二線のなす角度、九十度の角。

【直往】チヨクワウ ㋑ひたすゝみにすゝむ㋺まつすぐにゆくこと。

【直披】チヨクヒ 親展に同じ、親らひらく意。

【直前】チヨクゼン ㋑たゞちに進み出づ㋺直後の對、すぐ前、「除きたる他の音。

【直音】チヨクオン 文法上にて促音と拗音をさしわたし。「直航する。

【直徑】チヨクケイ

【直航】チヨクカウ 他に寄港せず目的の地へ

【直後】チヨクゴ 事件のあつたすぐあと。

【直通】チヨクツウ 一直線にとほる、汽車などにて乘替なしに行くこと。

【直接】チヨクセツ 間接の對、ぢか、ぢき〳〵

【直隸】チヨクレイ 君主又は中央政府より直接の支配を受けること。

【直線】チヨクセン 二線間の最も近き距離を連ねる想像上の線、まつすぐなる線。

【直諫】チヨクカン はゞからずして諫む。

【直轄】チヨクカツ 直接に管轄する意㋺文部省直轄學校。

【直譯】チヨクヤク 「に譯すること。外國文をその文句の通り

【直覺】チヨクカク 事物を認識する心理作用

【直觀】チヨククワン 感官の作用により直接に外物を經驗して智識を得る。

【直參】ヂキサン 「來。

【直訴】ヂキソ ぢき〳〵主君に仕ふる者、家正規の手續をふまずして天皇にぢき〳〵上訴するをいふ。

【直筆】ヂキヒツ ㋑筆を眞直に持つて書く書法㋺事實をありのまゝに書き現はすこと㋩本人が直接書くこと。

【直奏】ヂキソウ ぢかに天子に申上げる。

【直傳】ヂキデン 師父などからぢかに傳へることと 注意ちよくてんと讀むは誤り。

【直段】ネダン 品物のあたひ、價格。

【直垂】ヒタタレ ㋑昔は庶人の常服であつたが後世武家の禮服となつたもの、色不定にして地質も區々、單なるもあり、裏あるもあり、後に長袴をも用ふることゝなつた㋺ひたゝれぶすま。

（直垂）

【直方體】チヨクハウタイ ましかくな立方體。

【直線美】チヨクセンビ 男性的な線の美。

【直觀的】チヨククワンテキ 直接に感覺し得べき實物によるの意。

【直接法】チヨクセツハフ 文法上の語にて動作の一法、動作をありのまゝに言ひ切るもの、受く・歸る等の類。

【直接稅】チヨクセツゼイ 地租・所得稅等の如く租稅の上納者と其の負擔者とが同一人なる租稅。（間接稅の對）

【直取引】チキトリヒキ 物品交換者の實行々爲が相方同時に發生するもの。

【直情徑行】チヨクジヤウケイカウ 思ふ通り飾ることなく直ちに動作に現はすをいふ。

【直接國稅】チヨクセツコクゼイ 地租・所得稅等の如く直接國庫に納める稅金。

狂直キヤウチヨク　亮直リヤウチヨク　敢直カンチヨク　中直チユウチヨク
忠直チユウチヨク　曲直キヨクチヨク　正直シヤウチヨク　司直シチヨク
清直セイチヨク　聚直レンチヨク　堅直ケンチヨク　純直ジユンチヨク
勁直ケイチヨク　當直タウチヨク　宿直シユクチヨク　訥直トツチヨク

【具】一一九頁の具を見よ。

四畫

【相】【相】漢シヤウ ㋑あひ、呉サウ たがひに㋺みるゑどだい、したぢ㋩たすく、たすけ、君主をたすけ政治を取しまるもの㋥客をあしらふ者、接待役㋭てびき、盲人を案内するもの、㋬人體の骨組、物の形勢㋣物の形勢を察して運命をうらなふこと、其術㋠米をつく杵の音に和してうたふきねうた、又それを歌ふこと㋟宰相となる、大臣となる

【相互】サウゴ たがひに、ともに〳〵。

【相生】サウシヤウ 相剋の對、卽ち木は火を火は土を、土は金を、金は水を、水は木を生じて吉なりとの說。

【相好】サウガウ 佛語、顏すがた。

【相知】サウチ 相識に同じ。

【相思】サウシ 互ひに思ひあふ、あひぼれ。

【相者】サウシヤ ㋱占ひをする人㋺接待役。

【相殺】サウサイ 二人が互ひに同種の債務を負へる場合差引勘定をして双方の債務を消滅せしめる 注意 さうさつ と讀むは誤り。

【相愛】サウアイ 互にいつくしむ。

【相傳】サウデン 代々ゆづりつたふ。

【相違】サウヰ ちがひ、彼と是とちがふ 注意 相異と書くは誤り。

【相場】サウバ ㋑その時のねだん、時價、市場に於て賣買當事者間に於て一致した賣買價格㋺現物の取引でなく時價の高下によつて行ふ賣買取引。

【相對】サウタイ 比較的又は關係的等の意にして相對するものゝあること。

【相當】サウタウ ㋑優劣なきさま㋺相應じ、相好に同じ。

【相貌】サウバウ 相好に同じ。

【相談】サウダン はなしあひ、又話し合ふ。「友人。

【相應】サウオウ 相當に同じ。

【相識】サウシキ ㋑互ひに知り合ふ人㋺知人

【相續】サウゾク 家名又は財產などを承けつぐ、家督相續、遺產相續。

【相公】シヤウコウ 大臣・宰相。「なること。

【相伴】シヤウバン 主人役を助け客の相手と

【相國】シヤウコク 秦の時始めて置きし官名百官の長にして我國の太政大臣に相當

【相門】シヤウモン 大臣宰相の家がら。「す。

【相器】シヤウキ 大臣宰相となるべき人物。

【相手】アヒテ 對手、むかふ者。

【相撲】スマフ 我國特有の體術。

【相續人】サウゾクニン 家督相續にあつては法定の家督相續人・指定家督相續人・選定家督相續人の區別がある、遺產相續人は被相續人の直系卑屬・配偶者・直系尊屬・戶主の四者の順序である。

【相互扶助】サウゴフジヨ 人類愛を基調として互ひに扶け合ふこと。

【相對賣買】サウタイバイバイ 公定相場によらず賣買の兩者が直接に決定する取引。

【相似直線形】ソウジチヨクセンケイ 互に等角にして且その對應邊の互に一定の比例をなす二つの直線形。

皮相ヒサウ　奇相キサウ　骨相コツサウ　傳相シヤウ
聖相セイシヤウ　賢相ケンシヤウ　勵相レイシヤウ　眞相シンサウ
宰相サイシヤウ　臺相タイシヤウ　公相コウシヤウ　輔相ホシヤウ
善相ゼンシヤウ　守相シユシヤウ　實相ジツサウ　觀相クワンサウ

（相似直線形）

【省】【省】漢セイ ㋑かへよくみる、呉シヤウ りみる、自己に立ちかへつて考へる、たづねる㋺あきらか（明）㋩あやまち（過失）㋥はぶく、去る、のぞく（除）㋭へらす、少くす、節減す㋬役所、官衙㋣行政上の地方の區別㋠內閣を組織する中央政府の役所

【同訓異義】かへりみる 【省】は氣をつけて見る、反省・省察。【眷】はふりかへりみる又ねんごろにしたしむ意である。

【顧】はふりむきてみる義、回顧。

【省文】セイブン ㋑省略した文章㋺畫數を省

【省筆】セイヒツ 前の㋑に同じ。「いた漢字。

【省減】セイゲン はぶきへらす。

【省察】セイサツ ㋑十分に考へる㋺自分の行ひを振りかへり見て自から戒めること

【省令】シヤウレイ 各省より發する命令。

【省略】シヤウリヤク はぶく、へらす。

宮省キユウセイ　歸省キセイ　大省タイセイ　略省リヤクセイ
三省サンセイ　內省ナイセイ　損省ソンセイ　刪省サンセイ
熟省ジユクセイ　澄省チヨウセイ　簡省カンセイ　巡省ジユンセイ

【眉】【眉】漢ビ 呉ミ ㋑まゆ、㋺毛長き眉㋩老人の異稱㋥ふち、はた

【眉月】ビゲツ みかづき、三日月。

【眉目】ビモク ㋑眉と目、みめかたち㋺至つて近きことのたとへ。

【眉宇】ビウ ひたひのあたり。

【眉雪】ビセツ 雪の如く白き眉毛の老人の「異稱。

【眉間】ミケン 眉と眉との間。

【眉睫】ビセフ 眉目に同じ。

【眉壽】ビジユ 眉が白く長くなる程の長生

【眉尖刀】ビセンタウ 薙刀、長刀。

白眉ハクビ　連眉レンビ　修眉シユビ　曲眉キヨクビ
亮眉ガウビ　列眉レツビ　雙眉サウビ　秀眉シユビ
低眉テイビ　蛾眉ガビ　柳眉リユウビ　愁眉シユビ

【看】【看俗字】【看】漢呉カン ㋑みる、手をかざして見る、みまもる、注意して見る、ながめる㋺もてなし、あしらひ、待遇

【同訓異義】みる 看・見・視其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【看守】カンシユ ㋑見張りまもる、見はり番

㋺刑務所の下級官吏。

【看板】カンバン ㋑興行物の外題・役者の名等を記したる札㋺商家のかけ札㋩主家の紋所又は家號を記したる法被。

【看客】カンカク 見物人、觀客。

【看看】カンカン みる〳〵うちに。「をする。

【看病】カンビヤウ 病人の世話をする、介抱

【看貫】カンクワン ㋑目方をかけて檢める㋺秤の一種、だいばかり。

【看破】カンパ 見ぬく、見やぶる。

【看過】カンクワ みすごす、みのがす。

【看經】カンキン 經文をよむこと 注意 かんきやう と讀むのは誤り。

【看護】カンゴ 看病に同じ。

【盼】漢ケイ ㋑にらむ（怨みを含みて見る）又そのさま㋺かへりみる、顧視する

【盼】漢ハン 呉ヘン ㋑木の名㋺目の黑白がはつきりとわかれ愛らしき目㋩みる（視）㋥め、まなこ㋭かへりみる（顧）よこめで見る

【盾】漢トン 呉ドン ㋑武器の名、漢呉ジユン たて㋺人の名

【明】【明別字】漢ベイ 呉ミヤウ あきらか、あきらかに見る

【眄】【眄俗字】漢ベン 呉メン ㋑みる、片目を閉ぢて見る、ながしめにみる㋺ながめる、かへりみる㋩よこめにてにらむ㋥

意を通はせて傾く貌

【眇・】【緲通字】 漢 ベウ 呉 メウ ㋑すがめ（一方の目の小なるもの）㋺めつかち、かため（一目盲なる者）㋩こまか（細）㋥すゑ（末）㋭ちひさし（微）㋬とほし（遠）㋣つくす（盡）㋠はるか（遙）たかし（高）㋷なす（成）㋮たゝ（精緻）㋯みる、目を細くして見る

【眈・】 漢 タン 呉 トン ㋑みおろす、ねらひ見る㋺たのしむ

【眄・】 漢 バウ モウ ㋑くらし、くらむ ㋺おいぼれ（耄）

【眉】 一二二頁の冒を見よ。

【眉】 九四六頁の視を見よ。

【首】 一一五三頁の首を見よ。

五畫

【眞・】【真俗字】【真】 漢呉 シン ㋑まこと、ほん、ほんもの、ほんとう ㋺ゑすがた、肖像㋩道教の奥義、それを究めし者㋥まことのみち㋭書體の一、楷書㋬まことに㋣もと、自然の意㋠まじりなし（純）㋷國訓ま（まこと、本體、中心、中正、實體等の意）

【同訓異義】 **まことに** 眞・信・誠其他の用法は八一頁の信を見よ。

【眞人】 シンジン マヒト ㋑道教の奥義をきはめたる人㋺上古皇族に賜はりし氏姓の一。

【眞正】 シンセイ ほんとう、まこと。

【眞仙】 シンセン 眞人の㋮に同じ。

【眞心】 シンシン まごゝろ、眞實の心。

【眞皮】 シンピ 皮膚の表皮の下にある皮。

【眞否】 シンピ 眞であるか否かの意。

【眞成】 シンセイ まことに、ほんとうに。

【眞如】 シンニヨ 佛語、平等不偏にして常住不變なる萬有の眞性。

【眞空】 シンクウ 空氣も何もないほんとうの

【眞性】 シンセイ 自然のまゝの性質。

【眞迹】 シンセキ 眞筆に同じ。

【眞味】 シンミ まことのあぢはひ。

【眞宗】 シンシユウ 淨土眞宗を云ふ、僧親鸞の創めし佛教宗派の名。

【眞紅】 シンク まつか、眞のくれなゐ色。

【眞假】 シンカ 實物とかり物。

【眞珠】 シンジユ 圓くて銀色を帶ぶる眞珠貝の殼の內に成生する一種の珠。

【眞俗】 シンゾク 僧侶と俗人。

（貝珠眞）

【眞相】 シンサウ まことのありさま、眞の姿。

【眞率】 シンソツ ㋑天眞のまゝにて飾氣なきをいふ㋺手がるきこと。「き心情。

【眞情】 シンジヤウ まことの心、いつはりな

【眞理】 シンリ まことの道理、自然の妙理。

【眞筆】 シンピツ 本人のまことに書いた筆。

【眞意】 シンイ ㋑まことのこゝろ、本心㋺眞正のおもむき。

【眞義】 シンギ 事の眞相に觸れた眞の意味

【眞僞】 シンギ まことゝいつはり。

【眞實】 シンジツ まこと、虛僞でないこと。

【眞筒】 シンコ まことに、まことの、眞實に等の意、筒は無意義の文字。

【眞摯】 シンシ まじめ、まこと 注意 **しんし** つと讀むは誤り。「ありさま。

【眞趣】 シンシユ まことのおもむき、實際の

【眞劍】 シンケン ㋑ほんものゝ刀㋺まじめ。

【眞影】 シンエイ ㋑まことの姿㋺寫眞。

【眞價】 シンカ かけねなしのねだん。

【眞諦】 シンタイ 眞如に同じ。

【眞鍮】 シンチウ 銅と亞鉛との合金。

【眞蹟】 シンセキ 眞筆に同じ。

【眞贋】 シンガン ほんものとにせもの。

【眞髓】 シンズイ 神髓の誤り。

【眞中】 マンナカ 丁度なか、中心。

【眞先】 マツサキ 一ばんさき。

【眞似】 マネ 他にまがへてにせること。

【眞砂】 マサゴ こまかきすな。

【眞言宗】 シンゴンシユウ 道慈和尚が開き弘法大師がひろめたる佛教の一派。

【眞面目】 シンメンモク まじめ、まことのさま、本體そのまゝ。

聖眞 セイシン　清眞 セイシン　本眞 ホンシン　天眞 テンシン
明眞 メイシン　寫眞 シヤシン　正眞 セイシン　精眞 セイシン
質眞 シツシン　淑眞 シユクシン　貞眞 テイシン　純眞 ジユンシン

【眠・】【眠】 漢 ベン 呉 メン 慣用音 ミン ㋑ねむる、ねる㋺いこふ（憩）やすむ㋩作り死ぬ㋥みだる（亂）㋭あざむく（欺）國訓ねむる、死ぬ

【眠食】 ミンショク 睡眠と食事、轉じて日常の起居の意に用ふ。

【眠草】 ネブリグサ 荳科の一年生草本で處々に刺を生じ高さは一尺許り、指を觸れると萎み晳くして伸びる、夏季淡紅色蝶形の花が咲き後に莢を結ぶ、南米ブラジルの原產。

（眠草）

安眠 アンミン　快眠 クワイミン　晏眠 アンミン　醉眠 スイミン
熟眠 ジユクミン　作眠 サクミン　睡眠 スイミン　眩眠 ゲンミン

【眩・】【衒通字】【眩】 漢 ケン 呉 ゲン ㋑めまひ、くるめき、目がくらむ、くるめく、まどふ㋺くらます、てづま、魔術、又くらし（暗）㋩まじふ、まじる

【眩人】 ゲンジン 魔法を使ふ人。

【眩目】 ゲンモク 目をくらます、又目くらむ。

【眩疾】 ゲンシツ めまひのする病氣。「は誤り

【眩暈】 ゲンウン めまひ 注意 **げんくん** と讀む

【眩惑】 ゲンワク まどふ、まよふ、まどはす。

【眚・】 漢 セイ 呉 シヤウ ㋑かすむ、くもる、わざはひ（災）㋩あやまち（過）㋥へらす（減）はぶく（省）そぐ（殺）㋭あやし（妖）

【眛・】【昧別字】 漢 バイ 呉 メ 慣用音 マイ くらし、目が明かでない、判然と見えぬ

【昧・】 漢 バツ 呉 マチ くらし

【眦・】【眦】 漢サイ 呉ゼ ㋑まなじり、めじり㋺にらむ

【夏】 二四六頁の夏を見よ。

【眎】 九四六頁の視を見よ。

六畫

【眺・】【眺】 漢呉 テウ ㋑ながめ、ながむ、ながめる、遠くを見わたす、又其景色㋺のぞむ（望）㋩おどろく（驚）おそる（懼）

【眺望】 チウバウ ながめ、遠方を見わたす

【同訓異義】 **のぞむ** 眺・望・臨其他の用法は五〇七頁の望を見よ。

野眺 ヤテウ　遐眺 カテウ　遙眺 エウテウ　凝眺 ギヨウチウ
視眺 シテウ　顧眺 コテウ　伏眺 フクテウ　登眺 トウテウ

【眼・】【眼】 漢 ガン 呉 ゲン ㋑め、まなこ、めだま、めつき㋺目の穴、物のあな、凡て目に似たるもの㋩かなめ（要樞）㋥みる、目に入れる、目にとまる、又見ること㋭突出したる貌㋬出て大なる貌

【眼力】 ガンリキ ガンリヨク 物を觀察喝破する能力。

【眼下】 ガンカ 目のまへ、まのあたり。

【眼中】 ガンチユウ 目のなか。

【眼目】 ガンモク ㋑目つき、目のやうす、又目㋺かなめ、主意、樞要。「見識。

【眼孔】 ガンコウ ㋑目の孔、目㋺觀察力又は

【眼光】 ガンクワウ ㋑目のひかり㋺見る力。

【眼病】 ガンビヤウ 目のやまひ、眼疾。

【眼科】 ガンカ 目に關する醫術。

【眼前】 ガンゼン 目の前、見て居る所。

【眼界】ガンカイ 見わたすかぎり、目のとど

【眼球】ガンキウ 目だま。「くかぎり、視界。

【眼睛】ガンセイ ㋑ひとみ、眼球㋺目つき。

【眼瞼】ガンケン まぶた。

【眼識】ガンシキ よしあしをみわける力。

【眼鏡】ガンキヤウ めがね。

【眼象】ゲンジヤウ 唐戸・露盤・器具等に附ける一種の裝飾、輪郭の三四の曲線から成つたものを彫りこんだ物である。

（眼象）

【眼中人】ガンチユウノヒト 知人、なじみの人。

白眼 ハクガン　俗眼 ゾクガン　宇眼 ジガン　龍眼 リユウガン

肉眼 ニクガン　法眼 ハフガン　碧眼 ヘキガン　具眼 グガン

佛眼 ブツガン　冷眼 レイガン　醉眼 スヰガン　著眼 チヤクガン

千里眼 センリガン　一隻眼 イツセキガン　近視眼 キンシガン

【着】〔着〕

八九二頁の著を見よ

【眴●】【瞬通字】漢 ケン 呉 ゲン ㋑めく ばせ㋺ くらむ（眩）㋩またゝき、またゝく（瞬）

【眵○】漢 シ 呉 ㋑めやに

【眶○】漢 キヤウ 呉 ㋑まぶた、まぶち、めじり

【眷●】【睠通字】漢 ケン 呉 クワン ㋑めぐみ（恩顧）㋺かへりみる（顧）ふりかへつて見る、回顧㋩やから（眷族）みうち㋥心がむかふ、いつくしみ思ふ、物事を思ひ慕ふ、懇ろにして厚く思ふ

【同訓異義】かへりみる 眷・省・顧等の用法は七一九頁の省を見よ。

【眷眷】ケンケン ㋑顧みる貌㋺ねんごろなる貌㋩心の向ふさま。

【眷遇】ケングウ 心にかけてあしらふ。

【眷屬】ケンゾク 身うち、親類。

【眷顧】ケンコ 目をかける、恩惠を施す。

【眷戀】ケンレン 思ひ慕ふこと。

【眸○】漢 ボウ 呉 ム ひとみ、瞳孔、瞳子、眼

七畫

【睆●】漢 クワン 呉 ゲン ㋑みはる、目を大にして見る㋺星の光るさま㋩うつくし、うるはし㋥果實のみのること㋭まろぶ、轉がる如きよき辭㋬みわたす

【睇●】漢 テイ 呉 ダイ ㋑目を細くひらく、ぬすみ見る㋺よとめをつかふ㋩むかへ見る

【睇視】テイシ 明らかに見る。

【睡●】

漢 スヰ 呉 ズヰ ㋑ねむる、ねながら眠る、ねねむり㋩ねる、いねる、又ねむり

【睡臥】スヰグワ 横になつてねむる。

【睡眠】スヰミン ねむる、活動の止まる貌。

【睡餘】スヰヨ ねむりのあと、ねざめ。

【睡鄉】スヰキヤウ ゆめの國、眠つた時魂の

【睡癖】スヰヘキ ねむるくせ。「ゆく所。

【睡魔】スヰマ ねむりを催ふさしめる空想上の神、一般にねむけのこと。

【睡氣】ネムケ ねむたくなる、催眠。

【睡蓮】ヒツジグサ 沼澤に自生する多年生草本で蓮に似た花を開き未の刻に閉ぢる。

昏睡 コンスヰ　鼾睡 カンスヰ　熟睡 ジユクスヰ　陽睡 ヤウスヰ

佯睡 ヤウスヰ　午睡 ゴスヰ　坐睡 ザスヰ

（蓮　睡）

【督○】〔督〕

漢 トク 呉 ㋑みる（察）㋺ひきゐる（率）とりしまる㋩すゝむ（勸）うながす㋥たゞす、せめとがめ

る㋭いましむ（戒）㋬衣服の背にある縫目、せぬひ㋮多くの人をすべくゝる者

【督促】トクソク 催促す、うながす、せつく。

【督責】トクセキ ㋑責めなじる㋺責める意味にてさいそくす。

【督撫】トクブ 支那各省の總督と巡撫。

【督學】トクガク 學事を監督すること。

【督勵】トクレイ すゝめはげます。

家督 カトク　檢督 ケントク　趣督 シユトク　程督 テイトク

教督 キヤウトク　都督 トトク　監督 カントク　分督 ブントク

選督 セントク　搜督 ソウトク　親督 シントク　專督 セントク

【睦●】〔睦〕

漢 ボク 呉 モク ㋑つゝしむ（敬）㋺うやうやし（恭）㋩やはらぐ（和）むつぶ、むつまじ㋥したしむ（親）仲がよい㋭よし（好）㋬篤し　「合して語る。

【睦言】ムツゴト ㋑むつまじく語る㋺夫婦和

友睦 イウボク　蕭睦 シユクボク　恭睦 キヤウボク　親睦 シンボク

敦睦 トンボク　慈睦 ジボク　和睦 ワボク　輯睦 シフボク

【睚●】漢 ガイ 呉 ゲ ㋑まなじり（眥）めじり、まぶち㋺目をそばだてゝ見あげる、にらむ

【睚眦】ガイサイ 目をそばだてゝ見上げる。

【睛○】【睛俗字】

漢 セイ 呉 シヤウ

㋑めのたま、くろめ㋺みつむ

【睢○】漢 キ 呉 スヰ ㋑みはる、目をみはる㋺みあぐ、驚き見上げる㋩そしる（毀）㋥いかる（怒）いかり見る㋭ほしいまゝ（恣）㋬元氣ある貌㋮川の名（汴水の支流）

【睥●】漢 ヘイ 呉 ハイ ㋑にらむ、ねめつける、ながしめに見る㋺うかゞひみる（窺視）見廻して勢を示す、憚りなく見やる㋩ひめがきにらむ、見すゑる、ながしめに見る㋺城上のひめがき 注意 ひげいと讀むは誤り。

【睨●】漢 ゲイ 呉 ゲイ ㋑にらむ、ながしめに見る、ねめつける㋺目斜めなり㋩うかゞひ視る

【睪●】【睾別字】漢 エキ 呉 ヤク ㋑ねらふ、うかゞふ、うかゞひ見る（窺視）㋺たまふ（給）㋩ひく（引）㋥うまる（生）㋭このむ（好）㋬澤に同じ、さは

【睫●】漢 セフ 呉 ㋑まつげ㋺まじろぐ

【睫毛】セフマウ まつげ。

【睜】この頁の睛を見よ。

【睹】七二二頁の眷を見よ。

【睽】一一九四頁の鼎を見よ。

九畫

【睹●】【覩古字】漢 ト 呉 ツ みる（見）

【同訓異義】みる 睹・見・視其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【睽○】漢 ケイ 呉 ケ ㋑にらみあふ㋺互ひに不快に思ふ、反目する、そむく、又そのさま㋩はづす（外）㋥易の卦の名 注意 目をみはる貌

【睽離】ケイリ そむく、そむき去る。

【睽孤】ケイコ 人がそむき去られてひとりぼつちになる。

【睿●】【叡通字】漢 エイ 呉 ㋑あきらかし（深）㋩かしこし、さとし（智）㋥天子の事物に冠する敬語 注意 物事の理に明るし、ひじり（聖）

【睿知】エイチ 道理に明るくてかしこし。

【睿明】エイメイ 徹に通じ明かなり、すぐれて賢きこと。「せらるゝこと。

【睿聖】エイセイ 天子のすぐれて賢明にあら

【睿聞】エイブン 天子の御耳に達すること。

【睿慮】エイリヨ 天子の思召し。
【睿謀】エイボウ 次に同じ。
【睿圖】エイト 天子の御はかりごと。「覽。
【睿覽】エイラン 天子が御覽になる、上覽、叡

【睾○】漢 カウ 呉 コウ ㊀さは(澤)㊁こと し(廣)㊂おほいなり(大)㊃きんたま ぐ〳〵(盡)㊄ひろ (睾丸)男子生殖器の一へつや〳〵し 【睾丸】カウグワン きんたま、陰嚢中にある 球狀のもの。

【瞀●】漢 ボウ 呉 ム ㊀くらし(不知)目 が明かでない、智 識に乏しい㊁みだる(亂)㊂よく見えぬ さま㊃物を見るにくらみ易きこと㊄つ つしみて正視せざる貌へとりめ(雀瞀)

十畫

【瞋○】【嗔通】漢呉 ㊀いからす シン ㊁いかる (怒)怒つて目をむく㊂盛んなる貌㊃目 を低るゝ貌

【同訓異義】いかる 瞋・忿・怒其他の用 法は三八二頁の怒を見よ。
【瞋恚】シンイ いかりうらむこと 注意しん けいと讀むは誤り。

【瞍○】漢 ソウ 呉 ス めくら、めしひ

【瞎●】漢 カツ 呉 ケチ ㊀かため、めつかち ㊁めくら、めしひ 慣用音メイ

【瞑●】漢 ベイ 呉 ミヤウ メン ㊀目がよく見えぬ、 目明らかならず㊁あはす、目をつぶる、 目をとぢる㊂くらし(昏)くらむ、目が くらむ㊃うかぶ、安心して死ぬ㊄ねむ る 安らかにねむる

【同訓異義】ねる 瞑、寢・臥其他の用法 は三〇五頁の寢を見よ。
【瞑目】メイモク ㊀目をふさぐ、目をつぶる ㊁安らかに死ぬこと。
【瞑眩】メイゲン めまひ、めがくらむ。
【瞑想】メイサウ 目をとぢて深く考へ思ふ。

十一畫

【瞞○】漢 バン 呉 マン モン ㊀なみ目、ひ らめ㊁はつき り見えぬさま㊂だます、あざむく㊃慚 づる貌㊄人の名

【同訓異義】あざむく 瞞・欺・詐其他の 用法は五五三頁の欺を見よ。
【瞞著】マンチヤク 目をくらます、だます、ご まかす。
【瞞然】マンゼン 愧ぢる貌。
【瞞瞞】マンマン はつきり見えぬさま。

【瞠●】漢 タウ 呉 チヤウ ㊀みはる (直視)驚 慣用音ダウ きて目をみはる㊁みつむ(凝視)あきれ て見るさま 「れて見つめる。
【瞠若】ダウヂヤク 驚きて目をみはる、あき

【瞢●】【曹●】【曹俗字】漢 ボウ 呉 モウ ム ㊀ゆめ(夢)㊁くらし、目が明かでない 分明でない㊂はづ、はぢ(愧)
【瞢瞢】ボウボウ 光明なくくらきさま。

【縣】八一〇頁の縣を見よ。

十二畫

【瞥●】【覽別字】漢 ヘツ 呉 ヘチ 慣用音 ベツ わづかに見る、ちらりと見る、又そのと

【同訓異義】みる 瞥・見・視其他の用法 は九四五頁の見を見よ。
【瞥見】ベツケン ちらりと見る。
【瞥觀】ベツクワン 前に同じ。

【瞬●】【眴通】漢シユン 呉ジユン ㊀まじ ろく、 またゝく、またゝきをする、又またゝき ㊁またゝくひま、極めてみぢかき時間
【瞬刻】シユンコク またゝきする間、極めて 「短き時刻。
【瞬時】シユンジ 瞬刻に同じ。

【瞬間】シユンカン またゝきをするひま、極 めてわづかの時間にいふ、一瞬間。
【瞬視】シユンシ またゝきをして見る。

【瞭●】【瞭別字】漢呉 ㊀あきらか レウ (明)目がよ く見える、判然とよくわかる㊁はるか ㊂鳥の名、はしたか
【瞭然】レウゼン はつきりせるさま。
【瞭瞭】レウレウ 前に同じ。

【瞯●】【瞯】漢 カン 呉 ヂン ㊀白目の多き目 ㊁片目の白き馬 ㊂よこめづかひ(邪視)よこめをつか ふ、なゝめに見る(斜視)㊃うかゞふ ㊄ 小兒のかんのやまひ、きやうふう

【瞰●】漢 カン 呉 コン ㊀みる(視)㊁見お ろす

【同訓異義】みる 瞰・見・視其他の用法 は九四五頁の見を見よ。
【瞰射】カンシヤ 高き所よりねらひうつ貌。
【瞰視】カンシ みくだす、みおろす。
【瞰臨】カンリン 見おろすこと。
下瞰カ 延瞰エン 窺瞰キカン 遐瞰カカン

【瞳○】漢トウ ドウ 呉ヅ ㊀ひとみ、眸 子㊁無心に視 る貌、見るともなく見る
【瞳子】ドウシ ひとみ、童子。

【瞳孔】ドウコウ 前に同じ。
【瞳睛】ドウセイ 瞳子に同じ。

十三畫

【瞻○】漢呉 セン 注意たんと讀むは誤り ㊀みる、みわたす、み やる、望見㊁あふぎ見る㊂その場にい たり見る
【瞻仰】センギヤウ あふぎしたふ 注意たんか うと讀むは誤り。
【瞻望】センバウ 遙かに望む㊁敬し慕ふこ
【瞻視】センシ 見る、又その目つき。

【瞼●】【臉俗字】漢呉 ケン まぶた、ま ぶち

【瞽●】漢 コ 呉 ク ㊀めくら、めしひ、 目の見えぬこと、又 其人、又物事を見る明のなきこと㊁め くらになる㊂古代の樂官㊃殷代の學校 の名㊄人の名

【瞽女】ゴゼ 三味線などを彈き歩く女の乞
【瞽者】コシヤ めくら、盲人。「食めくら。

【瞿●】漢 ク 呉 コ ㊀驚き見る貌㊁いそ がはしく見廻る貌㊂つゞまやかなる貌 ㊃志の守る所なき貌へおそる(懼)㊄鳥 の名㊅衢に通ず、まちり戟に通ず

【瞿然】クゼン 驚き見る貌。
【瞿麥】クバク なでしこ、とこなつ、撫子。

【瞯】七二四頁の瞢を見よ。

十四畫

【瞭○】漢 ボウ 呉 モウ ㊀めくら、めしひ ㊁物事の道理を辨 別する智力がない㊂あきめくら
【瞭昧】モウマイ ㊀めくら㊁字解の㊁に同じ

十五畫

【矍●】漢 クワク 呉 カク ㊀おどろき見廻 す、又そのさま、 あはて見る㊁元氣がよくて動作の輕き 貌、老人の元氣あるさま
【矍矍】クワククワク 驚き見まわすさま。
【矍鑠】クワクシヤク ㊀輕健なる貌㊁年老ひて 元氣衰へざる貌。

十九畫

【矗●】漢 チク 呉 トク シユク ソク ㊀ひとし (齊)㊁な ほし(直)直立するさま㊂さかんなり (盛)草木がさかんに生える㊃高くそび え立つさま

二十一畫

【矚●】【矚略字】漢 ショク 呉 ソク ㋑みる（視）心を見る㋺みとめてつむ、目をつける【矚目】ショクモク ㋑ながむ、目をつけて眺め見る貌㋺望みを嘱して期待する貌。

矛部

【矛○鉾】【矛】漢 ボウ 呉 ム

㋑ほこ、長柄、諸刃の剣に長い柄をつけた武器㋺矛などを飾りたてた山車。

（戟）

【矛戈】ボウクワ ほこ、兵器の一。
【矛出】ボウシユツ 矛を出す爲に設けた孔。
【矛戟】ボウゲキ ほこ（戟は兩枝ある兵器、矛は單枝の兵器）。
【矛盾】ムジユン ㋑ほことたて㋺前後一致せぬ、つじつまの合はぬこと。

四畫

【矜○】漢 キヨウ 呉 ユウ ケン 慣用音コン ㋑矛の柄㋺おごそか（莊）㋩くるしむ（苦）かなしむ㋥あはれむ（憐）㋭つゝしむ（敬）うやまふ㋬をしむ（惜）㋣ほこる（誇）㋮たふとぶ（尙）たつとむ㋯あやふし（危）㋰そばだつ（聳）㋱にはか（遽）㋲堅くして强し㋳やむ（病）㋴鰥に通ず、やもめ、やもを

【同訓異義】あはれむ 用法は四〇七頁の憐を見よ。
【同訓異義】ほこり 矜・伐・誇等の用法は九六二頁の誇を見よ。
【矜大】キヨウダイ ほこりゐばること。
【矜式】キヨウシキ うやまひて手本とする。
【矜持】キヨウヂ 尊大ぶる、ほこる。
【矜矜】キヨウキヨウ 堅くつよき貌、又落ちつきて動ぜざる貌。
【矜恤】キヨウジユツ あはれみめぐむ。
哀矜 アイキヨウ 凶矜 キヨウキヨウ 夸矜 コキヨウ

【柔】五二三頁の柔を見よ。

六畫

【務】一五一頁の務を見よ。

七畫

【稍●】漢 サソ 呉 ソク 長さ一丈八尺あつて馬上で用ひる一種の矛の名。

【蝨】九二二頁の蝨を見よ。

十二畫

【懋】四一〇頁の懋を見よ。

矢部

【矢●】【矢】漢呉 ㋑やㄖかづとり（投壺の籌）㋩つらぬ（陳）㋥ほどこす（施）㋭ちかふ（誓）㋮なほし（直）㋯たゞし（正）㋰くそ（屎）

【同訓異義】ちかふ 矢・盟・誓等の用法は九六三頁の誓を見よ。
【矢丸】シグワン 矢と彈丸、やだま。
【矢石】シセキ 矢と弩の石、轉じて戰爭。
【矢文】ヤブミ ㋑矢につがへて送る手紙㋺たゝみかけて送るてがみ。
【矢立】ヤタテ 腰につける墨つぼ。
【矢竹】ヤダケ 矢の幹にする竹、やがら竹。
【矢叫】ヤサケビ ㋑戰さのさわぎ㋺戰場で放つた矢が當つた時に射手の發する聲。
【矢束】ヤツカ 矢の長さの稱呼にて一握したるだけの長さを束といふ。
【矢面】ヤオモテ 飛び來る矢に向ふ形容。
【矢筈】ヤハズ 矢のはしの弦をかける所。
【矢來】ヤライ 木や竹にてつくりし柵。
【矢庭】ヤニハ ㋑弓を射る所㋺直ちに、たちどころに。「の如く等の意。
【矢張】ヤハリ そのまゝ、なほ、依然、元
【矢場】ヤバ ㋑弓を射る所㋺射的場を裝ひ密淫賣をする所。「けて酒をのむ人。
【矢大臣】ヤダイジン 居酒屋にて樽に腰をかけて酒をのむ人。
嚆矢 カウシ 枉矢 ワウシ 金矢 キンシ 飛矢 ヒシ
弓矢 キユウシ 束矢 ソクシ 流矢 リウシ 蓬矢 ホウシ

二畫

【矣●】漢呉 ㋑文の終に用ゐて斷定の意を現はす助辭㋺疑問の意に用ゐる字㋩焉に同じく「これより」の意を表はす㋥他の助字に冠し感嘆の意を現はす㋭句倒法の句中に挿入する語㋮一般に句中に用ゐる字

三畫

【知●】【知】漢呉 ㋑しる、感づく、自體に感ず㋺さとる、心得て居る、見わける㋩したしむ（親）ちかづく㋥たぐひ（匹）㋭おぼえ、記憶㋮つかさどる（主）㋯をさめる㋰よき待遇㋱まじはり、交遊、友人、ちかづき㋲知事の略、州縣の長

【同訓異義】しる
【知】は心の底より篤と知るの意。
【識】は一通り物事に合點するの意。
【知了】チレウ 知りつくす、さとりきる。
【知人】チジン 知り合ひ、しるべ。「せる人。
【知己】チキ しるべ、知人、我をよく理解
【知友】チイウ 心をよく知れる人、友人。
【知行】チカウ チギヤウ ㋑知識と行爲㋺領地、采邑。
【知名】チメイ 名を知られし人、名高き人。
【知言】チゲン ㋑人の言論の眞意をさとり心術を見きはめる㋺物の道理に適ひたる言㋩筋の通つた說。
【知足】チソク 滿足して貪らぬこと。
【知府】チフ 府の行政を掌る長官。
【知者】チシヤ 事理をさとれる人。
【知命】チメイ 五十の年齡。
【知音】チイン ㋑我をよく理解せる人㋺親密なる友 注意 **ちおん**と讀むは誤り。
【知得】チトク しる、辨知する。「長官。
【知事】チジ 事務を主宰するの意で府縣の
【知悉】チシツ しりつくす、くはしく知る。
【知遇】チグウ 人物を辨知して待遇すること
【知辨】チベン 主宰して處理する意。
【知縣】チケン 縣の長官、縣知事。
【知曉】チゲウ ㋑さとり知る、明らかにしる㋺夜の明けんとすることを知る。
【知識】チシキ ㋑知る、認識、又知られてある內容㋺智學すぐれたる僧 注意 智識と書くは誤り。
【知覺】チカク ㋑五官により外界の事物を知る作用㋺知りさとる、又かんじ㋩利害得失を覺り得る心理作用 注意 智覺と
【知合】シリアヒ 知人に同じ。「書くは誤り。
【知仁勇】チジンユウ 知は道を知る、仁は道を體する、勇は道を强むるの意。
【知死期】チシゴ ㋑陰陽道にて人生の年月日によつて其の人の死期を豫知すること。「類の本能。
【知識慾】チシキヨク 知識を求めんとする人
【知行合一】チカウガウイツ 明の王陽明の唱へし主義、言行一致を德の本とする意。
【知者不惑】チシヤハマドハズ 知者は理義に通じてみだりに迷はぬ。「りに多言せず。
【知者不言】チシヤハイハズ 才智ある者は妄
故知 コチ 生知 セイチ 前知 ゼンチ
先知 センチ 後知 コウチ 良知 リヤウチ 見知 ケンチ
聞知 ブンチ 眞知 シンチ 新知 シンチ 舊知 キウチ

精知セイ　微知チヨウ　朋知ホウ　靈知レイ
承知ショウ　通知ツウ　報知ハウ　豫知ヨ

四畫

【矧】 漢 シン　慣用音 イン　㋑いはんや、ましてㅁはぐき（齗）ハ國訓はぐ（矢竹に羽をはめて矢を造る）

【同訓異義】 **いはんや** 矧・況・等の用法は五八六頁の況を見よ。

【俟】 七七頁の俟を見よ。

五畫

【矩】 漢 ク　呉 コ　㋑かね、さしがね（方を正す具）ㅁかど（角）ハのり（儀）おきて（法）つね（常）きまり二きざむ（刻）

【矩方】クハウ　眞四角、正方形。
【矩形】クケイ　ますがた、長方形。
【矩墨】クボク　さしがねとすみなは。「則。
【矩繩】クジヨウ　曲尺と墨繩、轉じて法律規
　規矩キク　繩矩ジヨウク　模矩ボク　高矩カウク
　儀矩ギク　憲矩ケンク　方矩ハウク　前矩ゼンク
　度矩ドク　尊矩ジンク　遣矩ケンク　後矩コウク

【欵】 五五三頁の欵を見よ。

七畫

【短】 漢 タン　呉 ㋑みじかし　久しく續かぬ、たらぬ、背がひくい、あさはか、乏しい、にぶい、又それ以上のことㅁわかじに（夭死）ハそしる（誹）二あやまち

【同訓異義】 **そうる** 短・誹・非其他の用法は九六六頁の誹を見よ。

【短刀】タントウ　短き刀、匕首・脇差の類。
【短小】タンセフ　㋑みじかく低いㅁ背が低い
【短才】タンサイ　能力の劣れること又其人。
【短世】タンセイ　わかに、夭逝。
【短冊】タンザク　㋑細長き紙に字をしるして物のしるしにつける物ㅁ和歌・俳句等を記す料紙。
【短兵】タンペイ　短かい兵器、刀劍類。
【短見】タンケン　あさはかなる見識、淺見。
【短所】タンショ　足りない所、惡い所。
【短衣】タンイ　丈の短い衣物、洋服のチョ
【短折】タンセツ　短世に同じ。　「ツキ。
【短徑】タンケイ　さしわたし。直徑。
【短長】タンチヤウ　㋑長所と短所ㅁ長命と短命ハ短いと長い。
【短命】タンメイ　短世に同じ。

【短氣】タンキ　㋑氣質の性急なること、氣みぢかㅁ力を落す、落膽する。
【短銃】タンジウ　ピストル、拳銃。
【短評】タンヒヤウ　簡單なる批評又は評論。
【短策】タンサク　つたなき謀りごと、捕策。
【短褐】タンカツ　賤者の服、荒布
【短期】タンキ　短かき日ぎり、短期日。

（短銃）

【短歌】タンカ　みじかき歌、卅一文字の歌、
【短艇】タンテイ　こぶね、ボート。
【短慮】タンリヨ　㋑短氣ㅁあさはかな考へ。
【短縮】タンシユク　ちぢめて短かくす。
【短篇】タンペン　長篇の對、詩文の句の短きもの、又短篇小說の略。
【短軀】タンク　たけの低いからだ。
【短簡】タンカン　簡短なる書簡。「らぬ心。
【短懷】タンクワイ　㋑氣みじかㅁ取るにも足
【短兵急】タンペイキフ　㋑非常に急なるさまㅁ短兵で急にせめる。　「戰する。
【短兵接戰】タンペイセツセン　互に刀劍を用ひ接
【短亭長亭】タンテイチヨウテイ　大小の宿屋。
　非短ヒタン　修短シウタン　漏短ロウタン　窮短キユウタン
　愚短グタン　凡短ボンタン　庸短ヨウタン　陋短ロウタン
　損短ソンタン　沮短ソタン　疵短シタン　細短サイタン

【規】 九四六頁の規を見よ。

【矣】 三六六頁の矣を見よ。

八畫

【矮】 漢 アイ　呉 エ　慣用音 ワイ　注意 みとよむは誤り、㋑ひくし、みじかし、たけひくしㅁちぢめる、みじかくす

【同訓異義】 **ひくし** 矮・低・卑其他の用法は六八頁の低を見よ。「こびと。
【矮人】ワイジン　一寸法師、身の丈低き人、
【矮小】ワイセウ　たけ低く小なり。
【矮屋】ワイヤ　低き家、小屋、あばらや、むさくろしい家。
【矮軀】ワイク　せのひくきからだ。
【矮雞】ワイケイ　雞の一種、ちやぼ。
【矮奴】アイヌ　古昔我國の東北地方に住居した種族で現今北海道・樺太地方に僅かに殘存するアイヌ、えぞ。
【矮人觀場】ワイジンクワンヂヤウ　あて推量で事物を判斷する識見なき人をあざける語。

（奴矮）

【肆】 八四〇頁の肆を見よ。

【雉】 一一一四頁の雉を見よ。

九畫

【疑】 六九六頁の疑を見よ。

十二畫

【矯】 漢 ケウ　呉 ㋑たむ、たつたものを匡正するㅁいつはる（詐）みだる（亂）ハたけし（武）いさむ（勇）つよし（强）又それらのさま二あぐ（擧）上に向ける、又とぶ（飛）

【同訓異義】 **いつはる** 矯・僞・詐其他の用法は九八頁の僞を見よ。
【矯正】ケウセイ　曲れるをたゞす。
【矯枉】ケウワウ　曲れるものを正す。
【矯命】ケウメイ　君命なりと詐り稱する。
【矯風】ケウフウ　風俗の亂れたるを正す。
【矯俗】ケウゾク　あしき風俗を正す。
【矯詐】ケウサ　いつはりまげる。
【矯誣】ケウフ　いつはる、事實をまげる。
【矯奪】ケウダツ　上命なりと詐稱して奪ひと
【矯飾】ケウショク　うはべをつくる。「る。
【矯弊】ケウヘイ　弊風惡習をためなほす。

【矯激】ケウゲキ　㋑たゞしはげますㅁ常道にはづれるハ殊更に異樣の行ひをする。
　匡矯キヨウケウ　奇矯キケウ　詭矯キケウ　輕矯ケイケウ

【矯〇】 漢 ソウ　呉 ゾウ　㋑いぐるみ（獵具の一）ㅁいぐるみの矢（檄を結びつけし矢）又短かき矢

石部

【石】 漢 セキ　呉 ジヤク　慣用音 コク　㋑いしㅁいはハいしばり（砭）二いしぶみ（碑碣）ホますめ、一斗の十倍、こくへめかた、百二十斤の稱トおもり、はかりチかたし（堅）又そのものリ八音の一ヌ樂器の音の揚らざる貌ルに美術上大理石の略

【石人】セキジン　㋑人形ㅁ人の形すれども善惡を辨ぜざる者ハ極めて健强なる人。
【石工】セキコウ　いしや、石匠。「ㅁ女の偶像。
【石女】セキヂヨ　㋑子を孕まぬ女、うまずめ
【石心】セキシン　動かざる心、鐵石心。
【石火】セキクワ　㋑石をうちて出す火ㅁ極めて急激なることにいふ。
【石本】セキホン　刻石帖に同じ、石摺の書物。

【石竹】セキチク なでしこ、撫子。
【石灰】セキクワイ 石灰石を燒きて粉末としたるもの、いしばひ。
【石白】セキキウ 石で作つた白。
【石材】セキザイ 建築の用材となる石。
【石油】セキイフ 地中からわき出るあぶら。
【石刻】セキコク 石にほりたる文章繪畫の類
【石室】セキシツ いはや、いしむろ。
【石版】セキバン 石材に繪畫文章等をほり原版として印刷するもの。
【石斧】セキフ 石でつくつた斧。
【石屋】セキヤク 石にて造りし建築物。
【石炭】セキタン 地中に埋沒したる前世紀の植物が炭化して出でたる物。「合物。
【石英】セキエイ 鑛物の名、硅昧と酸昧の化
【石首】セキシユ いしもち、魚の名。
【石造】セキザウ 石で造つたもの、いし造り
【石婦】セキフ 石女に同じ。「臺石。
【石趺】セキフ 石の臺、彫刻物、石碑等の
【石棺】セキクワン 石でつくつた棺。
【石級】セキキフ 石のだん、いしだん。
【石斛】セキコク 蘭科の多年生草本で山中の岩上又は樹上に着生し高さは六七寸ばかり夏日通常二箇宛の花を叢生し

（石斛）

多くは淡黄色又は白色で觀賞用として栽培せらる。「石菖蒲。
【石菖】セキシヤウ 主に水邊に叢生する草、
【石筍】セキジユン 地上に液下したる石乳が凝固して筍の形の如くなりし鑛乳石。
【石膏】セキカウ 火山地方に產する鑛物にて肥料・接合料等用途多し。
【石鼓】セキヒツ 石盤に字を書く蠟石の筆。
【石像】セキザウ 石づくりの肖像。
【石黛】セキタイ 石墨類、眉をゑがくに用ふ。
【石皺】セキシユン 石の皺、又夫を描く畫法。
【石絨】セキジウ 輝石・角閃石などの纖維狀となりたるもの、いしわた、石綿。
【石廊】セキラウ 石のらうか。
【石塊】セキクワイ 石のかたまり、いしころ。
【石塔】セキタフ ㋑石にて造りし五輪の塔㋺いしぶみ。「石碑、墓石。
【石碑】セキヒ 石絨に同じ。
【石綿】セキメン いはむろ、いはや。
【石窟】セキクツ 鑛石の一、黑鉛。
【石墨】セキボク ㋑石の黑い板㋺屋根を葺く
【石盤】セキバン 石材、スレート。
石材、スレート。いしだん、石の階段。
【石磴】セキトウ 物を洗ふに用ゐる日用品、
【石鑰】セキケン シヤボン。「柘榴と書く。
【石榴】セキリウ ざくろ、じやくろ 注意俗に

【石梯】セキクワタ 石でつくつた棺、蓋ひ。
【石礫】セキレキ こいし、いしころ。
【石突】イシヅキ 矛・槍・薙刀などの柄の本を
【石垣】イシガキ 石造のかき。「包める金具。
【石投】イシナギ 硬鰭類の魚で體は側扁・鱗は粗大・體色は着黑にして體長五六尺に達し深海の礁間に產し肉は美味ならず、少毒を含む。

（投　石）

【石摺】イシズリ ㋑石碑などの文字を紙に摺り取るをいふ、㋺書畫を木に刻みて生地を黑く印刷すること。
【石高】コクダカ ㋑穀物の數量㋺扶持。
【石灰石】セキクワイセキ 炭酸カルシウムを以て構成する石、石炭の原料となる。
【石州流】セキシウリウ 生花又は茶の湯の流派
【石灰岩】セキクワイガン 石灰より成る岩。
【石炭層】セキタンソウ 石炭のある脈の重り。
【石炭酸】セキタンサン 藥品の一、主として消毒用に供せらる。「種、しやくなげ。
【石楠花】セキナンクワ 高地に生ずる灌木の一
【石花菜】トコロテン 海藻の一。てんぐさ、又それで製した食品。「なりたる鼻。
【石榴鼻】ザクロバナ 赤く石榴の種子の如く
【石燈籠】イシドウロウ 石で作つたとうろう。
【石鑛乳】セキクワンニウ 鑛乳石ともいふ、山中

の洞穴に礦物の液の滴りながら凝りて氷柱の如く垂るゝもの。
【石炭瓦斯】セキタンガス 石炭をむしやきにする時發生する氣體。「用した太古。
【石器時代】セキキジダイ 石の斧や刃物等を使

（石鑛乳）

介石カイセキ　玉石ギヨクセキ　白石ハクセキ　卷石ケンセキ
文石ブンセキ　柱石チユウセキ　隕石インセキ　黃石クワウセキ
巨石キヨセキ　寶石ハウセキ　側石ソクセキ　礫石レキセキ
重石ヂユウセキ　化石クワセキ　片石ヘンセキ　瓦石グワセキ
累石ルイセキ　砥石シセキ　一石イツセキ　磁石ジシヤク

二畫

【矸●】漢 ヒ 呉 ケン　いかり、いかり石
【矻●】漢 コツ ㋑つかる（疲）㋺は呉 コチ　たらく、骨をり働く
【矻矻】コツコツ まめやかに働く貌。「貌
【岩】三二七頁の岩を見よ。

四畫

【砂。沙】〔砂〕漢 サ 呉 セ 慣用音 シヤ

すな、いさご、まさご（岩石が碎けて小粒となりしもの）
【砂利】ジヤリ 小さき石、いさご。
【砂金】シヤキン 砂の如き小粒をなし河床等
【砂石】サセキ 砂、小石。「より出る黃金
【砂丘】サキウ 砂のをか。
【砂岩】サガン 砂で出來た岩。
【砂塵】サヂン 砂けむり、砂ほこり。
【砂糖】サタウ 甘蔗より製したる甘味料。
【砂礫】サレキ こいし。
【砂地】スナヂ すなはら。「たち昇るもの
【砂煙】スナケムリ 風等の爲土砂が煙の如く
【砂糖大根】サトウダイコン 地中海沿岸に原產する藜科の二年生の草本で莖の高さは二三尺ばかり夏の頃黃綠色の小花を開き地下にある多肉紡錘形の根の汁から砂糖をつくる

（砂糖大根）

【砌●】漢 セイ 呉 サイ　注意せつとよむは誤り。㋑みぎり、石だゝみ、軒下などの敷石㋺國訓みぎり（とき、をり、その際）
【砒。】漢 ヘイ 呉 ヘイ　原素の一 慣用音 ヒ　又それを含む鑛石の一

【研】七三三頁の研を見よ。
【斫】四七二頁の斫を見よ。

五畫

【砥●】〔砥〕漢 シ 呉 タイ　注意と と讀むは誤り㋑と、といし、あをと㋺たひらかなるものゝ譬に用ふ㋩ひとし（均）㋥みがく（磨）とぐ、といしにてとぐ、はげむ、つとめる
【砥柱】シチユウ 黃河の中に在る山の名、轉じて亂世にあつても毅然として守る喩へ
【砥磨】シマ ㋑みがく、刃物をとぐ㋺品性を陶冶する 注意とまと讀むは誤り。
【砥礪】シレイ ㋑あらとゝ青砥㋺修養の意㋩務め勵む 注意ていれいと讀むは誤り
【砥石】トイシ 刃物をすりみがく石。
【砲●】〔礮本字〕〔砲〕漢 ハウ 呉 ヘウ　㋑いしはぢき（石を飛す兵器）いしゆみ（古代の武器）㋺たいはう、おほづゝ
【砲工】ハウコウ ㋑砲兵と工兵㋺砲を製作する「る工人。
【砲口】ハウコウ 大砲のくち。
【砲火】ハウクワ 發砲する時に發する火。

【砲丸】ハウグワン 大砲のたま。
【砲手】ハウシユ 砲の發射を掌る者。
【砲兵】ハウヘイ 大砲を運用する兵士。
【砲列】ハウレツ 發砲の目的で大砲を排列す
【砲身】ハウシン 大砲の主要部、砲のつゝ。
【砲架】ハウカ 砲身をのせる臺。
【砲車】ハウシヤ 大砲を牽く車。
【砲金】ハウキン ㋑昔砲身の材料としたる青銅 ㋺鑄物の材料とする金屬の一。
【砲烟】ハウエン 砲煙に同じ。
【砲門】ハウモン 大砲のつゝぐち。
【砲射】ハウシヤ 大砲をうつこと。
【砲銅】ハウドウ 銅と錫を合金として銃砲の製造に用ふ。「打出す孔。
【砲眼】ハウガン 城壁などに設けたる大砲を
【砲術】ハウジユツ 大砲を運用する術。
【砲船】ハウセン 大砲を運用し敵をうつ船。
【砲塔】ハウタフ 軍艦内に大砲を裝置する所
【砲熖】ハウコウ 大砲、火砲。
【砲彈】ハウダン 大砲のたま。
【砲銃】ハウジユウ 大砲と小銃。
【砲戰】ハウセン 砲火を交へて戰ふこと。
【砲艦】ハウカン 船體小にして比較的大なる主砲を備へ海岸・河上の砲擊・防禦等に從ふ軍艦。
【砲擊】ハウゲキ 大砲にてせめうつ。

【砲臺】ハウダイ 島嶼海岸等に大砲を備へつけし所、だいば。
【砲聲】ハウセイ 大砲のとゞろく音。
【砲壘】ハウルイ 砲臺に同じ。
【砲煙彈雨】ハウエンダンウ 激しき戰爭の形容語
大砲タイハウ 小砲セウハウ 火砲クワハウ 巨砲キヨハウ
發砲ハツハウ 鐵砲テツハウ 銃砲ジユウハウ

（砲臺）

【破●】【破】

漢ハ ㋑やぶる、 ㋺こはれる、 昊ヘ こはす。

そこなふ、戰爭にまける㋺わける、わかつ㋩わる、さく(裂)㋥晉樂のふしの名㋭つくす、又巧みにいひ廻す、反對の議論をたふす

【同訓異義】やぶる

【傷】はきずつきやぶれるの意。
【壞】はくづれ毀はれるの意。
【敗】は何時とはなしに潰れ敗れる意
【毀】は缺げるの意。
【斃】はやぶれつぶれるの意。
【破】はわれるの意又裂けるの意。
【破片】ハヘン 物のこはれたるかけ。
【破瓜】ハクワ 瓜の字を二分すれば八の字ふたつとなるより女子の十六歳又は男子の六十四歳をいふ。
【破牢】ハラウ 獄を破りて逃げ出す。
【破戒】ハカイ 戒めを破つた放恣なる振舞
【破邪】ハジヤ 邪說を論破すること。
【破門】ハモン ㋑師の許より逐はれ師弟の關係をたつ㋺宗派から信徒を除名する
【破約】ハヤク 約束をすてゝ守らぬこと。
【破屋】ハヲク 破れた家、あばらや。
【破風】ハフウ 屋根の上にある合掌形の板
【破格】ハカク 定例を破る意、格外。
【破倫】ハリン 人倫にはづれたる行爲、亂倫。「る、又その船。
【破船】ハセン 暴風雨等にて船舶がこはれ
【破產】ハサン 財產より借財が多い爲め裁判所の干涉を受けて債權者に公平に分配するに至りしこと、身代かぎり。
【破裂】ハレツ ㋑やぶれさく、勢ひつよくはじけること㋺物事の調はざること。
【破碎】ハサイ こなみぢんに破れくだく。
【破損】ハソン やぶる、やぶれそこなふ。
【破摧】ハサイ やぶりくだく、破碎。
【破毀】ハキ ㋑破りこはす㋺上級裁判所で原裁判所の判決を不當として取消す。

（風破）

【破滅】ハメツ やぶれほろぶ。
【破獄】ハゴク 牢を破りて囚人が逃出す。
【破棄】ハキ やぶりすてる。
【破綻】ハタン やぶれ綻びる、物事の成立せざること 注意**ぼてい**と讀むは誤り。
【破談】ハダン 相談せしことを取り消す。
【破霄】ハライ 霄を破る、花のひらく貌。
【破顏】ハガン 顏を和らげ笑ふ貌。
【破壞】ハクワイ やぶりこぼつ。
【破皺】ハキヤウ 夫婦の緣のきれるをいふ。
【破天荒】ハテンクワウ ㋑人の未だ企てざりし事を第一になすこと㋺類例なき企畫。
【破竹勢】ハチクノイキホヒ 刃物で竹を割る如くとめどなく進む盛んなるいきほひ。
【破軍星】ハグンセイ 北斗七星中第七位の星
【破產者】ハサンシヤ 裁判所から破產宣告を受けた者。「て起る病氣。
【破傷風】ハシヤウフウ 傷口より黴菌がはいつ
【破恥】ハレンチ はぢ知らず。
【破落戶】ハラクコ 破戶漢に作る、良民を害する者、ならずもの、ごろつき。
【破邪顯正】ハジヤケンシヤウ 佛語、邪惡を打破して正道正果を顯すの意。
【破廉恥罪】ハレンチザイ すべて私心私慾より起りて犯したる犯罪。
【破壞主義】ハクワイシユギ ㋑他人の計畫を打こはさんとする意見㋺破壞說。
裂破レツハ 摧破サイハ 掩破エンハ 腐破フハ
傷破シヤウハ 裁破サイハ 剪破セン 撲破ボク
脆破ゼイハ 說破セツハ 踏破タフハ 撩破ラウハ

【砢】

漢昊 ㋑石の積み重つてゐる貌㋺性質又は體格のすぐれたる貌㋩石などが落ちて轟く聲

【砮○】

漢昊 注意**てん**又は**ぜん**とりで、堡壘

【砧○】

漢昊 きぬたをうつゝちぬたの聲 注意**せんせい**と讀むは誤り。

【砭○】

漢ヘン ㋑いしばり(醫療用の石鍼)うちばり㋺いしばりす、石針で病氣をなほす、轉じて人の性行を矯め直す

【砪】

七三九頁の礪を見よ。

六畫

【研●】【研】

俗字 漢昊 ㋑とぐ、みがく ㋺きはむ(究)㋩慣用音 ケン (磨)する、すりみがく

すゞり(硯)
【研北】ケンボク ㋑硯北に同じ、机を南向きに置けば人は硯の北に座するより起りし語㋺書翰の脇付の語。
【研考】ケンカウ かんがへしらべる。
【研究】ケンキウ しらべきはめる。
【研校】ケンカウ しらべくらべる。
【研精】ケンセイ くはしくしらべる。
【研學】ケンガク 學問を修めはげむ。
【研磨】ケンマ ㋑すりみがく、みがきとぐ ㋺はげみつとめる。「らかにする。
【研覈】ケンカク 是非を研究して其の實を明
【研鑽】ケンサン 研究に同じ。
【研師】トギシ 刀劍類の刃物をとぐ職人。

【硅○】

漢カク 昊キヤク ㋑やぶる㋺皮膚用音 ケイ と骨の離れる聲㋩鑛石の一にして石英類と化合させガラスを製造するに用ふ
【硅酸】ケイサン 硅素と酸素の化合物にして水晶・石英・瑪瑙・燧石等之に類す。
【硅素】ケイソ 非金屬元素の一、化合物となりて岩石に多量に存在す。

七畫

【硝○】

漢昊 ㋑鑛石の一 (火藥又は

硝子の原料）㋺石の堅き貌㋩火藥

【硝子】セウシ ガラス、ビードロ、玻璃。

【硝石】セウセキ 窒素を含む動植物が敗腐する時土中の成分と化合して生ずる一種の鑛物。

【硝酸】セウサン 窒素と酸素との化合せる無「色の液體。

【硝煙】セウエン 火藥又は銃砲のけむり。

【硝藥】セウヤク 火藥、えんせう。

【硝酸銀】セウサンギン 銀を硝酸に溶して製したる無色板狀の結晶物、醫療用とす。

【硫○】【礆】

漢リウ ㋑ゆわう、 呉ル 黄色の鑛物㋺ゆのはな

【硫黄】リウワウ 火山地方に産出する黄色の鑛物、ゆわう、いわう。

【硫酸】リウサン 硫黄と酸素の化合せる液體

【硫化物】リウクワブツ 硫黄と他の元素と化合したるものゝ總稱。

【硫化銀】リウクワギン 銀と硫黄の化合物。

【硫酸銅】リウサンドウ 銅と硫黄とを熱して得たる結晶物。「合した無色惡臭の氣體。

【硫化水素】リウクワスキソ 硫黄と水素とが化

【硬●】

漢ガウ 呉ギャウ ㋑かたし 慣用音 カウ（堅牢）㋺つよし（剛强）㋩十分にねれて居らぬ

【硬水】カウスキ 炭酸カルシウム・硫酸カルシウム等を溶解せる硬質の水。

【硬化】カウクワ ㋑柔弱な者が健固なる狀態に移る㋺かたくなに成りし狀態。

【硬性】カウセイ かたいせいしつ。

【硬骨】カウコツ ㋑剛直にして他に屈せぬこと、又其者㋺骨骸中の堅き所。

【硬度】カウド 鑛物などの堅さの度合。

【硬派】カウハ ㋑手强く意見を主張して屈せぬなかま（軟派の對）㋺新聞記事中の政治・經濟に關する方面。

【硬貨】カウクワ 紙幣の對、金屬製の貨幣。

【硬漢】カウカン 容易に人に屈せぬ男子。

【硬文學】カウブンガク 軟文學の對、まじめにしてかたくるしき文學。

【硬質陶器】カウシツタウキ 打擊・動搖及び高温度に堪へ得る樣製造したる陶器。

【硯●】【硯】

漢呉 ゲン ㋑すゞり 慣用音ケン り、すゞり石㋺うるほへる石㋩讀書作文の業

【硯北】ケンボク 研北に同じ。

【硯池】ケンチ すゞりの水のたまる所。

【硯屏】ケンビャウ 硯の前に立てる小さき屏風の如き文具。「じ。

【硯海】ケンカイ 硯池に同

【硯滴】ケンテキ ㋑すゞりの水のしづく㋺水いれ、水注。

（硯屏）

【硨○】

漢シャ 呉セ 硨磲は㋑蛤の最大なるもの㋺印度に産する寶石の名、七寶の一

【确●】

漢カク 呉コク ㋑石多き地、あれち㋺たしか（確）㋩たゞす（質）㋥くらぶ（競）㋭古く角に通じ用ふ

【硲】

國字 たにあひ、はざま（峽）

八畫

【碇●】【椗】

漢テイ 呉チャウ ㋑いかり（釘）いかり石、舟具の一㋺いかりをおろす、船をとゞめる、又泊る

【碇泊】テイハク 船舶が碇をおろしてとまること、ふながゝり。

【碍】【礙】

七三八頁の礙を見よ

【碍子】ガイシ 電氣を絶緣する爲めに使用する陶器製のもの。

【碎●】【碎】

漢サイ ㋑くだく 呉スイ こはす、こはしてこな〳〵にする、わる（割）くじく、苦しめる㋺こまかし、くだく〳〵し、わづらはし㋩くだけたるきれ（細片）こなくづ（屑）

【同訓異義】くだく

【摧】は折りひしぐ義。

【碎】は細かに破るの意。

【瘞】はこなごなに碎く。

【碎片】サイヘン かけ、こはれ、破片。

【碎身】サイシン 身を粉にしてはたらく、ほね身をゝしまずはげみ勤める。

【碎金】サイキン 詩文の辭句の美なる喩へ。

【碎破】サイハ くだき破る、又こはれる。

【碎氷船】サイヒョウセン 冬期河水又は海水の結氷せるものを破つて船舶の通路を開く目的に使用せられる特種船。

（碎氷船）

摧碎サイ 破碎ハイ 敗碎ハイ 細碎サイ

殞碎サイ 雜碎ザツ 踏碎タウ 苛碎カ

摧碎サイ 粉碎フン 毀碎キ 糜碎ビ

零碎レイ 小碎セウ 飛碎ヒ 擊碎ゲキ

【碑○】【碑】

漢呉 ㋑たちいし 古代宗廟の門内に立てゝ犧牲をつないだ石㋺いしぶみ、文字をしるしたる立石㋩貴人の棺を墓穴につるす時その繩をしばれる石碑に刻した文、又は文體、石碑、いしぶみにする石。

【碑文】ヒブン

【碑石】ヒセキ

【碑表】ヒヘウ 碑のおもて。

【碑帖】ヒデフ 碑などの刷物。「したる文。

【碑陰】ヒイン 石碑の裏面又は碑の背に刻

【碑銘】ヒメイ 石碑に記したる銘文。

【碑誌】ヒシ 石碑に記したる文、碑志、

【碑碣】ヒケツ いしぶみ、石碑。

「碑誌。

口碑コウヒ 石碑セキヒ 墓碑ボヒ 忠魂碑チユウコンヒ

【硼○】

漢ハウ 呉ヒャウ ㋑硼砂は礦物の名㋺硼酸は藥品の名

【硼砂】ハウサ 冶金に用ゐる玻璃狀の礦物。

【硼酸】ハウサン 無味無臭にして防腐性を有する酸類。

【硼酸水】ハウサンスキ 硼酸を水にとかした液

【硼酸軟膏】ハウサンナンカウ 硼酸をねり合せたる膏藥。

【碌●】

漢呉 ㋑石の青き色㋺人に隨ロク 從する貌、獨立心なきさま㋩小石の貌、又少さきさま㋥石が多くて平かならざる貌㋭車の轉ずる音

【碌青】ロクセイ 無水炭酸と銅との化合物

【碌碌】ロクロク 字解の㋺を見よ。

【碓○】

漢タイ 呉ツイ ㋑うす、からうす、ふみうす㋺きし（岸）

【碁】

五三四頁の棊を見よ。

【碁子】キシ ごいし、碁石。

【碁布】キフ 碁石のやうにちらばり並ぶ。

【碁打】ゴウチ 碁をうつて遊ぶ、又其人。

【碁盤】ゴバン ごをうつに用ふる盤。

【碗】

五三四頁の椀を見よ。

九畫

【碧●】【碧】

漢ヘキ 呉ヒャク ㋑青、濃き青色、あをみどり㋺色青く美しき石

【碧天】ヘキテン あをぞら、碧空。

【碧玉】ヘキギョク ㋑青色の美玉㋺清水、青空

【碧宇】ヘキウ そら、あをぞら、天空。

【碧血】ヘキケツ 生血、青色をおびた濃き血。

【碧空】ヘキクウ あをぞら、おほぞら。

【碧苔】ヘキタイ あをごけ、青蘚。

【碧海】ヘキカイ 海のこと、あをうみ、大海原

【碧梧】ヘキゴ あをぎり、梧桐。

【碧綠】ヘキリョク 深いみどり色。

【碧眼】ヘキガン あをき色の目、白色人。

【碧落】ヘキラク 大ぞら、蒼穹、天。

【碧霄】ヘキカウ 水の青々とたゝえて油の如く靜かに見えるさま。

【碧潭】ヘキタン 水を湛えたるあをき淵。

【碧鏽】ヘキシウ　あを色のさび。
琉碧エウヘキ　青碧セイヘキ　水碧スヰヘキ　紺碧コンペキ
綠碧リヨクヘキ　縹碧ヘウヘキ　空碧クウヘキ　丹碧タンペキ
深碧シンペキ　寸碧スンペキ　翠碧スヰヘキ　斷碧ダンペキ
渾碧コンペキ　滿碧タンペキ　藍碧ランペキ　嫩碧ドンペキ
穹碧キユウヘキ　遙碧エウヘキ　澄碧チヨウヘキ　淨碧ジヤウヘキ

【碩●】【碩】　漢　セキ　おほいな　呉　ジヤク　り（大）
【碩老】セキラウ　高德の人。「孫が繁榮する。
【碩茂】セキモ　大いに茂りさかる轉じて子
【碩儒】セキジユ　大學者、鴻儒、碩學。
【碩德】セキトク　大なる德望。
【碩學】セキガク　碩儒に同じ。
【碩果不食】セキクワクラハレズ　大きな果物で食ひくれぬ義、轉じて君子の道の決して亡びざるに喩へていふ。

【碟●】　漢呉　テフ　さら、小ざら（小盤）

【碣●】　漢　ケツ　イたていし、圓形の　呉　ゲツ　たて石ロいしぶみ、石碑（圓形のもの）ハ山の特立せる貌、そびえる貌

【碞】　三三一頁の巖を見よ。

【碪】　七三三頁の砧を見よ。

【磑】　六七七頁の瑙を見よ。

十畫

【確●・碻】【確俗字】【確】　漢　カク　呉　コク　イかたし（堅）つよし（强）しつかりして動かぬ、又そのさまロたしか、事實に相違のなきこと
【確乎】カクコ　たしか、しつかり。「てる。
【確立】カクリツ　確かと立つ、しつかりとた
【確志】カクシ　しつかりして動かぬ志。
【確守】カクシユ　かたく守る、固守。
【確固】カクコ　たしか、堅固、牢固。
【確定】カクテイ　きまる、たしかにきまる。
【確信】カクシン　イかたく信ず、一點の疑念なく信ずるロたしかなる信念。
【確保】カクホ　たしかにうけあふ。
【確執】カクシツ　互に我意を張り通すさま、不和になりし貌、にらみあひ。
【確答】カクタフ　たしかにて間違ひなき返事
【確報】カクハウ　たしかなるしらせ、間違ひ
【確然】カクゼン　確乎に同じ。「なき報知。
【確說】カクセツ　確論に同じ。
【確實】カクジツ　たしかにて間違ひなし。
【確論】カクロン　確乎たる議論、たしかにして動かすべからざる說。
【確認】カクニン　たしかに承認する。
【確聞】カクブン　たしかに聞き込む。
【確證】カクシヨウ　たしかなる證據。
【確乎不拔】カクコフバツ　びくともせぬさま。
【確定日附】カクテイヒヅケ　公正證書又は私署證書に記載した日時が署名者の死亡又は官公吏の認證等に依て確定不動の狀態を爲し後日に至り變更が出來ない。
堅確ケンカク　正確セイカク　精確セイカク　貞確テイカク
詳確シヤウカク　挺確テイカク　端確タンカク

【磁○】【磁】　漢　シ　イじゝやく　呉　ジ　（鐵を吸引する一種の石）ロ方角を示す器（羅針盤）ハ石燒の陶器、又地質固きやきもの
【磁力】ジリヨク　磁氣の作用。
【磁石】ジシヤク　イ磁鐵鑛の一ロ鐵を吸引する性質あるもの、又方角を示す器。
【磁性】ジセイ　物體の磁石にひかれる性質
【磁針】ジシン　じゝやくの針。
【磁鉢】ジハツ　せともものゝはち。「さす作用
【磁氣】ジキ　磁石が物を引つけ又は南北を
【磁極】ジキヨク　磁石の南北兩極。
【磁器】ジキ　石燒の陶器。
【磁石針】ジシヤクシン　磁針に同じ。

【磁碟皿】ジテフザラ　化學の實驗などに用ふる磁製の皿。
【磁鐵鑛】ジテツクワウ　酸化鐵の一種にて製鐵
【磁氣赤道】ジキセキダウ　地球の南北兩磁極の中間を通じて地球を一周せる直線。

【磅○】【磅】　漢呉　ハウ　イ石の落ちる音ロひろがり蔓こる貌ハポンド Pound（英國貨幣の基本單位にて邦貨の約九圓七十六錢三厘）又封度の宛字（一封度は百二十一匁の目方、或は九十九匁）
【磅礴】ハウハク　イ混ぜ合せて一つにするロはびこりふさがる、滿ちふさがる。

【磊●・礌】【磊】　漢　ライ　呉　レ　イ多くの石の重なる貌ロ志の大なるさま、小事にかゝはらぬさま
【磊砢】ライカ　石の多く積み重れる貌。
【磊嵬】ライクワイ　はげしく高きさま。
【磊塊】ライクワイ　石がごろ〳〵してゐる貌胸中の不平に喩へていふ。
【磊落】ライラク　イ胸中ひろくして小事に拘らざる貌ロ果實のみのるさま。
【磊磊】ライライ　イ石の多き貌ロ小事に拘らざる貌ハ志の大なる貌。
【磊磊落落】ライライラクラク　磊落を强めていふ語、志の大なるさま。

【磐○】【盤通字】【盤】　漢　ハン　呉　バン　イいは、いはほ、大石ロ廣大なる貌
【磐石】バンジヤク　いはを、大石。
【磐桓】バンクワン　進みがたきさま。

【碼●】【瑪通字】　漢　バ　イはかり　呉　メ　のおもり、ふんどうロわたしば、渡船場ハ英國の尺度ヤード（Yard）の宛字、一ヤードは約三尺一分七厘、ヤール

【磯●】　漢　デン　呉　ネン　イきしる（堰）ロうす、ひきうす、いしうすハ土地をならす農具ニひく、うすにてひく「抹茶。
【碾茶】ヒキチヤ　上茶をひきて粉にしたもの

【魂●】　漢呉　クワイ　多くの石（衆石）

【磋●】　漢呉　サ　イみがく、主として骨角類をみがくことロ物事をはげみきはめる

【礎●】　漢　ガイ　イうす、いしうすロ　呉　ゲ　かたし（堅）又その貌　漢　タク　イさく（古の刑法　呉　チヤク　にて罪人を殺し身體を引きさくもの）ロ犧牲を殺しきくハ身體を裂く刑、又尸を衆人に見せる刑ニ書法の名ホ物の擘の形容ヘ國訓はりつけ（昔の刑罰の名）

【礎刑】タクケイ　はりつけの刑、又さらし首。
【礎殺】タクサツ　はりつけにして殺す　注意　けつさつと讀むは誤り。

【礎】　七三六頁の確を見よ。

【礎】　九八三頁の磯を見よ。

十一畫

【磨○】【摩通字】【磨】　漢　バ　呉　マ　イみがく、する（玉石等をすりみがく、物事をみがきゝはめる）ロこするハうす、ひきうす、いしうす
【磨滅】マメツ　すり消す、すれてなくなる。
【磨練】マレン　イみがきねるロ修養の意。
【磨擦】マサツ　こする、又すれあふ。
【磨礪】マレイ　イみがくことロ勉め勵む。
【磨鏡】マキヤウ　かゞみをみがく、又磨きて明らかなる鏡。
水磨スイマ　臼磨キウマ　消磨セウマ　砥磨マレ
研磨ケンマ　琢磨タクマ　切磨セツマ　瑩磨エイマ

【礙●】漢 イン 雷鳴などの轟く形容 呉 ガン

【磧●】漢 セキ ㊀かはら（河原） 呉 シャク ㊁すなはら（沙漠）

【磧礫】セキレキ 河原の小石。

【磬●】【磬字通】漢 ケイ ㊀古代 呉 キャウ の樂器（八音の一にて石又は玉で折れ曲つた形に造り懸けて鳴らせしもの）㊁馬をひきとめる、磬の形の如く馬の體を曲げてひきとめる㊂磬の如く體を曲めて體をする

【磬控】ケイコウ 磬は馬を走らす、控は馬を止む、即ち馬を御すること。

【磬鐘】ケイショウ 磬と釣鐘。

【幽磬】イウケイ 磬キョク に 梵磬ボンケイ 浮磬フケイ

【磯○】【磯】十二畫 漢 キ ㊀いそ（海 呉 ケ 又は湖の水の岸に激するところ）㊁かはら、はまべ㊂なづ、ふれる、ぶつかる

【磯巾著】イソギンチャク 珊瑚蟲類の腔腸動物で體は圓筒形、觸手を開けば菊花の形をなし海濱の岩石に附著する下等動物。

（磯巾著）

【磯馴松】イソナレマツ 枝や幹が地に傾きて生ひのびてゐる松。

【磴●】漢 呉 トウ ㊀いしだん、巖の階段、いしざか ㊁いしばし（石橋）㊂小石の量の增す貌

【磷●】漢 呉 リン ㊀こいし、小石 ㊁雲母の異名 ㊂石の貌 ㊃うすらぐ、又すりへらされて薄き石 ㊄石間を水の流るゝ貌 ㊅玉石の光り輝く貌

【磺●】漢 ヲウ 呉 クワウ ㊀あら黄石の名、又硫黄

【礁○】漢 セウ 水中に隱れたる岩、呉 ゼウ かくれいは（暗礁）

【礁○墝】漢 カウ 呉 ケウ 注意 げうとよむは誤り ㊀石多きやせ地 ㊁山の田

【礁确】カウカク 墝确、石の多きやせ地 注意 げうかくと讀むは誤り。

【礒】六二三頁の澗を見よ。

【礎●】【礎】十三畫 漢 ソ ㊀いしず 呉 ショ ㊁、はじら石 ㊂物事のもとゐ、どだい、又大事を任すに足る人物

【礎業】ソガケ 事業の根本、又元となる事業

【礒●】漢 呉 タウ ㊀そこ（底）㊁國訓はたいしざか（平手にて打つ音の貌、物の落ちる音の貌、さしつまりたる貌、思ひあまるさま、にらめつける貌）

【礒●】漢 呉 ギ ㊀いは（石）いはほ（巖）㊁巖石獸の形容 ㊂國訓いそ（磯）

【礒】七三七頁の磊を見よ。

【礬●】十四畫 漢 呉 ヨ 砒素を含む有毒なる鑛物

【礙●】【碍俗字】漢 ガイ 呉 ゲ 注意 ぎと讀むは誤り ㊀さへぎる（遮）さゝふ（支）ふせぐ（防）さまたぐ（妨）㊁さゝはり、じやま、さまたげ

【礦】【礦】十五畫 一〇八八頁の鑛を見よ。

【礨●】漢 ライ 呉 レ あな、小さき穴

【礪●】漢 呉 レイ ㊀と、といし、あらとぐ（研）すりみがく、はげむ、つとめる

【礫●】漢 レキ 呉 リヤク ㊀こいし、小石 ㊁すな（砂）

【礫石】レキセキ 小さきいし、小石。

【礬○】漢 ヘン 呉 バン ㊀染料又は藥料となす一種の礦物 ㊁山礬は花樹の名、とちしばといふ、高さ數尺、葉密にして枝肥え、冬に至りて凋まず、花は白くして香ばし ㊂明礬は染色に用ゐる藥品

（山礬）

【礭】四五四頁の擂を見よ。

【礱●】漢 ロウ 呉 ル ㊀みがく、とぐ、する ㊁すりうす（磨臼）

【礦】七三一頁の砲を見よ。

【礴●】漢 ハク 呉 バク ㊀はびこる（蔓）㊁まじる（混）㊂廣く充ちふさがる貌 ㊃あぐらをかく（胡坐）

示（ネ）部

【示●】【示】漢 シ 呉 ジ ㊀しめす、人に見せる、しらす、さしづす、しめし、をしへ ㊁みる（視）㊂土地の神、くにつかみ

【示教】ジケウ シケウ ㊀をしへしめす ㊁實物を見せて教へること。

【示現】ジゲン 神佛が不可思議なる靈現を

【示談】ジダン 裁判を仰ぐべき事柄を双方相談の上にて解決すること ㊁總て表沙汰にせずして內濟にすること。

【示威運動】ジイウンドウ ㊀威力を示す爲めの行動 ㊁おどす爲めの運動。

指示シ 宣示セン 明示メイ 開示カイ

申示シン 告示コク 掲示ケイ 教示ケウ

【礼】一畫 七四八頁の禮を見よ。

【礼】三畫 漢字の字畫上の呼稱 注意 示が字の偏に來る時のみに用ひらる。

【礼】（國訓）しめしへん、しめすへん

【社●】【社】漢 シャ 呉 ゼ ㊀やしろ（國神をまつる宮）おみや、ほこら ㊁土地の神、くにつかみ ㊂立春及立秋後の第五の戊の日 ㊃周制にて二十五家の組合 ㊄くみあひ、團體 ㊅一つの目的の爲めに同志の聯合したるもの ㊆臺灣にて最下級の行政區劃 ㊇こそ（多數中の或一つを指していふ語）

【社中】シャチユウ ㊀組合の仲間 ㊁社のうち

【社友】シヤイウ 組合のなかま、組合の人。

【社公】シヤコウ ㊀國土を鎭護する神、くにつかみ ㊁しろこ（髮も皮膚も全體も白き天性の人）。

【社日】シヤニチ 立春又は立秋後の第五の戊の日、又その日に行ふ祭事。

【社司】シヤシ 神官、かんぬし。

【社交】シヤカウ 社會上にて人と交際する意

【社寺】シヤジ 神社と寺院。

【社長】シヤチヤウ ㊀會社又は組合の頭 ㊁村の長、又臺灣で蕃社の頭。「置せし米倉

【社倉】シヤサウ 備荒貯蓄として各州縣に設

【社祠】シヤシ くにつかみ、后土。

【社格】シヤカク 神社の等級を示す格式。

【社員】シヤヰン 社友に同じ、法人を組織する

【社掌】シヤシヤウ 社司に同じ。

【社債】シヤサイ 會社の事業費として募集した債務。

【社團】シヤダン 二人以上の人を以て組織する「る法人。

【社會】シヤクワイ ㋑二十五家を一組とした民戸編制上の一團體㋺同一の仲間㋩共同生活又は相互作用を爲す團體又は組織、一般に世の中注意社界と書くは誤り。

【社頭】シヤトウ 神社のほとり。

【社稷】シヤショク ㋑土地の神と五穀の神㋺朝廷又は國家。

【社鼠】シヤソ 神社の中に巣ふ鼠、社鼠の驅逐しがたきに因み君側の奸臣のこと。

【社殿】シヤデン やしろ、おみや。

【社壇】シヤダン 神社をしづめ祀る所、又土地の神をまつる所。

【社外船】シヤゲワイセン 汽船會社外の汽船或は個人所有の汽船。

【社會的】シヤクワイテキ 「個人的の對。社會を主とする意、

【社會黨】シヤクワイタウ 社會主義の政治を標榜する政黨。

【社會學】シヤクワイガク 社會に關する構造・形勢・發達・變遷等を研究する科學。

【社會劇】シヤクワイゲキ 社會の實際問題を脚色したる演劇。

【社稷臣】シヤショクノシン 「忠良の臣。國家の安危に任ずる

【社會公衆】シヤクワイコウシユウ 世の中の人々。

【社會改良】シヤクワイカイリヤウ 世の中をよい方に改める。

【社團法人】シヤダンハフジン 「人、商事會社の類。社團を成立する法

【社會科學】シヤクワイクワガク 科學の一分科で一般社會上に於ける人口・國家・土俗・國民經濟等に關することを研究する學問

【社會主義】シヤクワイシユギ 社會に於ける財産の分配を適當ならしめ貧富の懸隔を救はんとする主義。

【社會奉仕】シヤクワイホウシ ㋑社會全體の福利に努める㋺お客本位、薄利多賣の意。

【社會政策】シヤクワイセイサク 現代社會の經濟上の强者と弱者との調和をはかる政策

【社會事業】シヤクワイジゲフ 社會一般の利益を目的として成立する事業。

【社會教育】シヤクワイケウイク 學校教育に對し社會一般の民衆に社會人としてその生活に必要なる教育を施すこと。

【社交舞踊】シヤカウダンス ホテルなどで行はれる和洋並に男女混合ダンス。

【社會的生活】シヤクワイテキセイクワツ 社會人なる人間の共同生活を圓滿ならしめる意

【社會的意志】シヤクワイテキイシ その社會が出來て以來相傳はれる思想にて一般を支配する勢力あるもの。

【社會的感情】シヤクワイテキカンジヤウ 人類が社會に生存し又は交際することに因つて自然的に起る情。

【社會契約說】シヤクワイケイヤクセツ 國家及社會組織の起原は人類の契約に基くとの說

【社會有機體】シヤクワイユウキタイ 社會は各個人の集合的單體でなく有機體の動體であるとの說。

【社會民主主義】シヤクワイミンシユシユギ 民主政治の下に行はれんとする社會主義。

僧社ソウシヤ 吟社ギンシヤ 酒社シユシヤ 大社タイシヤ
中社チユウシヤ 小社セウシヤ 王社ワウシヤ 帝社テイシヤ
國社コクシヤ 侯社コウシヤ 公社コウシヤ 官社クワンシヤ
里社リシヤ 鄉社ガウシヤ 會社クワイシヤ 縣社ケンシヤ

【祀・】

漢 シ ㋑まつる、まつり㋺ 吳 ジ とし(年)

【祀典】シテン 祭祀の儀式。
降祀カウシ 封祀ホウシ 報祀ハウシ 宗祀ソウシ
祭祀サイシ 祠祀シシ 社祀シヤシ 修祀シウシ

【祁○】

漢 キ ㋑さかんなり(盛)お 吳 ギ ほいなり(大)はなはだし(甚)㋺おほし(衆)物事の多きさま ㋩しづか(舒・遲)ゆるやかなり

【祁寒】キカン きびしき寒さ、烈寒。

【奈】

二六二頁の奈を見よ。

【宗】

二九一頁の宗を見よ。

四畫

【祈○】【祈】

漢 キ ㋑いのる、 吳 ゲ 神佛に乞ふて福をもとめる又そのねがひ、いのり、ぐわんかけ㋺つぐ(告)さけぶ

【祈念】キネン 神佛を祈る、願をかける。

【祈雨】キウ あめをいのる、あまごひ。

【祈誓】キセイ 神佛にいのりちかふ。

【祈請】キセイ 祈願に同じ。

【祈禱】キタウ 神佛にいのること。

【祈願】キグワン 神佛にいのりねがふ、ぐわんだて。

【祈年祭】キネンサイ 毎年二月四日に行ふと「しごひの祭り。

【祇○】【祇通字】【祇別字】

漢 キ 吳 ギ 漢 吳 シ ㋑くにつかみ(地の神、又國土の神)㋺かみ、すべての神の稱㋩やすし(安)㋥おほいなり(大)㋭まさに(適)たゞ(但)

【祇園精舍】ギヲンシヤウジヤ 古天竺の須達長者が釋迦の爲にたてたる寺の名。

【祆○】【祆別字】【妖通字】

漢 吳 エウ わざわひ、まがごと

【祉・】

漢 吳 チ 慣用音 シ さいはひ より授かる幸福

【同訓異義】さいはひ 祉・幸・福其他の用法は七四七頁の福を見よ。

【祉福】チフク シフク さいはひ。

五畫

【祐・】【佑】【祐】

漢 イウ 吳 ウ ㋑たすけ(神又は上よりのたすけ)たすく㋺幸ひ(福)

【祐助】イウジヨ 佑助に作る㋑天よりのたすけ㋺上より下を助ける意。

【祐筆】イウヒツ 右筆に作る、貴人に侍して書記の役を勤める者。

【祕・】【秘】

俗字 漢 吳 ㋑人力にて測られざる貌㋺閉ぢて示さゞる貌(勞)㋥ひむ(密)隱して知れぬやうにす ㋭まじなひ㋺人に知らさぬ大切なる寶物。

【祕方】ヒハウ 祕密にて大切な調藥の方法

【祕史】ヒシ 世間に現はれざる裏面の出來事を記したる歷史、裏面史、側面史。

【祕曲】ヒキヨク 容易に傳へぬ音樂の曲。

【祕法】ヒハフ 人に知らさゞる仕方。

【祕事】ヒジ ひみつの事柄、ないしよ事。

【祕計】ヒケイ 祕密なる計策、祕畫。

【祕書】ヒシヨ ㋑天子の藏書㋺其人に直屬して機密の事務を司る者、祕書役。

【祕封】ヒフウ 或事柄を人に知らさぬやう固く封ず又そのもの。

【祕密】ヒミツ 人に知れず內密にする。

【祕訣】ヒケツ 奧の手、奧義、又は其書。

【祕結】ヒケツ 大便の通じ惡しきをいふ。

【祕策】ヒサク 祕計に同じ。「奧の手。

【祕術】ヒジユツ 人に知らさゞる大切のわざ

【祕傳】ヒデン 藝術などにて容易に人に敎へ傳へざるもの、奧義。

【祕奧】ヒアウ ㋑奧義、祕訣㋺奧ぶかき貌。

【祕籍】ヒセキ 容易に得られざる書物。

【祕藥】ヒヤク 處方を知らさぬ靈藥。

【祕藏】ヒザウ 大切にひめたくはふ、又其物

【祕鑰】ヒヤク 祕密の庫をあけるかぎ、祕密の物事を闡明する手引となるもの。

【祕密會】ヒミツクワイ ㋑多數人が祕かに會合する㋺關係者以外の者を議場に入れずして行ふ議會の議事。

【祕書官】ヒシヨクワン 大臣に直屬して機密の事を司る官吏。「扱ふ者。

【祕書役】ヒシヨヤク 長官に屬し祕密の事を

【祕密外交】ヒミツグワイカウ 國民一般に致府の

政策意嚮を知らしめずして行ふ外交。
【祕密出版】ヒミツシユツパン 風俗を害し安寧を素すが如き圖書・圖畫を暗々の裡に出版すること。「せざる祕密の條約。
【祕密條約】ヒミツデウヤク 當該國以外に公表
【祕密結社】ヒミツケツシヤ 許可を受けず又は屆出をなさずして私かに組織する團結

【祖・〔祖〕】

呉 ス ぢゞ、おぢ 漢 ソ ㋑せんぞ㋺（祖父）㋩一血統の宗主㋥せんぞのたまや㋭はじめ（始）へもと（本）或物事のはじめをなしたるもの㋣かみ（上）㋠ならふ（習）㋡のつとる（則）㋢道路の安穩を守る神、又發足に際し道の神を祀る
【祖父】ソフ 父の父、おぢ、ぢゞ。
【祖先】ソセン 先祖、みまかりたる父祖。
【祖宗】ソソウ 祖先、せんぞ。
【祖母】ソボ 父母の母、おば、ばゞ。
【祖法】ソハフ 祖先の定めたるおきて。
【祖訓】ソクン 祖先の教へ。
【祖宴】ソエン 旅だちする人を送る宴。
【祖師】ソシ ㋑はじめ㋺創始者㋩宗教の一派を開きたる人の尊稱。「る意。
【祖述】ソジユツ その道に基きて述べひろめ
【祖國】ソコク 自國を愛して云ふ語。
【祖道】ソダウ 旅立に無事安全をいのりて道祖神を祀ること、轉じて送別の宴。
【祖業】ソゲフ 先代のなしたる事業。
【祖廟】ソベウ 先祖のたまや。
【祖靈】ソレイ 先祖のみたま。「し〈。
【祖先敬】ソセンケウ 祖先の靈を尊崇するを
皇祖クワウソ 先祖センゾ 鼻祖ビソ
佛祖ブツソ 父祖フソ 太祖タイソ 始祖シソ
遠祖エンソ 聖祖セイソ 外祖グワイソ 師祖シソ

【祇○〔祇〕】

別字 注意 きと讀むは誤り。つゝしむ（敬）つゝしみ
【祇候】シコウ ㋑謹み伺ふ㋺畏みて侍す。

【祝・〔祝〕】

呉 シュク シウ 漢 シュク ソク
㋑はふり、神事を司る者、神主㋺いはふ、神に祈りいはふ㋩たつ（斷）たちきる㋥つく（屬）㋭おる（織）へのる、神に申上げる㋣のつと、のりと、神前に捧讀する言葉㋠祝ひの文章、又その詞
【同訓異義】いはふ
【祝】は行末をことほぐの意。
【賀】はよろこびを申し入れるの意。
【祝日】シユクジツ いはひゞ、はたび、大祭日
【祝文】シユクブン ㋑祝意を表する文㋺神に饌する辭㋩文體の名。
【祝典】シユクテン 祝ひの儀式。
【祝杯】シユクハイ 祝ひのさかづき。
【祝宴】シユクエン 祝ひのさかもり。
【祝砲】シユクハウ 祝意を表して發する大砲
【祝捷】シユクセフ 戰爭の勝利を祝ふ。
【祝祭】シユクサイ ㋑祝事と祭事㋺いはひまつる。「まつる詞、のりと。
【祝詞】シユクシ ㋑慶びの言葉、祝辭㋺神を
【祝賀】シユクガ いはひよろこぶ。
【祝電】シユクデン 祝意を表する電報。
【祝筵】シユクエン いはひの席座。
【祝意】シユクイ 慶ぶこゝろ。
【祝慶】シユクケイ いはひ、よろこび。
【祝融】シユクイウ 火の神、轉じて火災の意。
【祝辭】シユクジ 祝詞の㋑に同じ。
【祝禱】シユクタウ いのり、いのる。
【祝言】シウゲン 婚禮の儀式にいふ語。
【祝儀】シウギ ㋑祝賀の儀式、祝典㋺藜人などに與ふる心附、ぽち、はな。
工祝コウシユク 祕祝ヒシユク 尸祝シシユク 巫祝フシユク

【神○〔神〕】

呉 ジン 漢 シン ㋐かみ
主宰、人間以上の靈力を有する者、いつき祀れる者㋺たましひ（精魂）㋩こゝろ（心）㋥靈妙にして測るべからざること、人力以上のもの、尊くして犯すべからざるもの、又そのこと
【神人】シンジン 神と人、又神のやうな人。
【神文】シンモン 神に誓ふ文書、誓文。
【神力】シンリヨク ㋑靈妙なる神佛の力㋺極めて大なる力。
【神工】シンコウ 神がつくる、又靈妙なる品をつくる。「神官。
【神主】シンシユ ㋑山川などのぬし㋺位牌㋩
【神化】シンクワ 不思議な變化、神になる。
【神木】シンボク ㋑神靈を宿す樹木㋺珍木。
【神方】シンパウ 不思議な方術。
【神父】シンプ 崇敬して父を神に比する意
【神仙】シンセン 不死長生の人。
【神代】シンダイ 太古、かみよ。「もの。
【神功】シンコウ 神のはたらき、又その如き
【神色】シンシヨク 精神と顏色。
【神祐】シンイウ 神のたすけ、神助。
【神佛】シンブツ 神とほとけ、神明。
【神采】シンサイ 精神と風采。
【神性】シンセイ こゝろ、心性。「如き武德。
【神武】ジンム 甚だすぐれて猛し、神明の
【神君】シンクン ㋑賢明な地方長官をほめた語㋺道家の神㋩德川時代に家康の敬稱
【神妙】シンメウ ㋑奇妙不思議㋺人力以上の
はたらきある意㋩奇篤又は殊勝の意。
【神品】シンピン 最もすぐれた品位、又其物。
【神事】シンジ 神を奉祀する儀式。
【神州】シンシウ ㋑日本の異稱㋺漢土の異稱
【神別】シンベツ 神代に於て神より出でし血族（皇別・蕃別の對）。「㋩天照大神。
【神明】シンメイ ㋑神、神靈㋺人の心、精神
【神官】シンクワン かんぬし、神主。
【神宮】シンキユウ シングウ ㋑神をいつき祀る御殿、やしろ㋺伊勢大神宮と明治神宮。
【神典】シンテン 神の功績を記したる書物。
【神社】ジンジヤ 神をまつるやしろ。
【神苑】シンエン 神社の境内の庭。
【神祇】ジンギ シンギ 天の神と地の神、天神地祇
注意 神祇と書くは誤り。
【神託】シンタク 神のおつげ。
【神氣】シンキ ㋑まことの有樣㋺萬物形成の根本㋩神髓の意。「きな馬匹。
【神馬】ジンメ シンバ ㋑神社に奉納する馬㋺ふし
【神効】シンカウ 靈妙なる功能。
【神風】シンプウ ㋑神の吹かせる風㋺かみ風
【神勅】シンチヨク 神託に同じ。
【神國】シンコク 日本の別名、神州。
【神速】シンソク ㋑極めてはやい㋺不思議に
【神符】シンプ おまもり。「はやい。
【神威】シンヰ 神の威光。
【神孫】シンソン 神の子孫、神の末。
【神祕】シンピ ㋑靈妙不思議にして人智で測り知れぬ㋺普通の理論・認識外に超越したる事相㋩極めて祕密な事、極祕。
【神術】シンジユツ 不思議なるわざ。
【神道】シンダウ ㋑靈妙なる方法、至妙の理義㋺墓前に通ずる道路㋩我國固有の宗
【神略】シンリヤク 神算に同じ。「教の名。
【神智】シンチ 不思議なる智慧。
【神葬】シンサウ 神式にて葬むる。
【神意】シンイ 神の心、神のおぼしめし。
【神境】シンキヤウ ㋑神社の境内㋺俗界を離
【神童】シンドウ 奇才ある兒童。「れし所。
【神經】シンケイ 動物體にて知覺・感覺及び運動をつたへる器管。
【神算】シンサン 神妙なる計略。
【神話】シンワ 神代の物がたり。
【神殿】シンデン 天神地祇をまつるおみや。
【神髓】シンズイ 神より下したるぱつ。
【神魂】シンコン たましひ、靈魂。
【神學】シンガク 神に關して研究する學問。
【神樂】シンガク ㋑神事に奏する音樂㋺神妙なる音樂㋩現代に傳はる古代の音樂。
【神劍】シンケン ㋑神より授かる劍、又神に奉る劍㋺くさなぎのつるぎ。
【神器】シンキ ジンキ 帝位の相續に伴ふ寶物、我國にては三種の神器、又轉じて帝位。

【神慮】シンリヨ ㋑こゝろ ㋺神意に同じ。
【神橋】シンケウ 神社に行く途中の橋。
【神輿】シンヨ 神靈をのせるこし、みこし。
【神職】シンショク かんぬし、神官。
【神聖】シンセイ 靈德の神妙なること、尊くして侵すべからざるもの、神靈、至聖。
【神璽】シンジ ㋑三種の神器の一なる八咫瓊曲玉 ㋺天子の藏せられる玉。
【神變】シンペン 不思議なる變化。
【神體】シンタイ 神靈の本體。
【神藥】シンヤク ㋑神仙のくすり ㋺効能著しい「き藥。
【神鏡】シンキヤウ ㋑神前にかける鏡 ㋺三種の神器の一八咫鏡
【神籬】シンリ 榊を周らし別に社なきも神の座として祭る所
【神靈】シンカン すぐれたる鑑識の敬稱。
【神靈】シンレイ ㋑神 ㋺神の靈德 ㋩人の靈魂 ㋥凡人と異なること。「帝の大權。
【神權】シンケン 神より賦與された權利、皇
【神饌】シンセン 神に供へる食物。
【神酒】ミキ かみに供へるさけ、おみき。
【神代杉】ジンダイスギ 多年土中に埋れし杉材
【神通力】ジンツウリキ 靈敏にして萬般の事物を自由自在になし得る妙力。

（鏡神）

【神嘗祭】ジンジヤウサイ カミナメサイ 毎年十一月十七日に伊勢大廟に新穀を奉る祭り。
【神權說】シンケンセツ 君主の統治權は神より授けられしものとなす說。
【神經質】シンケイシツ ㋑神經過敏にして物事に感動し易く悲觀し易き病的性質、神經家 ㋺心理學上の氣質の一。
【神無月】カミナヅキ カンナヅキ 陰曆十月の異名
【神樂鮫】グラザメ 鮫の一種で太平洋方面に產し身長は五六尺。
【神出鬼沒】シンシユツキボツ 出沒變化の不思議なること。
【神武天皇】ジンムテンワウ 御名神日本磐余彥、鸕鷀草葺不合尊の第四皇子、人皇第一代の天皇、在位七十六年間。
【神社佛閣】ジンジヤブツカク おみやとおてら
【神經過敏】シンケイクワビン 過度に物事を氣にかけて心配する、苦勞性。
【神祕主義】シンピシギ ㋑哲學上にて理性を超越し絕對に悟入せんとする傾向を總稱していふ ㋺文藝上にて不可思議の存在を探り實感を超越して靜觀に生きんとすること ㋩宗教上にて形式を排し直接に神と融合せんとすること。

（神樂鮫）　（神武天皇）

【神佛混淆】シンブツコンカウ 神佛を一にすること。
【神農虞夏】シンノウグカ 支那太古の君主の名

鬼神キシン	百神ヒヤクシン	歡神クイシン	存神ソンシン
三神サンシン	通神ツウシン	知神チシン	海神カイシン
水神スヰジン	精神セイシン	貴神キシン	至神シシン
聖神セイシン	群神グンシン	明神メイシン	大神タイシン
庶神シヨシン	社神シヤシン	天神テンシン	心神シンシン

【祠○】【祠】 漢シ 呉ジ ㋑まつり、春のまつり ㋺祭る、祭る神 ㋩やしろ、ほこら ㋥たまや ㋭社に仕へる人
【同訓異義】まつる 祠・祭・祀等の用法は七四五頁の祭を見よ。
【祠宇】シウ やしろ、ほこら。
【祠官】シクワン かんぬし、神主。
【祠堂】シドウ 神のやしろ、たまや。
【祠頭】シトウ やしろの附近、社頭。
【祠饗】シキヤウ 酒食を供へ神をまつること
【祠堂金】シダウキン 堂塔を建てる資金として寄進する金。
舊祠キウシ 古祠コシ 社祠シヤシ 靈祠レイシ
佛祠ブツシ 荒祠クワウシ 淫祠インシ 穢祠ヱシ

【祓●】 漢フツ 呉ホチ ㋑はらひ（除災來福の意）㋺はらふ（除

穢の意）㋩きよむ（清）㋥のぞく（除）㋭さいはひ（福）
【同訓異義】はらう 祓・拂・掃其他の用法は四三九頁の樗を見よ。
【祓除】フツチヨ 災を除き穢れを清む 注意 ばつじよと讀むは誤り。「しく飾る。
【祓飾】フツシヨク 陳腐なるものを去つて新
【祓戶神】ハラヒドノカミ 祓戶を守りたまふ神

【祚●】 漢ソ 呉メ ㋑さいはひ（福）神より受ける福祿 ㋺ろく（祿）㋩くらゐ（位）㋥とし（歲）㋭神が福祿を授けること
延祚エンソ 年祚ネンソ 帝祚テイソ 光祚クワウソ
福祚フクソ 天祚テンソ 德祚トクソ 慶祚ケイソ
景祚ケイソ 遐祚カソ 永祚エイソ 靈祚レイソ
萬祚バンソ 慶祚ケイソ 踐祚センソ 寶祚ホウソ

【祟●】【祟別字】 漢呉スイ 漢シユツ 呉シユチ たゝり（神佛のとがめ）たゝる

【祢】 七四九頁の禰を見よ。

六畫

【祥○】【祥】 漢シヤウ 呉ザウ ㋑よろこび（慶）さいわひ（福）めでたきこと ㋺しるし（兆）きざし ㋩つまびらか（詳）㋥喪中のまつり

【票○】【票】 漢呉ヘウ ㋑輕くある貌、火の飛ぶ貌、飛び散る火 ㋺手形、きつて手形、紙幣、又切手、手形。
【票子】ヘウシ さつ、紙幣、又切手、手形。
【票然】ヘウゼン 輕くあがる貌。

【祭●】【祭】 漢セイ ㋑まつる 呉サイ（祀）人又は神をまつる ㋺まつり（祭祀）
【同訓異義】まつる 祭は定つたまつり。「る意。
【祝】シユク 祭は何時に限らず物をそなへて祭
【祭】サイ は顧ほどきにまつるの意。
【祠】シ
【祭天】サイテン 天の神をまつる。
【祭文】サイブン サイモン ㋑文體の一、歌ざいもん ㋺祭事に神靈に告げる文。
【祭日】サイジツ まつりの日、又大祭日。
【祭主】サイシユ ㋑祭を行ふ主人公 ㋺祭の事を掌る者 ㋩基督舊教の僧職の名。耶蘇教の僧職の名。
【祭司】サイシ
【祭典】サイテン 祭奠に作る、神をまつること、又その儀式。「つげる。
【祭告】サイコク 君主が國家の大事を國神に
【祭酒】サイシユ ㋑昔饗宴には祖先を祭り酒席にても席上の長者が先づ酒を以て祭りたること ㋺後世官名となり學政を司りし者、我大學頭の職掌に相當す。
【祭祀】サイシ まつり、まつる。
【祭服】サイフク 祭禮の時の衣服。
【祭神】サイジン 祭られてある神。
【祭政】サイセイ 神を祭ると國を治める、祭
【祭粢】サイシ 神前のそなへ物。「祀と政治
【祭壇】サイダン まつりを行ふだん。
【祭儀】サイギ 祭典に同じ。
【祭禮】サイレイ まつりの儀式。

喪祭サウサイ	常祭ジヤウサイ	報祭ハウサイ	供祭キヨウサイ
祝祭シユクサイ	告祭コクサイ	配祭ハイサイ	時祭ジサイ
臘祭ラフサイ	練祭レンサイ	臨祭リンサイ	尹祭イインサイ

【祟】 三二九頁の祟を見よ。

七畫

【祝】 九四六頁の祝を見よ。

八畫

【祿●】【禄】 漢 昊 ㊀さいはひ ロク（福）㊁官吏の俸給、ふち、又秩祿を授ける意㊂形を以て禮をなすこと

【祿仕】ロクシ 仕官する、官につかへる。

【祿米】ロクベイ ロクマイ ふち米。

【祿位】ロクヰ 俸祿と官位。

【祿爵】ロクシャク 俸祿と官位、ふちと位。

榮祿エイロク 百祿ヒヤクロク 回祿クワイロク 世祿セイロク

光祿クワウロク 秩祿チツロク 天祿テンロク 大祿タイロク

爵祿シヤクロク 後祿コウロク 美祿ビロク 寸祿スンロク

薄祿ハクロク 微祿ビロク 顯祿ケンロク 福祿フクロク

寵祿チヤウロク 封祿ホウロク 食祿ショクロク 奉祿ホウロク

俸祿ホウロク 官祿クワンロク 家祿カロク 餘祿ヨロク

【禀】【稟】 七五五頁の稟を見よ

【禁●】【禁】 漢 キン ㊀とゞむ 昊 コン（制）さしとめる㊁いましめる（戒）㊂つゝしむ（謹）㊃とりしまる㊄かつ（勝）べまじなひ（禁厭）㊅のろひ（呪詛）㊆吉凶の忌、いみさける㊇酒樽を陳列する器㊈きんり（禁裡）㊉おきて（掟）はつと（法度）法律㊊らうや、監獄

【同訓異義】たへる 禁・耐・堪其他の用法は八三三頁の耐を見よ。

【禁中】キンチユウ 禁廷、御所のうち。

【禁止】キンシ さしとめ、制しとゞむ。

【禁內】キンダイ 御所、皇居。

【禁方】キンパウ ㊀祕傳の調劑法㊁祕密の技術。

【禁令】キンレイ 禁止のおきて、禁制。

【禁句】キンク ㊀物事にさしあひある言葉㊁作歌の上にて忌みさけるべき句。

【禁札】キンサツ 禁制の條項を書きたる札。

【禁色】キンジキ 昔許可なくしては裝束に用ゐられなかつた色。

【禁兵】キンペイ 宮城を守護する兵士。

【禁戒】キンカイ さしとめ、いましめ。

【禁足】キンソク 外出することを禁じ止む。

【禁呪】キンシユ 禁厭に同じ。

【禁物】キンモツ ㊀所持又は賣買を禁じたる物品㊁忌みきらふべき物。

【禁制】キンセイ さしとめ、法規に依りて或る行爲を差止める、制度を破る。

【禁貢】キンクウ 禁制品。

【禁門】キンモン 天子の御門、轉じて宮中。

【禁垣】キンエン 宮城の庭園。

【禁酒】キンシユ 飲酒をやめること。

【禁城】キンジヤウ 御所、宮城。

【禁庭】キンテイ 朝廷、皇居。

【禁苑】キンエン 御所の庭園。

【禁書】キンシヨ 法律にて發刊・閲覽等を禁じたる書物。

【禁園】キンエン 天子の庭園、轉じて御所。

【禁遏】キンアツ 制しとゞめる。

【禁煙】キンエン ㊀喫煙禁止㊁皇居にたちこめし霧㊂寒食の時に火を用ゐることを禁じ止める。

【禁裡】キンリ 禁中に同じ。

【禁絕】キンゼツ やめる、さし止める。

【禁厭】キンエン まじない。

【禁獄】キンゴク らうやにおしこめる。

【禁衛】キンエイ 御所のまもり。

【禁錮】キンコ ㊀とぢこめて置く刑罰㊁役人になることを許さぬ㊂獄中に監禁す

【禁闕】キンケツ 禁門に同じ。

【禁斷】キンダン 禁制の意㊁殺生禁斷の場所

【禁治產】キンヂサン 本人を保護する爲法律で自ら財產を處理することを禁止する

【禁衛軍】キンエイグン 天子の御親兵。

【禁慾主義】キンヨクシユギ 眞に道德的生活を爲すには一切の欲求快樂を禁壓せざるべからずとなす主義。

戒禁カイキン 嚴禁ゲンキン 刑禁ケイキン 門禁モンキン

時禁ジキン 大禁タイキン 法禁ハフキン 酒禁シユキン

苛禁カキン 國禁コクキン 宮禁キユウキン 重禁ジユウキン

【祺○】 漢 キ ㊀さいはひ（吉祥）㊁安昊 ギ らかにして憂なき貌

九畫

【禍●】 漢 クワ ㊀わざはひ（殃）ふ昊 グワ しあはせ、まがごと（神告）さいなん（災）又それ等のこと㊁こぼつ（毀）そこなふ（損）

【同訓異義】わざはひす

【厄】 はなんぎにあふの意。

【殃】 は神の咎をうけるの義。

【災】 は時の廻り合せ天地よりなす災

【禍】 は福の反對で不仕合にあふ。

【禍心】クワシン ㊀人を害せんとする心㊁叛

【禍害】クワガイ わざはひ。「謀をはかる心。

【禍根】クワコン わざはひのもと、禍母。

【禍殃】クワアウ わざはひ、さいなん、不幸。

【禍患】クワクワン わざはひ、さいなん。

【禍福】クワフク わざはひと幸福。

【禍源】クワゲン わざはひのもと、禍根。

【禍亂】クワラン わざはひ、變亂。

【禍機】クワキ わざはひあるしるし。

【禍難】クワナン わざはひ、災難、反亂。

【禍福由レ己】クワフクオノレニヨル 禍も福も自分の心より招くの意。

陰禍インクワ 酒禍シユクワ 女禍ヂヨクワ 艱禍カンクワ

飲禍インクワ 嫁レ禍クワヲカス、消レ禍クワヲセウス

【福●】【福】 漢 フク ㊀よろこび、さいはひ、はひ、しあはせ、めでたきこと㊁神にそなへし肉㊂さいはひす、福を受ける

【同訓異義】さいはひ 福・幸・祐其他の用法は三四八頁の幸を見よ。

【福田】フクデン 福德を生ずる三つの善行即ち三寶の德を敬するを敬田、君恩に報ゆるを恩田、貧者をあはれむを悲田。

【福利】フクリ さいはひ、しあはせ。

【福音】フクイン ㊀基督敎の敎旨㊁幸ひなる便り 注意ふくおんと讀むは誤り。

【福相】フクサウ 幸運らしい人相。

【福祉】フクシ さいはひ、幸福。「種の茶。

【福茶】フクチヤ 節分又は大晦日等に飲む一

【福祥】フクシヤウ めでたきこと。

【福祚】フクソ さいはひ。

【福祿】フクロク さいはひ、幸福と秩祿。

【福壽】フクジユ 幸福と長命。

【福祿壽】フクロクジユ ㊀目出たきことに言ふ

（福壽草）

幸福と俸祿と長壽

㊁七福神の一。

【福壽草】フクジユサウ 草花の一、元日草、歲首に用ふ。

奇福キフク 壽福ジユフク 薄福ハクフク 冥福メイフク

厚福コウフク 多福タフク 萬福バンフク 天福テンフク

豐福ホウフク 家福カフク 餘福ヨフク 祺福キフク

祉福シフク 禍福クワフク 威福イフク 盛福セイフク

【禊●】 漢 ケイ カツ みそぎ、水邊昊 ガイ ケチ にて行ふ祓ひ（惡と穢を除きはらふ祭）

【同訓異義】はらふ 禊・掃・拂其他の用法は四三九頁の掃を見よ。

【禊祠】ケイシ みそぎしてまつる。

【禎○】 漢 テイ ㊀さいはひ（祥）㊁昊 チヤウ よし（休）めでたい㊂たゞし（眞）

【禎祥】テイシヤウ 芽出度いしるし。

【禎瑞】テイズイ 前に同じ。

【禔○】 漢昊 シ ㊀さいはひ（幸福）昊 ジ ㊁やすし（安）㊂まさに、たゞ、たゞに（祇）

十一畫

【禦●】【御】 漢昊 ㊀ふせぐ、ギヨ 攻め來るものをくひとめる㊁引止める、妨げる㊂やめる、よける㊃ふせぎ、又其もの

【同訓異義】ふせぐ 禦・扞・防其他の用法は一〇九九頁の防を見よ。

【禦戰】ギヨセン 敵を防ぎ戰ふ。

【顓】 七五九頁の顓を見よ。

十二畫

【禪●】【禪別字】【禪】 漢 セン 呉 ゼン ㋑心靜かに繫累をたち明心達理の境に至る、又かゝる修業を旨とする佛敎の一派㋺ゆづる(讓)㋩帝位を讓る㋥昔天子が地を淸めて山川の神を祭りし祭

【禪尼】ゼンニ 女子の佛門に入りし者。

【禪杖】ゼンヂヤウ 禪宗にて修業に用ゐる杖

【禪位】ゼンヰ 天子が位を讓る。

【禪定】ゼンヂヤウ 寂定三昧に住して禪の奥

【禪室】ゼンシツ 禪房に同じ。「義を覺る。

【禪房】ゼンバウ 坐禪をくむ座敷、又寺院。

【禪門】ゼンモン 佛門に入りし男子。

【禪味】ゼンミ 禪のおもむき、禪學の味ひ。

【禪林】ゼンリン 禪宗の寺々。「宗の敎義。

【禪那】ゼンナ 心靜かに眞理を直觀する(禪

【禪師】ゼンシ ㋑僧侶、法師㋺智德高き禪僧に天子から賜はる位號。

【禪閣】ゼンカク 佛堂、禪宗寺。

【禪學】ゼンガク 禪宗の敎理を研究する學。

【禪榻】ゼンタフ 座禪をくむ腰掛。

【禪讓】ゼンジヤウ 天子が存命中に位を讓る

【禧○】 漢 キ 呉 き さいはひ(福)㋺よし(吉)めでたし、その事㋩つぐ(告)㋥ひもろぎ、祭肉

【同訓異義】 **さいはひ** 禧・祐・福其他の用法は七四七頁の福を見よ。

【隷】 一一一二頁の隷を見よ。

十三畫

【禮●】【禮】【豐古字】【礼略字】 漢 レイ 呉 ライ ㋑ゐや、五常の一、又人のふみ行ふべき秩序の規則㋺敬意を表す行爲㋩敬意を表する爲の贈物㋥經書の名。「文物制度。

【禮文】レイブン ㋑禮に定めた條文㋺一國の

【禮式】レイシキ 禮儀のしかた、作法。

【禮典】レイテン 一切の禮式に關する法則。

【禮制】レイセイ 禮式上のきまり。

【禮法】レイハフ 禮式、作法。

【禮容】レイヨウ 禮儀にかなひたる容態。

【禮物】レイブツ ㋑禮式用の品物、又他人に贈る物㋺文物と典禮。

【禮砲】レイハウ 敬意を表して發する大砲。

【禮服】レイフク 儀式用の衣服。

【禮帽】レイバウ 禮服を著る時の帽子。

【禮遇】レイグウ 天皇が下し給ふ厚遇。

【禮義】レイギ ㋑禮と義㋺人の動作。

【禮裝】レイサウ 禮服に同じ。

【禮節】レイセツ 禮義と節度。

【禮樂】レイガク 禮儀と音樂。

【禮儀】レイギ 敬意又は謹愼をあらはす作法、又禮法の大別。

【禮讓】レイジヤウ 禮儀を厚くへりくだる。

【禮拜】ライハイ 神佛ををがむ 注意 **れいはい** と讀むは誤り。「をさゝげる會堂。

【禮拜堂】レイハイダウ 基督敎にて神を拜し祈

【禮遇停止】レイグウテイシ 華族がその體面をきづゝけた爲め禮遇を取消されること

典禮テンレイ 制禮セイレイ 百禮ヒヤクレイ 賓禮ヒンレイ

亢禮カウレイ 軍禮グンレイ 嘉禮カレイ 吉禮キツレイ

周禮シユウレイ 悖禮ハイレイ 頂禮チヤウレイ 無禮ブレイ

祭禮サイレイ 報禮ハウレイ 婚禮コンレイ 尙禮シヤウレイ

十四畫

【禱●】【禱】 漢 タウ 呉 トウ いのる、いのり、神佛によりたのむ

【禱雨】タウウ あまごひ。

【禱祀】タウシ いのりまつる。

【禱書】タウシヨ 祈願の文書。

【禱福】タウフク 幸福をいのりもとむ。

祈禱キタウ 祟禱シユウタウ 祓禱フツタウ

齋禱サイタウ 祠禱シタウ 拜禱ハイタウ 默禱モクタウ

【禰●】【祢略字】 漢 デイ 呉 ナイ 慣用音 ネ ㋑ちゝのたまや(生ける時は父、死しては考、廟に入りては禰)㋺かたしろ(軍旅に出づる時持つ木主の如きもの)

【禰宜】ネギ 昔は神主の下役、今は神宮・官國幣社の奉任・判任の神官。

十七畫

【禳○】 漢 ジヤウ 呉 ナウ はらふ(神を祭つて災禍疫癘を除く)

【同訓異義】 **はらふ** 禳・掃・拂其他の用法は四三九頁の掃を見よ。

内部

【内●】 漢 ジウ 呉 ニユ あしあと、獸跡、けものゝ足あと

四畫

【禹●】【禹】 漢 呉 ㋑支那の夏朝を創めし王㋺のぶ(舒)㋩ゆるやか(弛)

【禹城】ウジヤウ 支那全土、禹の足跡の印せられしよりいふ、即ち禹の領土の意。

【禹跡】ウセキ 前に同じ。

【禺●】 漢 ゴウ 呉 ゴ 漢 呉 グ 慣用音 グウ ㋑獸の名、尾長猿の一種㋺わかち(區域)㋩偶に同じ、でく(土偶)にんぎやう(人形)㋥地名(今の廣東省地方)

六畫

【离○】 漢 呉 チ リ ㋑すだま、こだま(魑)㋺はなる(離)

(尾長猿)

八畫

【禽○】【擒通字】 漢 キン 呉 ゴン ㋑とり(鳥)㋺鳥獸の稱㋩鳥獸の孕まざるもの㋥いけどる(擒)㋭とりこ(捕虜)とりこにす、とらはる

【同訓異義】 **とりこにす** 禽・俘・囚其他の用法は二一九頁の囚を見よ。

【禽囚】キンシウ とらはれ、俘虜。

【禽討】キンタウ 捕へころす。

【禽鳥】キンテウ とり、鳥類。

【禽獲】キンクワク 捕ふ、又とりこ。

【禽獸】キンジウ とりけもの、鳥獸の類。

【禽獸行】キンジウカウ 獸にも劣りたる行爲。

家禽カキン 水禽スイキン 珍禽チンキン 飛禽ヒキン

鑑禽スウキン 遊禽イウキン 野禽ヤキン

禾部

【禾○】 漢 クワ 呉 ワ ㋑いね(稻)㋺穀類の總稱、こくもつ㋩なへ(苗)わら(穀類の莖節)㋥國訓のぎ(穀の穗の先)のぎへん(漢字の畫が偏にある時の稱)

【禾苗】クワベウ 稻のなへ。

【禾稈】クワカン わらのこと。

【禾黎】クワショ 稻ときび。

【禾本科】クワホンクワ 植物分類上の一部門、五穀又は竹など之れに屬す。

嘉禾カクワ 瑞禾ズイクワ 凡禾ボンクワ 稗禾チクワ

剪禾センクワ 珍禾チンクワ 莽禾シヤクワ 晩禾バンクワ

【禾】 國訓のぎへん 注意 禾が字の偏に來るときの形。

二畫

【秀●】【秀】 漢 シウ 呉 シユウ ㋑ひいづ、ひ

づ（草木の花の咲きしげるさま）まさる、すぐれる、又そのもの㋺さかゆ（榮）㋩しげる（茂）㋥うつくし（美）㋭よし（善）㋬すぐ（超）㋣すぐれたる人

【秀才】シウサイ ㋑すぐれたるはたらき、又其人㋺支那にて官吏登用試驗の科目。

【秀句】シウク ㋑詩文等にて極めてすぐれたる章句㋺たくみなる洒落、かるくち。

【秀吟】シウギン すぐれてよき詩歌。

【秀眉】シウビ 毛のこく美はしき眉。

【秀逸】シウイツ すぐれまさる、又そのもの。

【秀絶】シウゼツ 大いにすぐれてゐる。「人。

【秀穎】シウエイ ㋑稻穂の穂先㋺衆に優れた

【秀麗】シウレイ 優れて美しき貌。

【秀靈】シウレイ すぐれてたえなること。

英秀エイシウ 神秀シンシウ 高秀カウシウ 俊秀シユンシウ

挺秀テイシウ 特秀トクシウ 前秀ゼンシウ 閨秀ケイシウ

雅秀ガシウ 魁秀クワイシウ 芳秀ハウシウ 貞秀テイシウ

擢秀タクシウ 珍秀チンシウ 峻秀シユンシウ 崇秀シユウシウ

【私○】【私】

漢 呉 シ ㋑わたくし 自分に屬する物事㋺不公平のさま㋩個人の祕密㋥慾心、ねぢけたる心㋭一人にて居ることへふだんに著る衣類、つねぎ㋣わたくしす、己のものとなす己の勝手に行ふ、自分の利益をはかる㋬密通又は姦通㋮ゆばり、小便、ゆばりす㋯姉妹が互ひに夫を稱する語㋰心の中にて、ひそかに、ないないに㋱家老のけらい、家臣の自稱㋲男女のかくし所（陰部）㋳國訓わたし、㋴わたくし（自己の謙稱）

【私人】シジン ㋑一個人、一私人、法人㋺家人、めしつかひ。

【私力】シリヨク 自分の力、わがはたらき。

【私用】シヨウ ㋑自分の用事㋺公の物をひそかに使ふ。

【私立】シリツ ㋑公立に對する語、私力を以て設立經營する㋺勝手にきめる。

【私心】シシン ㋑私慾㋺自己の考へ。

【私印】シイン 自分で用ふ印形。

【私有】シイウ 公有の對、一個人の所有。

【私交】シカウ 個人同志の交際。

【私行】シカウ 内々の行爲、個人としての行動、又私用で出かけること。

【私利】シリ 自分一人の利益。

【私見】シケン 自分一個のみこみ、考へ。

【私法】シハフ 個人相互間の權利義務の關係を規定したる法律。

【私曲】シキヨク よこしま、邪曲、不公平。

【私宅】シタク 自分の住居。「いしよどと。

【私事】シジ ㋑一個人又は一家の事柄㋺なる人團體に於て殘虐なる制裁を加へる。

【私刑】シケイ 英語のリンチ、犯罪者に私

【私怨】シエン 私情より發したる怨恨。

【私信】シシン 公報又は官公文書に對し一個人の音信をいふ。

【私益】シエキ 公益に對し一個人の利益。

【私財】シザイ 個人にて所有する財產。

【私通】シツウ 男女の密通又は姦通。

【私消】シセウ 公の物を私事に使ふこと。

【私恩】シオン 私交上の恩義。

【私乘】シジヤウ 私人の著したる歷史、私史、

【私第】シテイ 自分のやしき。「野史。

【私娼】シシヤウ 隱し遊女、ぢごく、白首。

【私欲】シヨク 私情より發したる慾念。

【私書】シシヨ ㋑一個人の文書、私權を證明する文書㋺ないしよの手紙。

【私情】シジヤウ 一個人としての愛情、慾望。

【私從】シジユウ 自家のめしつかひ。

【私淑】シシユク 其人に親近せず他に在りてひそかに敬し模範となすこと。

【私設】シセツ 公設に對し私人によりて設置する意、又そのもの。「賣買す。

【私販】シハン 一個人の營業、又ひそかに

【私報】シハウ 官職に在る者が役目以外の個人としての報らせをいふ。

【私訴】シソ 公訴に附帶して被害者が被告人に對して起す民事上の訴訟。

【私語】シゴ ひそ〳〵ばなし、耳語。

【私德】シトク 自分一身に對する德、節儉勉强などの類（公德の對）。

【私憤】シフン 私事のうらみ、いきどほり。

【私講】シエツ ㋑私事の面會㋺非公式の會見㋩内密の依頼。

【私學】シガク ㋑私立學校㋺己一個の利益を目的とする修學㋩私立大學。

【私議】シギ 内々で批評論議すること。

【私慾】シヨク 私欲に同じ。「面會する。

【私覿】シテキ 官吏が一個人の資格を以て

【私權】シケン 私人相互間の權利義務。

【私讎】シシウ 私怨に同じ。

【私鬪】シトウ 公の爲めならずして私怨・私慾などに基くたゝかひ。

【私生子】シセイジ 正式の夫婦でない者の間に生れた兒で父の認知せざる者。「る。

【私印盜用】シインタクヨウ 他人の印章を盜用す

【私印僞造】シインギゾウ 他人の印章を僞造すること。

【私書僞造】シショギゾウ 他人の文書を不正の

【私人的企業】シジンテキキゲフ 一私人又は私法人の經營する企業。

榮私エイシ 燕私エンシ 寵私チヨウシ 姻私インシ

曲私キヨクシ 便私ベンシ 眷私ケンシ 家私カシ

【秀○】

漢 呉 トク ㋑はげ、髮毛がぬけ落ちたるさま、かぶろ、山林に樹木なきこと、木の葉など落ちて地の見えるさま㋺はげる、はぐ、はげになる、筆の毛などすりきれしさま㋩國訓かぶろ、かむろ（童子の髮の形、遊女に仕へる少女）

【秀丁】トクテイ 僧侶をのゝしてりいふ語。

【秀山】トクザン 樹木なき山、はげやま。

【秀筆】トクヒツ 毛のすり切れたる筆。

【秀老】トクラウ はげあたまの老人。

【秀頭病】トクトウビヤウ 頭のはげる病、俗に臺灣坊主といふ。

三畫

【利】

一三七頁の利を見よ。

【秉○】

漢 ヘイ 呉 ヒヤウ 注意 へきと讀むは誤り ㋑たば、一にぎりの稻の束㋺とる（執）手に握る心にまもる㋩ますめの稱、十六斛㋥古く權柄の柄に用ふ

【同訓異義】 とる 秉・取・執其他の用法は一九七頁の取を見よ。

【秉持】ヘイヂ とりもつ、執持。

【秉彝】ヘイイ 人倫の常道を守る。

【秉公持平】ヘイコウヂヘイ 常に公平を守つて物事に對し平等の態度を持つ。

【秊○】

漢 デン 呉 ネン とし、みのり（年）

【秆】

七五五頁の稈を見よ。

【和】

一九七頁の和を見よ。

【委】

二七三頁の委を見よ。

【季】

二八五頁の季を見よ。

四畫

【秋○】【秋・穐】古字【秋】

漢 シウ 呉 シユ ㋑あき（四季の一）㋺みのり、又禾穀の熟する時㋩としつき（歲月）㋥をり（期節）とき、大切なる時期

【秋水】シウスヰ ㋑秋季に出る大水㋺秋季の澄める水㋩するどき刀の形容㋥鏡のかげ、又眼つき㋭はつきりとせる氣心。

【秋分】シウブン 二十四氣の一、九月二十三日頃晝夜の時間が平分する日。

【秋色】シウシヨク 秋のいろ、又は秋の氣。

【秋成】シウセイ 秋五穀のみのること。

【秋芳】シウハウ 秋さく花。

【秋波】シウハ いろめ、よこめ。
【秋季】シウキ 四季の一、あきの季節。
【秋胡】シウコ 古の魯國の貞女の名。
【秋旻】シウビン 秋の空、秋天、旻天。
【秋宵】シウセウ 秋の夜、あきのよひ。
【秋思】シウシ 秋のものさびしきおもひ。
【秋風】シウフウ 秋の風、あきかぜ。
【秋郊】シウカウ 秋の郊外、秋の野原。
【秋扇】シウセン 秋の扇、捨てゝ用ゐられざることに喩ふ。「すゞしさ。
【秋涼】シウリヤウ ㋑陰暦八月の別稱㋺秋の
【秋毫】シウガウ ㋑毛代りがして薄く細かになつた獸の毛㋺微細なる事柄。
【秋晴】シウセイ 秋のはれたる天氣。
【秋意】シウイ 秋の氣もち、秋季の景趣。
【秋霖】シウリン 秋の景色、能く晴れたる秋の天氣。
【秋霜】シウサウ 秋の霜、志操の强固又は權威の盛んなるに喩へる語。
【秋聲】シウセイ 秋の聲、秋風の音、秋の景色
【秋蟲】シウサン 秋そだてる蠶、あきこ。
【秋蟬】アキゼミ 油蟬の異名。
【秋櫻】コスモス 菊科の一年生の草本で觀賞用として栽培し莖の高さは四五尺いろめ、よこめ。

（秋櫻）

ばかり葉は細く秋の頃單瓣で種々の色彩ある花を開く。
【秋刀魚】シウタウギョ 海魚の一、さんま。
【秋海棠】シウカイダウ 秋海棠の多年生草本で莖の高さ二尺ばかり葉は不規則な心臟形で鋸齒を有し夏の頃紅い花が咲き親賞用として栽培する。
【秋津國】アキツクニ 日本の異名。
【秋霜烈日】シウサウレツジツ 秋分の霜の凜冽たるが如く、また夏の日の燦くが如きことをいふ。（威權の强きこと又は刑罰の嚴明なることにいふ）。
【秋高馬肥】アキタカウマコユ 秋の空が一天の雲なく澄み渡つて一層高く見え、又馬も肥えて逞しい、轉じて豐かなる秋の氣分をいふ。「日に行はれる大祭。
【秋季皇靈祭】シウキクワウレイサイ 毎年秋分の
高秋カウシウ 涼秋リヤウシウ
仲秋チユウシウ 春秋シユンジウ
中秋チユウシウ 晩秋バンシウ
季秋キシウ
初秋シヨシウ 暮秋ボシウ
末秋バツシウ
上秋ジヤウシウ
千秋センシウ 早秋サウシウ
肇秋テウシウ
凜秋リンシウ 小秋セウシウ
清秋セイシウ
立秋リツシウ 悲秋ヒシウ
始秋シシウ 盛秋セイシウ
登秋トウシウ

（秋海棠）

〔科○〕〔科〕漢昊 ㋑しな、等級、品位㋺すぢ、條目㋩組織を有する研究上の智識又は證明を與へ得る系統㋥官吏の登用試驗㋭おきて法則㋬とが、つみ㋣くぼみたる所㋠しぐさ
【科人】クワジン とがにん。
【科斗】クワト 蛙の子、おたまじやくし。
【科目】クワモク ㋑こわけ、しな、分類せし條㋺官吏登用試驗
【科白】クワハク 俳優の臺詞としぐさ
【科料】クワレウ 最も輕き犯罪に對する制裁として科する財產刑。
【科條】クワデウ 法律・規則等の條がき。
【科程】クワテイ ㋑ほどあひ、程度㋺學科、課業。「次第を分つこと。
【科第】クワダイ 試驗の科目によりて上下の
【科學】クワガク 物理學・化學・動植物學・醫學の如く系統的・組織的自然の法則原理を研究する學術。
【科學】クワキヨ 試驗をいふ、官吏登用試驗。
【科頭】クワトウ すあたま、冠をつけぬ頭。
【科斷】クワダン つみをさだめること。
【科刑權】クワケイケン 犯人に對し刑罰を科する所の國家の權力。

（科斗）

【科學批判】クワガクヒハン 文藝上の作品を科學的に批評する態度。
【科學萬能主義】クワガクバンノウシユギ 人生・宇宙のすべての事物は科學の力にて解決し得べしとなす主義。
【科學的社會主義】クワガクテキシヤクワイシユギ マルクス派の社會主義、卽ち唯物史觀・資本集積說・資本主義倒壞說・階級鬪爭說等を其の原則とする。
價科カクワ 甲科カウクワ 乙科オツクワ 丙科ヘイクワ
催科サイクワ 舊科キウクワ 法科ハフクワ 工科コウクワ
醫科イクワ 嚴科ゲンクワ 峻科シユンクワ 常科ジヤウクワ
高科カウクワ 學科ガククワ 末科バツクワ 首科シユクワ
上科ジヤウクワ 刑科ケイクワ 茂科ボウクワ 輕科ケイクワ

〔秒●〕漢 ベウ ㋑のぎ（禾芒）㋺こ
昊 メウ まかし（微細）㋩時間の單位（一分の六十分の一）㋥角度の單位（一度の六十分の一）
【秒忽】ベウコツ 極めて少量、又細かく微妙。

〔秕●〕漢昊 ㋑しひな（皮のみにて
ヒ 稔らざるもみ）㋺名のみにて實なきこと㋩けがれ（穢）けがす
【秕政】ヒセイ 亂れた政道、惡しき政治。

〔秖○〕〔祇通字〕漢昊 まさに、たゞまさに 秖・祇・正其他の用法は五五六頁の正を見よ。

【同訓異義】

〔香〕一一五四頁の香を見よ。

〔杭〕七八六頁の粳を見よ。

五畫

〔秘〕〔秘〕七四一頁の祕を見よ

〔租○〕〔租〕漢 ソ ㋑みつぎ、
昊 ス ねんぐ（年貢）㋺錢を拂ひて地を借る㋩つむ（積）つゝむ（包）
【租界】ソカイ 外國人の居留地、稅金を取つて外國に貸したる地區。
【租借】ソシヤク 年々一定の賃金を出して土地・家屋等を借ること。
【租契】ソケイ 租借證書。
【租稅】ソゼイ 官より民に賦課して强制的に徵收する金錢、ねんぐ、かゝりもの。
【租庸調】ソヨウテウ 日本・支那の古代の收稅法、租は田地にかゝる稅、庸は正丁の公役に當るもの、調は土地の所產に從ひ規定の絹布其他雜貨物を官に納むるもの。
官租クワン 免租ソン 稅租ゼイ 賦租フ
市租シ 庸租ヨウ 地租チ 田租デン

〔秦○〕〔秦〕漢 シン ㋑國名
昊 ジン（周代には甘肅省泰州、後には陝西省全部を含む）㋺朝の名（始皇帝の創始、後に東西に分る）
【秦皮】シンピ とねりこ。（落葉喬木にして其樹皮を藥用とす。）
【秦皇】シンクワウ 秦の始皇帝。「し鏡。
【秦鏡】シンキヤウ 秦の始皇帝が宮中に備へ

〔秩●〕〔秩〕漢 チツ ㋑ついづ
昊 ヂチ（次）㋺つい
で（序）㋩ふち（俸祿）㋥つかさ（司）㋭くらゐ（位）㋬つね（常）㋣とゝのふ（整）㋠さとし（智）考へぶかきさま㋡きよし（清）㋢つゝしむ（敬）㋤十年間の稱㋥水の流れるさま
【秩宗】チツソウ 天神地祇を敍次することを
【秩序】チツジヨ ついで、次第、順序。
【秩秩】チツチツ ㋑清くて明らか㋺秩序よく整へるさま㋩水の流れるさま㋥思慮ある貌㋭敬肅なる貌。「讀むは誤り。
【秩祿】チツロク ふち、俸給 注意 しつろくと
加秩カチツ 祿秩ロクチツ 榮秩エイチツ 美秩ビチツ

位秩 優秩 厚秩 俸秩
顯秩 寵秩 職秩 官秩

【秣●】漢 バツ 呉 マチ ㋑まぐさ（馬を飼ふわら、かひば）㋺まぐさかふ（馬に秣を與へ養ふ）

【秤●】漢呉 ショウ 慣用音 ビン 注意へいと讀むは誤り㋑にかりてんびん（天秤）㋺公平なることにたとふ㋩量十五斤の稱

【秤竿】はかりのさを。

【秤量】はかりにかけてはかつた量 注意へいりようと讀むは誤り。

【秧○】漢呉 ㋑なへ（禾苗）しげし（禾アウの密なる貌）

【秧苗】田に植ゑし苗。

【秧插】田うゑ。

【秧鷄】涉禽類の小鳥、くひな、水雞。

（鷄 秧）

【称】七五六頁の稱を見よ。

六畫

【移○】【移】漢呉 ㋑うつす、位置をかへる、物事をかへる、變化さす、又うつる㋺おくれる、のばす㋩やる、わたす（渡）またはす㋥古代の公文書の一體（回狀樣のもの）㋭國訓うつる（しみつく、染りつく、感染する）

【同訓異義】うつる

【徙】は遷に同じ。

【移】は彼より此にうつる義である。

【遷】は下より上にうつる意。

【移民】勞働の目的を以て外國に渡航して永住する者。

【移住】他の土地に移りてすむ。

【移封】諸侯の封地をかへる、國がへ。

【移風】習慣を善き方に移す。

【移牒】文書を以て通知すること。

【移動】移り動かす、位置をかへる。

【移種】植物の種子を移し植ゑる。

【移植】うゑかへ。「すること。

【移轉】事物の所在又は地位の變轉

【移檄】回文をまはす、又その回文。

【移籍】戸籍を他へうつす。

【移變】うつりかはる、移しかへる。

【移住民】移民して來り住む者。

【移動警察】移民して來る汽車・汽船等に乘りて警察事故を取締る警官の別働隊。

推移 回移 倚移 飛移 量移 支移 風移 星移

七五四

七畫

【稀○】【希】通【稀】漢 キ 呉 ケ 字 ㋑まれ（希）たまさか㋺まばら㋩すくなし（少）減多にない、ためしが少い㋥うすし（薄）あはし（淡）

【同訓異義】まれ 稀・希、罕其他の用法は三四七頁の罕を見よ。

【稀少】まばらにしてすくなき貌。

【稀代】ためしが少くてめづらしい。

【稀薄】まばら、うすし、まれ。

【稀觀】たまに見る、めづらしい。

【稀有】めつたにない、ふしぎ。

【稀硫酸】硫酸に水を加へてうすくした硫酸。「くしたもの。

【稀鹽酸】鹽酸に水をまぜてうす

【稅●】【稅】漢呉 タツ エツ セイ 慣用音 ゼイ ㋑みつぎ（租）ねんぐ、年貢を取立てる㋺とく（釋）おく（舍）㋩おくる（贈）㋥よろこび（悅）よろこぶ㋭とく（解）ときゆるす㋬死者の尸にきせる爲に贈る衣

【稅目】租稅の種類、稅の種目。

【稅吏】租稅の事を取扱ふ官吏。

【稅則】租稅に關する規則。「度。

【稅制】租稅の賦課徵收に關する制

【稅金】租稅として納付する金錢。

【稅務】租稅の賦課徵收に關する行政事務。

【稅率】稅金の目安、收入に對する

【稅額】租稅の金高。

【稅權】租稅を徵收する權力。

【稅關】開港場などにありて輸出入物品の關稅を徵收し又は密輸出入を監視する役所。「扱ふ役所。

【稅務署】租稅に關する事務を取

戸稅 賦稅 出稅 田稅
廐稅 徵稅 租稅 常稅
假稅 雜稅 收稅 減稅

【程○】【程】俗【程】字 漢 テイ 呉 ジヤウ ㋑のり、おきて、きそく㋺一定せる分量のきまり㋩ほど、程合㋥みちのり（道程）㋭はかる（量）㋬豹の異名㋮國訓ほど（身分だけ、ばかり、ます〳〵、をり、とき、調子、工合、ころあひ、短き時間）

【同訓異義】はかる 程・計・謀其他の用法は七五三頁の計を見よ。

【程度】ほどあひ、ころあひ。

【程限】程度、かぎり。「た、重量。

【程量】程度㋺めかる扶持米㋥ひとし（均）㋭ちひさし（小）

【稍●】【稍】漢 セウ 呉 シヤウ 去る三百里の地㋺やゝ（漸）少しの度合幾分、かなり㋩ふち（廩食）毎月に賜はる扶持米㋥ひとし（均）㋭ちひさし（小）

【同訓異義】やや

【差】は少しづゝちがひが見える意。

【旋】はめぐつて本にかへる意。

【稍】はすこしづゝ又ちく〳〵の意。

【良】はまことにの意。

【較】はくらべて見るにの義。

【程●】【秤】俗 字 漢呉 カン わら

【稈】三三〇頁の稽を見よ。

【黍】二一九〇頁の黍を見よ。

八畫

【稚●】【穉】通【稚】漢 チ 呉 ヂ 字 ㋑をさなし（幼）いとけなし、わかし㋺ちひさし（小）㋩おそし（晩）おくて（晩稻）㋥いとけなき者

【稚子】をなさご。

【稚心】子供らしき心、をさな心。

【稚兒】㋑こども、あかご㋺寺院の給仕㋩祭禮の行列に出す兒童。

【稚氣】子供くさき氣分、罪のなき氣風、あどけなき容子。

【稟●】【禀】俗 字 漢 ヒン リン 呉 ロン ホン 注意稟を俗字に作るは非なるも一般に俗字として用ふ㋑うく（受）下官が上官の命をうける㋺まうす（白）下官が上官に申上げる㋩たち（質）うまれつき、天性㋥ふち（扶持）ふちまい㋭こめぐら（廩）

【稟白】上に申上げること。

【稟申】上官などに申上げること。

【稟性】天より受けた性質、うまれつき 注意りんせいと讀むは誤り。

【稟奏】ヒンソウ 君主に申し上げる。
【稟賦】ヒンプ うまれつき、天性。
【稟質】ヒンシツ 稟性に同じ 注意 **りんしつ**と讀むは誤り。
【稟請】ヒンセイ 上に申上げてねがふ。
【稟議】ヒンギ 上に申しあげること。
英稟エイヒン 特稟トクヒン 諮稟シヒン 承稟ショウヒン
奏稟ソウヒン 天稟テンピン 異稟イヒン 賦稟フヒン

【稔●】 漢 ジン 呉 ニン
物が一回實る期間㋺みのる、みのり、穀物がよく熟す㋩物事が成熟して積る
注意 **ひ**と讀むは誤り ㋑ひえ（五穀の一）㋺ちひさし（小）㋩細かし
【稗史】ハイシ 小說體の歷史、傳說 注意 **ひし**と讀むは誤り
【稗官】ハイクワン ㋑俗說巷談等を書きとめる小吏㋺小說又は演劇的の物がたり㋩小說家、作者。

（稗）

【稜○】 漢 ロウ 呉 リョウ
慣用音 きほひ、尊嚴な勢ひ㋺かど（廉）すみ
【稜角】リョウカク かど、とがりたる所。
【稜威】リョウヰ 稜は神の威、天子又は神の犯すべからざる威力。「しき貌。
【稜稜】リョウリョウ ㋑おごそか㋺寒氣のはげしげし（密）おほし（多）㋩うごく（動）と丶のふ（調）

【稠○】 漢 チウ 呉 ヂュ
慣用音 テウ
【同訓異義】 **しげる** 稠・繁・滋其他の用法は八一三頁の繁を見よ。
【稠人】チウジン 多數の人、群衆。
【稠密】チウミツ しげくして多し 注意 **ちやう**
みつと讀むは誤り。

九畫

【種●】【種】 漢 シュ 呉 シュ
又は穀物の種子）凡て物の發生するたねㄅうまれ（生）㋩たぐひ（類）品目㋥なかま、ともがら、人類の部族㋭苗をうゑるべしく（布）㋣たねをまくゑる
【同訓異義】 **うう**
【栽】 はわかき木をうゑつける。
【植】 はかやらぬ樣にうゑ立つるの義。
【樹】 は木をたてうゑるの意。
【種】 は草木の種をまき植ゑるの意。
【藝】 はこまかな苗をうゑつくる意。

【種子】シュシ たね、もと。「ねうし。
【種牛】シュギウ 小牛を得る爲めの牡牛、た
【種苗】シュベウ たねとなへ。「なかま。
【種族】シュゾク ㋑人の種類、人種㋺やから、
【種別】シュベツ 種類に隨ひてわかつ、類別。
【種痘】シュトウ うゑ疱瘡。
【種馬】シュバ 繁殖の目的につかふ馬。
【種種】シュジュ ㋑くさ〳〵、いろ〳〵㋺髮の短き貌㋩うや〳〵しき貌。
【種屬】シュゾク 同じ祖先より出でたる部族又たぐひ、ともがら。
【種類】シュルヰ しなわけ、品目、種別。
【種藝】シュゲイ 草木又は穀類をうゑる。
【種油】タネアブラ 菜種より搾りしあぶら。
【種取】タネトリ 探訪者が新聞・雜誌の材料を探りに行くこと、轉じて探訪員を多少侮蔑的の意を含めていつた語。
【種籾】タネモミ 稻のたねにする籾。
【種紙】タネガミ 蠶の卵を付けた紙、蠶卵紙。
善種ゼンシュ 將種シャウシュ 貴種キシュ 首種シュシュ
上種ジヤウシュ 糧種リヤウシュ 名種メイシュ 雜種ザツシュ
根種コンシュ 糞種フンシュ 疵種ガイシュ 變種ヘンシュ

【稱●】【称】略字【稱】俗字 漢 ショウ 呉
㋑はかる（量）㋺となへる、よぶ、又とな

へ、よびな（通稱）㋩ほめる㋥あぐ、ふりあげる㋭いひたてるべはかり、てんびんㄅかなふ、適する、釣合ふ、一致す、あふㄆ衣服のひとそろひりあがる、金がはいる㋣はかる（度）
【同訓異義】 **あぐ** 稱・揚・擧其他の用法は四五四頁の擧を見よ。
【同訓異義】 **はかる** 稱・計・謀其他の用法は七五三頁の計を見よ。
【稱名】ショウミヤウ 佛名を稱へること。
【稱呼】ショウコ よびな、となへ。
【稱美】ショウビ たゝへほむ、ほめあげる。
【稱述】ショウジユツ ㋑ほめのべる㋺意見をの
【稱歎】ショウタン 感心してほめる。「べる。
【稱揚】ショウヤウ ほめあぐ、ほめたゝへる
注意 賞揚と書くは誤り。
【稱道】ショウダウ ほめとなへる。
【稱慕】ショウボ ほめ慕ふこと。
【稱辭】ショウジ 譽めことば、譽めたゝふ。
【稱號】ショウゴウ となへ、物の名、なまへ。
【稱擧】ショウキヨ すゝめあぐ、推擧す。
【稱譽】ショウヨ ほまれ、名聲よき評判。
【稱讃】ショウサン 稱美に同じ。
嗟稱サシヤウ 面稱メンシヤウ 内稱ナイシヤウ 自稱ジシヤウ
謙稱ケンシヤウ 私稱シシヤウ 号稱レイシヤウ 號稱ゴウシヤウ
褒稱ハウシヤウ 過稱クワシヤウ 德稱トクシヤウ 追稱ツイシヤウ
譽稱ヨシヤウ 美稱ビシヤウ 時稱ジシヤウ 傳稱デンシヤウ
嘉稱カシヤウ 殊稱シユシヤウ 權稱ケンシヤウ 古稱コシヤウ

【稷●】【穄】俗字 漢 ダン 呉 ナン
もちいね、又もちごめ

十畫

【稻●】【稻】 漢 タウ 呉 ドウ
いね（五穀の一）
【稻苗】タウベウ 稻のなへ、禾苗。
【稻孫】タウソン 稻を刈りたる株に生えたる芽、二度ばえの稻。
【稻畦】タウケイ いねをつくる田。
【稻置】タウチ ㋑稻穀收稅の事を司りし古の役名㋺古昔制定せられた八姓の最下級のもの。
【稻田】イナダ 稻をつくる田。
【稻作】イナサク 稻をつくること。
【稻扱】イナコキ イネコキ 稻をこく、又其農具。
【稻麻竹葦】タウマチクキ 物のすきまなく立ちならべる形容。
早稻サウタウ 晩稻バンタウ 陸稻リクタウ
野稻ヤタウ 穀稻コクタウ 新稻シンタウ 旱稻カンタウ
飯稻ハンタウ

（稻扱）

【稼●】【稼】 漢 カ
㋑かせぐ（穀類をうゑる）又そのこと㋺うゑつけ（農事）㋩植付けたる穀物、又秀でた禾穀㋥國訓かせぐ（仕事をはげみつとめる）
【稼穡】カシヨク 穀を植ゑ又刈取ること、農事耕作の義 注意 **かしやう**と讀むは誤り

【稽●】【稽】俗字【稽】俗字 漢 ケイ 呉 カイ
㋑かんがふ（考）㋺はかる（考量）㋩あふ（合）㋥くらべる、角逐す㋭いたる（至）とどく㋬おなじ（同）㋣止む、止まる（留）㋤とどこほる（滯）㋥拜して首の地につく貌
【同訓異】 **いたる** 稽・到・至其他の用法は八六〇頁の至を見よ。
とどまる 稽・止・留其他の用法は五五六頁の止を見よ。
【稽古】ケイコ 古典を考究するの義、轉じて學問、又轉じて一般に修め習ふこと
【稽失】ケイシツ とどこほりしくぢる。
【稼度】ケイタク 考へはかる。
【稽首】ケイシユ 頭を地につけてする最敬禮
【稽留】ケイリウ とどまること、とどこほる。
【稽停】ケイテイ 前に同じ。「する。
【稽査】ケイサ 詳しく調べる、考へて調査

【稿・藁】【槀通字】【稾】 漢呉 カウ ㊀わら（禾稈）㊁文章の下書 ㊂國訓わら（稲の藁）

【稿本】カウホン 書物の下書、草稿。

【穀・】【穀俗字】【穀別字】 漢呉 コク ㊀たなつもの、百穀の總名 ㊁よし（善）㊂いく（生）いきながらへる ㊃さいはひ（祿）㊄やしなふ（養）㊅わらべ（孺子）こども ㊆ふちまい、俸祿をたまはる ㊇穀類を食する意

【穀日】コクジツ 吉日、佳日、よき日。「十日頃

【穀雨】コクウ 二十四氣の一、陽曆四月二

【穀物】コクモツ 人の常食にする五穀類。

【穀風】コクフウ 物を成長させる春風。

【穀倉】コクサウ こめぐら、穀物の倉。

【穀粒】コクリウ 穀物のつぶ、ごくつぶ。

【穀穀】コクコク 鳩の鳴く聲。「様ある玉。

【穀壁】コクヘキ 昔子爵の持物にて米粒の模

【穀類】コクルヰ 穀物のたぐひ、五穀の類。

【穀象蟲】コクゾウムシ 鞘翅類の甲蟲で小形にして體長一分餘黒褐色を呈し穀粒の胚部に

（穀象蟲）

産卵して孵化し米麥の穀粒を食害する

嘉穀カコク 五穀ゴコク 百穀ヒヤクコク 不穀フコク

布穀フコク 錢穀センコク 舊穀キウコク 漕穀サウコク

儲穀チヨコク 禾穀クワコク 稻穀タウコク 糧穀リヤウコク

【稷】 漢 ショク シキ ㊀きび、きみ、五穀の一、支那にて國土の農業を司りし者は高粱 ㊁五穀の神の名 ㊂社稷は國土の神 ㊃后稷は古代農業を司りし者

后稷コウシヨク 黍稷シヨク 社稷シヤシヨク 稻稷タウシヨク

【穉・】【穉俗字】【稚通字】 漢 チ 呉 ヂ ㊀いとけなし（稚）をさなし ㊁おくて

【穉兒】チジ 年わかき子、稚兒。

【穉苗】チベウ 若きなへ、嫩苗。

【黎】 一一九〇頁の黎を見よ。

十一畫

【穆・】【穆】 漢 ボク 呉 モク ㊀おくふかきさま（深遠）㊁うるはし（美）㊂つゝしむ（敬）又そのさま ㊃おほし（多）あつし（厚）㊄よろこぶ（悅）たのしむ、たのしましむへきよし（清）㊅やはらぐ（和）おだやかなるさま ㊆しづか（靜）又靜かに思ふさまり睦に同じ、むつまじ ㊇廟の順序に

て一世を昭・二世を穆といふ

【穆然】ボクゼン 靜かに思ふさま。

【積・】【積】 漢セキ 呉シヤク ㊀つむ（堆）つもる、あつまる（聚）あつめ重ねる、集まり重なる ㊁かさね（累）たびかさなる、上へ〳〵とかさねる ㊂乘法に於て二個以上の數を掛合せて得る數 ㊃たくはへ、たくはへる ㊄ひろさ、かさ ㊅國訓つもり（みつもり、もくろみ、豫め思ひはかること、心算）

【積分】セキブン 數學上の語、或る函數の微分を知つてその函算を求める算法。

【積水】セキスヰ 多くの水のつみたまりしもの、轉じて海洋。

【積日】セキジツ 多くの日數をへる。

【積年】セキネン 年をつむ、長き年月。

【積雨】セキウ ふりつゞく雨。「財産。

【積財】セキザイ 財産をためる、又たまつた

【積怨】セキエン つもるうらみ、多くの怨み。

【積粟】セキゾク 貯へある米穀。「習慣。

【積習】セキシフ 昔よりのしきたり、久しき

【積陰】セキイン ㊀陰氣のつもる意にて多のこと ㊁天氣がながく曇るさま。

【積善】セキゼン 善行を多くつむ。

【積極】セキキヨク 消極に對する語、はたら

きかけ、又はすゝんでなすの意。

【積雪】セキセツ 降りつもりたる雪。

【積惡】セキアク 惡事を多くかさねる。

【積載】セキサイ 船車に荷物をつみこむ。

【積量】セキリヤウ 船舶・汽車等に搭載し得る重量、積載量。

【積憤】セキフン 積る怒り、長い間の憤り。

【積德】セキトク 德行をつむ、又その德。

【積潦】セキラウ 積雨に同じ。

【積弊】セキヘイ 長年月の弊害、弊害の上に弊害を加へ重ねること。

【積鬱】セキウツ ㊀つもる心配、又つもる不平 ㊁ながくうつたうしきこと。

【積戾】ツミモドシ 輸入手續未滿濟の貨物を自國に向け返送すること。

【積立金】ツミタテキン ㊀將來の安全又は保證の爲め受ける給金の幾分をつみ立て置く ㊁銀行・會社等に於て利益ある場合に法律上積立つべき金、又或目的の爲め利益の幾分をつみ置く金。

【積善餘慶】セキゼンヨケイ 善行を積めば長く子孫にまで慶福を受ける意。

鬱積ウツセキ 叢積ソウセキ 累積ルイセキ 重積チヨウセキ

山積サンセキ 委積ヰセキ 充積ジユウセキ

【穎・】【頴俗字】【頴】 漢 エイ 呉 ヤウ ㊀ほさき、いねのほさき（禾末）㊁さき（尖りたるもの、さき）㊂ぬけ秀でる、すぐれる ㊃めざましまくら

【穎才】エイサイ 衆に秀でたる才能、又其人。

【穎花】エイクワ 麥の如く穎に包まれた花。

【穎悟】エイゴ すぐれてさとし。

【穎敏】エイビン さとりはやし、かしこし。

英穎エイエイ 才穎サイエイ 聰穎サウエイ 警穎ケイエイ

俊穎シユンエイ 剛穎ガウエイ 豐穎ホウエイ 秀穎シウエイ

【穄○】【糠通字】 漢呉 カウ ㊀ぬか（糠）㊁すくも、もみがら

【穈】 七五八頁の穈を見よ。

【廩】 三五六頁の廩を見よ。

【臻】 八六二頁の臻を見よ。

【頴】 一一四〇頁の頴を見よ。

十二畫

【穗・】【穗】 漢 スヰ 呉 ズヰ ㊀ほ（禾の生る尖頭）㊁穗の如き形の物

十三畫

【穢】 漢呉 ワイ 注意 さいと讀むは誤り ㊀ある（蕪）あれち ㊁田の中の雜草 ㊂けがれ、よごれ（汚）又其物 ㊃けがす、又けがる、きたなくする、けがらはし、きたなし ㊄みだれ（亂）又兇賊

【同訓異義】 **けがる** 穢・汙・汚其他の用法は五八〇頁の汙を見よ。

【穢多】エタ 新平民のこと、中古以來平民の下にありし民の稱。

【穢土】エド 佛教にて現世界をいふ、けがれたる世界の意（淨土の對）。

【穃】 一一五五頁の穃を見よ。

【穐】 一一七二頁の穐を見よ。

十四畫

【穩・】【穩俗字】【穩】 漢呉 ヲン ㊀ゆ（米）㊁ゆ（穀類の實）

【穠○】 漢 ジヨウ 呉 ニユ ㊀しげし（密）㊁さかんなり（盛）㊂花の多く咲き亂れる貌

【穠緣】ジヨウリヨク みどりこきこと。

【穡・】 漢 ショク 呉 シキ ㊀をさむ（斂）㊁取いれ（收穫）㊂取入れた禾穀 ㊃農事、耕作 ㊄をしむ

【穢・】 漢 アイ ワイ 呉 エ エ 注意 さいと讀むは誤り ㊀ある（蕪）あれち ㊁田の中の雜草 ㊂けがれ、よごれ（汚）又其物 ㊃けがす、又けがる、きたなくする、けがらはし、きたなし ㊄みだれ（亂）又兇賊

【同訓異義】 **けがる** 穢・汙・汚其他の用法は五八〇頁の汙を見よ。

【穢多】エタ 新平民のこと、中古以來平民の下にありし民の稱。

【穢土】エド 佛教にて現世界をいふ、けがれたる世界の意（淨土の對）。

【穫】 一一五五頁の穫を見よ。

【魏】 一一七二頁の魏を見よ。

十四畫

【穩・】【穩俗字】【穩】 漢呉 ヲン

イあつむ ロおだやか、やすらか(安)平和
【穩便】ヲンビン 事をあらだてぬ、おだやか。
【穩健】ヲンケン おだやかで確かりしてゐる
【穩當】ヲンタウ イおだやか ロよく道にかなつて無理のないこと。

【穫・】【獲別字】【獲】

漢 クワク 呉 ワク イかる（禾莖を刈りとる）ロかりいれ、とりいれ（稻を取りいれる）又そのこと

【穡】七五六頁の穡を見よ。

【穡】七五七頁の穡を見よ。

十五畫

【黛】一一九三頁の黛を見よ。

十六畫

【穢】七五一頁の秋を見よ。

十七畫

【穰・】【穰】

漢 ジャウ イわら 呉 ナウ（禾莖）ロゆたかなり(豐)禾穀がよくみのつて收穫が多い ハ多く盛んなり又そのさま

【穰穰】ジャウジャウ イ米穀がよくみのりて收穫多き貌 ロ多くして盛んなる貌。

穴部

【穴・】【穴・宂別字】【穴】

漢 ケツ 呉 ゲチ イあな、土のくぼみてうつろとなりし所、地のへや、むろ(室)つか(冢)ほら(洞)ロうがつ(穿) ハ貫通せる空所、すきま ニ國訓あな(備はらぬ所、缺點)
【穴居】ケツキヨ あなずまひ、土中の穴に住
【穴隙】ケツゲキ 壁ぎはのあな、すきま。
【穴藏】ケツゾウ 穴をほつてこしらへた藏。
管穴クワン 空穴クウ 隙穴ゲキ 空穴クウ
虎穴コケツ 金穴キン 巣穴サウ 蟻穴ギ

二畫

【究・】【究】

漢 キウ イきはむ（極）きはまるおしきはむ、最後の所まで見きはめつくす ロつくす、おへる(竟) ハ相親しまぬさま
【同訓異義】きはむ 究・極・窮等の用法は七六四頁の窮を見よ。
【究明】キウメイ きはめ盡して明らかにす。
【究竟】キウキヤウ イつまり、結局、最後 ロきはめつくす。「ること。
【究理】キウリ 道理又法制をしらべきはめ
【究問】キウモン しらべとひつめる。
【究極】キウキヨク イきはまり、結末、結局 ロ究竟に同じ。
探究タン 講究カウ 質究シツ 研究ケン
測究ソク 窮究キウ 詳究シヤウ 博究ハク

三畫

【空・】【空】

漢 コウ 呉 ク 慣用音 クウ
イそら(天)おほぞら ロむなし(虛)からである、なくなる ハ中に物がない、事實がない ニ不用であるむだである ホさびしい、ひつそりせる貌 ヘむなしく、むだに、何の得る所なし トむなしくす チおろかなるさまリ無限の延長の成立する所 ヌあな、うろ(孔穴) ルうがつ(穿) ヲ宇宙の萬物には實體なく皆因緣の所生なりとする佛說、又その說を信じて物に執著せぬさま
【同訓異義】むなし
【曠】はひろくして空しい。

【空】は有の反對である。
【虛】は實の反對で中に物のない意。
【空山】クウザン 寂しくひろ〳〵とせる山。
【空中】クウチユウ 空のうち、天。
【空文】クウブン イ實益なき文章 ロ效力なき
【空王】クウワウ 佛の尊稱。「規則。
【空手】クウシユ 手に一物もなし、赤手、すで
【空乏】クウバウ むなしく乏しい。「ろ、餘白。
【空白】クウハク 紙面の何も書いてないとこ
【空名】クウメイ 名ばかりで實力なきこと。
【空位】クウキ イ名のみにて實權なき位 ロ缺員となりたる地位。
【空言】クウゲン イ無實のことば、そらごと、
うそ ロ空論に同じ。「き谷。
【空谷】クウコク 人のゐない谷、又深く淋し
【空界】クウカイ イ大空 ロ飛行家社會を指し
ていふ、航空界の略。
【空軍】クウシヤ からぐるまっ
【空地】クウチ 建物なき土地、あきち。
【空空】クウクウ イおろかなるさま ロ又何事にも執著せぬ貌。「廣きに喩へていふ。
【空洞】クウトウ うつろ、ほらあな、又度量の
【空室】クウシツ 誰も居らぬへや。「る座席。
【空席】クウセキ あいてゐる座席、すいてゐ
【空氣】クウキ イ酸素と窒素とよりなり地球の表面を包める氣體 ロ會談・集會の部屋の氣分 ハ周圍から起る氣分。
【空拳】クウケン イからこぶし ロ手に何もゝたぬ貌 ハ孤立して援助なきこと。
【空砲】クウハウ 實彈をこめぬ砲。
【空寂】クウジヤク クウセキ さびしきさま。
【空處】クウシヨ すきま、あきま、何んにも
ないところ。「どころなき理論。
【空理】クウリ 道理に合はぬ理屈、又より
【空費】クウヒ むだづかひ、徒費。
【空華】クウゲ イ佛語、煩悶の滿ちたる心に
種々の妄想の見える貌 ロかすむ目にて空中を見る時花の如きものゝ見える貌
【空虛】クウキヨ 一物もなき貌。
【空雷】クウライ 航空機より投下する爆彈。
【空間】クウカン イすきま ロ天地の間リ哲學上にて四方・上下・長短・遠近等の生ずる根本概念。「ている。
【空談】クウダン むだばなし。
【空軍】クウグン 戰爭又は演習等に參加せる
航空隊、軍事用の飛行隊。
【空漠】クウバク 寂廣き砂原 ロ廣き貌 ハ物事のとりとめなき貌。
【空豁】クウクワツ ひろ〳〵としてゐること
【空隙】クウゲキ 間隙、すきま。
【空想】クウサウ 實現又は實行の不可能なる
かんがへ、そらだのみ。「や、からねや。
【空閨】クウケイ 良人なくして獨り臥するね

【空腹】クウフク 腹がへる、すきばら。
【空論】クウロン イよりどころなき議論 ロ實行の伴はざる議論 ハむだな議論。
【空蟬】ウツセミ イせみ、又せみのぬけがら ロ人・命・世・身などの枕詞。
【空豆】ソラマメ 莢科の二年生草本で莖の高さ二三尺ばかり莖は四角形中空で葉は托葉をなし春白狀複葉をなし色の蝶形花を開き果實は莢となり種子は食用とする。

（空豆）

【空中病】クウチユウビヤウ 飛行家が空中に醉ふ「病氣。
【空間美】クウカンビ 空間的藝術の美。
【空手形】カラテガタ 相互相談の上蝙通の爲に發行する手形。「た念佛。
【空也念佛】クウヤネンブツ 空也上人のはじめ
【空米相場】クウマイサウバ 實際の米なきにたゞ取引上にて相場を立てること。
【空中樓閣】クウチユウロウカク 空中に高殿をつくる意、心中に實行不能の妄想を抱く。
【空谷跫音】クウコクキヨウオン 寂しき山奥にて偶然人の足音をきけば心强く感ずる、たま〳〵我と同じ意見の人あるをきゝたる時は喜ばし等の喩に用ふ。

【空空寂寂】クウクウジャクジャク　㋑私意私慾なし㋺執著も煩悶もなし㋩知性なし㋥色心内外共に空なる貌。

【空前絶後】クウゼンゼツゴ　前にも後にもその「例がない。

【空中郵便】クウチユウイウビン　航空機によつて輸送せらるゝ郵便物。

【空中滑走】クウチユウクワツソウ　飛行中に發動機を止めて地上滑走の如くに飛ぶ。

太空タイクウ　眞空シンクウ　寛空クワンクウ　碧空ヘキクウ
青空セイクウ　淨空ジヤウクウ　晴空セイクウ　遠空エンクウ
高空カウクウ　雲空ウンクウ　浮空フクウ　靈空レイクウ

【穿●】漢セキ　呉ジャク　㋑はかのあな（墓穴）つかあな㋺夜、ながよ㋩究に借りて用ふ

【穹○】漢キユウ　呉ク　㋑そら、あめ（大空）㋺たかし（高）㋩おほいなり（大）㋥きはむ（窮）㋭ふさぐ（塞）㋬弓形、アーチ形

【穹天】キユウテン　おほぞら、穹圓、穹蒼。

【窃】三三九頁の窃を見よ。

四畫

【穿◐】漢セン　呉　㋑うがつ、ほる㋺きる（鑽）㋩通ず、穴をあける、穴があく、又あな㋥蜂の巣（百穿）㋭つらぬく（貫）㋬きはめる、徹底す㋮はく（履）

【穿掘】センクツ　ほる、穴をほる。

【穿鑿】センサク　㋑ねほりはほりしらべる、ほじくる㋺理窟をこねてこじつける。

【穿山甲】センザンカフ　熱帶地方に產する動物で全身堅固の甲を被るより名づく、臺灣地方に多く產し地を掘りて蟻を食つてゐる。

（穿山甲）

【突●】漢トツ　呉ドチ　㋑つくにおしやる、ぶつける㋺つき出る、斗出㋩さはる（觸）ふれる㋥うがつ（穿）ほる㋭にはかに（猝）㋬けむりだし（煙突）

【同訓異義】つく　突・搗・衝其他の用法は九三〇頁の衝を見よ。

【突入】トツニフ　にはかに突き入る貌。

【突兀】トツコツ　高く突出でたる貌。「出づ。

【突出】トツシユツ　つきいづ、にはかに突き

【突如】トツジヨ　にはかに、だしぬけに、不意、突然、唐突。「ふり風。

【突風】トツプウ　㋑ひぢでつぱうの隠語㋺あ

【突忽】トツコツ　だしぬけ、にはかに。

【突起】トツキ　突兀として起る貌。

【突飛】トツビ　普通より飛びはなれてかはつたさま。

【突貫】トツクワン　つきぬく、突きやぶりて「進む。

【突破】トツパ　つきやぶる、又抜け出る。

【突然】トツゼン　突如に同じ。

【突進】トツシン　突き破りて進む貌。

【突梯】トツテイ　圓滑、圓滿、婉曲。

【突堤】トツテイ　突出して築いた堤、波止場。

【突發】トツパツ　急に起る、遽かに現はれる。

【突過】トツクワ　するどくとほる。

【突戰】トツセン　突進して戰ふ。

【突擊】トツゲキ　敵陣に突入すること。

曲突キヨクトツ　直突チヨクトツ　猪突チヨトツ　馳突チトツ
排突ハイトツ　唐突トウトツ　衝突ショウトツ　低突テイトツ
觸突ショクトツ　前突ゼントツ　撞突クワントツ　寒突カントツ

【窈】【窈】七六五頁の窈を見よ

【窄●】漢サク　呉シャク　㋑せまし（狹）㋺せまる（迫）

【同訓異義】せまし　窄・狹・隘其他の用法は六六三頁の狹を見よ。

【窄小】サクセウ　狹くしてちひさきこと。

【窄袖】サクシウ　つゝそで、筒袖。

【窅●】漢ベン　呉エウ　㋑ふかし、奥ふかし、深遠なる貌㋺ぼんやりせる貌

【窅窕】エウテウ　おくぶかき貌。

【窅窅】エウエウ　深くとほきさま。

【窅然】ベンゼン　ぼんやりする貌。

【窈●】漢ヨウ　呉エウ　㋑ふかし（深）おくぶかい、又そのさま㋺しづかなり（靜）婦人の容儀しとやかなるさま㋩うるはしき心㋥のびやかし（舒）おくゆかし、道理が深遠である

【窈窕】エウテウ　㋑おくゆかし㋺しとやかなる貌㋩幽かにして奥ゆかしき貌。

六畫

【窒●】漢チツ　呉テチ　㋑ふさぐ（塞）封じる、とぢる㋺つまる、ふさがる㋩元素の一（窒素）㋥西方にある月㋭宗廟の門

【同訓異義】ふさぐ　窒・塞・杜其他の用法は二三九頁の塞を見よ。

【窒息】チツソク　息のふさがり止ること。

【窒素】チツソ　元素の一、無色無味無臭の氣體にして大氣中の約八割を占む。

【窒塞】チツソク　ふさぐ、ふさがる。

【窒扶斯】チフス　腸窒扶斯の略。「人造肥料。

【窒素肥料】チツソヒレウ　窒素を主成分とせる

【窓○】【窗本字】【囱通字】【窓俗字】

漢サウ　呉ソウ　㋑まど（牆にあるを牖といひ戸にあるを窗といふ）㋺あな（孔）㋩けむりだし（煙突）

【窓戶】サウコ　まどの戸。

【窓架】サウカ　窓のわく。

【窓牖】サウイウ　まど。

【窓頭】サウトウ　窓のほとり、窓際。

【窓欞】サウレン　れんじまど。

【窓際】マドギハ　まどの側、窓頭。

【窕●】漢テウ　呉デウ　㋑ふかし（深）㋺しづか（靜）㋩しとやかし（淑）㋥ほそし（細）又ゆるやかし（緩）㋭挑に同じ、かろ〳〵し

七畫

【窖●】漢カウ　呉ケウ　注意こくと讀むは誤り　㋑あな倉㋺心の深き貌

【窟●】漢クツ　呉クチ　㋑あな（穴）慣用音　あなぐら㋺むろ（室）いはや（巖窟）㋩ものゝあつまる所㋥蟲獸のすむ穴のこと

【窟居】クツキヨ　あなずまひ、穴居。

巢窟サウクツ　理窟リクツ　巖窟ガンクツ　幽窟ユウクツ
洞窟トウクツ　石窟セキクツ　深窟シンクツ　土窟ドクツ

【窠○】漢カ　呉クワ　㋑あな（穴）くぼき所㋺すみか㋥格子形の正しき模樣す（栖）鳥の巢㋩穴中の

【窠臼】クワキウ　㋑きまつた型㋺鳥の巢㋩穴

九畫

【窩○】 漢呉ワ　㋑あな、あなぐや（竈）穴居のあな㋩別荘等の雅號に用ふ㋺物を蔵し置く所

【窪○】 漢ワ　㋑ふかし（深）くぼみぞ（溝）　呉ェ　し（凹）又その所㋩

【窯○】【䆫通字**】** 漢ユ　呉ヅ　漢呉ユ　㋑うがつ（穿）㋺くゞり（耳門）

十畫

【窮○】【窮】 漢キュウ　呉ク　㋑きはむ、おしつめる、くるしめる㋺きはまる、つきる、なくなる貧乏する㋩こまる、くるしむ（苦）㋥つくす（盡）をはり（竟）つまるところ（結局）㋭貧しき人、又立身出世せぬこと

【同訓異義】**きはむ**　【極】は行き屆いて最早其先のない意　【究】は推尋又は窮盡の意にて困窮の義はない。　【窮】は行きつまる、をはるの意。

【窮厄】キュウヤク　困り苦しむ。

【窮乏】キュウバフ　まづしい、貧乏である。

【窮冬】キュウトウ　冬のおしつまり。

【窮民】キュウミン　たよりなき人、又貧乏人。

【窮迫】キュウハク　困難の甚しく迫る貌。

【窮地】キュウチ　苦しい立場、困難なる場合。

【窮困】キュウコン　こまる、難儀をする。

【窮谷】キュウコク　ふかきたに、幽谷。

【窮屈】キュウクツ　不自由なると、又きがね。

【窮孤】キュウコ　孤立してたよりなき者㋺助けなく困窮の地に居ると。「狀態。

【窮狀】キュウジャウ　困つて居る有樣、苦しい

【窮迫】キュウツキ　追ひつめる、せめつめる。

【窮鬼】キュウキ　貧乏神。

【窮竟】キュウキャウ　究めつくす。

【窮途】キュウト　困窮せる境遇。

【窮理】キュウリ　物の理をおし究める。

【窮陰】キュウイン　冬の末、舊曆十二月。

【窮通】キュウツウ　困窮すると榮達すると

【窮策】キュウサク　困つた上のかんがへ。

【窮極】キュウキョク　をはり、はて、きはまる。

【窮鼠】キュウソ　㋑死もの狂ひの鼠㋺追ひつめられたる者。

【窮鳥】キュウテウ　逃場を失ひし鳥。

【窮盡】キュウジン　究めつくす。

【窮臘】キュウラフ　年のおしつまりたること又舊曆十二月の奈の日。

【窮措大】キュウソダイ　貧乏書生。

【窮二日力】ヒノチカラヲキハム　終日つとめると。

【窮鳥入レ懷】キュウテウフトコロニイル　人の困窮してたより來るにいふ。

【窮鼠齧レ猫】キュウソネコヲカム　弱者も絶對絶命の場合には卻つて強者を敗るの意。

幽窮イウキュウ　詰窮キツキュウ　饑窮キキュウ　推窮スヰキュウ

研窮ケンキュウ　振窮シンキュウ　貧窮ヒンキュウ　無窮ムキュウ

【窯○】【窰俗字**】** 漢呉㋑かまど、エウ　瓦をやくかまど㋺かま（物をやくあな）やきがま

【竄●】 漢呉　注意**くわ**と讀むは誤り　ユ　㋑ゆがむ、形が不正になる、ひずむ、又きずがある、又いびつになる㋺おこたる（惰）

十一畫

【窺○】【闚】【窺】 漢呉㋑うかキ　ゞふ、ひそかに見る㋺のぞく、かいまみる㋩片足をあぐ㋥乘ずべき期をまつ

【同訓異義】**うかがふ**　窺・伺・偵其他の用法は六七頁の伺を見よ。

【窺知】キチ　うかゞひ知る。

【窺竊】キュ　覬覦又は窺覦に作る、分外の物を得んとして隙をうかゞふ。

【寰●】【寰】 漢ク　呉ルコ　ロウ　㋑まづし（貧）㋺やつる（憔）㋩縮りて小さし、せまき土地、又狹く傾ける地㋥國訓やつる（身體がやせ衰へる）やつす（卑しく姿をかへる、身體がやせる程物に凝る、しやれる）

【同訓異義】**まづし**　寰・貧等の用法は九九〇頁の貧を見よ。

【寵】 七六三頁の窓を見よ。

十二畫

【窿●】 漢リュウ　呉リュ　㋑弓形にまるくまがりたる貌、ゆみがた㋺そら、おほぞら（穹窿）

十三畫

【竄●】 漢呉サン　慣用音ザン　㋑かくる（匿）かくす㋺のがる（逃）にげかくれる㋩せめる（誅）㋥はなつ（放）しまながし、流罪㋭ふすぶ（熏）又香などのしみとほること㋬いへ（屋）㋣あな（穴）又いる、穴に入る字改め易ふ、詩文などをなほす

【竄入】ザンニフ　㋑逃げ込む㋺詩文中に他の文句の紛れこむこと。

【竄伏】ザンブク　逃げかくる。

【竄流】ザンリウ　島ながし、遠島、流竄。

【竄逃】ザンダウ　にげのがる、逃竄。

【竅●】 漢呉ケウ　あな（孔穴）身體にある穴（耳目鼻口等）

十四畫

【窮】 七六四頁の窮を見よ。

十五畫

【竇●】 漢トウ　呉ヅ　㋑あな（穴）あなぐら（窖）地に穿つ小判形の穴㋺壁をあけた出入口㋩さく（決）水が堤をきる㋥水道㋭濱に同じ、けがす

十六畫

【竈●】【竈俗字**】** 漢サウ　呉ソウ　㋑かまど、かまど、くど、へつゝひ㋺かまどの神

【竈突】サウトツ　けむだし、煙突。

十七畫

【竊●】【窃俗字**】【竊】** 漢セツ　呉セチ　㋑ぬすむ、ひそかに（密）そつと、こつそり利す㋺ひそかに取る、私する、自ら㋩わたくし㋥あさし㋭ぬすみ、ぬすびと㋬公然の反對より謙遜の意にも用ふ「ざる義。

【同訓異義】**ひそかに**　【密】は奥深くして容易に窺ひ易から

【私】は公の反對で内々の意。　【竊】は人のしらぬまにの意。　【竅】はすきを見てひそかにの意。

【同訓異義】**すすむ**　竊・窃・賊其他の用法は七一三頁の盜を見よ。

【竊取】セツシュ　所持人の意に反して其の動産を自己の所持内に移すと、盜みとる。

【竊盜】セツタウ　ぬすみ、又ぬすむ者。

【竊竊】セツセツ　㋑小才をてらふさま㋺ひそひそと話すさま、私語する。

隱竊イン　草竊サウ　鼠竊ソ　盜竊タウ

狗竊コウ　侵竊シン　濫竊ラン　竄竊ザン

立部

【立●】【立】 漢呉リフ　㋑たつ、促音リツ　とゞまる（止）たちどまる㋺しつかりとまる、まつすぐに立つ㋩たすかる、なりたつ㋥位につく㋭まうける（設置）べきめる、さだめる㋬建てる、築造する㋣しめす（示）明らかにする㋠たちどころに、即座に

【同訓異義】**たつ**　立・建・竪其他の用法は三五八頁の建を見よ。

【立方】リッパウ　㋑各面が正方形をなす六面

體ロ三乘の稱。

【立功】リツコウ 功をたてる、立勳。

【立冬】リツトウ 十四氣の一、陰曆にては十月の節、冬の節に入る日。

【立后】リツコウ 皇后を册立すること。

【立言】リツゲン いましめ又をしへとなることばを後世にのこすこと。

【立身】リツシン 出世する、身を立てる。

【立志】リツシ イ志を定むロ目的を決して之を遂行せんとすること。

【立派】リツパ うるはし、みごと、善美。

【立法】リツパフ 法律を制定すること。

【立命】リツメイ 天賦を全うし人爲を以て之を害せざるをいふ、安心立命。

【立食】リツショク タチグヒ イ洋風の禮式にて立ちて食事をなすロ立つた儘卑しく物を食ふ

【立秋】リツシウ 二十四氣の一、陰曆七月の節、秋の氣節に入る日。

【立刻】リツコク たゞちに、たちどころに。

【立春】リツシユン 二十四氣の一、春の季節に入る日、陽曆二月三日頃。

【立案】リツアン イ工夫を立てる、趣向をこらすロ法規の草案をつくる。

【立夏】リツカ 夏のはじめ、五月五日頃。

【立腹】リツフク 腹を立てる、いかる。

【立意】リツイ 思ひたつ、思ひつく、發意。

【立論】リツロン 議論のすぢをたてる。

【立談】リツダン 立ばなし、又時間の短きこと。

【立像】リツザウ 立ちたる像。

【立國】リツコク イ新たに國を建てる、建國ロ國策を立てる。

【立脚】リツキヤク たちば、又あしば。

【立標】リツペウ 航船附近の暗礁・淺瀬・露岩等の所在を標示する航船標識。

（立標）

【立憲】リツケン 憲法を定めて政治を行ふ

【立儒】リツチヨ 公式に皇太子を定める。

【立證】リツシヤウ 證據を立てる、證人を出す。たてる、眞否を證明する、證人を出す。

【立禮】リツレイ イ起立して行ふ禮法ロ禮儀を制定すること。

【立體】リツタイ 長さ・廣さ・厚さありて位置を有せる物體。

【立願】リツグワン 神佛にぐわんをかける。

【立纓】リツエイ 天子のめしたまふ冠の纓の上を向きて直立したもの。

（立纓）

【立傘】タテカサ イ德川時代に天鵞絨又は羅紗の袋に長柄の傘を入れたもので大名などの行列に用ひられたロ立傘の形をした指物。

（立傘）

【立廻】タチマハリ イ芝居にて格闘を演ずること、又其場面ロ爭ひたゝかふこと。

【立會】タチアヒ イ取引所にて服引員又は代理人が一定の時間に取引所内の一定の區劃内に集りて賣買取引すること ロ或る事實の發生した場所に列席すること。

【立葵】タチアフヒ イ錦葵科の二年生草本で莖の高さ五六尺ばかり葉は心臟形で五つ又は七つに裂け六月頃に紅・白・紫の花を開き觀賞用として栽培する ロ紋所の名。

（立葵）

【立場】タチバ 職務上の位置、又は責任。

【立太子】リツタイシ 立儲に同じ。「の作用。

【立法權】リツパフケン 法律を制定する統治權

【立脚地】リツキヤクチ 立場、根據地等の意。

【立體美】リツタイビ 立體にあらはれる美。

【立體的】リツタイテキ 平面的の對、物事の内部に入りこみて觀察すること。

【立法機關】リツパフキクワン 國家の立法に參與する機關例へば帝國議會の如きをいふ

【立錐之地】リツスヰノチ 錐の先を立つるほどの少しのあきま。

【立憲政治】リツケンセイヂ 憲法を制定し議會を設け之によつて行ふ政治のこと。

【立憲政體】リツケンセイタイ 國家の政務を立法・司法・行政に大別し之を各別の統治機關をして分掌せしめる政體。

【立憲共和制】リツケンキヨウワセイ 國民全體が國家の統治權を管掌し自己の代表者たる議員をして憲法上の規定によりその權能を行はしめる制度。

【立憲君主制】リツケンクンシユセイ 君主が國家の統治權を掌握し憲法の規定によりて之を行使する制度。

成立セイリツ 直立チヨクリツ 佇立チヨリツ 群立グンリツ
起立キリツ 峙立ヂリツ 存立ソンリツ 私立シリツ
公立コウリツ 屹立キツリツ 獨立ドクリツ 建立ケンリツ

二畫

【辛】一〇二五頁の辛を見よ。

三畫

【妾】二七二頁の妾を見よ。

四畫

【扮】國字 デシリツトル

【竒】二六一頁の竒を見よ。

【彦】三六七頁の彦を見よ。

【音】一一三四頁の音を見よ。

五畫

【站●】漢タン イたつ、久しく立つ、呉テン 又は立ちて動かざるさまロ中途にて少時立どまること

【竚】六八頁の竚を見よ。

【竜】一一九八頁の龍を見よ。

【竝】二六頁の並を見よ。

【同訓異義】ならび

【併】は二つ以上の物を一つに合す意は併に同じ。

【并】は列を正しく整然とならべる義

【排】は間をすかさずに續きならべる

【比】は立ちならぶ義。

【竝】は同じやうな物が二つならぶ意

【雙】はつらなりならぶ。

【駢】

六畫

【竟●】【竟】漢ケイ イつひに、結局、たう〜ロをはる(終)つくすハをはり、しまひニさかひ(境)

【同訓異義】つひに 竟・卒・遂其他の用法は一〇四一頁の遂を見よ。

【章○】【章】漢シヤウ イあき呉サウ らか(明)ロあらはす(表)めだつハあや(文)いろどり(彩)かざり(飾)又一國文明のかざり、文化ニ文の一段落かきもの(臣下より天子に上る文書)ホしるし(印)おして、いんぎやうへのり、きそく、くだり(條)ト曆法にて十九年の稱チ殷代の冠の一リくすのき(樟)又樹の瘿をあらはす語ヌ上が平かなる山の貌ル法典等を類別するに用ひられ編の次、節の上にあるもの

【章左】シヤウサ 上書などの餘白。

【章句】シヤウク 文章の段落と字句。

【章法】シヤウハフ 支那文法上の用語にて文章の組立の一、字法、句法の對。

【章表】シヤウヘウ しるし、又あらはす。

【章服】シヤウフク 他人のものと區別する爲に紋又はしるしをつけた衣物。

【章章】シヤウシヤウ オあきらかなる貌、明白ロ草書の一體、漢の文帝の時史游の作りしもの。

【章魚】シャウギョ　魚の名、たこ、蛸魚 注意 期と書くは誤り。

【章程】シャウテイ　のり、きそく、規定。

【章臺】シャウダイ　㋑宮殿㋺賑やかな街又は遊郭㋩秦の時咸陽に立てたる宮殿。

【章句學】シャウクノガク　一章一句の末にのみかゝはり大體に通ぜざる學問。

印章インシャウ　朝章テウシャウ　辭章ジシャウ　顯章ケンシャウ
周章シウシャウ　篇章ヘンシャウ　典章テンシャウ　奏章ソウシャウ
舊章キウシャウ　憲章ケンシャウ　表章ヘウシャウ　龍章リヨウシャウ

【産】六八四頁の産を見よ。

【翌】八二八頁の翌を見よ。

【翊】八　九頁の翊を見よ。

七畫

【竣○】【竣】漢呉　シュン　セン　㋑をはる（畢）をふ、仕事をゝへる㋺しりぞく（退）

【竣工】シュンコウ　工事の出來上ること。

【竣功】シュンコウ　土木などの工事を成し遂ぐ、竣成。

【竣成】シュンセイ　前に同じ。

【童○】【童】漢　トウ　呉ヅ　慣用音　ドウ　㋑こども、わらべ、わらは（十五歳以下のもの）㋺めしつかひのこども、又罪あり て奴婢となりしもの㋩はぐ（禿）草木がない、頭がはげる㋥角なき牛羊

【童子】ドウジ　㋑こども、わらは、兒童㋺めしつかひのこども。

【童心】ドウシン　をさなごゝろ、子供心。

【童牛】ドウギウ　角のはえぬ牛、牛の子。

【童幼】ドウエウ　こども、あかご。

【童兒】ドウジ　こども、わらはべ。

【童貞】ドウテイ　異性と交はりしとなき男子

【童形】ドウケイ　子供のすがた。

【童話】ドウワ　小兒の心理に適合し文學趣味に富める噺、おとぎばなし。「い山。

【童然】ドウゼン　頭のはげたさま、又木のな

【童童】ドウドウ　㋑盛んなる貌㋺木に枝葉のなきさま。「奴僕とされたる者。

【童僕】ドウボク　㋑子供のしもべ㋺罪ありて

【童謠】ドウエウ　㋑小供の歌ふ流行うた㋺子供の作つた詩。

【童顏】ドウガン　㋑子供らしくあどけなき顏

【童男童女】ドウナンドウニヨ　男女のこども。

狡童カウドウ　蠻童バンドウ　舞童ブドウ
孺童ジユドウ　野童ヤドウ　仙童センドウ　牧童ボクドウ　樵童セウドウ
兒童ジドウ　歌童カドウ　學童ガクドウ　義童ギドウ
凡童ボンドウ　幼童エウドウ　嬌童ケウドウ　頑童グワンドウ
狂童キヤウドウ　小童セウドウ　成童セイドウ　聖童セイドウ

【竢●】【俟】漢呉　シ　まつ（待）

【同訓異義】まつ　竢・俟・待其他の用法は三六九頁の待を見よ。

【竦●】【悚通字】漢呉　ショウ　シュ　㋑つゝしむ（敬）㋺おそる（懼）すくむ㋩あぐ（上）㋥うごく（動）㋭したがふ（從）㋬そびゆ（聳）そびやかす

【竦動】ショウドウ　心がつゝしみうごく、かしこまる。

【竦然】ショウゼン　㋑甚だ恐れるさま㋺かしこまるさま。

【竦敬】ショウケイ　つゝしみ敬ふ。

【竦懼】ショウク　ぞつとしておそれる。

【竦驚】ショウキヤウ　驚き恐る、恐れをのゝく。

高竦カウショウ　恐竦キヨウショウ　森竦シンシヤウ　驚竦キヤウシヤウ
傾竦ケイシヤウ　戰竦センシヤウ　峻竦シユンシヤウ　孤竦コショウ

八畫

【竪●】【豎本字】漢呉　ジュ　國訓たて（縱）

【意】三九七頁の意を見よ。

【靖】一一八頁の靖を見よ。

九畫

【端○】【端】漢呉　タン　㋑たゞし（正）なほし（直）まつすぐである、かたよらぬ、品行が正しい㋺きざす（萌）㋩はし、はじめ（始）はした、こぐち㋥つまびらか（詳）㋭相對のもの、物の兩端㋬布帛の長さ周制にて一丈八尺の稱㋣周代の禮服㋠もと、根源㋡國訓は（はし、かたはし、はんば、ちよつとしたもの、又ちよつとしたこと）たん（布帛鯨尺で二丈六尺の長さの稱）

【端士】タンシ　正義の士。

【端月】タンゲツ　五月の異稱。「方正、端正。

【端方】タンパウ　たゞし、まつすぐである、

【端午】タンゴ　五節句の一、五月五日の節句、あやめの節句、端五。「をいふ。

【端正】タンセイ　正しくして曲りたる所なき

【端坐】タンザ　正しくすわる、端然と坐す

注意 端座と書くは誤り。

【端言】タンゲン　正しきことば、正言。

【端居】タンキヨ　つね、ふだん、平生。

【端的】タンテキ　㋑確定、明白㋺てきめん、まのあたり㋩はたして、まさしく、果然。

【端門】タンモン　㋑宮城の正門㋺又後漢時代の宮門㋩魯國の城門の名㋥星の名。

【端倪】タンゲイ　㋑端は山顛、倪は水涯㋺事の始と終（事の始終の測り知るべからざる義に用ふ）。

【端然】タンゼン　禮法容儀の正しきさま。

【端艇】タンテイ　はしけ、ボート、短艇。

【端溪】タンケイ　硯石の名所にて廣東省肇慶府にあり、轉じて硯の異名。

【端緒】タンショ　物のはじめ、いとぐち、手がゝり

注意 たんちよと讀むは誤り。

【端整】タンセイ　心正しく容姿の整へる貌。

【端嚴】タンゲン　行儀正しくおごそかなる貌。

【端麗】タンレイ　行儀正しくして姿のうつゝしきこと。

【端役】ハヤク　重要ならざる人物、演劇に

【端唄】ハウタ　一種の短かき俗歌。

【端書】ハガキ　葉書に作る、郵便はがき。

【端株】ハカブ　取引所にて取引せられる主力株以外の株。「混在せんとする時期。

【端境】ハザカヒ　新米と古米とが市場に於て

【端數】ハスウ　はしたの數、まとまらぬ數。

憂端イウタン　兩端リヤウタン　玄端ゲンタン　異端イタン
豐端キンタン　序端ジヨタン　履端リタン　百端ヒヤクタン
筆端ヒツタン　亳端ガウタン　鋒端ホウタン　舌端ゼツタン
修端シタン　發端ホツタン　萬端バンタン

【蝎●】漢呉　ケツ　ゲチ　㋑つく（盡）つくす、なくなる㋺きはまる、なくす、力をいたす

【同訓異義】つくす　蝎・盡・殫其他の用法は七一四頁の盡を見よ。「なつかふ。

【蝎費】ケツヒ　費しつくす、悉く盡す、みん

【蠍】國字　センチリツトル（佛國の容量、一立の百分の一）

【颯】一一四六頁の颯を見よ。

【韶】一一三五頁の韶を見よ。

十畫

【毅】五六八頁の毅を見よ。

十一畫

【龍】一一九八頁の龍を見よ。

十四畫

【競●】【競】俗字【競】別字、漢　ケイ　呉ギヤウ　㋑きそふ、あらそふ　㋺つよし（彊）㋩さかんなり（盛）㋥にはかに（遽）㋭さかひ（境）㋬たかし（高）

【競走】キヤウソウ　かけくらべ、ランニング。

【競技】キヤウギ わざくらべ、又運動等のわ
【競爭】キヤウサウ きそひ爭ふ。「ざくらべ。
【競進】キヤウシン 先を爭ひて進む。
【競落】キヤウラク 競賣の結果物品を最高價の入札者に賣渡す。「漕、ボートレース。
【競漕】キヤウサウ ㊀舟をこぎ競ふ㊁端艇競
【競賣】キヤウバイ 入札其の他の方法に依つて多數の購買希望者中にて最高の價格で買受けんとする者を定め之に特定の物件を賣渡すこと、せりうり。
【競馬】ケイバ ㊀馬を走らして其速さを爭ふ技㊁馬の改良增殖及び馬事思想の普及を圖る目的にて設立された法人が主務大臣の認可を受けて行ふ馬匹の競爭。

（競馬）

【競爭心】キヤウサウシン 勝敗を爭ふ心、又勝ちたいと思ふ心。
校競 キヤウ　紛競 フン キヤウ　奔競 ホン キヤウ　趨競 スウ キヤウ
馳競 チ キヤウ　爭競 サウ キヤウ　利競 リ キヤウ　誇競 コ キヤウ
躁競 サウ キヤウ　進競 シン キヤウ　浮競 フ キヤウ　詭競 キ キヤウ

【韻】一一三五頁の韻を見よ。

十五畫

【贛】一〇〇一頁の贛を見よ。

十七畫

【競】七六九頁の競を見よ。

竹部

【竹・竹】漢チク ㊀たけ（多昊トク 年生植物の一）㊁八晉の一（竹にて作りし樂器）㊂竹の札（昔文字を書きしもの）
【竹刀】チクタウ 劍術に用ゐる竹にて刀の形
【竹牙】チクガ 筍の異名。「に造りしもの。
【竹帛】チクハク 竹は竹の札、帛はきれ、古は紙なく竹帛に書したるに因み書籍のことをいふ。㊃竹帛に名を留む。
【竹皮】チクヒ 竹のかは、竹の外皮。
【竹林】チクリン 竹やぶ、竹ばやし。
【竹竿】チクカン たけのさを。
【竹枝】チクシ ㊀竹の枝㊁主として男女間の情事又は土地の風俗人情等を詠じた「詩、又其體。
【竹柵】チクサク 竹やらひ。
【竹紙】チクシ ㊀薄い鳥の子紙㊁雁皮紙又は唐紙の一名、又竹幹の內部のあま皮。
【竹馬】チクバ ㊀子供の乘るあそびもの、たけうま㊁幼な友達。「たけやり。
【竹槍】チクサウ 竹製で槍に代用するもの、
【竹牌】チクハイ 矢を防ぐために竹をたばねて造つた一種のたて。「のそのふ。
【竹園】チクエン 親王又は皇族の異稱、たけ
【竹筒】チクトウ たけのつゝ。「㊂冠の一。
【竹葉】チクエウ ㊀竹の葉㊁さゝ、酒の異名
【竹笠】チクヘイ タケベラ ㊀宮中の罰㊁佛家の罰具、竹枝に似たむち、しつぺい。
【竹聯】チクレン 竹のはしらかくし。
【竹籬】チクリ 竹がき、竹のかき。
【竹瀝】チクレキ たけのあぶら。
【竹簡】チクカン 竹の札、昔の紙。
【竹杷】サラヒ 農具の一種で頭に齒あり柄長く土を掻きならし又は芥を掻きさらへるに用ふるものである。

（竹杷）

【竹醉日】チクスヰジツ 陰曆五月十三日、この日竹を植ゑるとよく茂るとの傳說あり竹迷日ともいふ。
【竹子貝】タケノコガヒ 腹足類の貝で介殼は高塔狀をなし長さ三四寸許多の螺環より成り斑文を有し形は恰もたけのこに似た

（竹子貝）

るよりこの名がある。
【竹細工】タケザイク 竹を材料とした製品。
【竹林七賢】チクリンシチケン 支那西晉時代に竹林に遊びし阮籍・嵇康・山濤・向秀・劉伶・王戎・阮咸の七賢人。
【竹馬之友】チクバノトモ 幼年時代の友。
箭竹 セン チク　斑竹 ハン チク　淡竹 タン チク　扶竹 フ チク
槁竹 カウ チク　杖竹 ヂヤウ チク　綠竹 リヨク チク　孤竹 コ チク
破竹 ハ チク　絲竹 シ チク　篁竹 クワウ チク　翠竹 スイ チク
叢竹 ソウ チク　種竹 シユ チク　爆竹 バク チク　墨竹 ボク チク

二畫

【竺・竺】漢チク 漢昊トク ㊀たけ（竹）㊁慣用音ヂク あつし（厚）㊂國名（天竺、今の印度）
【竺土】チクド 印度の異稱。

三畫

【竿○】【竿別字】漢ウ 昊チ 竹製の樂器の一種、長さ四尺二寸
【竿笙】ウシヤウ 樂器の名、笛と笙。
【竿○】漢昊 ㊀さを（竹ざを）たかざ カン ㊁かけざを（衣架）㊂干に通ず、をかす
【竿頭】カントウ さをのさき。

（竿）

旗竿 キ カン　釣竿 テウ カン　竹竿 チク カン　輕竿 ケイ カン
旌竿 セイ カン　竿高 カウ カン　檣竿 シヤウ カン　帆竿 ハン カン

四畫

【笑・笑】【笑俗字】【咲通字】漢昊 ㊀わらふ、ゑくむ、おかしくて笑ふ、喜びてわらふ、あざわらふ、花の開く形容㊁たのしむ、よろこぶ㊂わらひ、ゑみ㊃わらはす
【同訓異義】わらふ
【嘻】はあざけりわらふ。
【嘘】は大笑ひ、又ふき出し笑ひ。
【哂】は微笑の意である。
【笑】は齒を出して喜び笑ふ。
【笑口】セウコウ おどけぐち、滑稽ばなし。
【笑止】セウシ ㊀氣の毒に思ふ心もち㊁おかしい、ばかげて居る。
【笑柄】セウヘイ わらひぐさ、物笑ひのたね。
【笑納】セウナフ 我が贈物を他人が受ける敬語。
【笑面】セウリウ 前に同じ。
【笑話】セウワ 面白い話、わらひばなし。
【笑殺】セウサツ セウサイ 笑ふ（殺は助字）。
【笑謔】セウギヤク 笑ひてたはむれをいふ。
【笑噱】セウギヤク おほわらひ、哄笑。
【笑顏】セウガン 笑ひがほ、ゑがほ。
【笑覽】セウラン 他人の見ることの敬語。
【笑聲】セウセイ わらひごゑ。
【笑靨】セウエフ ゑくぼ。
【笑佛】ワラヒホトケ 五重の塔の中に安置する佛大師の俗稱。「に害心を抱く。
【笑中刀】セウチユウノタウ 外は溫和を裝ひて內
【笑靨花】セウエフクワ ㊀菊花の異名㊁灌木の一、こゞめ櫻。
優笑 イウ セウ　談笑 ダン セウ　獨笑 ドク セウ　愧笑 キ セウ
歌笑 カ セウ　嬉笑 キ セウ　冷笑 レイ セウ　調笑 テウ セウ
嬌笑 ケウ セウ　言笑 ゲン セウ　默笑 モク セウ　誒笑 クワイ セウ
失笑 シツ セウ　嗤笑 シ セウ　嘲笑 チヤウ セウ　輕笑 ケイ セウ
微笑 ビ セウ　侮笑 ブ セウ　講笑 ギヤク セウ　微苦笑 ビク セウ

【笈・笈】漢 キフ 昊 ギフ おひ（書物を入れて背に負ふもの）
【笊・笊】【笊別字】漢 サウ 昊 セウ ざる、たけかご
【笏・笏】漢 コツ 昊 コチ ㊀しやく、手杖㊁禪僧の持つ具
【笏室】コツシツ 方丈、寺の住職の室。
【笋】七七五頁の筍を見よ。
【笋乾】ジユンカン 筍の乾物。
【笄】七七五頁の笄を見よ。

五畫

【笛・】【笛】 漢 テキ 樂器の呉 ジャク 一、又ふえ、すべて吹きならす樂器の稱

【笛伶】テキレイ ふえをふく樂人。

【笛聲】テキセイ 笛のね。

寒笛カンテキ　横笛ワウテキ　箏笛サウテキ　夜笛ヤテキ
短笛タンテキ　篴笛セウテキ　笳笛カテキ　鼓笛コテキ
鳴笛メイテキ　朗笛ラウテキ　哀笛アイテキ　怨笛エンテキ
樵笛セウテキ　鐵笛テツテキ　銀笛ギンテキ　蕭笛ケイテキ

【笠・】【笠】 漢呉 リフ 慣用音 リツ かさ（柄のなきかさ）かぶりがさ

【笠檐】リフエン かぶりがさのひさし。

【笠懸】カサガケ 射場に高く笠を懸け馬に乗りて遠矢を射し鎌倉時代の騎射。

（笠懸）

【符・】【符】 漢 フ ㋑わりふ、呉 ブ きつぶ、あひふだ㋺しるし、證據㋩めぢたきしるし㋥おふだ、神佛の守札㋭あふ（合）㋬未來記

【符合】フガフ わりふの合ふ如く物事の能「く合ふ貌。

【符契】フケイ ㋑前に同じ㋺よく適中する

【符牒】フテウ しるし、符號。「たとへ。

【符號】フガウ 前に同じ。

【符節】フセツ 割符の符號。

切符キフ 將符シャウフ 寶符ハウフ 護符ゴフ

璽符ジフ 天符テンフ 地符チフ 神符シンフ

【第・】【第】 漢 テイ ㋑ついで呉 ダイ（次第）順序㋺いへ（家）やしき（邸）㋩官吏登用試驗㋥たど（但）

【同訓異義】ただ 第・唯・惟其他の用法は二〇三頁の唯を見よ。

【第内】ダイナイ 邸内のこと。

【第宅】ダイタク やしき、いへ。

【第舍】ダイシャ 邸宅、やしき。

【第館】ダイクワン やしき、官有の邸宅。

【第一流】ダイイチリウ 第一等に位する部類。

【第一香】ダイイチカウ 蘭又は牡丹の異名。

【第一義】ダイイチギ 第一の要件又は要義。

【第二義】ダイニギ 左程大切でないこと。

【第三者】ダイサンシャ 法律上にて當事者以外

【第三國】ダイサンゴク 當事國以外の國。「の人

【第三黨】ダイサンタウ 攻府黨と反對黨との中間に位し中正公平の立場にありて自己の理想を實現せしめんとする黨派。

【第一人稱】ダイイチニンショウ 自分の名の代りに用ゐる代名詞。

【第二人稱】ダイニニンショウ 相手の名の代りに用ゐる代名詞。

【第三人稱】ダイサンニンショウ 當事者以外に一般の人の名に代へる代名詞。

【第三帝國】ダイサンテイコク 人間の生活を靈・肉の二方面から觀察して肉の帝國は第一帝國、靈の帝國は第二帝國と言ひ次で來るべき靈肉一致の帝國は第三帝國であると爲した說で更らに文明的に觀ればは第一は古代・第二は中世・第三は近代國家觀に相當する。

【第一義的生活】ダイイチギテキセイクワツ 因襲を打破し個性を尊重し自分を最も人間らしく正しく生きる生活。「書。

【第一種郵便物】ダイイツシユイウビンブツ 書狀、信

【第二種郵便物】ダイニシユイウビンブツ 郵便葉書

【第三種郵便物】ダイサンシユイウビンブツ 毎月一回以上發行する定期刊行物にて主務官廳の認可を受けたもの。

【第四種郵便物】ダイシシユイウビンブツ 書籍・印刷物・業務用書類・寫眞・書畫・圖・商品の見本及雛形、博物學上の標本。「種子。

【第五種郵便物】ダイゴシユイウビンブツ 農産物の

甲第カウテイ　乙第オツテイ　高第カウテイ　門第モンテイ
落第ラクダイ　居第キヨテイ　官第クワンテイ　家第カテイ
不第フテイ　館第クワンテイ　歸第キテイ　私第シテイ

下第カテイ　登第トウテイ　次第シダイ　別第ベツテイ
品第ヒンテイ　簡第カンテイ　及第キフテイ

【笹】【笹】 國字 さゝ、さゝ竹

【笹龍膽】ササリンダウ 紋所の名で龍膽の葉を笹の葉の如くならべ上に三つの花を丞がきたるもの清和源氏の世々の紋所である。

（笹龍膽）

【笘・】 漢 セン 木の札（支那潁川地呉 メン 方にて子供の使用する物）

【筐・】 漢 サウ 竹製の樂器の一、呉 シャウ しやうのふえ

【筐鼓】シャウコ 筐の笛とつゞみ。

【筐簧】シャウクワウ 筐の笛の中にある薄片。

【笞・】 漢呉 ㋑むち、しもと、むち

【笞刑】チケイ 笞で打ちこらす刑罰、しりた

【笞杖】チヂヤウ むち、笞罪と杖罪。「ゝき。

【笞罪】チザイ むちうつ刑にあたる罪。

【笞撻】チタツ むちうつ。

【笘・】 漢 コ たが（箍）桶のかはをか呉 ク たくしめる輪

【筒・】 漢呉 けし、はこ、衣服又は飯シ などを入れるはこ（圓なるを簞といひ、方なるを筒といふ）

【笨・】 漢 ホン ㋑たけのうち㋺あら呉 ボン し（麤）粗末である

【筮・】 漢ド ㋑とりかご、呉ヌ 鳥籠㋺ど、小魚を捕るに用ふる漁具で割竹を筒狀に編み口部に入つたものゝ出られぬやうに裝置したもの。

（筮）

【筯・】 漢呉 カ ふえ、はぶえ（蘆の葉を卷きし笛）しばぶえ

六畫

【筆・】【筆】 漢 ヒツ ㋑ふで、呉 ヒチ 墨汁等を含ませて文字圖畫等を書きつける管、石筆、鉛筆㋺書畫を書き記すこと、又そのもの㋩星の名

【筆力】ヒツリヨク 文章詩句のいきほひ㋺「筆耕。運筆の勢。

【筆生】ヒツセイ 文字をうつし書く寫字生、

【筆舌】ヒツゼツ 文章と言論。

【筆才】ヒツサイ 筆のはたらき、文才。

【筆硯】ヒツケン 筆硯に同じ。

【筆者】ヒツシヤ かきて、書記役、著者。

【筆法】ヒツパフ ㋑筆づかひ、書法㋺文章の作り方㋩やりかた、しかた。

【筆洗】ヒツセン 筆を洗ふ文具。

【筆致】ヒツチ 筆づかひ、かきぶり、運筆

【筆架】ヒツカ ふでかけ。「のおもむき。

【筆陣】ヒツヂン 文詞の雄健なるさまを陣容にたとへていふ語。「書き役。

【筆記】ヒツキ 書き記す、又其もの、書記、

【筆耕】ヒツカウ 書き賃をとつて文字をかく又その者、筆生。

【筆硯】ヒツケン ㋑ふでとすゞり㋺書畫に關する仕事、詩文を作り又は書物を著す。

【筆答】ヒツタウ 文字又は文章を以て答へる

【筆筒】ヒツトウ ふでたて、ふでいれ。「る。

【筆誅】ヒツチウ 文章にて其の罪過を攻擊す

【筆跡】ヒツセキ 書蹟、文字。

【筆意】ヒツイ ふでづかひ、筆の運びやう。

【筆禍】ヒツクワ 文章の爲めに罪又はわざはひをうけること、又そのわざはひ。

【筆勢】ヒツセイ 書きたる文字の勢、おもむ

【筆端】ヒツタン 筆さき、又行文。「き、筆力。

【筆談】ヒツダン 互ひに文字をかき記し合ひて談話にかへ意志を通ずるをいふ。

【筆管】ヒツクワン ふでのぢく。

【筆算】ヒツサン 算用數字にて計算する算法

又書くこと丶數へること。「等にいふ。

【筆鋒】ヒツポウ　ふでさき、論鋒の鋭きこと

【筆寫】ヒツシヤ　筆にてかきうつす。

【筆紙】ヒツシ　筆と紙、文章又は書畫。

【筆頭】ヒツトウ　㋑ふでのさき㋺連名の時の第一番、筆頭、第一㋩筆の穗に似たる物

【筆墨】ヒツボク　筆と墨、手跡、文字、文章。

【筆戰】ヒツセン　㋑文筆の優劣の爭ひ㋺文章にて議論する。「筆績と書くは誤り。

【筆蹟】ヒツセキ　筆のあと、書きたる文字 注意

【筆下】フデオロシ　㋑初めて試みるといふ意　遣水式、試運轉㋺水あげ等猥褻の意にも用ひらる。「自在に作るさま。

【筆力縱橫】ヒツリヨクジウワウ　詩文などを自由

一筆イヒツ　刀筆タウヒツ　水筆スヰヒツ　才筆サイヒツ

石筆セキヒツ　毛筆マウヒツ　右筆イウヒツ　史筆シヒツ

名筆メイヒツ　自筆ジヒツ　投筆トウヒツ　曲筆キヨクヒツ

弄筆ラウヒツ　禿筆トクヒツ　妙筆メウヒツ　極筆キヨクヒツ

直筆ジキヒツ　健筆ケンヒツ　宸筆シンヒツ　眞筆シンヒツ

執筆シツヒツ　鉛筆エンヒツ　裕筆イウヒツ　絶筆ゼツヒツ

運筆ウンヒツ　僞筆ギヒツ　舞筆ブヒツ　潤筆ジユンヒツ

擱筆カクヒツ　椽大筆テンダイヒツ　萬年筆マンネンヒツ

【筈・】【括通字】【筈】

漢クワツ　呉クワチ

㋑やはず、はず㋺國訓はず（弓の兩端の弦をかける所、當然さうあるべき意をあらはす語）

【等・】【等俗字】【等】

漢呉トウ

【等一】トウイツ　ひとしい。

【等分】トウブン　ひとしくわかつ、又其分量。

【等比】トウヒ　二數の割合の等しきこと。

【等位】トウヰ　くらゐ、順序。

【等夷】トウイ　ともがら、なかま、同輩。

【等角】トウカク　二つの角の相ひとしきこと

【等身】トウシン　身長と同じたかさ。

【等級】トウキフ　たぐひ、しな、わかち。

【等差】トウサ　わかち、けぢめ。

【等間】トウカン　はなれて隙を生ずること、うとくなる、なほざりに見る。

【等閑】トウカン　前に同じ。

【等輩】トウハイ　ともがら、なかま。

【等額】トウガク　ひとしいたか。「親類別。

【等親】トウシン　血統の親疎によつて定めた

異等イトウ　高等カウトウ　均等キントウ　減等ゲントウ

凡等ボントウ　平等ビヤウドウ　殊等シユトウ　吾等ゴトウ

彼等ヒトウカレラ　同等ドウトウ　齊等セイトウ　差等サトウ

【筋○】【筋別字】【筋】

漢キン　呉コン

㋑すぢ（肉理）㋺ちから、體力㋩國訓すぢ（線、事の顚末、條理）

【筋力】キンリヨク　筋肉のちから。

【筋斗】キント　とんぼがへり、もんどり。

【筋肉】キンニク　すぢとにく、又からだ。

【筋脈】キンミヤク　すぢと血脈。

【筋骨】キンコツ　㋑すぢとほね㋺身體、又力。

【筋黑蝶】スヂグロチフ　蝶の一種で翅の開展二寸許りにして前翅は白色・黑い翅脈を有し後翅は黃色・蘿蔔・蕪青等十字科植物の葉を食害する。

（筋黑蝶）

【筋肉勞働者】キンニクラウドウシヤ　勞働を精神勞働と筋肉勞働との二つに區分した爲め生じた語で肉體を使用する純勞働者

【筑・】【筑俗字】【筑】

漢チク　呉トク

箏に似たる絃器

【筒○】【筒】

漢ドウ　㋑つゝ、竹のく

だ、總て圓柱狀にして中空のもの㋺底のなきふえ㋩國訓つゝ（てつぱう）

郵筒イウ　詩筒シトウ　釣筒テウ　銀筒ギン

射筒シヤ　酒筒シユ　喞筒ショク　煙筒エン

【答・】【荅通字】【答】

漢タウ　呉トウ

㋑こたふ、いらふ、返事する㋺むくゆ、應ず㋩こたへ、へんじ、問に對する應對

【同訓異義】こたふ

【對】は人の問に答へる。

【應】は先の問を此方にうけ應ずる意

【答】は先方の問に答へる。

【答拜】タフハイ　答禮にするおじぎ。

【答書】タフショ　かへしの手紙、返事。

【答問】タウモン　人の問に答へる、又返書。

【答案】タフアン　こたへを書いた文書。

【答電】タウデン　電報にて返事する又其返事

【答應】タフオウ　こたふ、こたへ。

【答禮】タフレイ　あいさつ、おれい。

【答辭】タフジ　こたへのことば、主として諸種の儀式等に讀む挨拶のことば。

【答辯】タフベン　いひゝらき、いひわけ。

嘉答カフ　條答デウタフ　手答シユタフ　亢答カウタフ

筆答ヒツタフ　裁答サイタフ　奉答ホウタフ　寵答チヨウタフ

往答ワウタフ　即答ソクタフ　慰答キタフ　酬答シユウタフ

應答オウタフ　効答カウタフ　優答イウタフ

敕答チヨクタフ　名答メイタフ　拜答ハイタフ　褒答ハウタフ

【策・】【策俗字】【策】

漢サク　呉シヤク

㋑ふだ、古文字をかきし竹札㋺かきもの（文書）㋩むちうつ、馬をむちうつ㋥のりむち、むちうつ（教令）㋭はかりごと㋬かずとり㋮小さし㋯さす（刺）㋰くじ

【同訓異義】はかる　策・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。

【策士】サクシ　種々のたくらみをする人。

【策命】サクメイ　君より臣下に與ふ御沙汰書

【策略】サクリヤク　はかりごと。

【策策】サクサク　木の葉の落ちる音。

【策問】サクモン　官吏の登用試驗に題を出して試問すること。

【策試】サクシ　策問を發して試驗する。

【策勵】サクレイ　むちうちはげます。

【策謀】サクボウ　はかりごと、策略。

【策應】サクオウ　はかりてしめし合すこと。

【策奏】サクソウ　はかりごと。「行く使者。

【策命使】サクメイシ　君主の御沙汰書を奉じ

【策源地】サクゲンチ　作戰計畫をめぐらし軍隊に命令を下す所、謀議のおほもと。

訓答クンタフ　應答オウタフ　効答カウタフ

敕答チヨクタフ　名答メイタフ　拜答ハイタフ　褒答ハウタフ

優答イウタフ

【筅・】

漢セン　呉ケン　ちやせん

【筯俗字】【筯○】

漢キヨウ　呉グ　㋑つゑ（杖）㋺杖を作る一種の竹（四川省に產する物）

【筌○】

漢呉セン　漁具の名、ふせご、うへ、やな

【筍・筭】

漢呉シユン　注意いん

慣用音ジユン　と讀むは誤り、たけのこ、たかんな

【筏・】

漢ハツ　呉ボツ

慣用音バツ　いかだ（竹にて組みしいかだ）

【筐○】

漢キヤウ　呉カウ　㋑かたみ（竹にて作りし四角のはこ）かご㋺正牀、ねだい

【筐底】キヤウテイ　はこのそこ、はこの中。

【笄○】【笄俗字】【笄】

漢呉ケイ　㋑かうがい、かんざし、古は男女共に用ひた㋺かうがいをさす㋩冠をとめる留針㋥國訓かうがい（重に

（筏）

書策クワツク　對策タイサク　建策ケンサク　祕策ヒサク

計策ケイサク　御策ギヨサク　輕策ケイサク　首策シユサク

短策タンサク　上策ジヤウサク　下策カサク　玉策ギヨクサク